

※について記載して提出願います

施工単価一覧①（ミキシングプラント機能追加改造）

（1基当たり）

NO.	名称	規格	単位	数量	単価
1	遠隔操作盤機能追加	材・工含む	式	1	※
2	動力盤配線変更	材・工含む	式	1	※
3	計量切替盤設置	材・工含む	式	1	※
4	計量器追加設置	材・工含む	式	1	※
5	セメント投入架台追加設置	材・工含む	式	1	※

- (1) 本見積は、1基のミキシングプラント（別添1参照）で1種類のセメント及び混和剤を使用していたものを、同プラントに2種類のセメント及び混和剤を切り替える機能を追加するための改造費用を計上するものです。
- (2) 記載する単価は材工を含む直接工事費としてください。
- (3) 運搬費を含む現地（栃木県鹿沼市上南摩町地内）着単価とし、消費税を含まない額としてください。

※について記載して提出願います

施工単価一覧②（機械式継手工）

NO.	名称	規格	単位	数量	単価
1	機械式継手工	D16	箇所	122	※
2	機械式継手工	D19	箇所	21	※
3	機械式継手工	D22	箇所	706	※
4	機械式継手工	D25	箇所	60	※
5	機械式継手工	D29	箇所	2,496	※
6	機械式継手工	D32	箇所	340	※
7	機械式継手工	D35	箇所	6,554	※

(1) 機械式継手工にかかる1箇所当たり（規格毎）の施工単価を記載してください。

(2) 見積り条件

- ① 本単価の対象工種は、モルタル充填継手工とします。
- ② 機械式継手及びグラウト材の材料費は含まないでください
- ③ その他施工条件は、以下のとおりとします。

時間的制約：受けない

夜間作業の有無：無し

- ④ 直接工事費としてください。

※について記載して提出願います

資材単価一覧

N0.	名称	規格	単位	単価	単価基準月
1	吊りピース	図-1参照	個	※	R5.3
2	PIC型枠	t=30mm 平板 最大寸法：1,000×2,000	m2	※	R5.3

※について記載して提出願います

機器単価一覧

NO.	名称	規格	単位	数量	単価
1	カニ型コンクリートディストリビュータ	・水平換算長 43.4m（ブーム旋回中心位置で地面に置いた5インチ管を接続） ・ブーム長 最大18m ・ブーム展開高さ 4.5m ・総重量8.0t（本体部5.3t、カウンター2.7t） ・アウトリガー幅 5m×5m ・400V 50/60Hz 7.5kW 3相+中立+アース 200Vから400Vへの電圧トランスを搭載：	台	1	※
		燃料 種類〇〇 燃料消費量〇〇L/h ※			

(1) カニ型コンクリートディストリビュータに係る、(3)運転条件を考慮した場合の運転時間当り損料を記載してください。併せて、燃料の種類及び1時間当たりの燃料消費量を記載してください。

(2) 見積り条件

- ① 当該設備本体部を架台に固定して使用します。
- ② 固定架台は別途計上するものとし、本見積もりの対象外とします。

(3) 運転条件

供用日数：190日 供用日当たり運転時間：1.7h

運転日数：15日 運転日当たり運転時間：20.9h

別添資料

見積項目一覧

工種・種別・細別	規格	単位	数量	依頼内容等
選択取水塔工				添付図面を参照してください。
PIC型枠設置(ユニット化労務を含む)	t=30mm 平板 最大規格:1,000×2,000	m2	2,486	【別紙-1】の記載例程度の構成で作成してください。
PIC型枠設置(吊り型枠)(ユニット化労務を含む)	t=30mm 平板 最大規格:1,000×2,000	m2	292	【別紙-2】の記載例程度の構成で作成してください。
PIC型枠架台設置	タイプ1(リフト厚:3m)	回	11	【別紙-3】の記載例程度の構成で作成してください。 タイプ1:参考図3-1を参照 タイプ2:参考図3-2を参照 タイプ3:参考図3-3を参照 タイプ4:参考図3-4を参照 タイプ5:参考図3-5を参照 タイプ6:参考図3-6を参照 タイプ7:参考図3-7を参照 タイプ8:参考図3-8を参照 タイプ9:参考図3-9を参照 タイプ10:参考図3-10を参照
PIC型枠架台設置	タイプ2(リフト厚:3m)	回	1	
PIC型枠架台設置	タイプ3(リフト厚:2.2m)	回	1	
PIC型枠架台設置	タイプ4(リフト厚:3m)	回	1	
PIC型枠架台設置	タイプ5(リフト厚:1.9m)	回	1	
PIC型枠架台設置	タイプ6(リフト厚:3m)	回	1	
PIC型枠架台設置	タイプ7(リフト厚:1.1m)	回	1	
PIC型枠架台設置	タイプ8(リフト厚:3.9m)	回	1	
PIC型枠架台設置	タイプ9(取水塔橋台部)	回	1	
PIC型枠架台設置	タイプ10(取水塔床版部)	回	1	
打設設備架台設置		回	1	【別紙-4】の記載例程度の構成で作成してください。
フレア溶接		m	4	【別紙-5】の記載例程度の構成で作成してください。

※上記数量は、想定数量とします。

【別紙-1】見積書の様式〈例〉

項目及び規格	単位	員数及び 数量	単価	摘要
PIC型枠設置				【100m2当り】
土木一般世話役	人			
普通作業員	人			
とび工	人			
型枠工	人			
クローラクレーン（200t吊）	時間			
諸雑費	式	1		○% （労務費合計額に対して）

(1) PIC型枠設置にかかる100m2当りの労務構成を記載してください。

上表に明示している構成は機構が想定しているものであり、貴社の仕様に変更して頂いても構いません。

なお、クローラクレーン（200t吊）は現場条件であるため、当該機種を使用した歩掛りとしてください。

詳細は、別添 参考図-2を参照してください。

(2) 見積り条件

- ・ 材料費は別途計上するものとし見積り対象外とします。
- ・ 本歩掛り対象は、PIC型枠のユニット化（地組）と型枠設置箇所での設置作業とします。

（クローラクレーン運転労務は対象外とします。）

PIC型枠は、EL. 180m盤で地組後、各リフトまでクローラクレーンで吊り上げ、所定の位置に

設置するものとします。セパレータ用架台は、組み立ててあるものとします。

各リフト厚は、参考図-2のとおりです。

- ・ 諸経費については、ユニット化のための金具及び組立支持材等、施工に必要な資機材の費用とします。ただし、クローラクレーン損料は対象外です。

【別紙-2】見積書の様式〈例〉

項目及び規格	単位	員数及び数量	単価	摘要
PIC型枠設置（吊り型枠）				【100m2当り】
土木一般世話役	人			
普通作業員	人			
とび工	人			
型枠工	人			
クローラクレーン（300t吊）	時間			
諸雑費	式	1		○% （労務費合計額に対して）

(1) PIC型枠（吊り型枠）設置にかかる100m2当りの労務構成を記載してください。

上表に明示している構成は機構が想定しているものであり、貴社の仕様に変更して頂いても構いません。

なお、クローラクレーン（300t吊）は現場条件であるため、当該機種を使用した歩掛りとしてください。

詳細は、別添 参考図-3を参照してください。

(2) 見積り条件

- ・ 材料費は別途計上するものとし見積り対象外とします。
- ・ 本歩掛り対象は、PIC型枠（吊り型枠）のユニット化（地組）と型枠設置箇所での設置作業とします。

（クローラクレーン運転労務は対象外とします。）

PIC型枠（吊り型枠）は、EL. 180m盤で地組後、EL. 243m付近までクローラクレーンで吊り上げ、所定の位置に設置するものとします。セパレータ用架台は、組み立ててあるものとします。

- ・ 諸経費については、ユニット化のための金具及び組立支持材、施工に必要な資機材の費用とします。ただし、クローラクレーン損料は対象外です。

【別紙-3】見積書の様式〈例〉

項目及び規格	単位	員数及び 数量	単価	摘要
PIC型桟架台設置 タイプ○				【1回あたり】
土木一般世話役	人			
普通作業員	人			
とびエ	人			
クローラクレーン（200t吊/300t吊）	時間			
諸経費	式	1		○% （労務費合計額に対して）

(1) PIC型桟架台設置にかかる該当リフト1回あたりの労務構成を記載してください。

上表に明示している構成は機構が想定しているものであり、貴社の仕様に変更して頂いても構いません。

なお、クローラクレーン（200t吊/300t吊）は現場条件であるため、当該機種を使用した歩掛りとしてください。

（使用機械 タイプ1～10：200tCC、タイプ11：300tCC）

詳細は、別添 参考図-4を参照してください。

(2) 見積り条件

- ・ 架台材料費は別途計上するものとし見積り対象外とします。
- ・ 本歩掛り対象は、PIC型桟架台設置箇所での架台設置作業とします。
（クローラクレーン運転労務は対象外とします。）
- ・ 諸経費は、架台部材の孔あけ・切断・溶接等の施工に要する労務・機材等の費用とします。
ただし、クローラクレーン損料は対象外です。

【別紙-4】見積書の様式〈例〉

項目及び規格	単位	員数及び 数量	単価	摘要
打設設備架台設置				【1回（1式）あたり】
土木一般世話役	人			
普通作業員	人			
とび工	人			
クローラクレーン（200t吊）	時間			
諸経費	式	1		○% （労務費合計額に対して）

- (1) 打設設備架台設置にかかる1回（1式）あたりの労務構成を記載してください。
- 上表に明示している構成は機構が想定しているものであり、貴社の仕様に変更して頂いても構いません。
- なお、クローラクレーン（200t吊）は現場条件であるため、当該機種を使用した歩掛りとしてください。
- 詳細は、別添 参考図-5を参照してください。

(2) 見積り条件

- ・ 架台材料費は別途計上するものとし見積り対象外とします。
 - ・ 本歩掛り対象は、打設設備架台設置作業とします。打設設備は、ディストリビュータとします。
（クローラクレーン運転労務は対象外とします。）
- 本架台は、各リフトのコンクリート打設後、継ぎ足していくものとします。
- ・ 諸経費は、架台部材の孔あけ・切断・溶接等の施工に要する労務・機材等の費用とします。
- ただし、クローラクレーン損料は対象外です。

【別紙-5】見積書の様式〈例〉

項目及び規格	単位	員数及び数量	単価	摘要
フレア溶接				【1m当り】
土木一般世話役	人			
普通作業員	人			
溶接工	人			
諸雑費	式	1		○% （労務費合計額に対して）

(1) フレア溶接にかかる1m当りの労務構成を記載してください。

上表に明示している構成は機構が想定しているものであり、貴社の仕様に変更して頂いても構いません。

詳細は、別添 参考図-6を参照してください。

(2) 見積り条件

- ・ 鉄筋材料費は別途計上するものとし見積り対象外とします。
- ・ 本歩掛り対象は、フレア溶接作業とします。
- ・ 諸経費については、フレア溶接に必要な資機材の費用とします。

ミキシングプラント

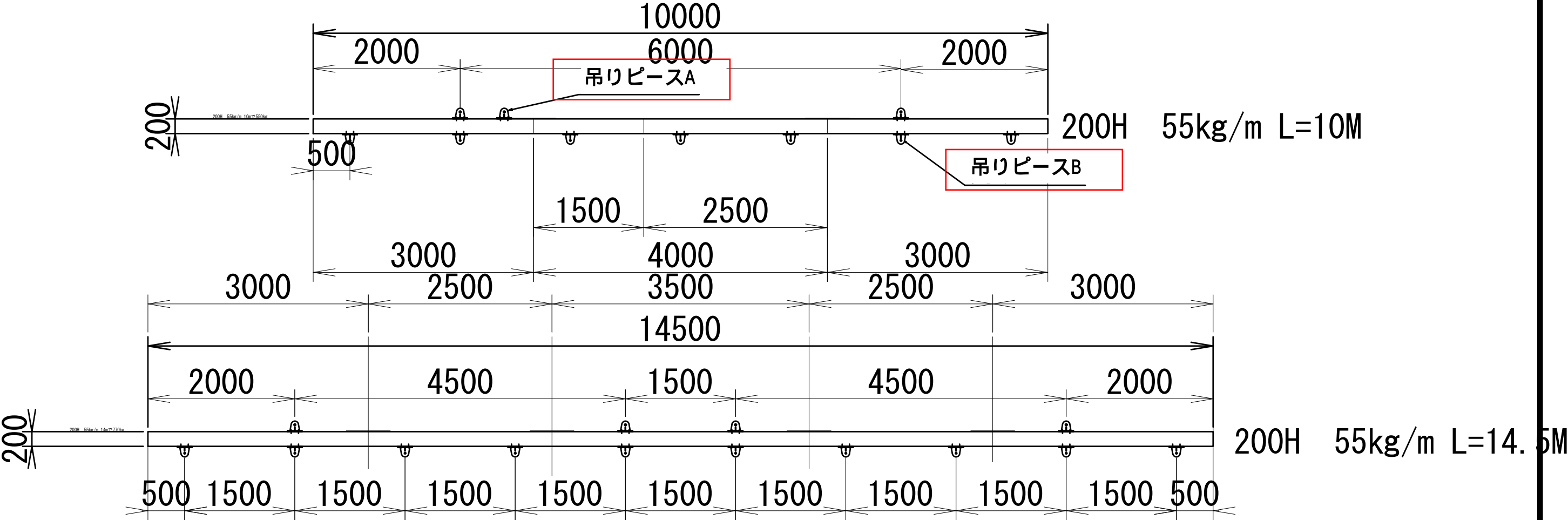
FGP-200S



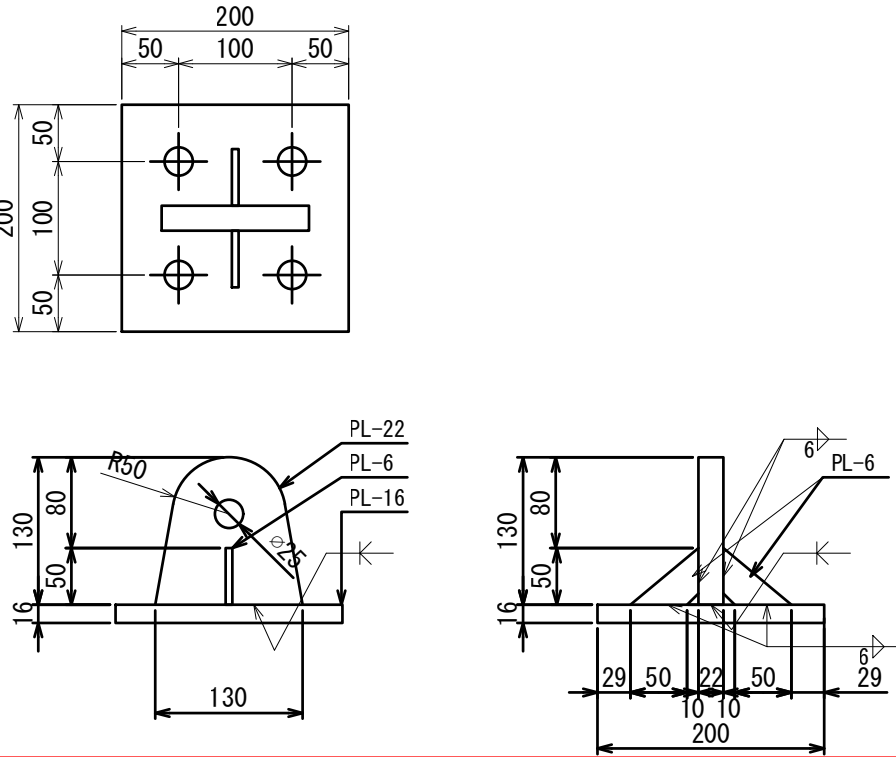
 原工業株式会社

参考図-1

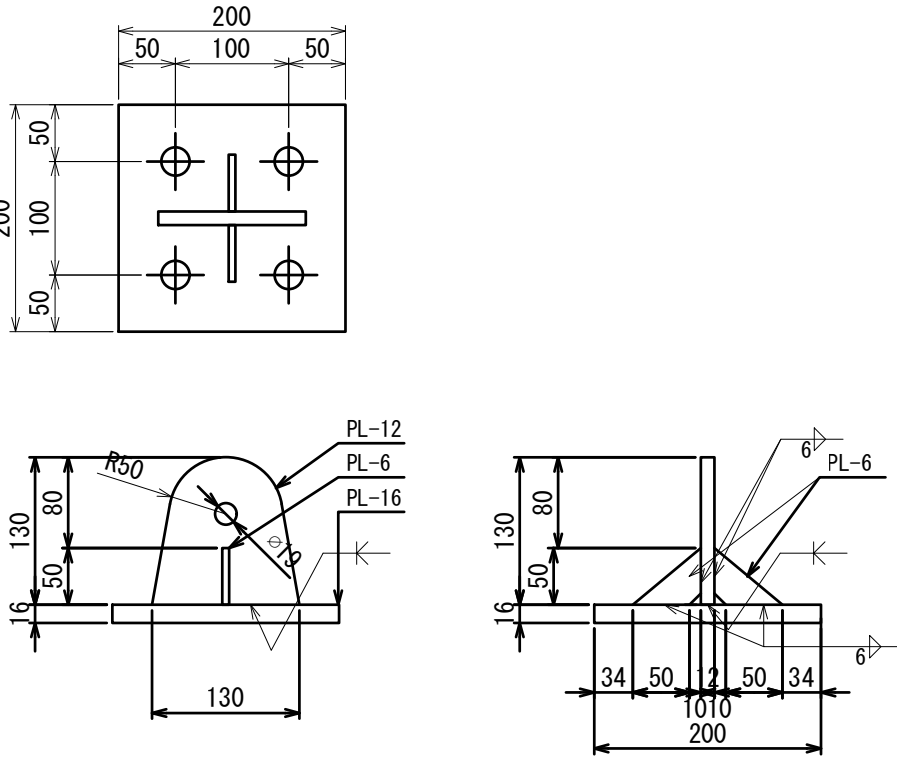
鉄筋吊り治具



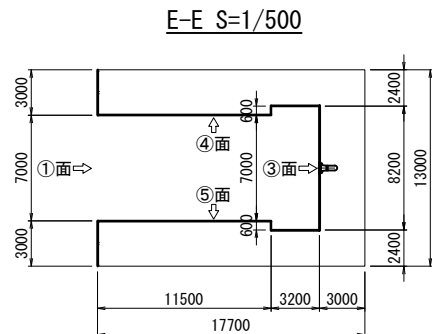
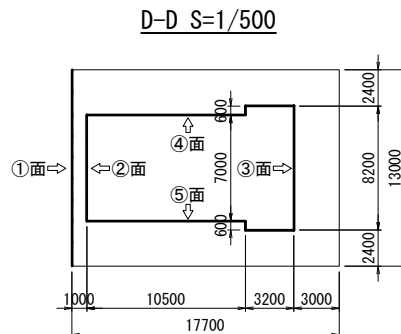
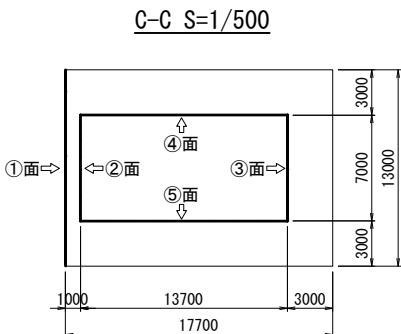
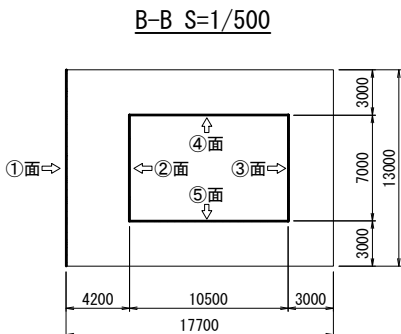
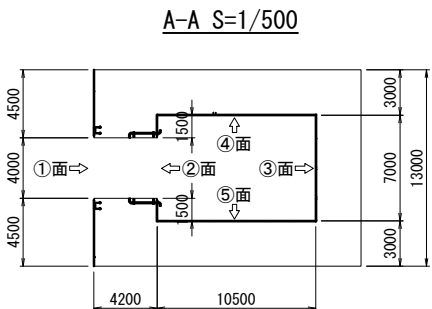
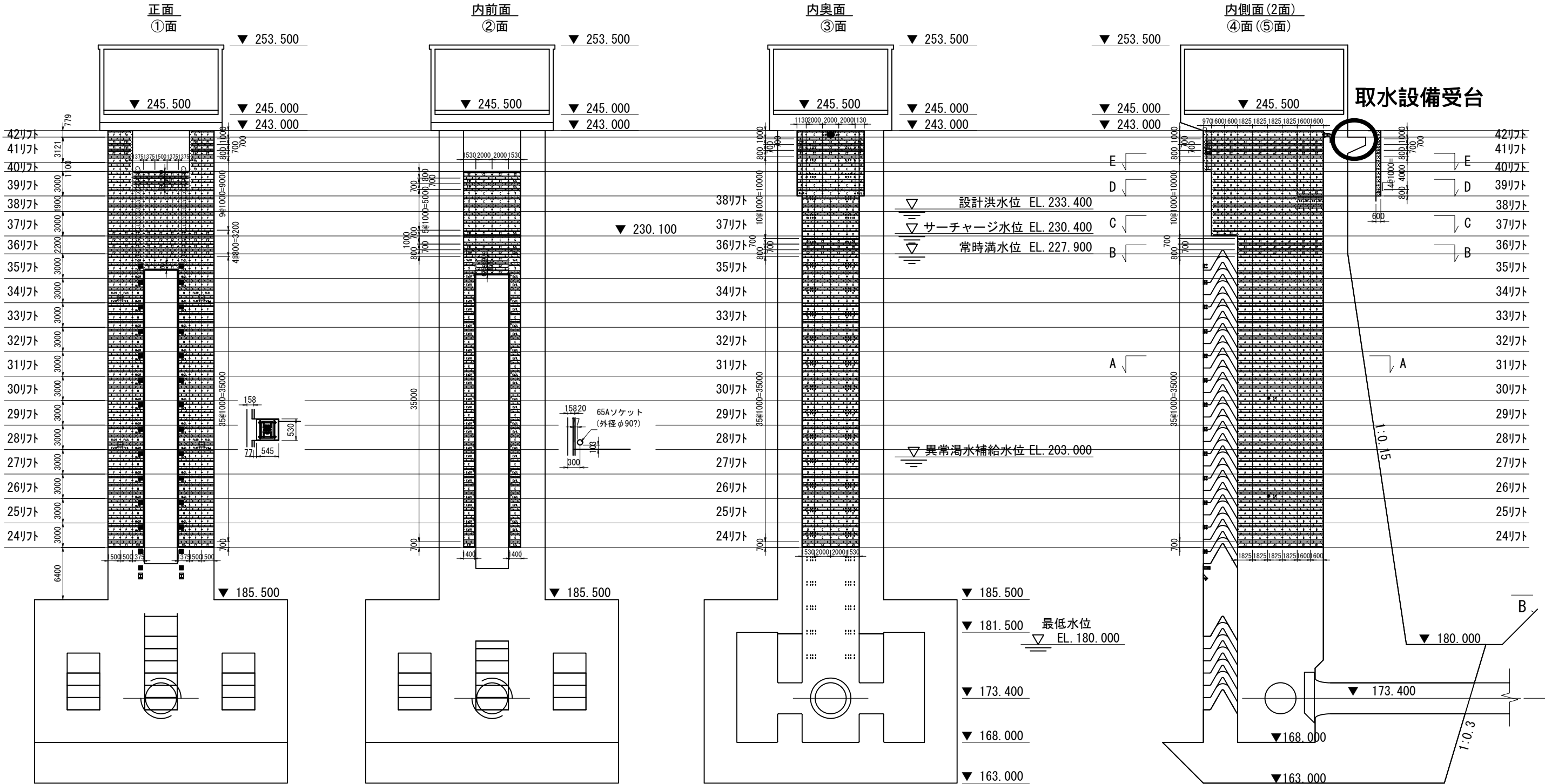
A: 鉄筋吊り箇所以外 (ピン22mm) × 7



B: 鉄筋吊り箇所 (ピン16mm) × 17

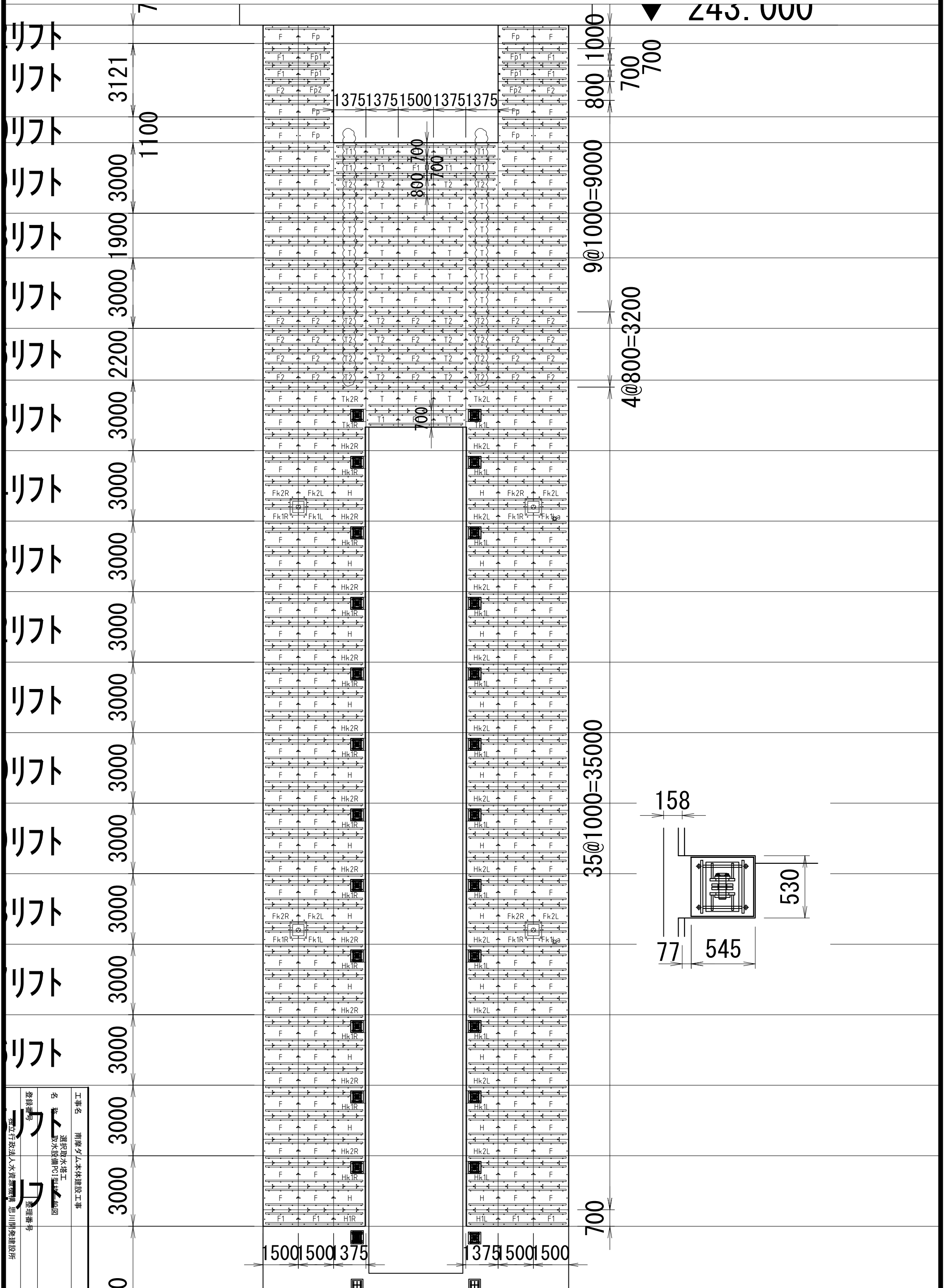


選択取水塔工
取水設備PIC配置図 S=1/250



工事名	南摩ダム本体建設工事		
名 称	選択取水塔工 取水設備PCI型枠一般図		
登録番号	19-16-05	整理番号	05-15-030
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所			

①面_ (正面) 拡大

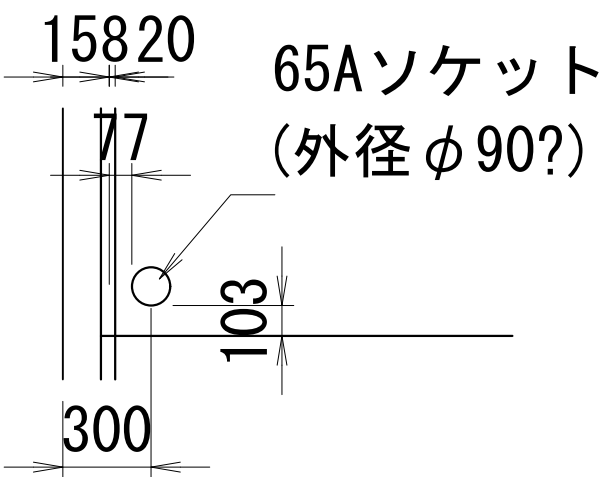


②面_(内前面)拡大

1000
800 700
700 5@1000=5000 800
700

▼ 230.

35000



登録番号		工事名
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所		南摩夕山本体建設工事
整理番号		名称
		運搬取水塔工 取水設備PGI型枠一般図

700

1400

1400

③面_ (内奥面) 拡大

11302000 2000 20001130

▼ 243. 000

38リフト

37リフト

36リフト

35リフト

34リフト

33リフト

32リフト

31リフト

30リフト

29リフト

28リフト

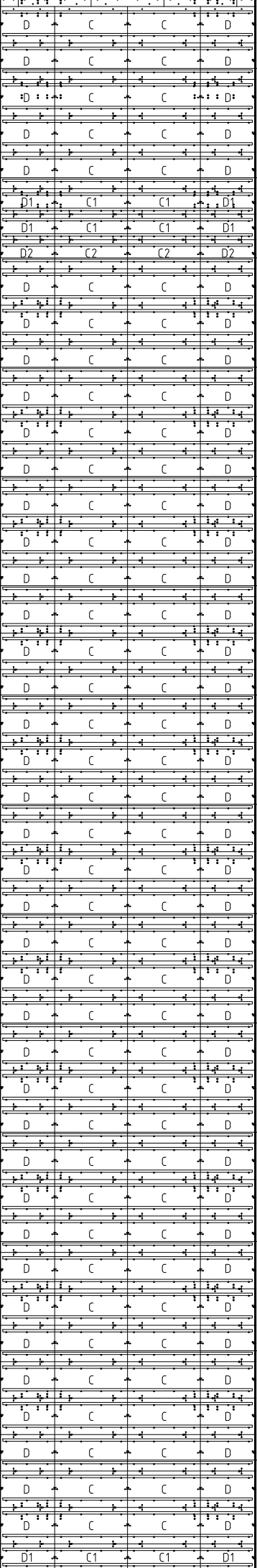
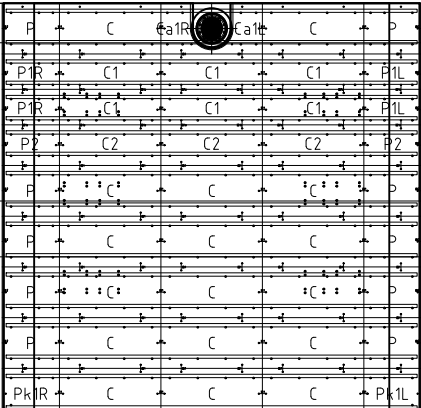
27リフト

26リフト

25リフト

24リフト

800 1000 700 700 10@1000=10000 700 800 35@1000=35000 700



15302000 2000 20001530



設計洪水位



サーチャージ水位



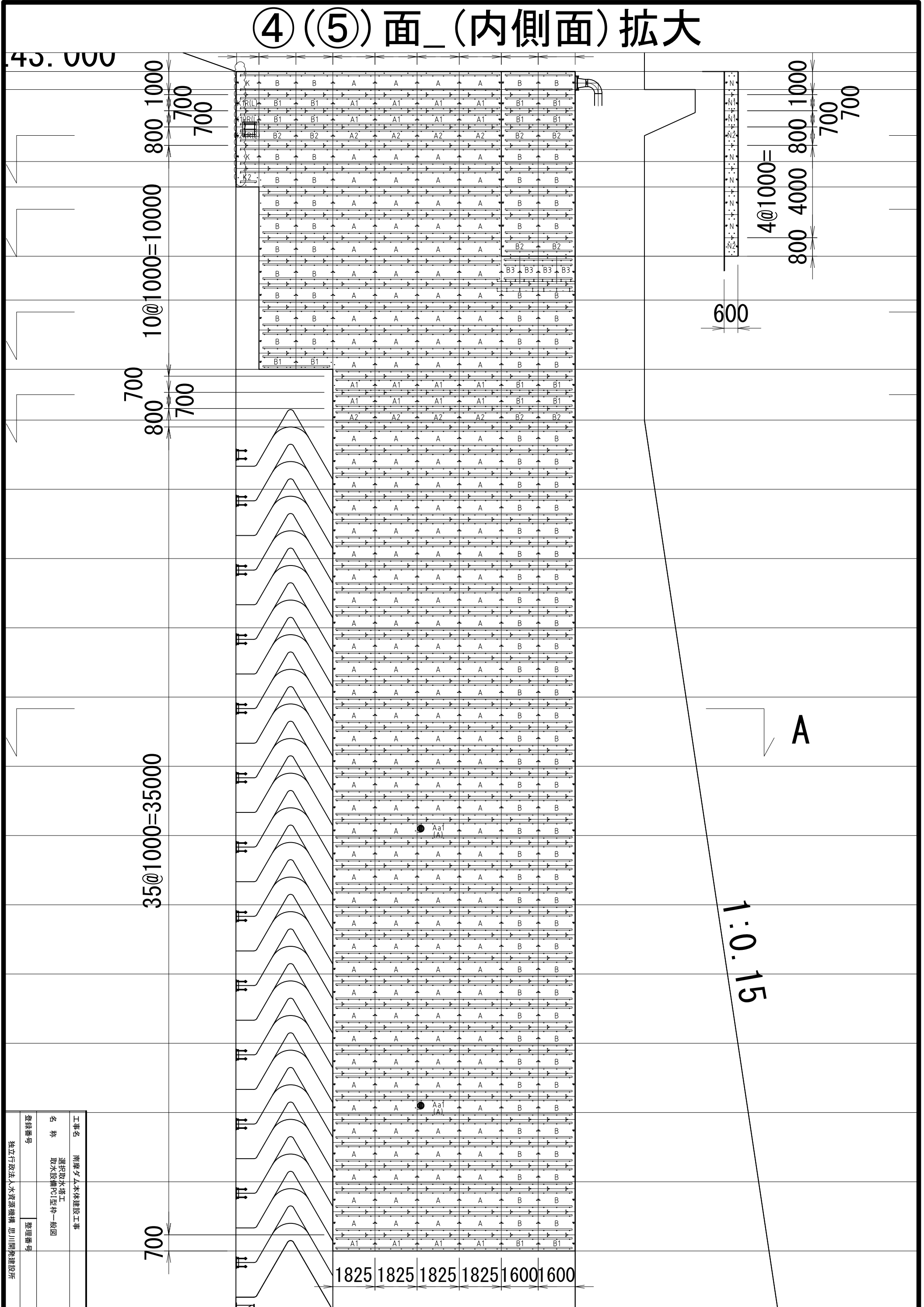
常時満水位



異常渇水補給水位

独立行政法人水資源機構 思川開発建設所	登録番号	工事名
	整理番号	南摩タム本林建設工事
名称		運河取水塔工
		取水設備PGI型枠一般図

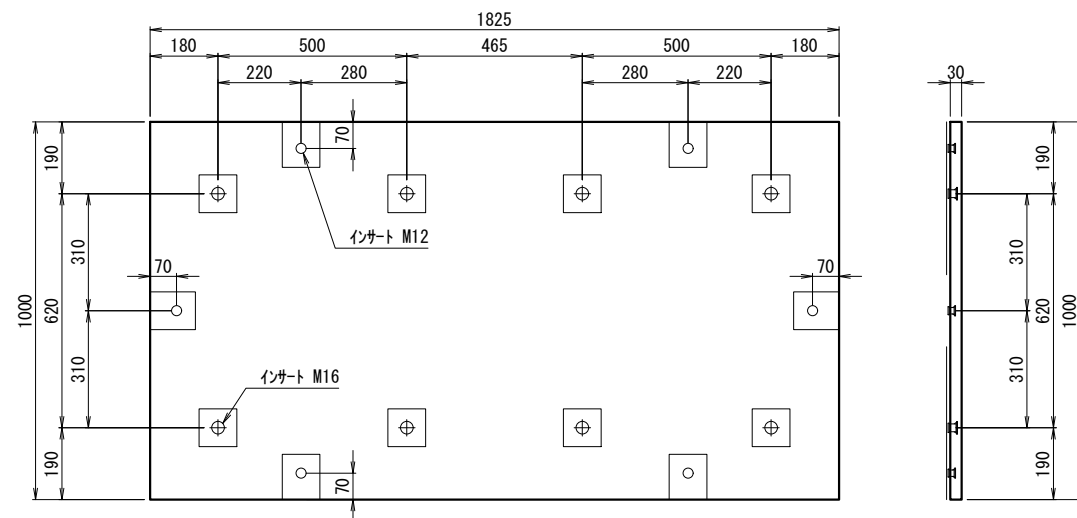
④(⑤)面_(内側面)拡大



独立行政法人水資源機構 思川開発建設所	
登録番号	整理番号
工事名	南摩夕々木林建設工事
名称	運河取水塔工 取水設備PGI型枠一般図

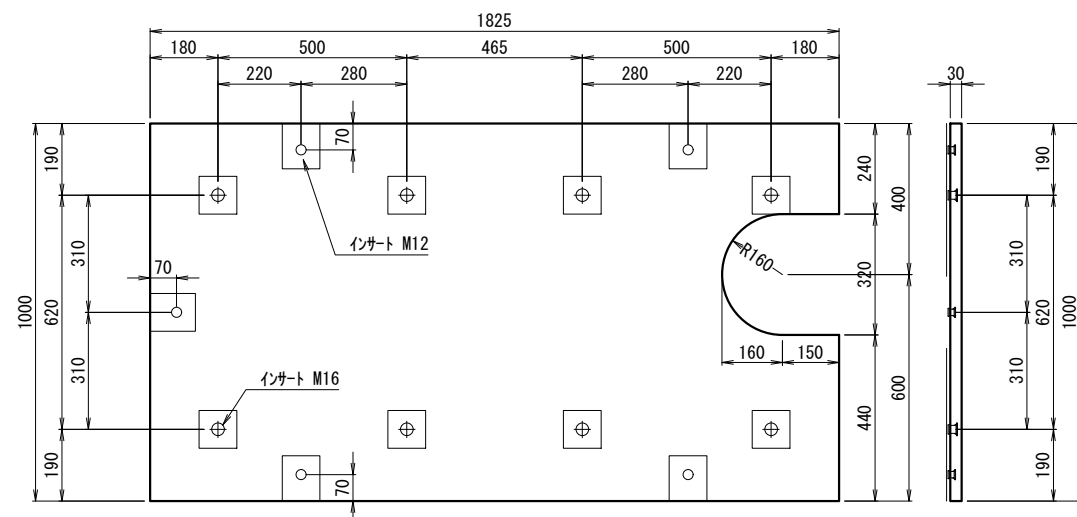
PICフォーム製品図(1)

Aタイプ S=1/20

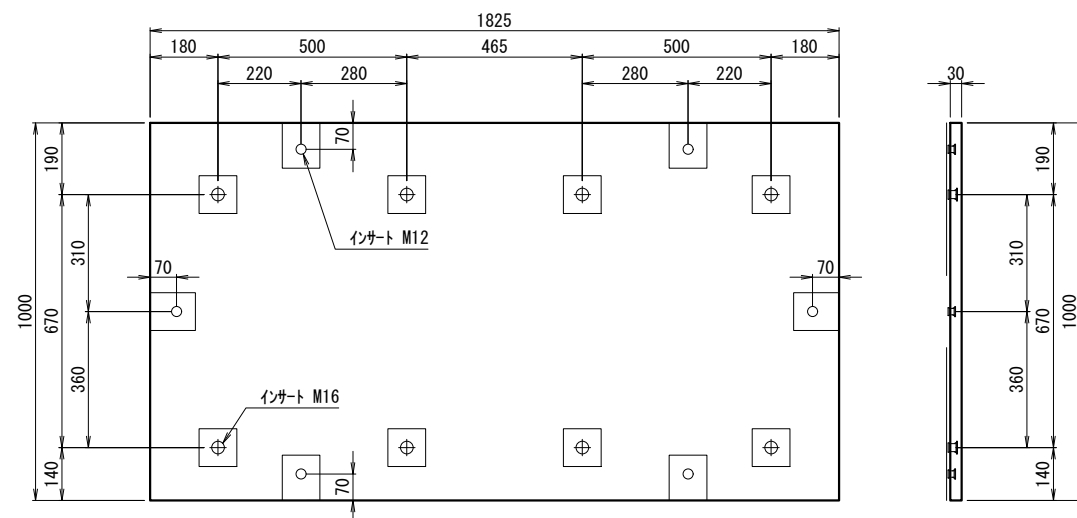


Aa1タイプ S=1/20

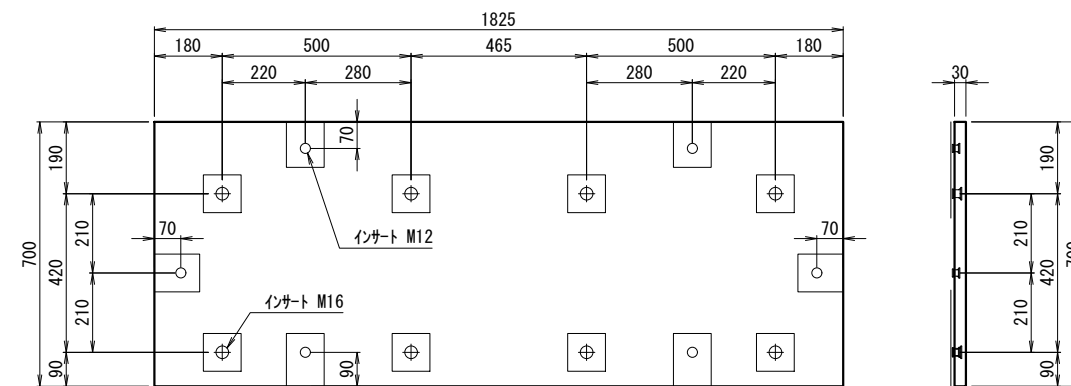
~~Aa1タイプ S=1/20~~



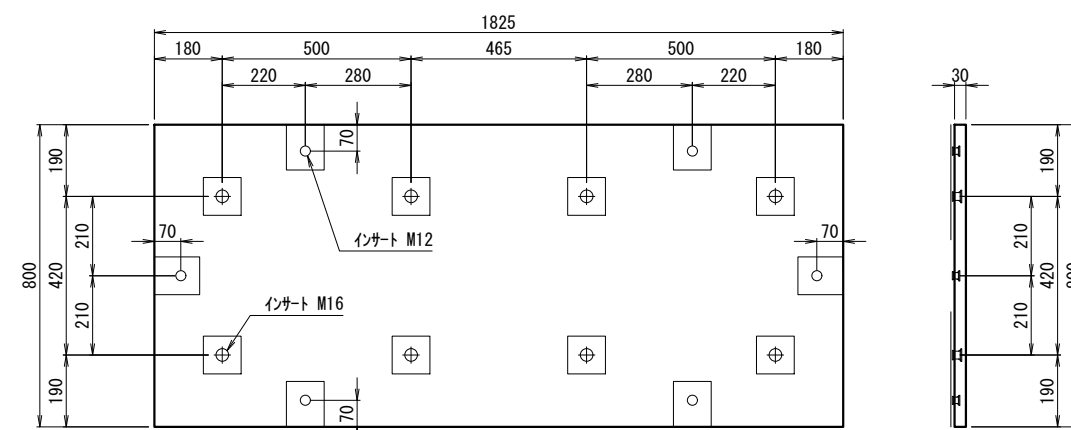
Axタイプ S=1/20



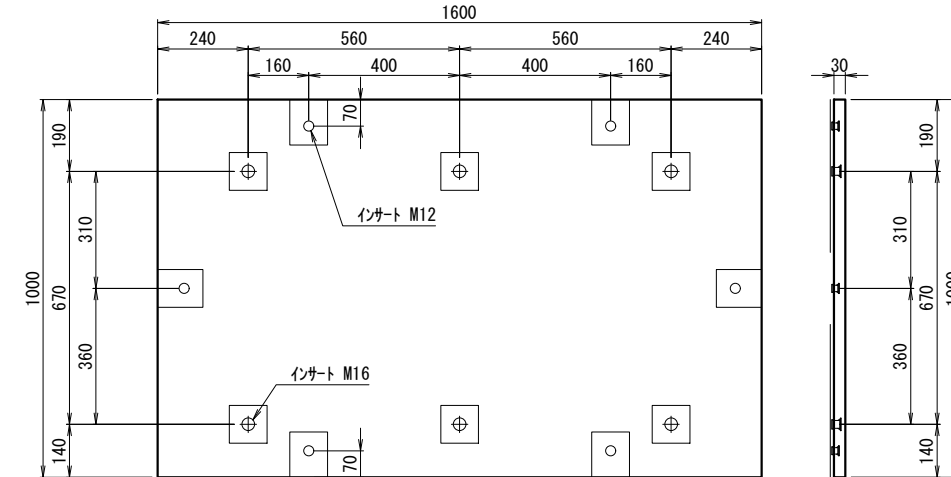
A1タイプ S=1/20



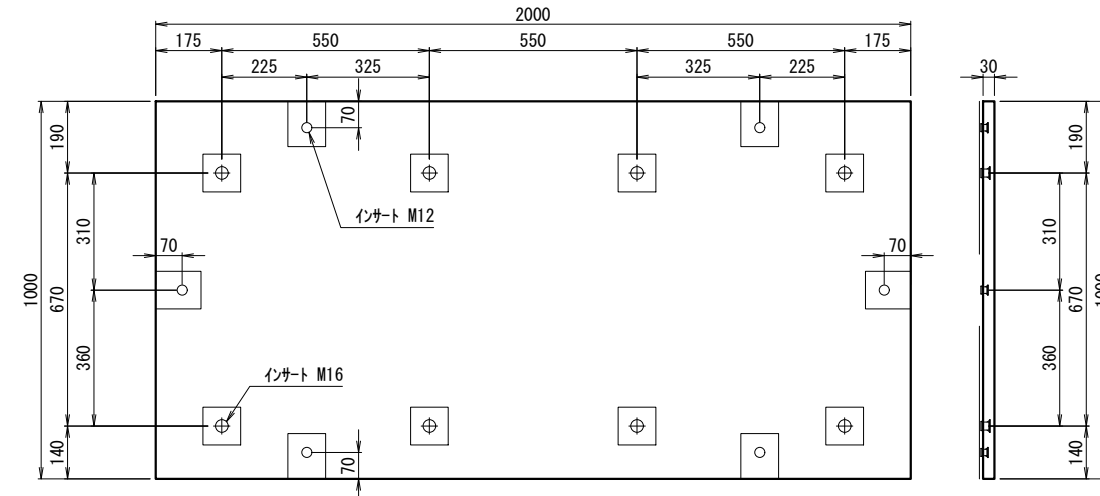
A2タイプ S=1/20



Bxタイプ S=1/20



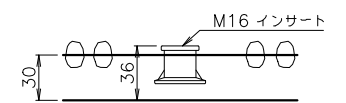
Cxタイプ S=1/20



インサート部詳細 S=1/5

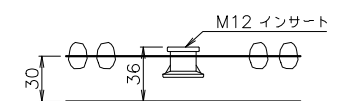
インサート M16

凡例: ⊕



インサート M12

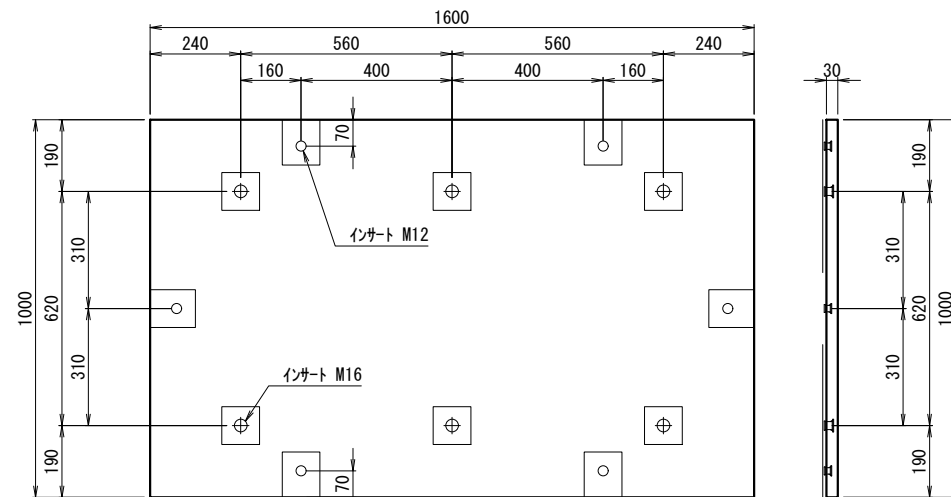
凡例: ○



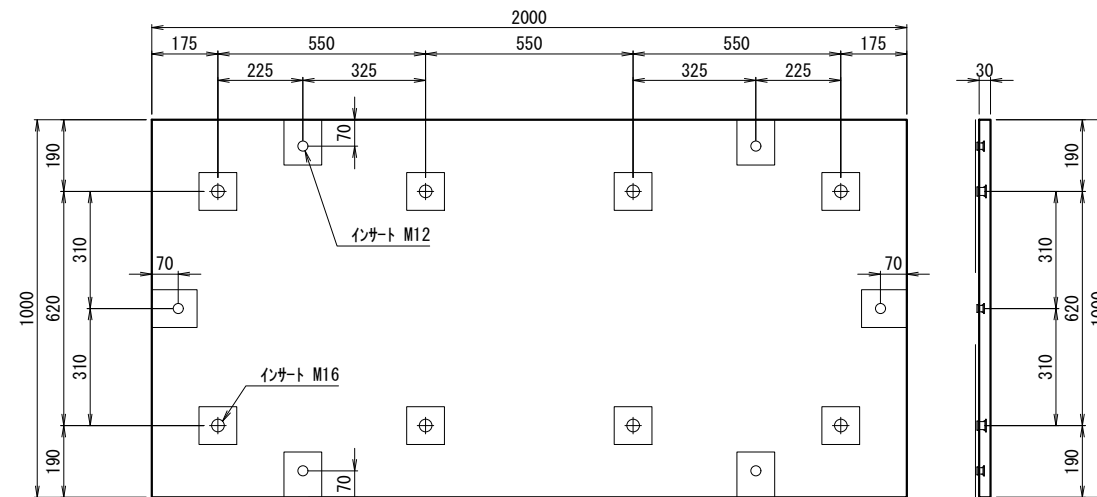
工事名	南摩ダム本体建設工事		
名称	選択取水塔工 取水設備PCI型枠詳細図(1)		
登録番号	19-16-05	整理番号	05-15-030
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所			

PICフォーム製品図(2)

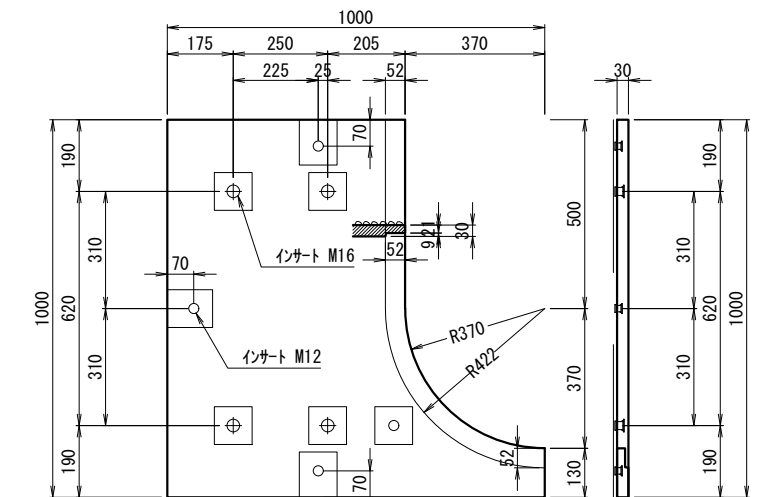
Bタイプ S=1/20



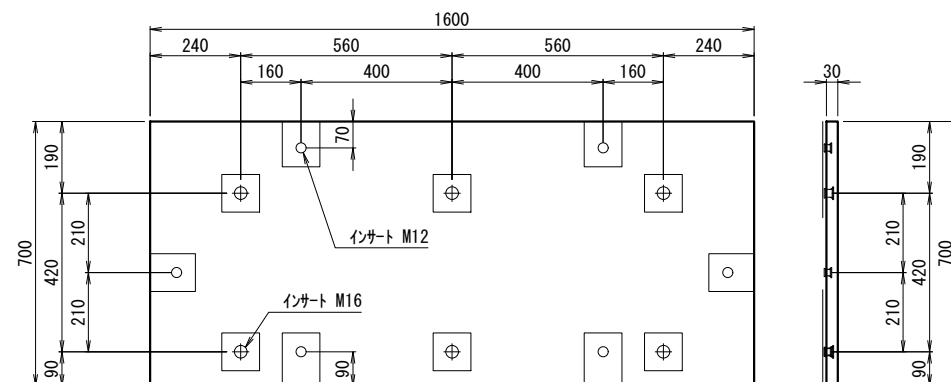
Cタイプ S=1/20



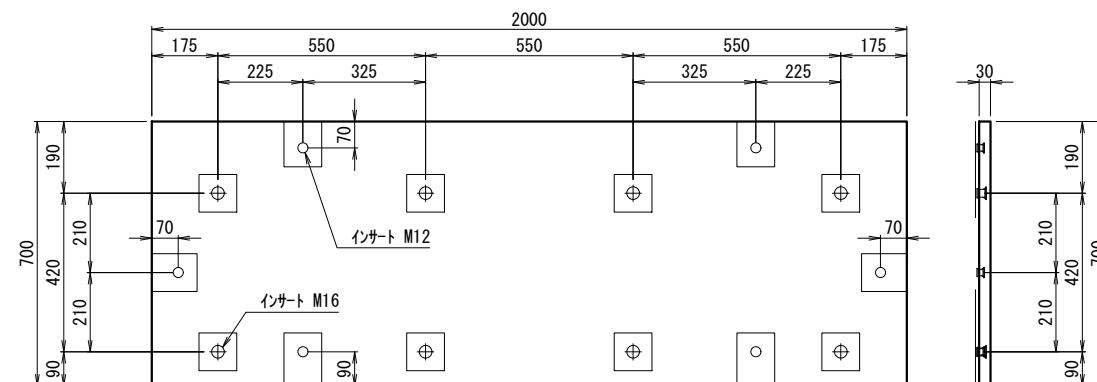
Ca1Lタイプ S=1/20



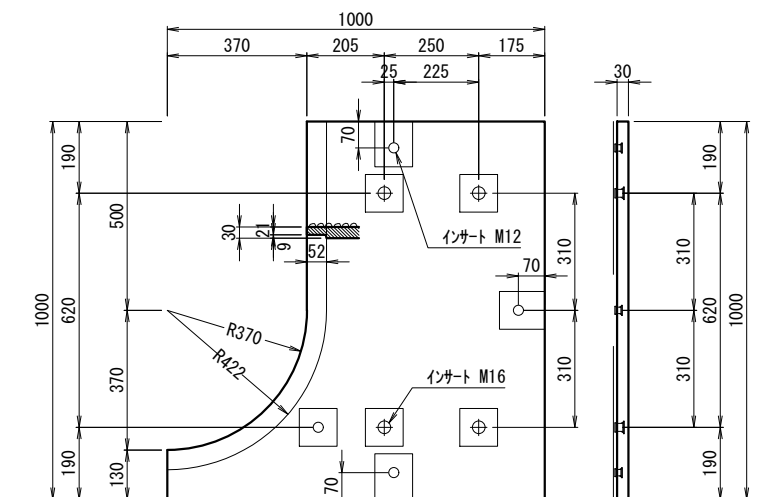
B1タイプ S=1/20



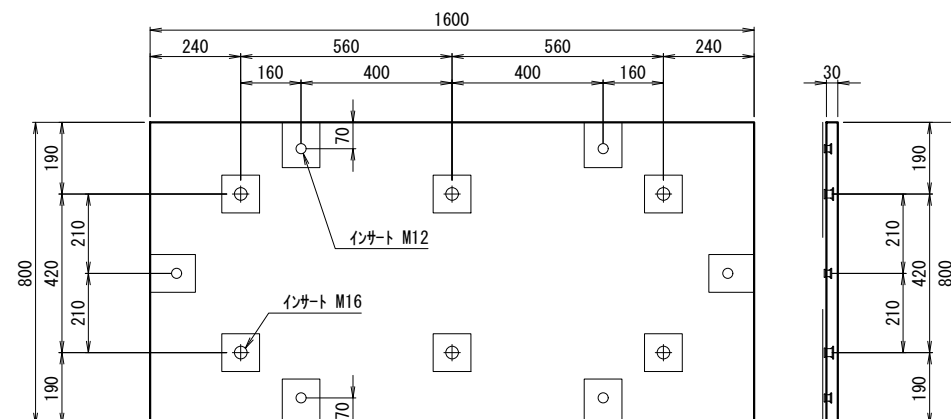
C1タイプ S=1/20



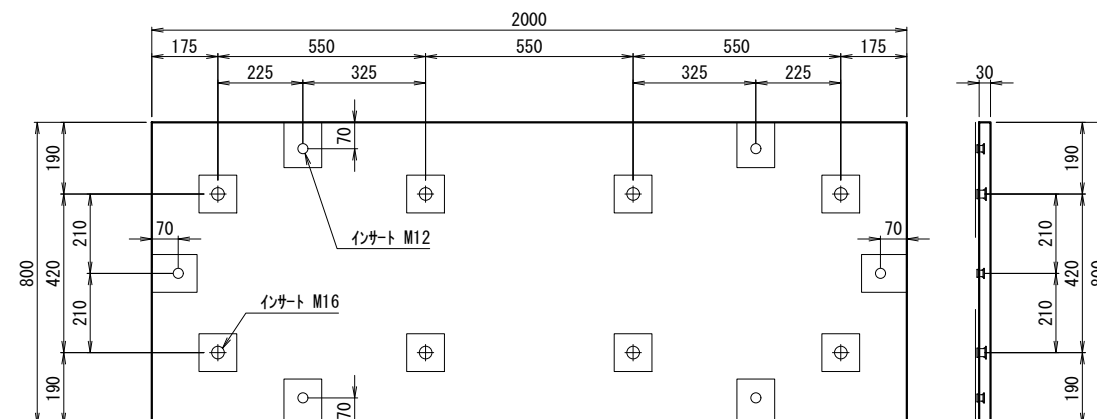
Ca1Rタイプ S=1/20



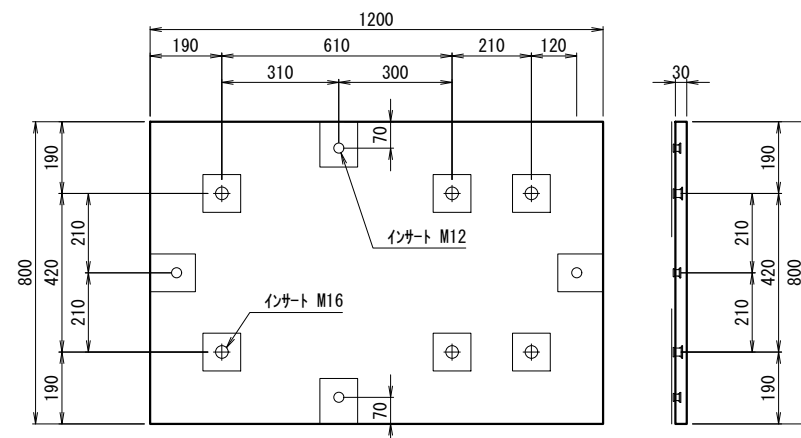
B2タイプ S=1/20



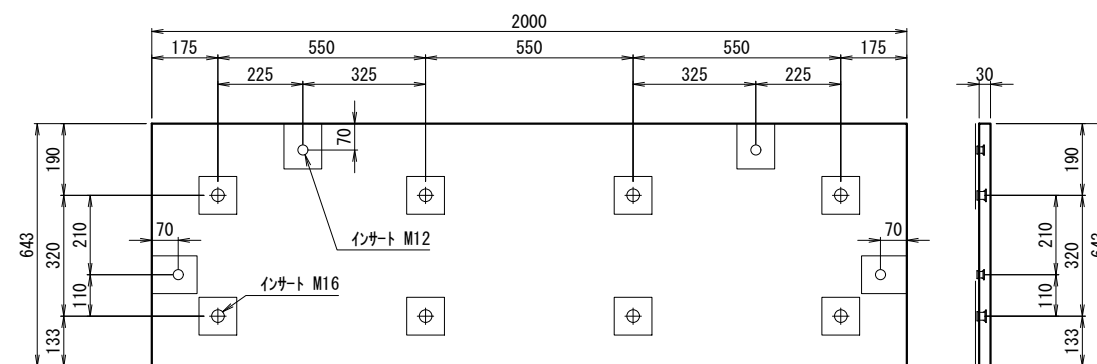
C2タイプ S=1/20



B3タイプ S=1/20



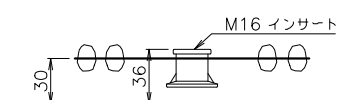
C3タイプ S=1/20



インサート部詳細 S=1/5

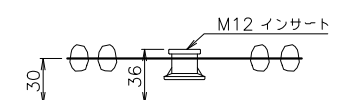
インサート M16

凡例: ⊕



インサート M12

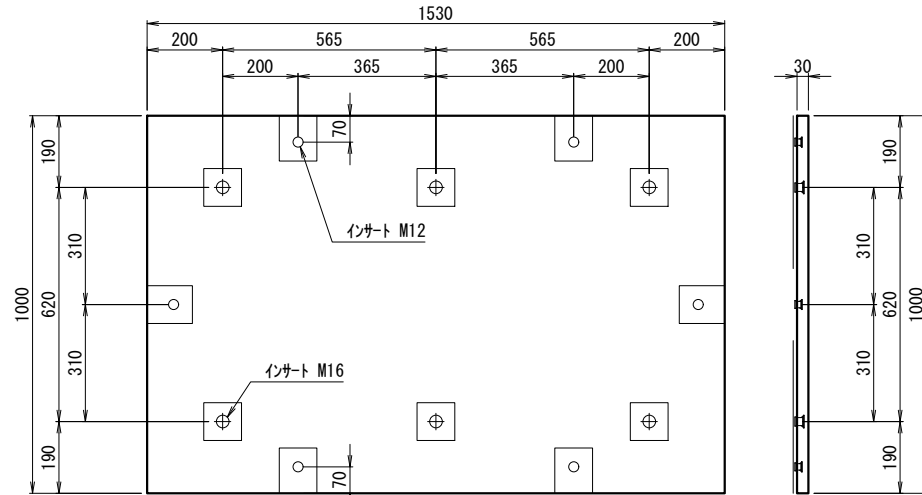
凡例: ○



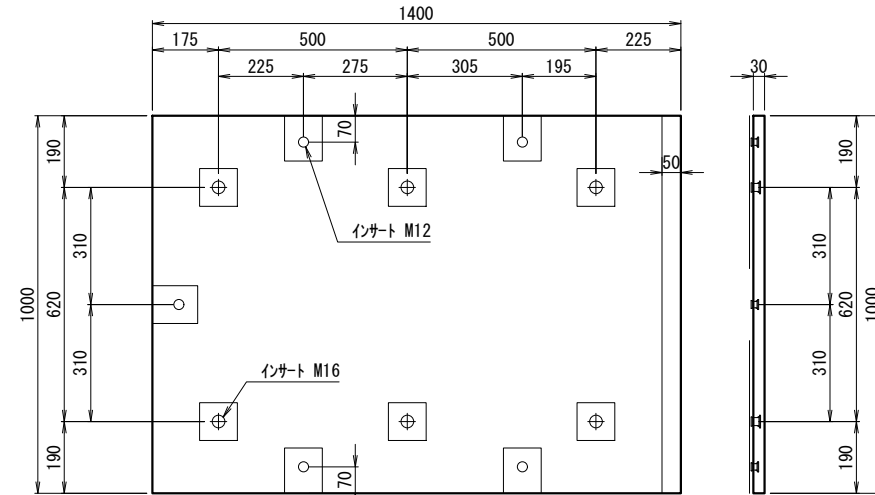
工事名	南摩ダム本体建設工事		
名称	選択取水塔工 取水設備PIC型枠詳細図(2)		
登録番号	19-16-05	整理番号	05-15-030
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所			

PICフォーム製品図(3)

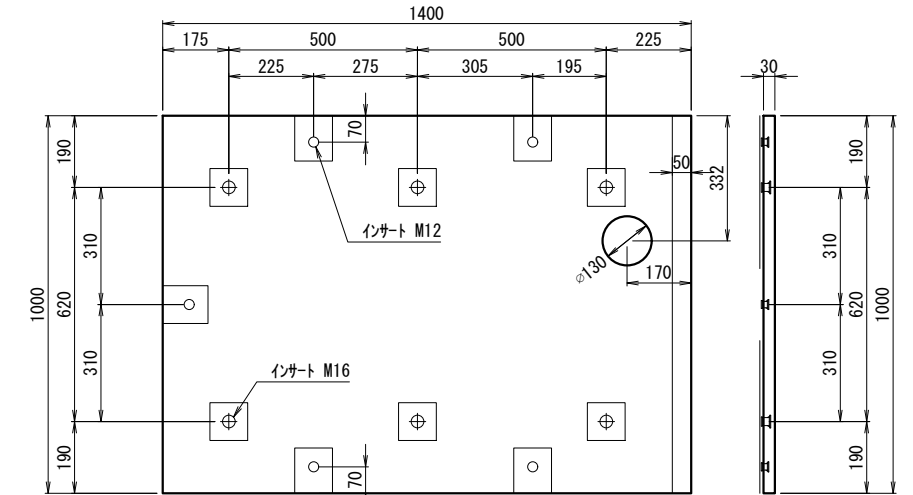
Dタイプ S=1/20



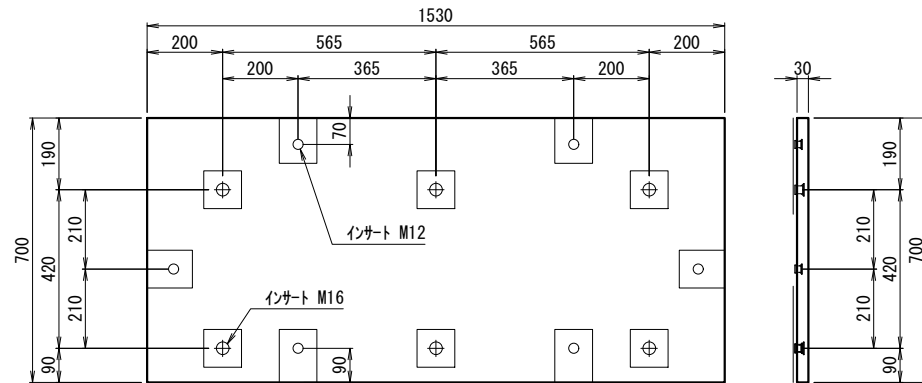
Eタイプ S=1/20



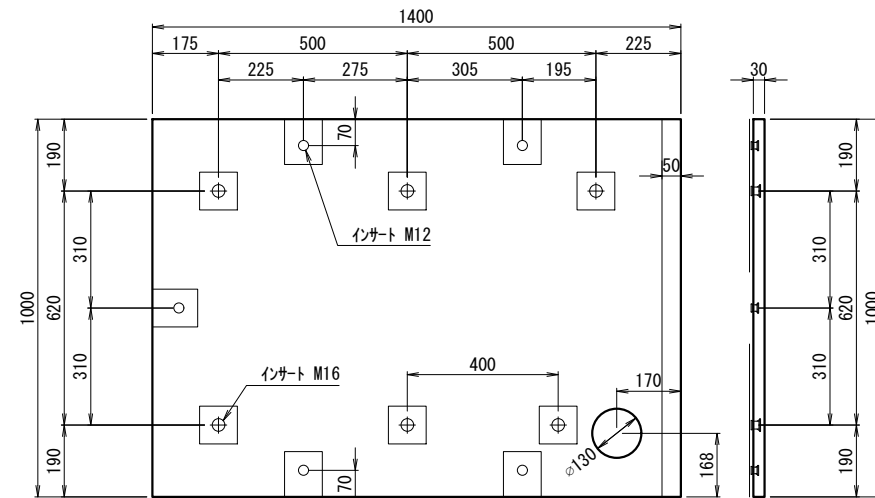
Ea2Lタイプ S=1/20



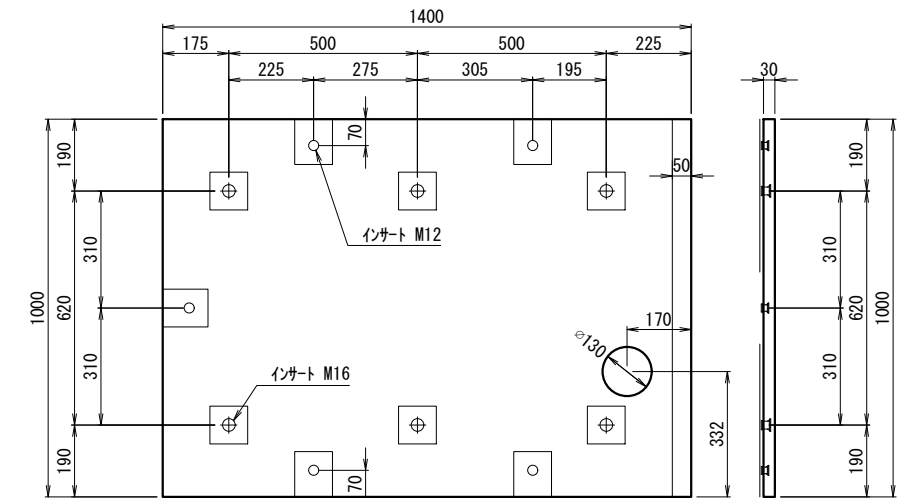
D1タイプ S=1/20



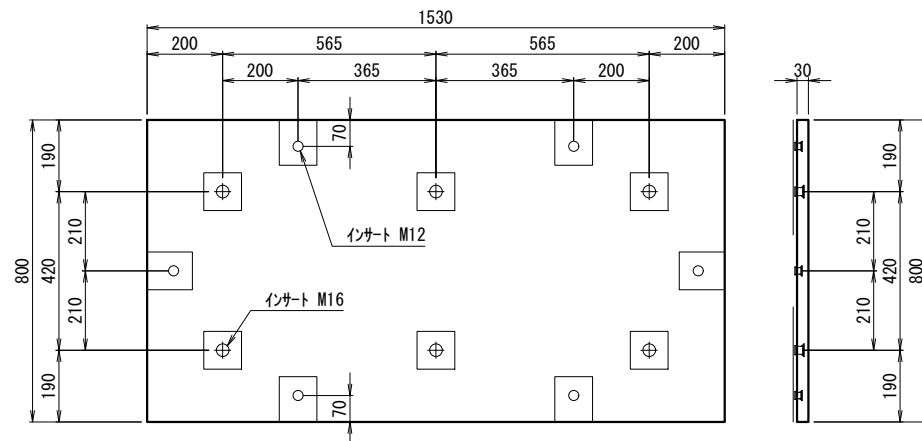
Ea1Lタイプ S=1/20



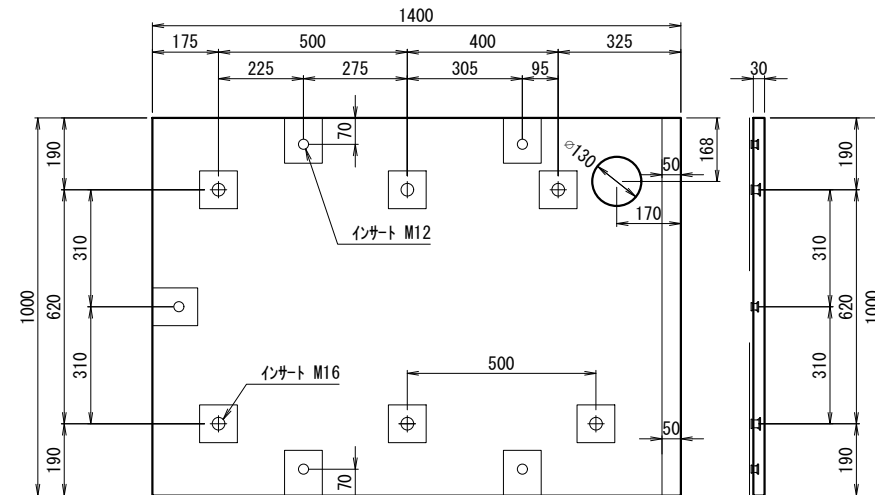
Ea2Rタイプ S=1/20



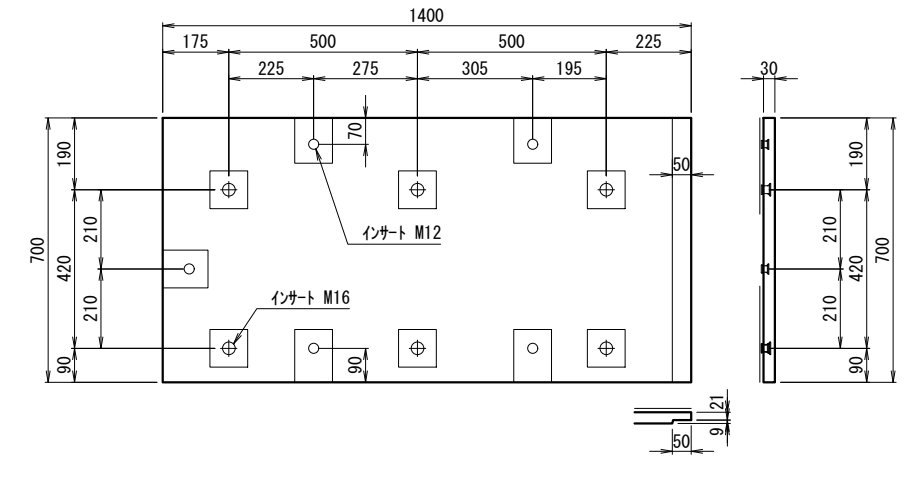
D2タイプ S=1/20



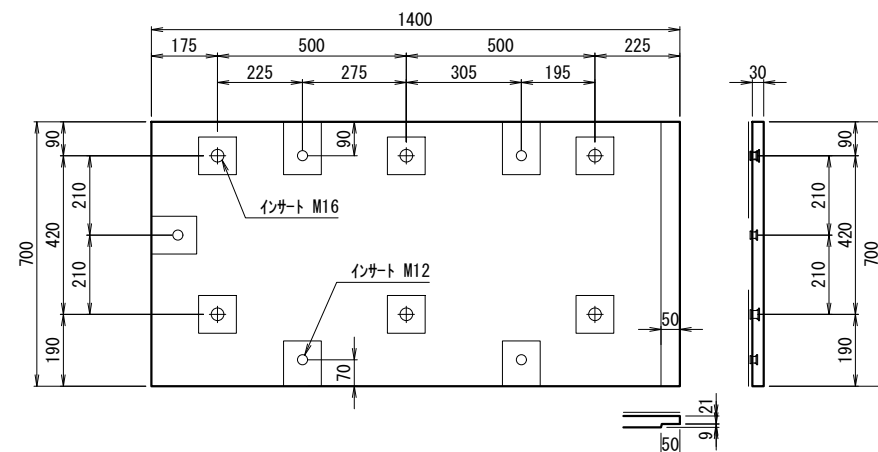
Ea1Rタイプ S=1/20



E1Lタイプ S=1/20



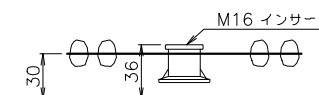
E1Rタイプ S=1/20



インサート部詳細 S=1/5

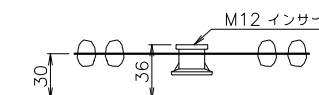
インサート M16

凡例: ⊕



インサート M12

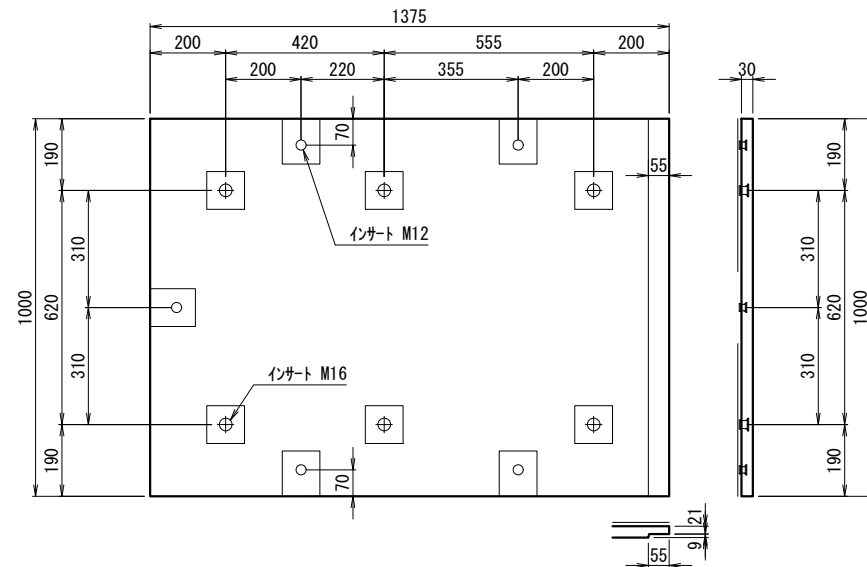
凡例: ○



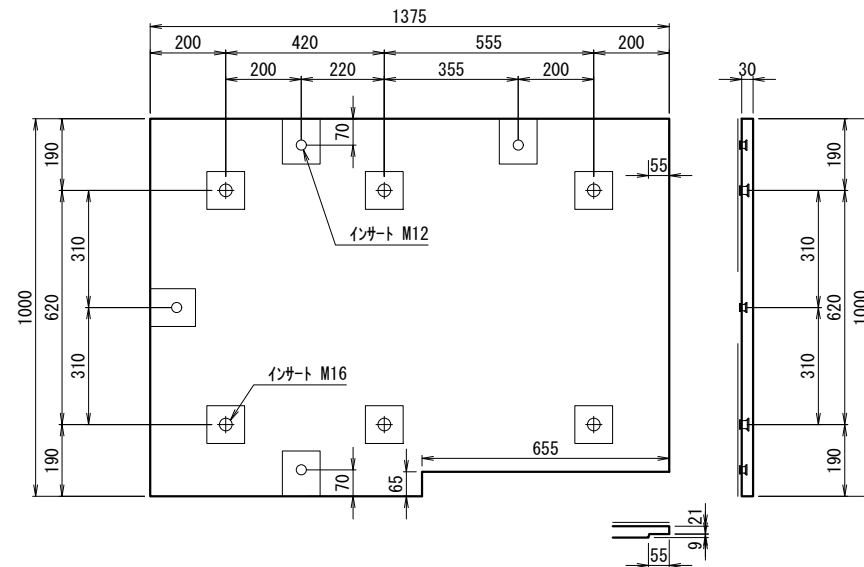
工事名	南摩ダム本体建設工事		
名称	選択取水塔工 取水設備PCI型枠詳細図(3)		
登録番号	19-16-05	整理番号	05-15-030
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所			

PICフォーム製品図(4)

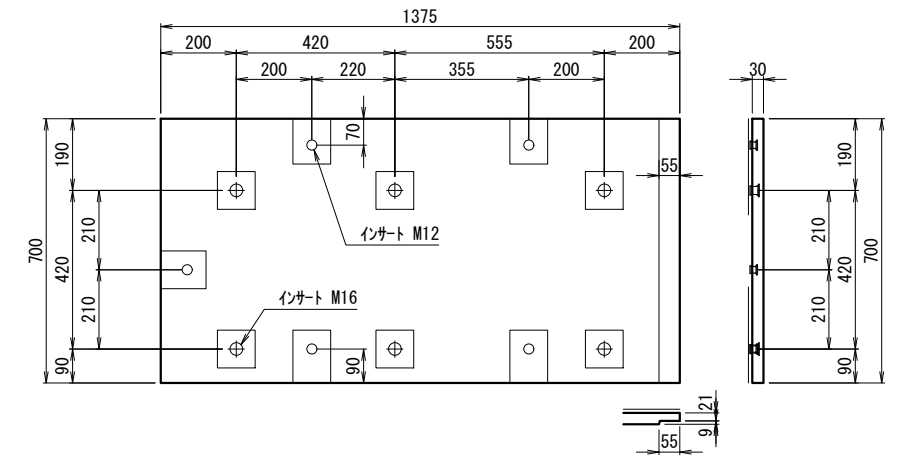
Hタイプ S=1/20



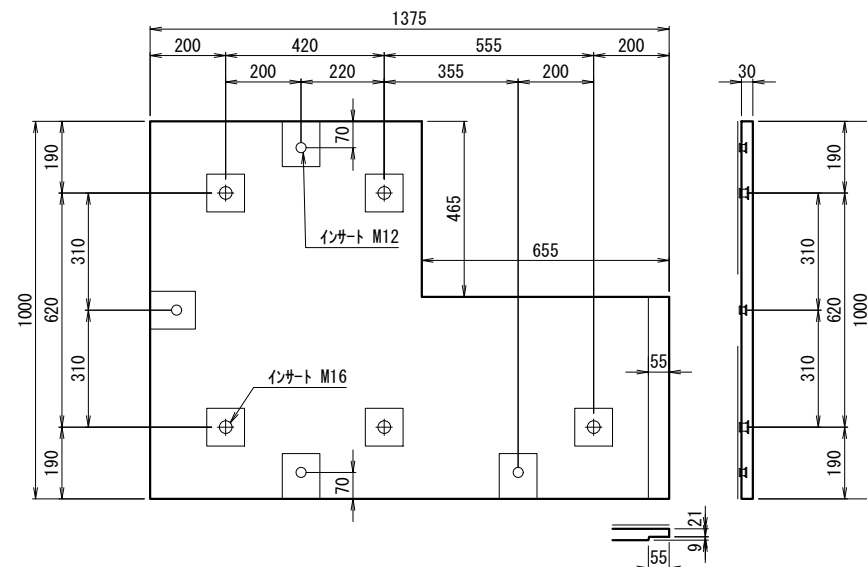
Hk2Lタイプ S=1/20



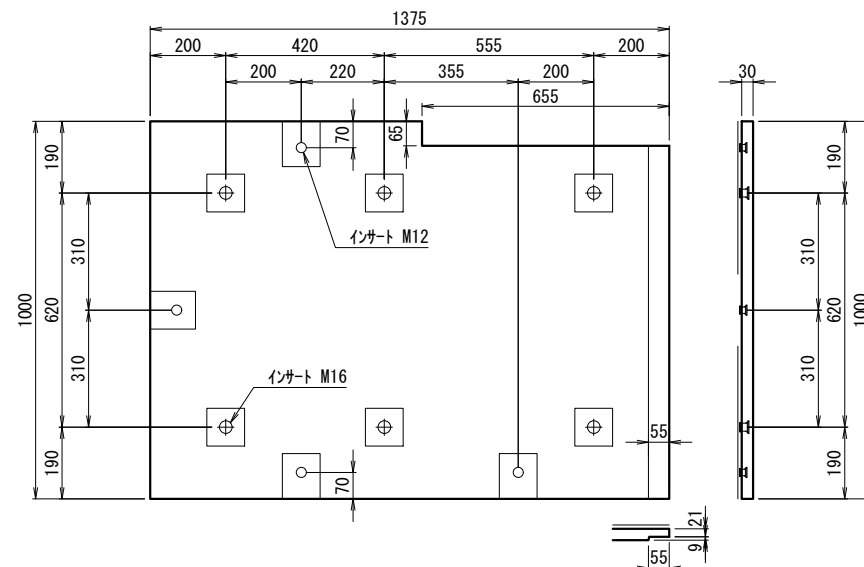
H1Lタイプ S=1/20



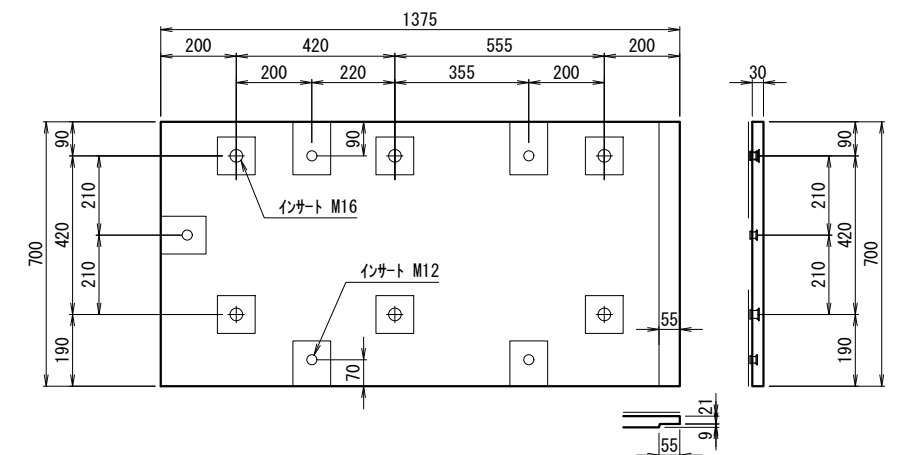
Hk1Lタイプ S=1/20



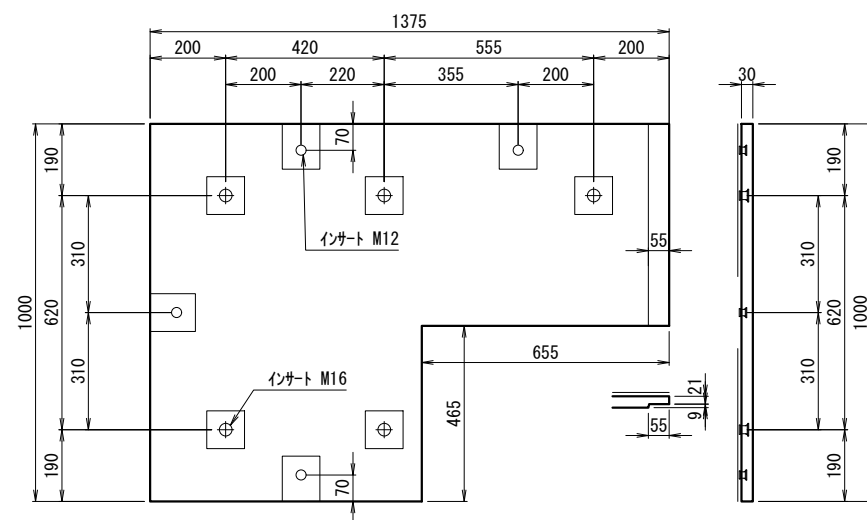
Hk2Rタイプ S=1/20



H1Rタイプ S=1/20



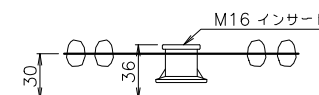
Hk1Rタイプ S=1/20



インサート部詳細 S=1/5

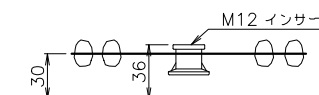
インサート M16

凡例: ⊕



インサート M12

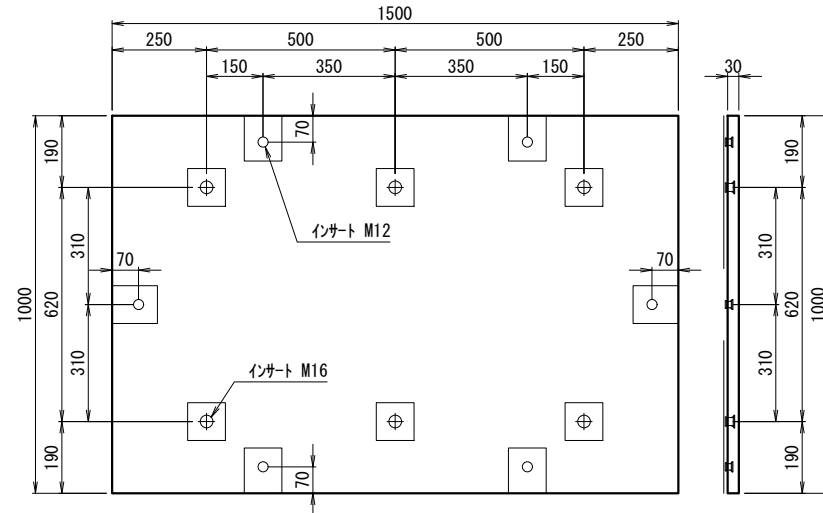
凡例: ○



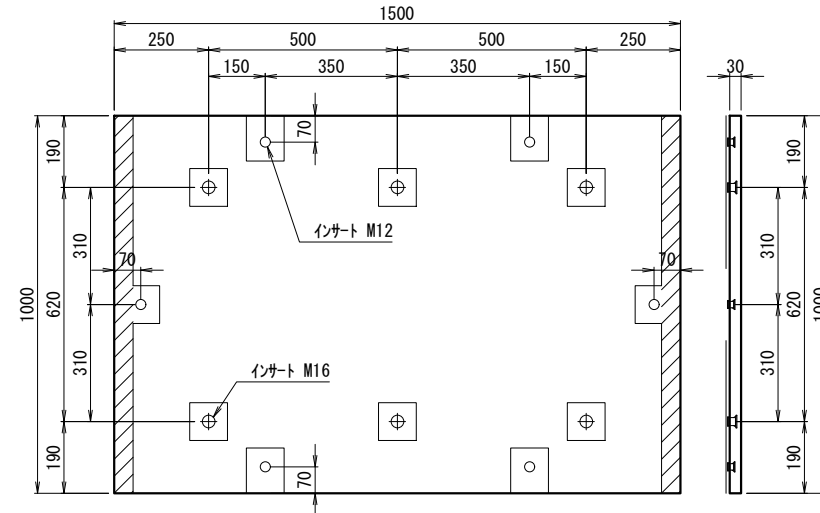
工事名	南摩ダム本体建設工事		
名称	選択取水塔工 取水設備PCI型枠詳細図(4)		
登録番号	19-16-05	整理番号	05-15-030
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所			

PICフォーム製品図(5)

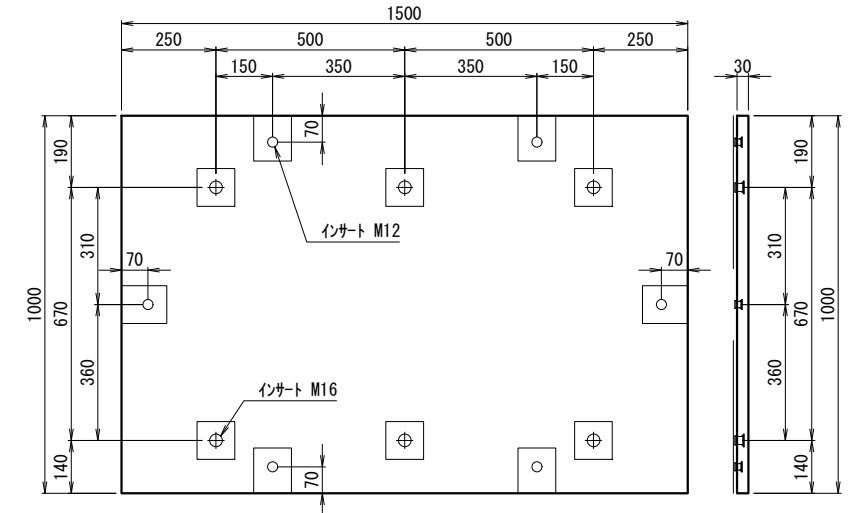
Fタイプ S=1/20



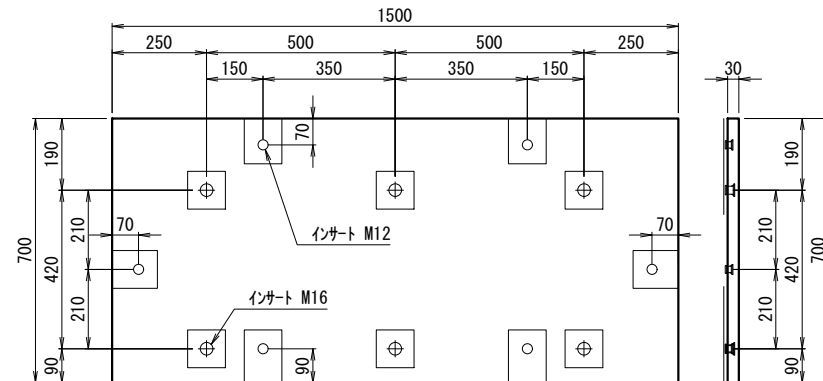
Fpタイプ S=1/20



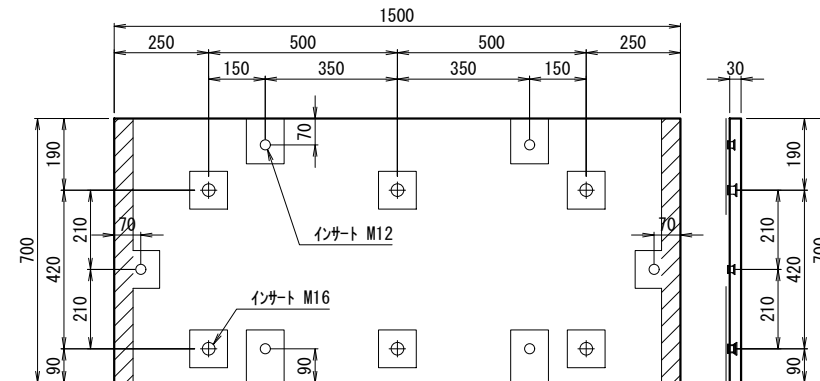
Fxタイプ S=1/20



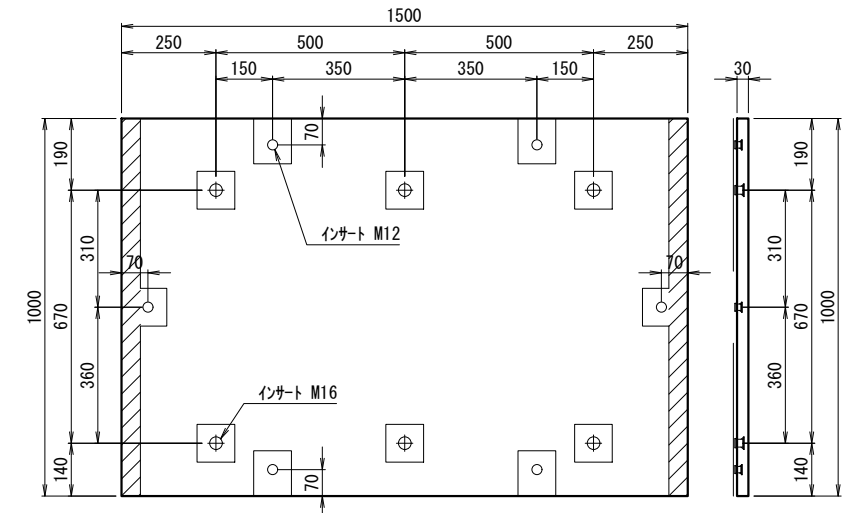
F1タイプ S=1/20



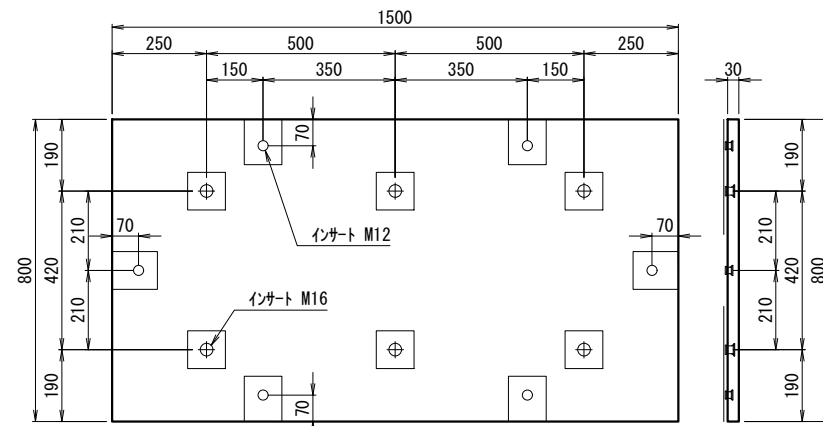
Fp1タイプ S=1/20



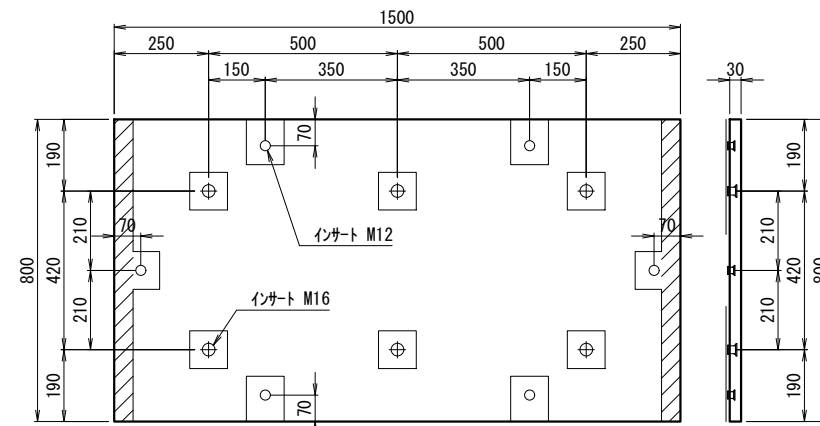
Fpxタイプ S=1/20



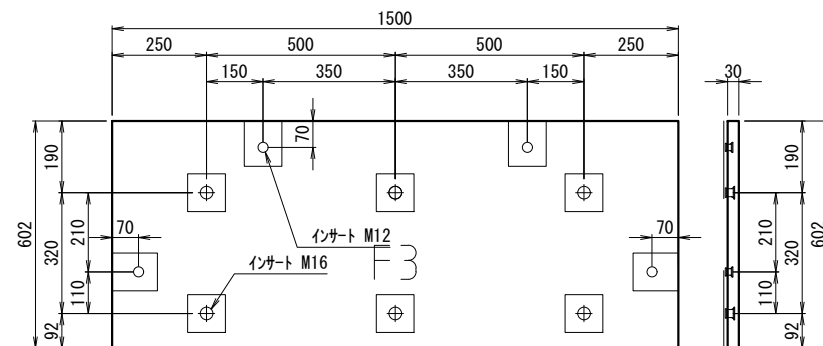
F2タイプ S=1/20



Fp2タイプ S=1/20



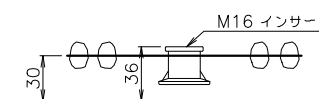
F3タイプ S=1/20



インサート部詳細 S=1/5

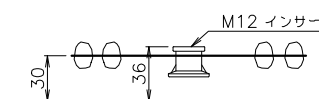
インサート M16

凡例：⊕



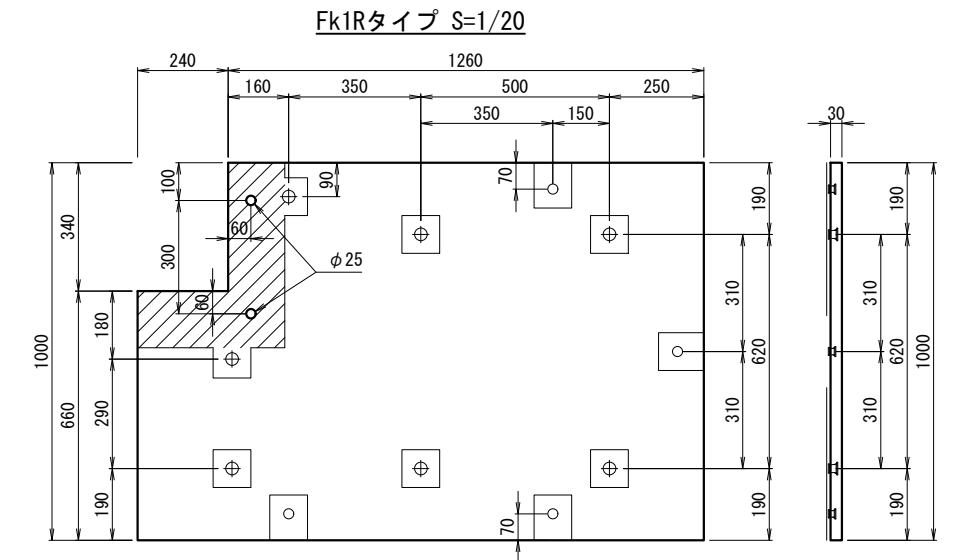
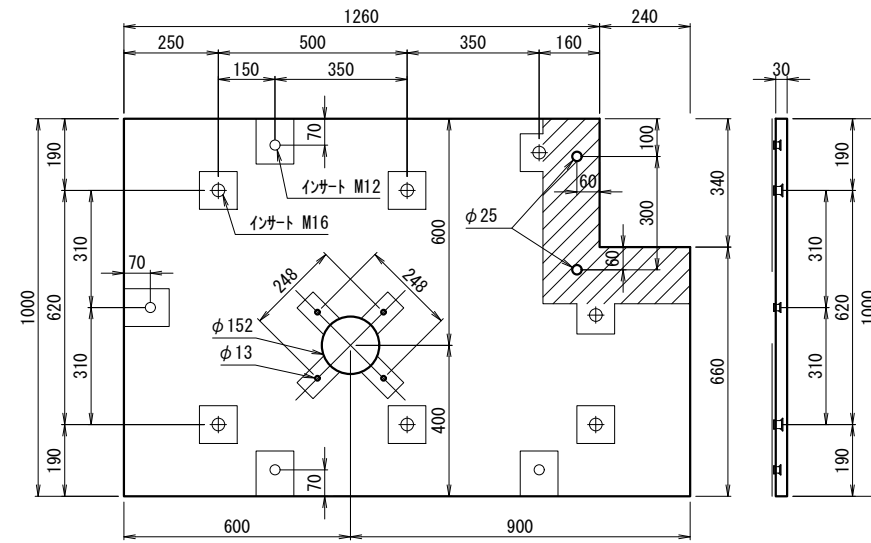
インサート M12

凡例：○

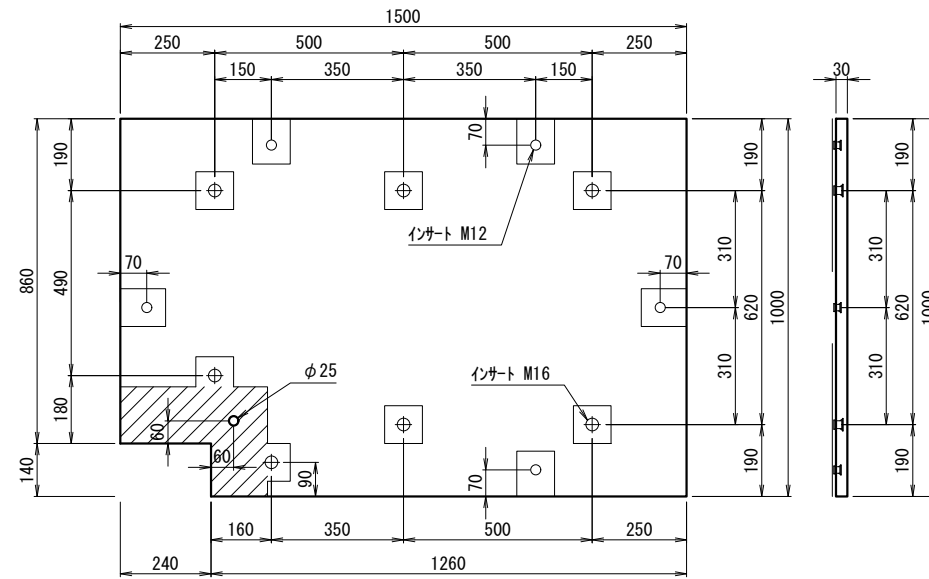


工事名	南摩ダム本体建設工事		
名称	選択取水塔工 取水設備PIC型枠詳細図(5)		
登録番号	19-16-05	整理番号	05-15-030
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所			

Fk1Laタイプ S=1/20



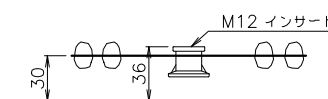
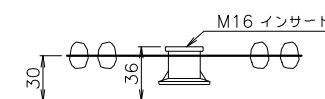
Fk2Rタイプ S=1/20



インサート M16

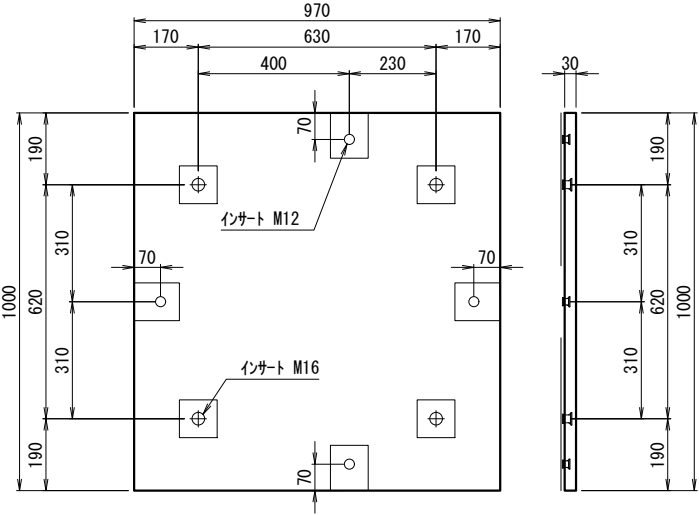
インサート M12

凡例：○

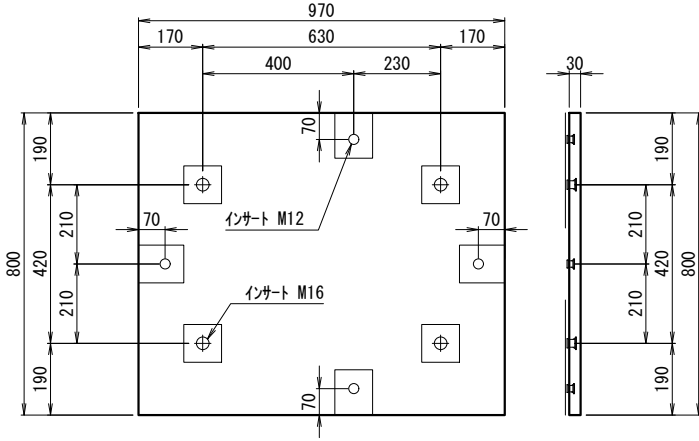


工事名	南摩ダム本体建設工事		
名称	選抜取水塔工 取水設備PCI型枠詳細図(6)		
登録番号	19-16-05	整理番号	05-15-030
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所			

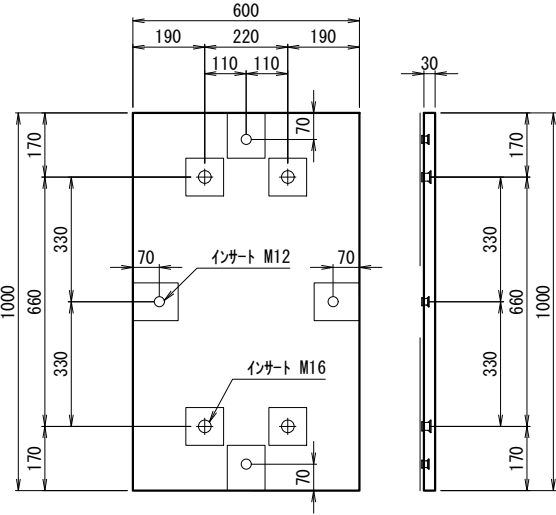
Kタイプ S=1/20



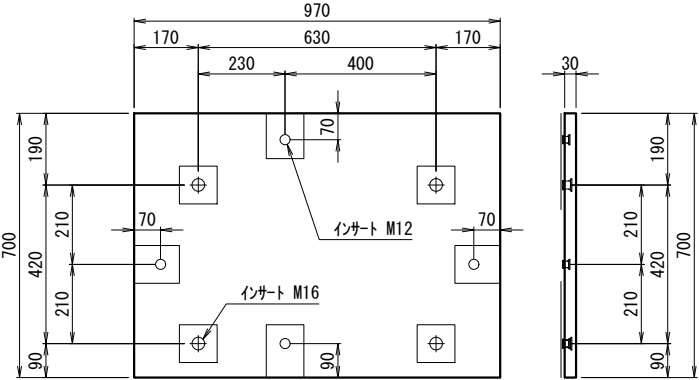
K2タイプ S=1/20



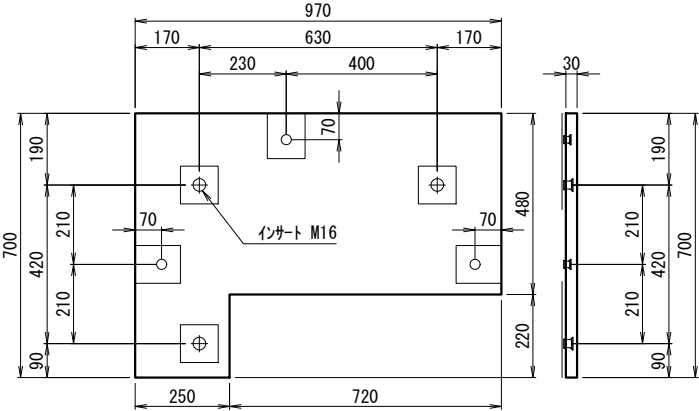
Nタイプ S=1/20



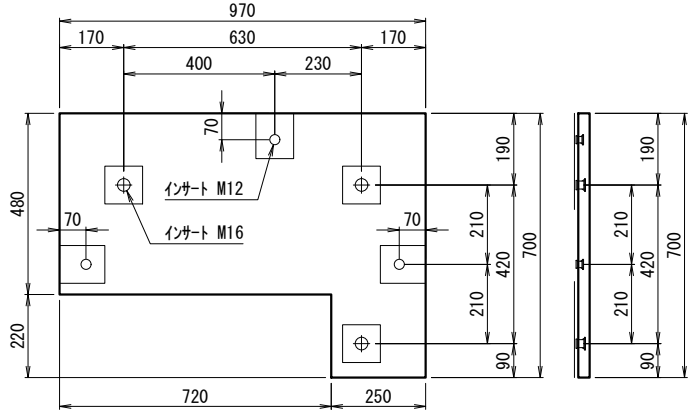
K1Lタイプ S=1/20



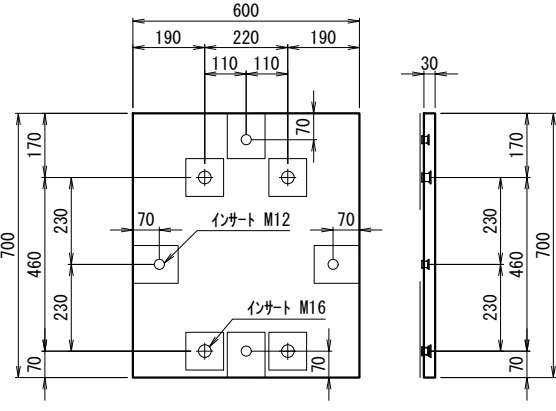
K1kLタイプ S=1/20



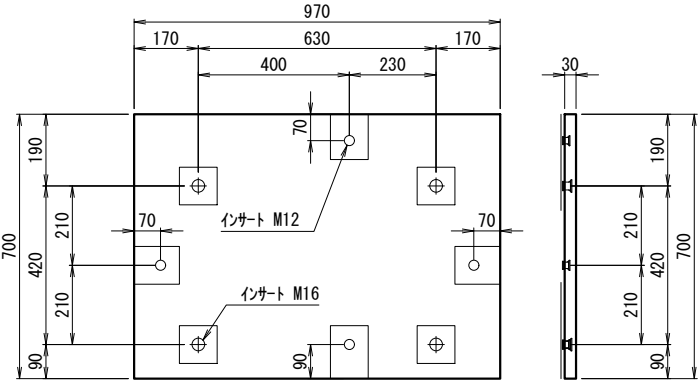
K1kRタイプ S=1/20



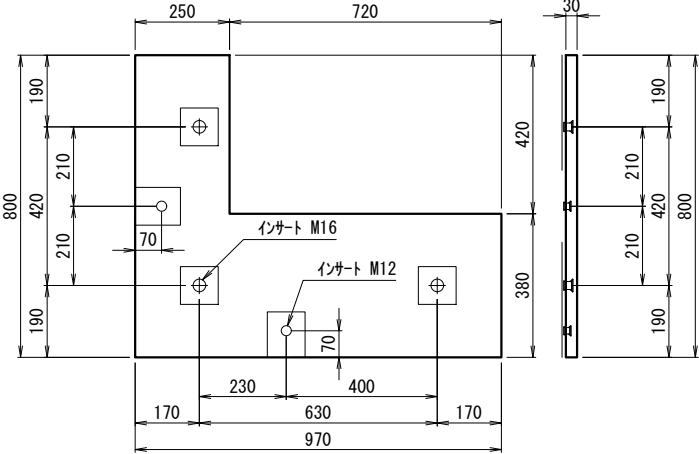
N1タイプ S=1/20



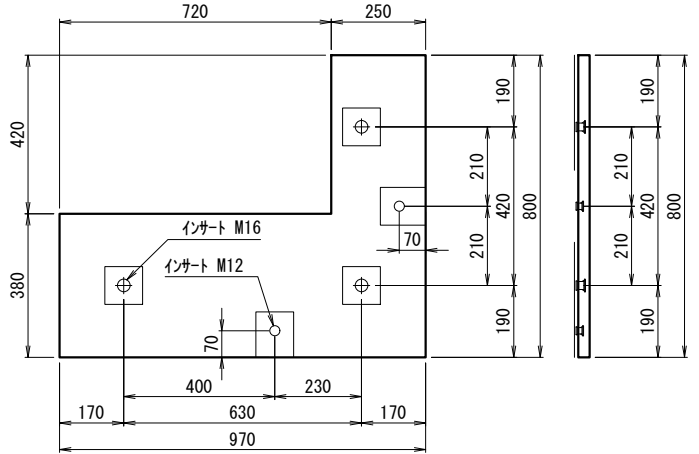
K1Rタイプ S=1/20



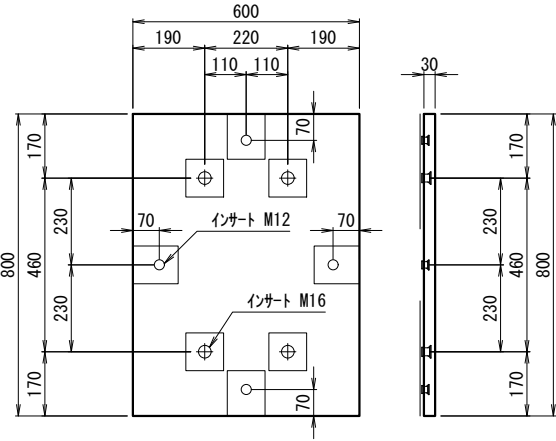
K2kLタイプ S=1/20



K2kRタイプ S=1/20



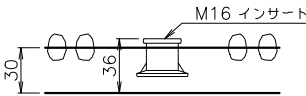
N2タイプ S=1/20



インサート部詳細 S=1/5

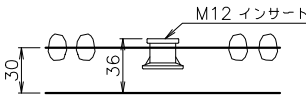
インサート M16

凡例：⊕



インサート M12

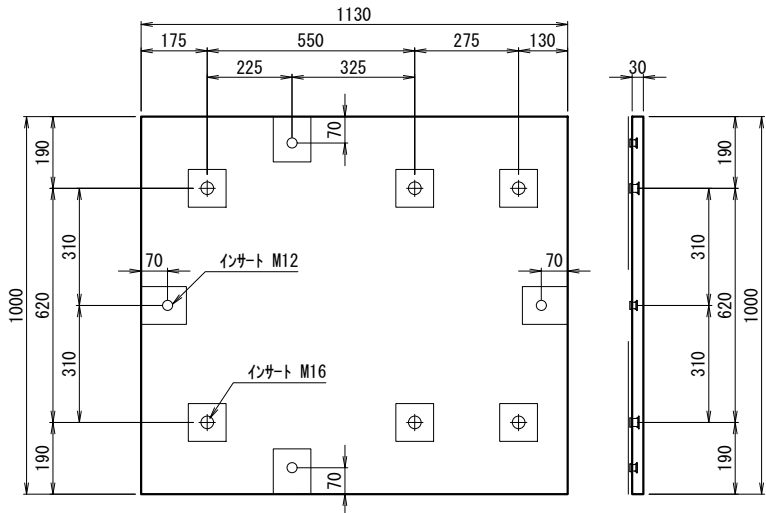
凡例：○



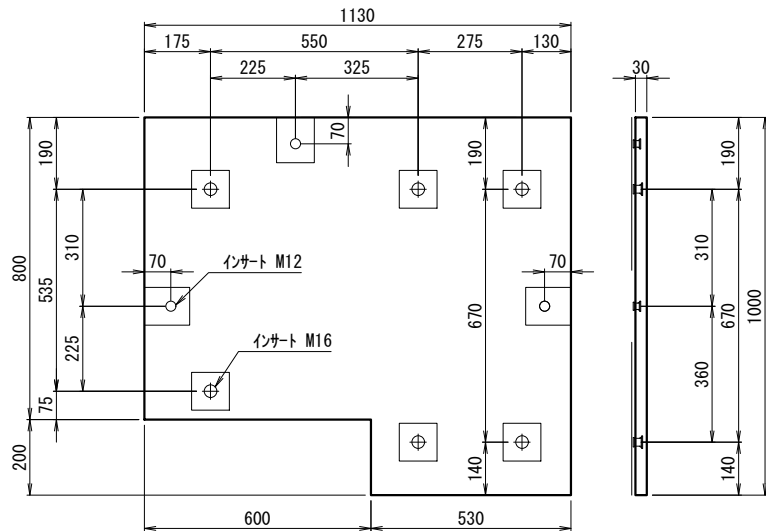
工事名	南摩ダム本体建設工事		
名称	選択取水塔工 取水設備PIC型枠詳細図(7)		
登録番号	19-16-05	整理番号	05-15-030
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所			

PICフォーム製品図(8)

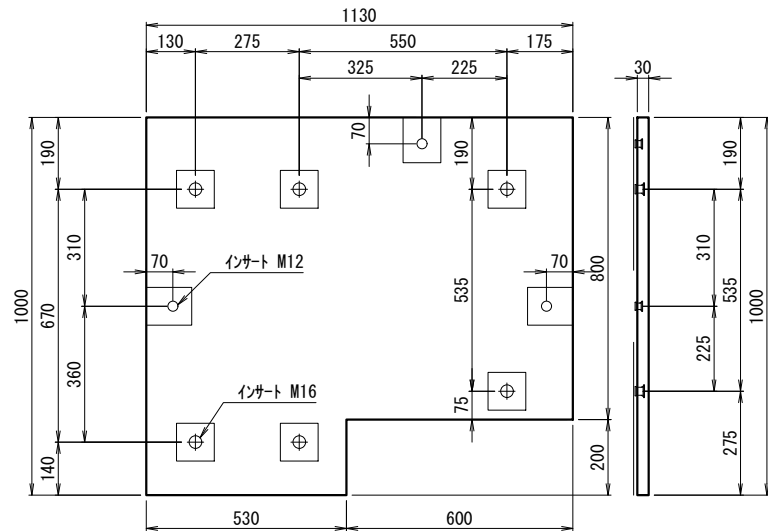
Pタイプ S=1/20



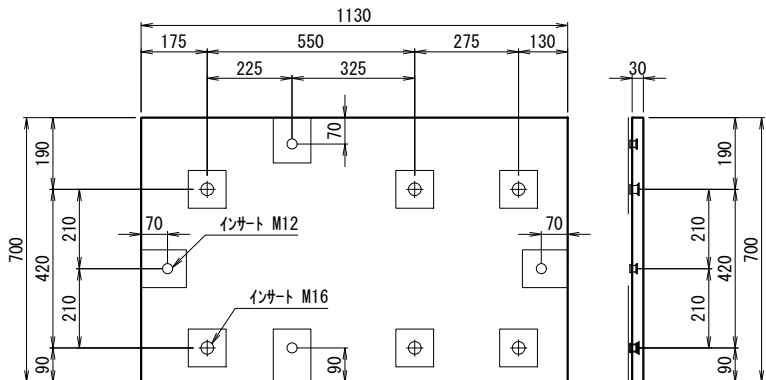
Pk1Lタイプ S=1/20



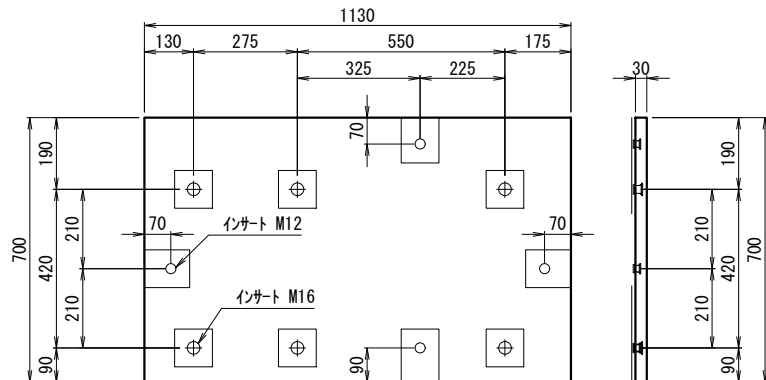
Pk1Rタイプ S=1/20



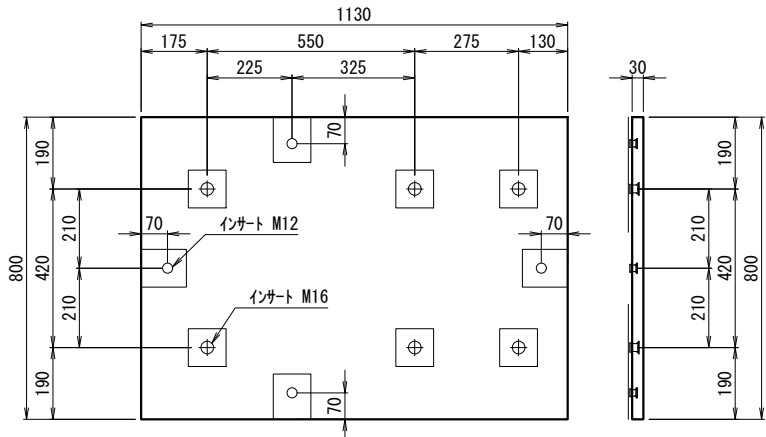
P1Lタイプ S=1/20



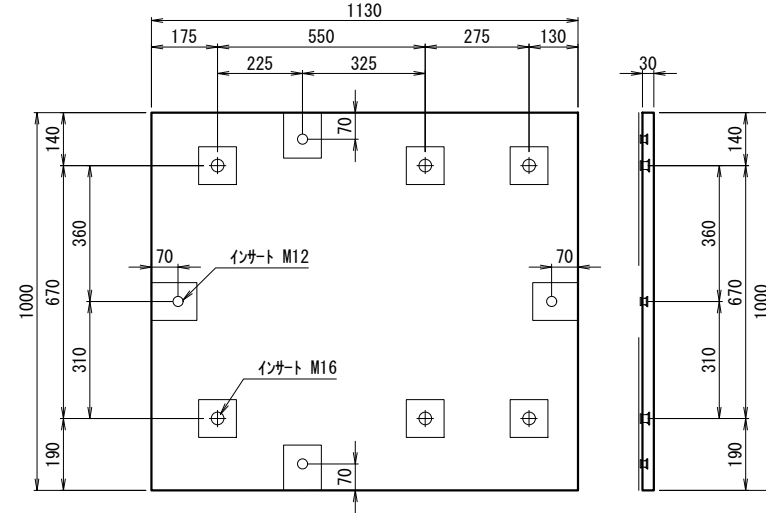
P1Rタイプ S=1/20



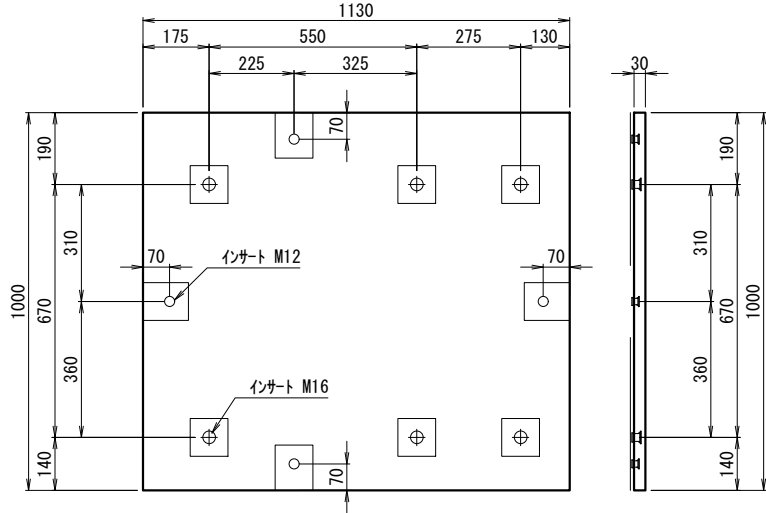
P2Lタイプ S=1/20



PxRタイプ S=1/20



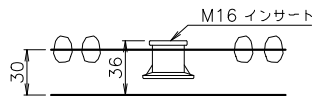
PxLタイプ S=1/20



インサート部詳細 S=1/5

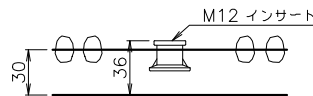
インサート M16

凡例：⊕



インサート M12

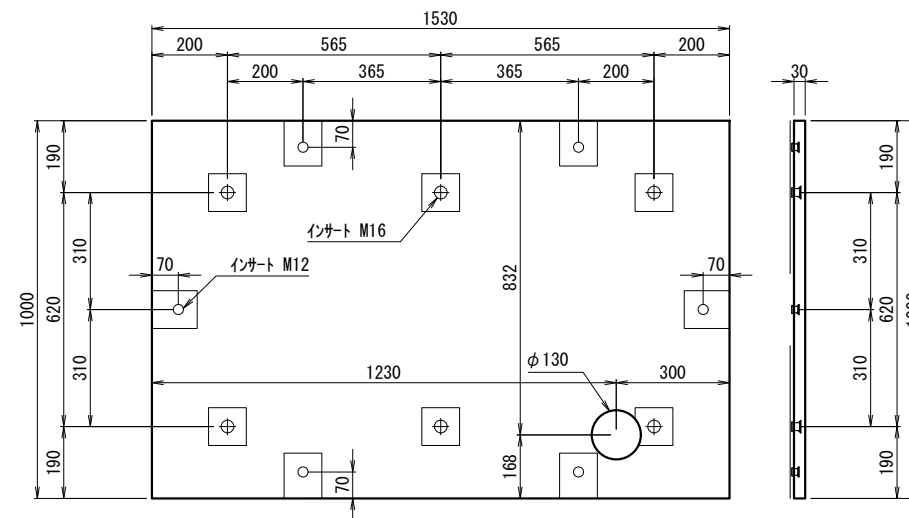
凡例：○



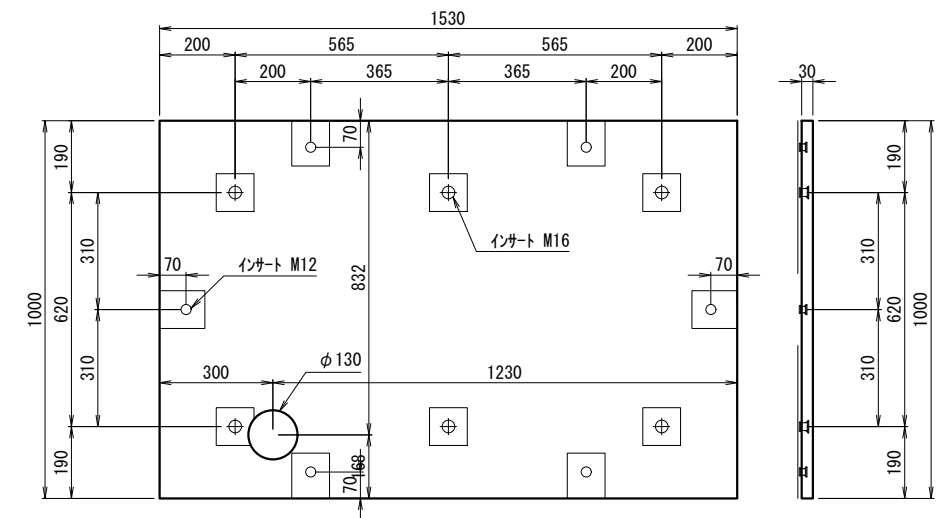
工事名	南摩ダム本体建設工事		
名称	選択取水塔工 取水設備PCI型枠詳細図(8)		
登録番号	19-16-05	整理番号	05-15-030
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所			

PICフォーム製品図(9)

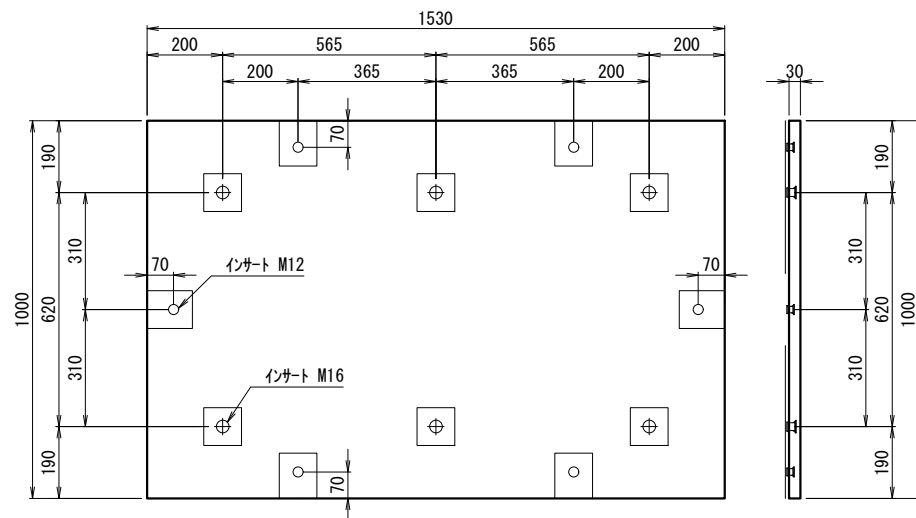
Sa1Lタイプ S=1/20



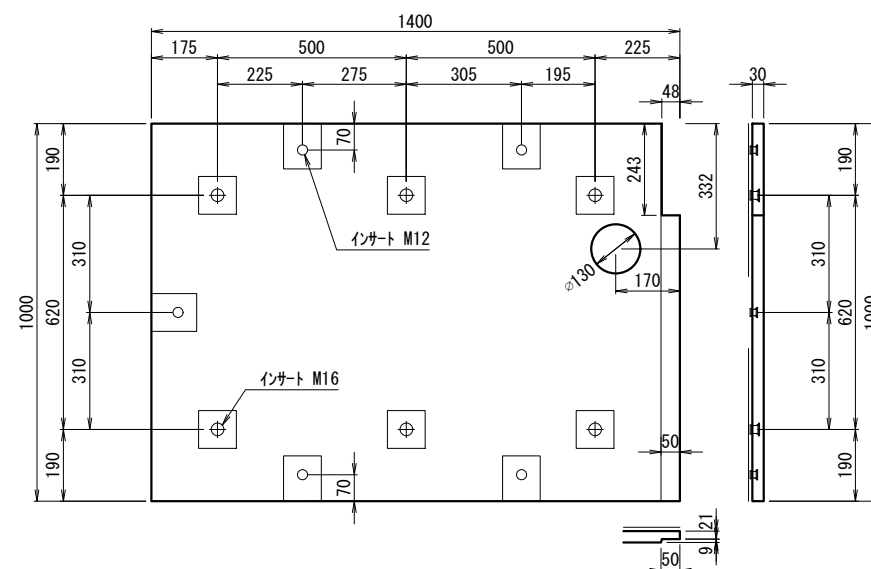
Sa1Rタイプ S=1/20



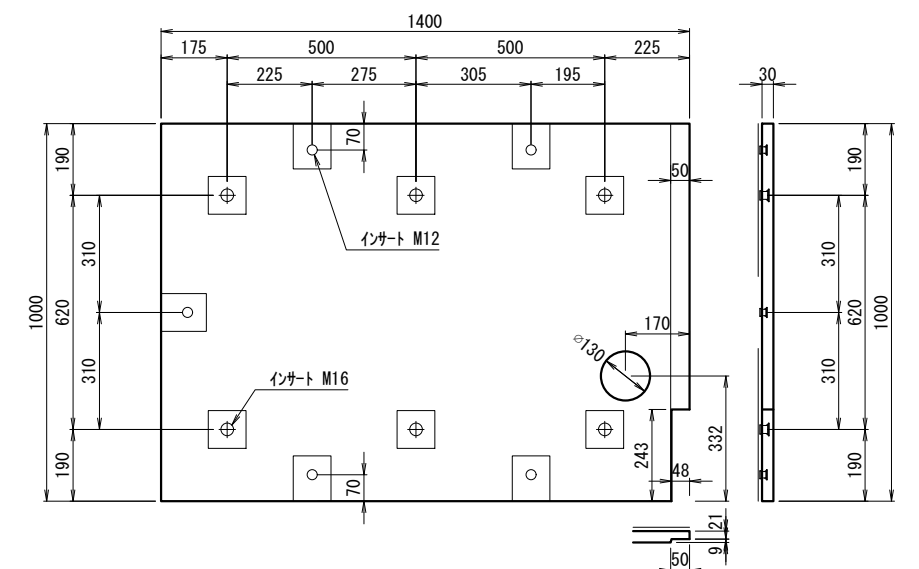
Sタイプ S=1/20



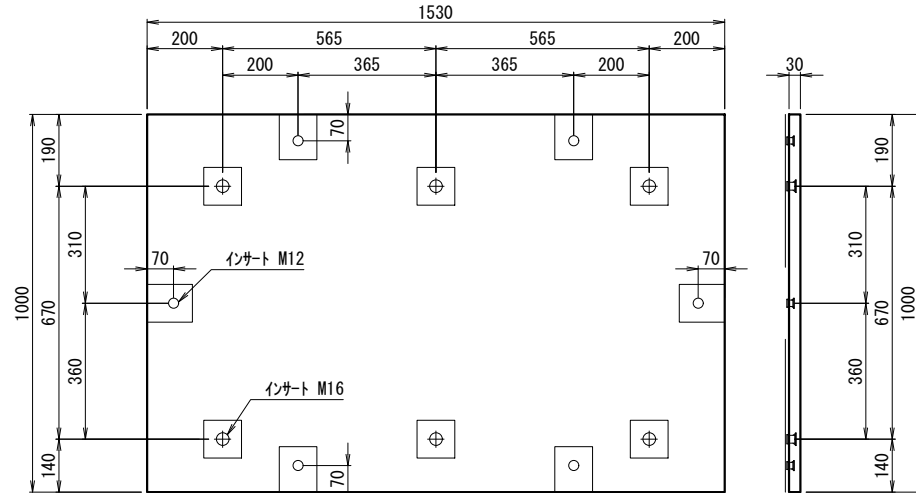
Sa2Lタイプ S=1/20 (Ea2Lベース)



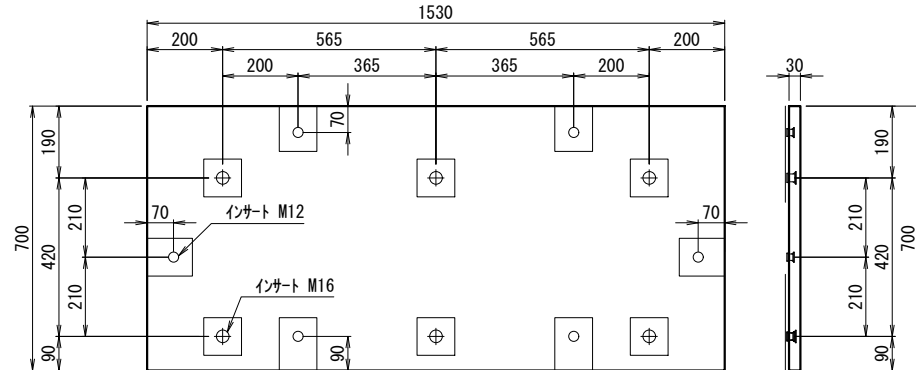
Sa2Rタイプ S=1/20 (Ea2Rベース)



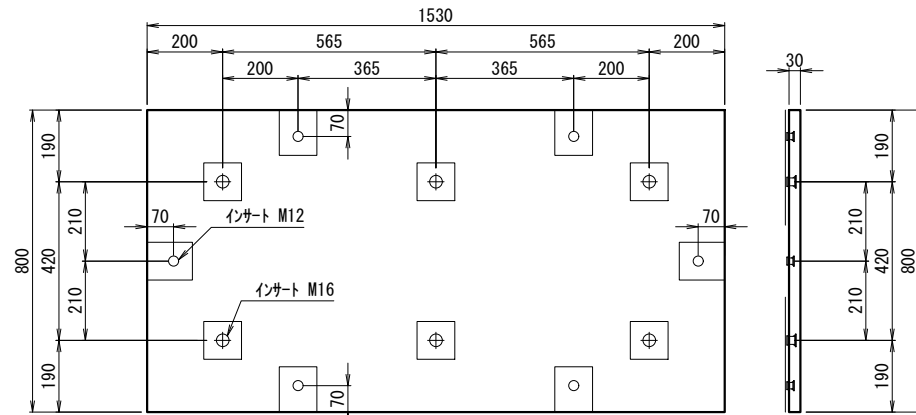
Sxタイプ S=1/20



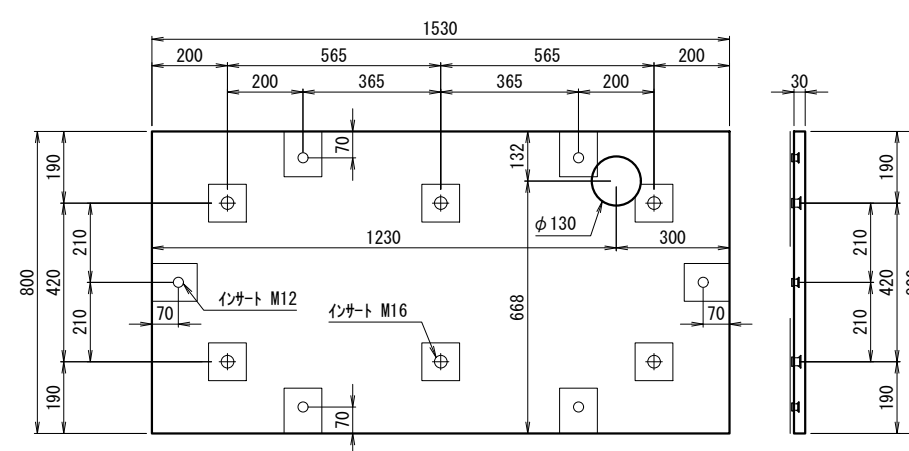
S1タイプ S=1/20



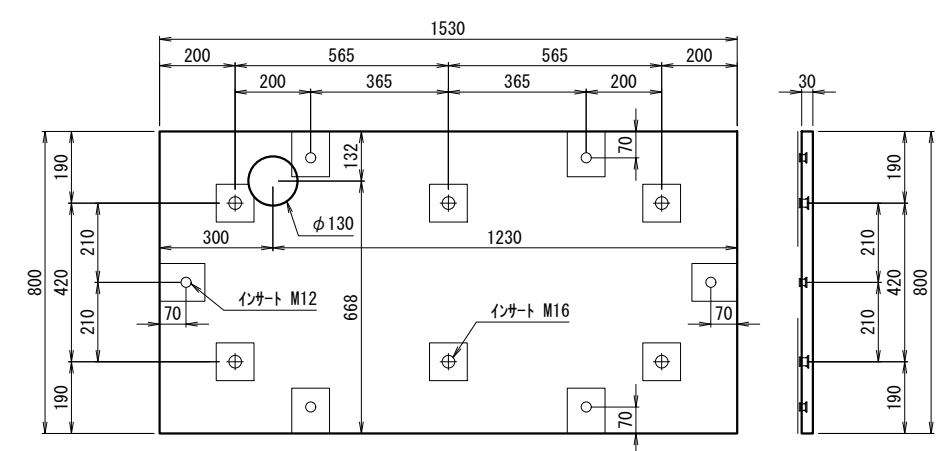
S2タイプ S=1/20



S2aLタイプ S=1/20



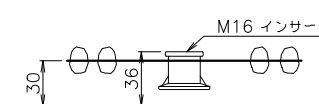
S2aRタイプ S=1/20



インサート部詳細 S=1/5

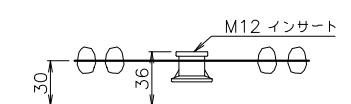
インサート M16

凡例: ⊕



インサート M12

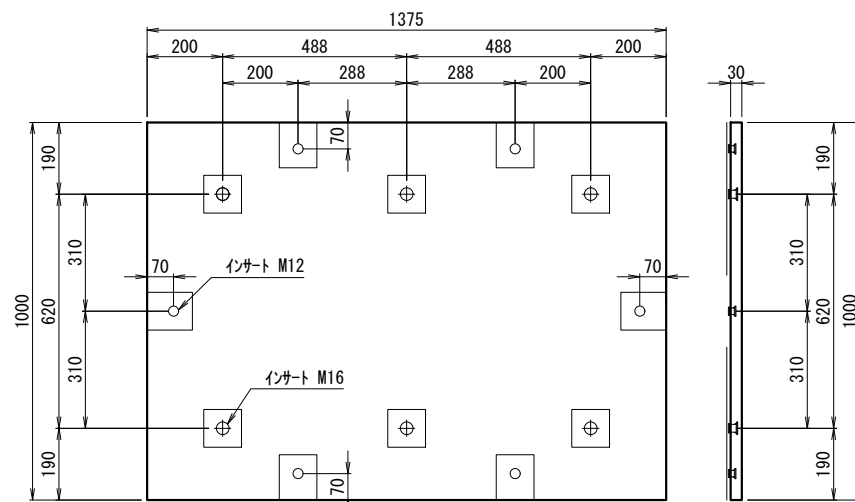
凡例: ○



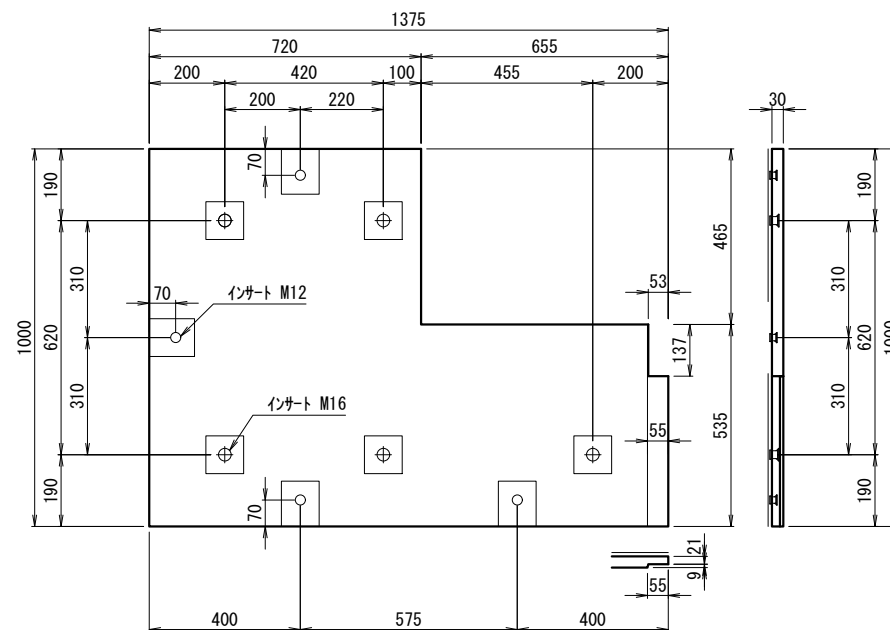
工事名	南摩ダム本体建設工事		
名称	選択取水塔工 取水設備PCI型枠詳細図(9)		
登録番号	19-16-05	整理番号	05-15-030
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所			

PICフォーム製品図(10)

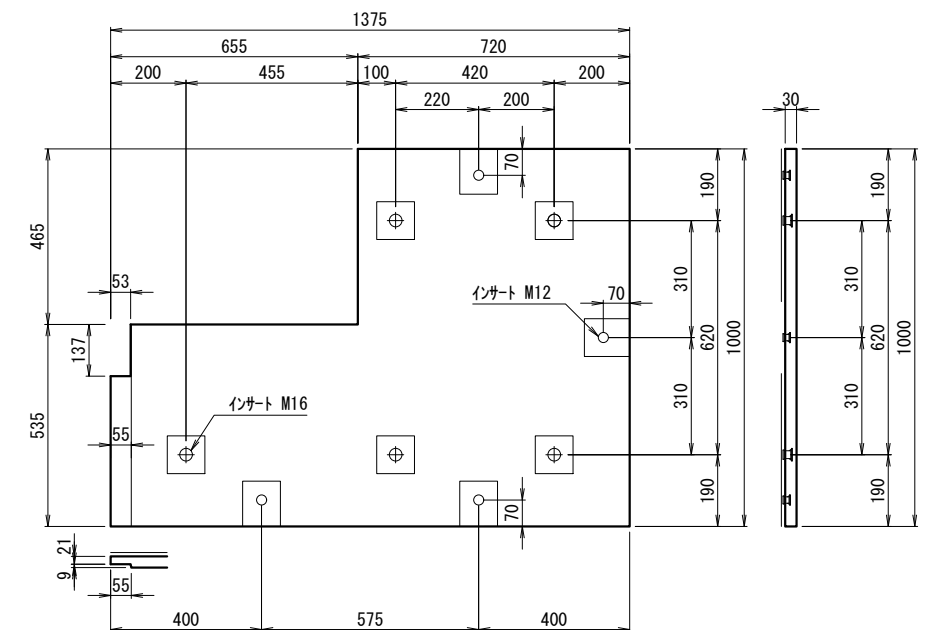
Tタイプ S=1/20



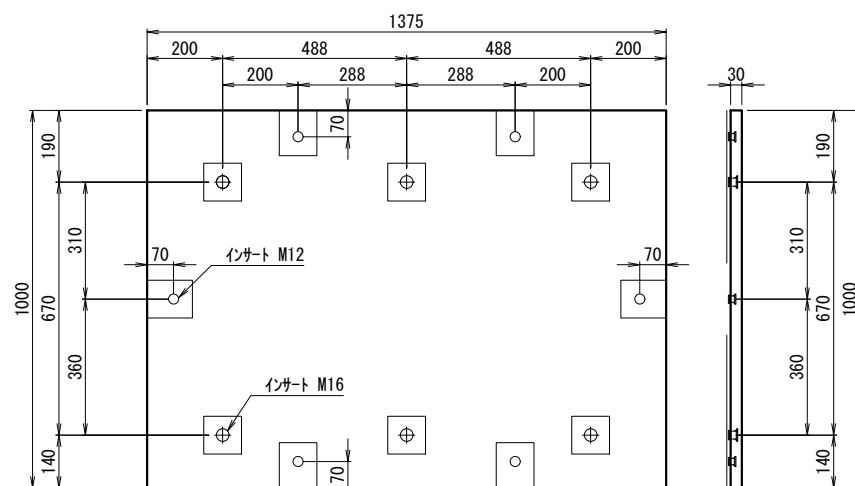
Tk1Lタイプ S=1/20 (Hk1Lベース)



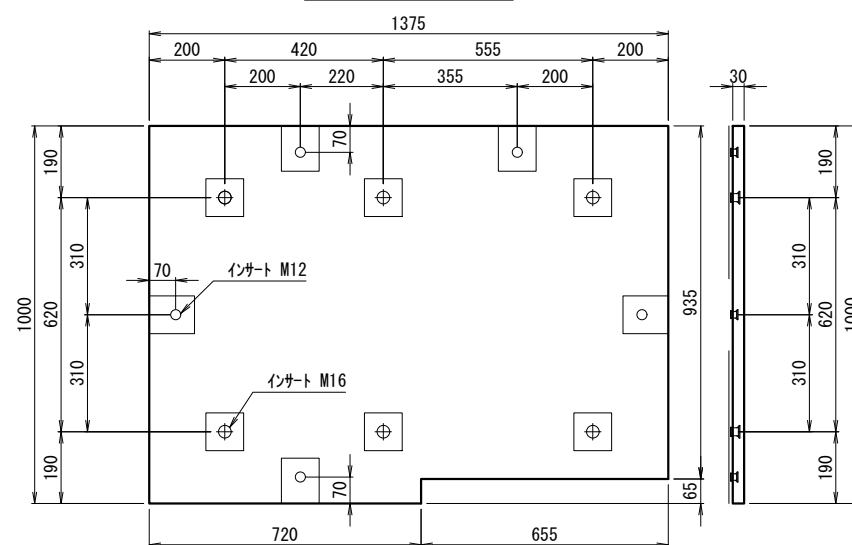
Tk1Rタイプ S=1/20 (Hk1Rベース)



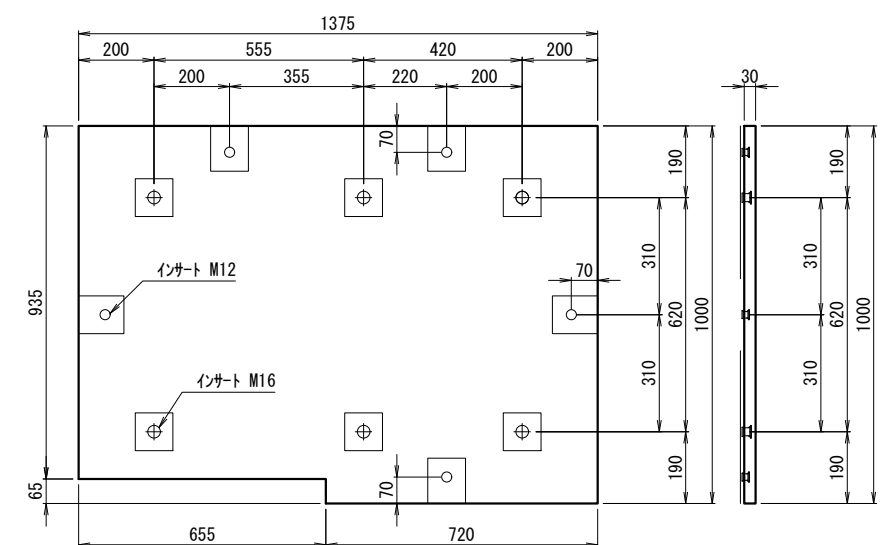
Txタイプ S=1/20



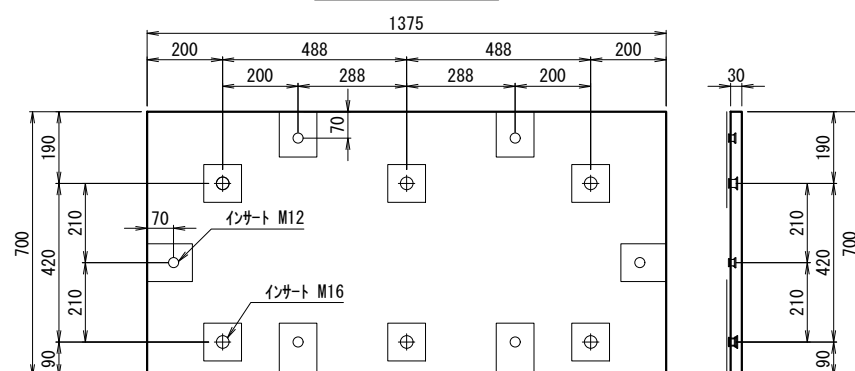
Tk2Lタイプ S=1/20



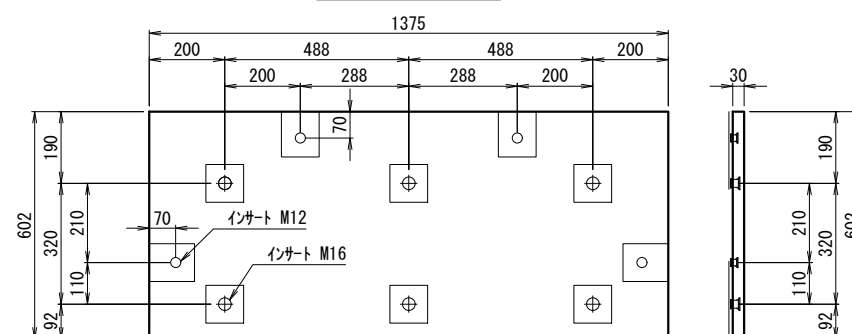
Tk2Rタイプ S=1/20



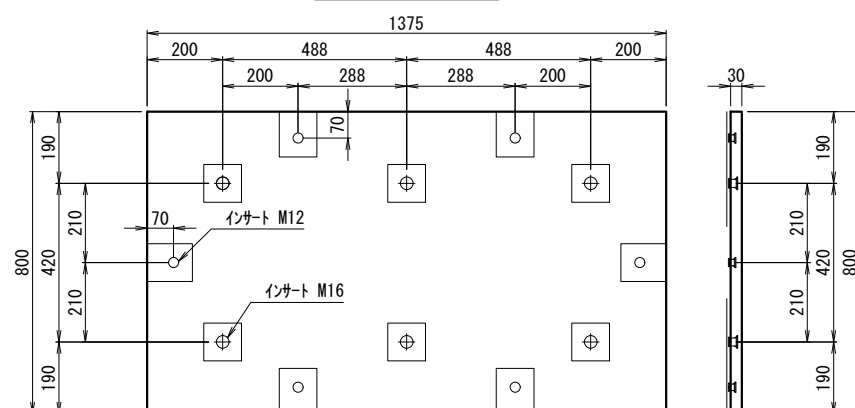
T1タイプ S=1/20



T3タイプ S=1/20



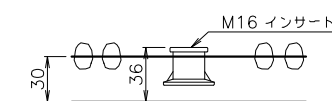
T2タイプ S=1/20



インサート部詳細 S=1/5

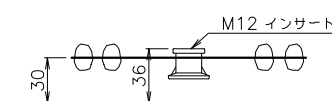
インサート M16

凡例: ⊕



インサート M12

凡例: ○



工事名	南摩ダム本体建設工事		
名称	選択取水塔工 取水設備PIC型枠詳細図(10)		
登録番号	19-16-05	整理番号	05-15-030
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所			

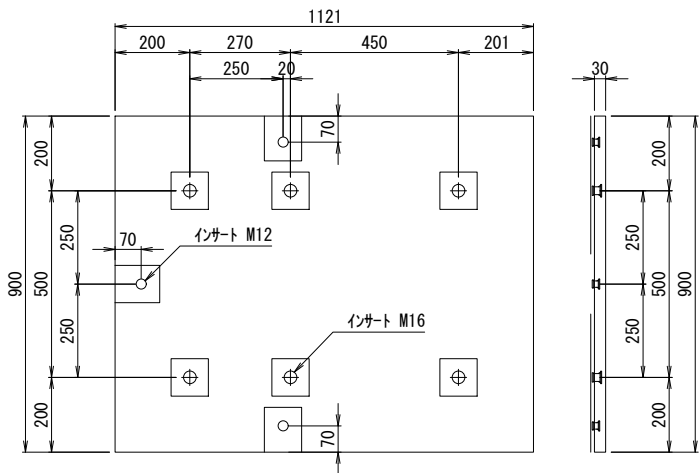
平面図 (EL242.211)

[illegible]

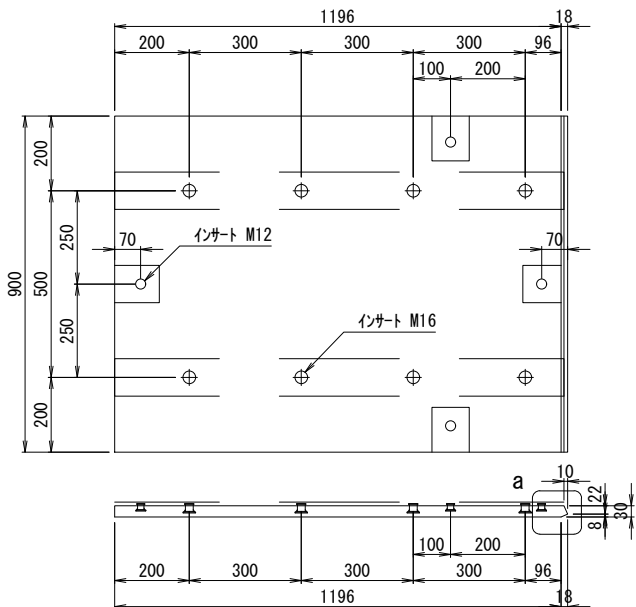
	新規追加	
回	変 更 内 容	
工事名	南摩ダム本体建設工事	
名 称	選択取水塔工 取水設備受台PC配置図	
	S=図示	
登録番号	19-15-05	整理番号 05-15-005
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所		

選択取水塔工
取水設備受台PIC詳細図(1) S=1:10

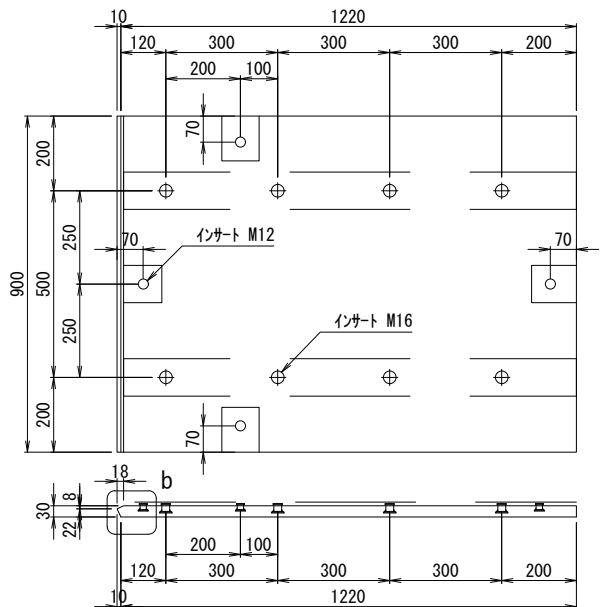
DM1タイプ



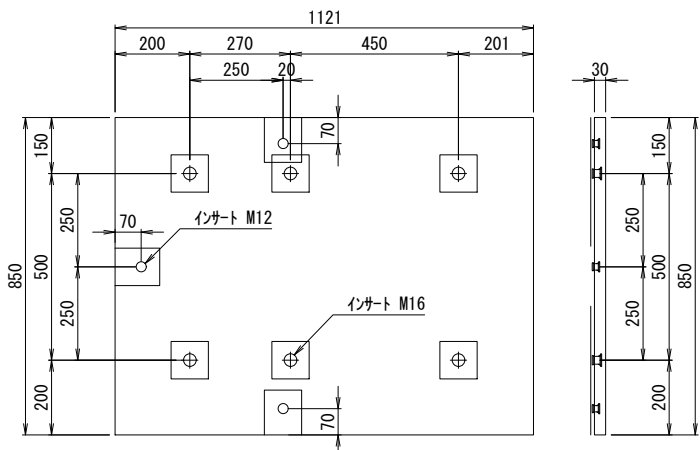
DT1タイプ



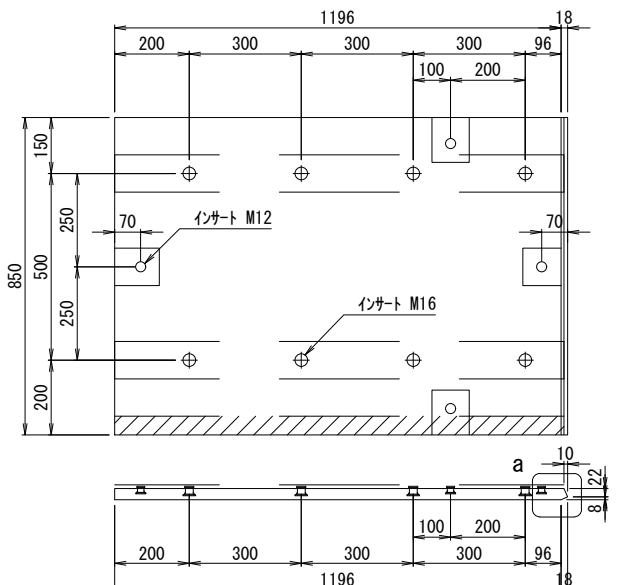
DT3タイプ



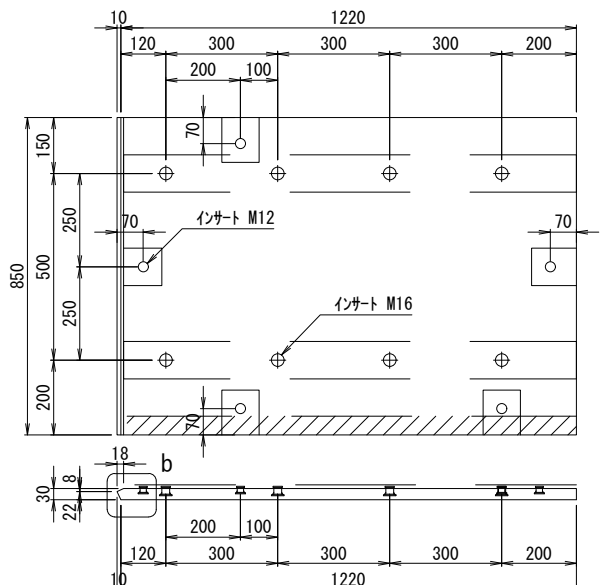
DM2タイプ



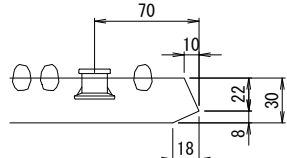
DT2Lタイプ



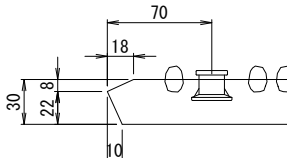
DT4Lタイプ



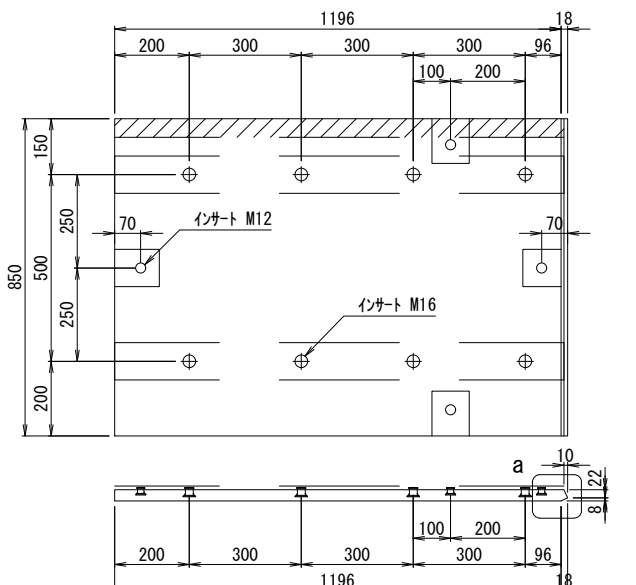
a部詳細 S=1/2.5



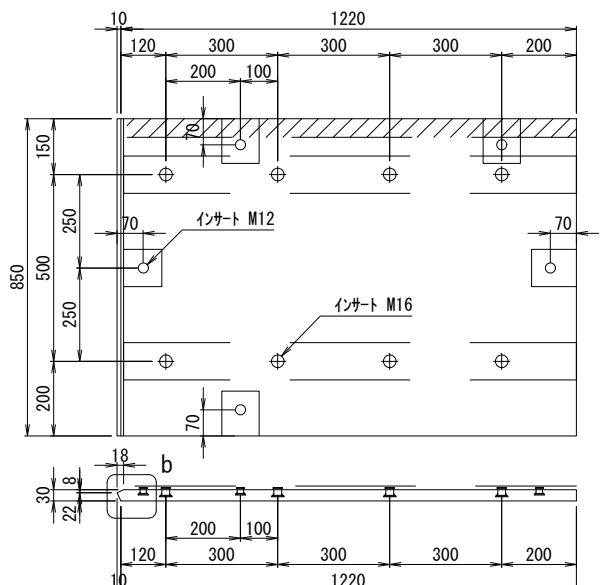
b部詳細 S=1/2.5



DT2Rタイプ



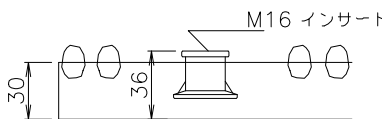
DT4Rタイプ



インサート部詳細 S=1/2

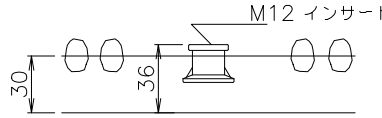
インサート M16

凡例: ⊕



インサート M12

凡例: ○

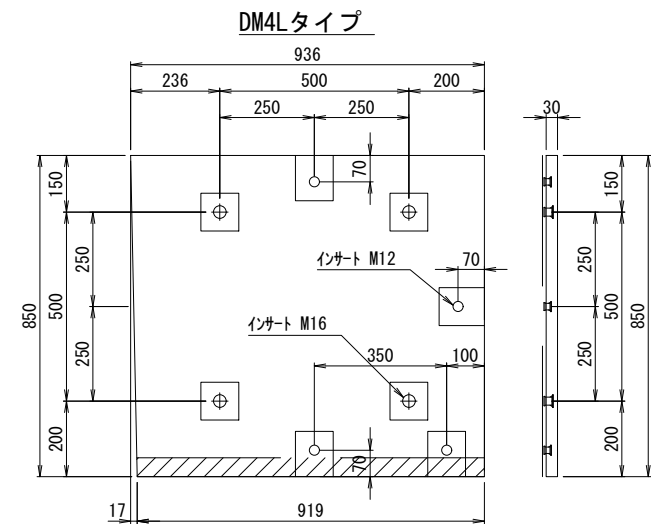
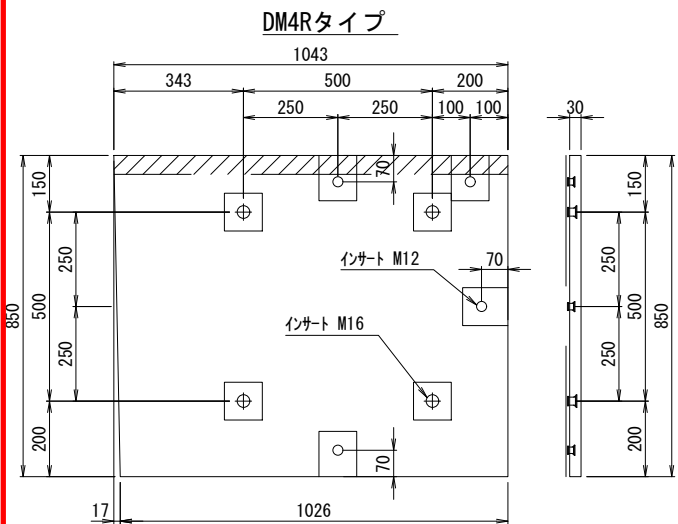
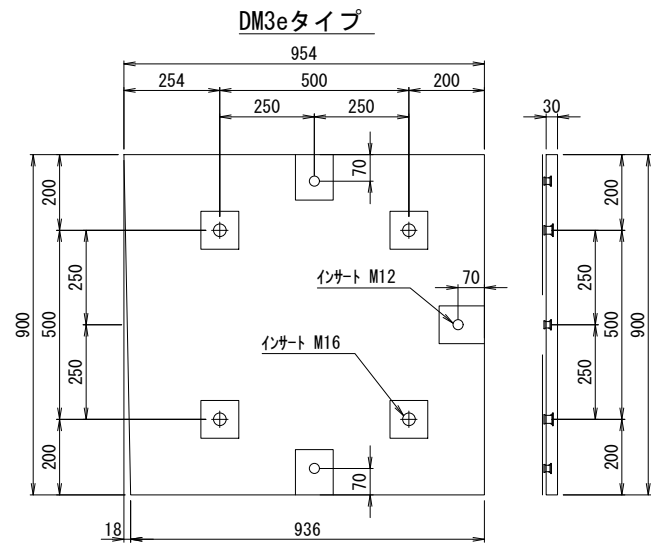
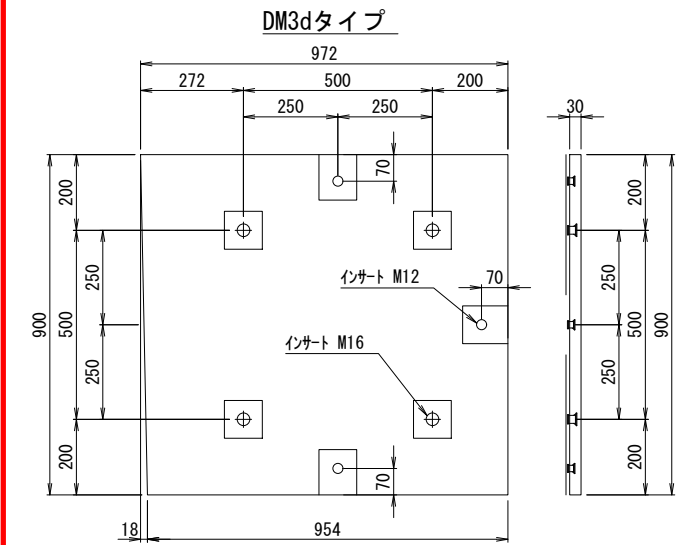
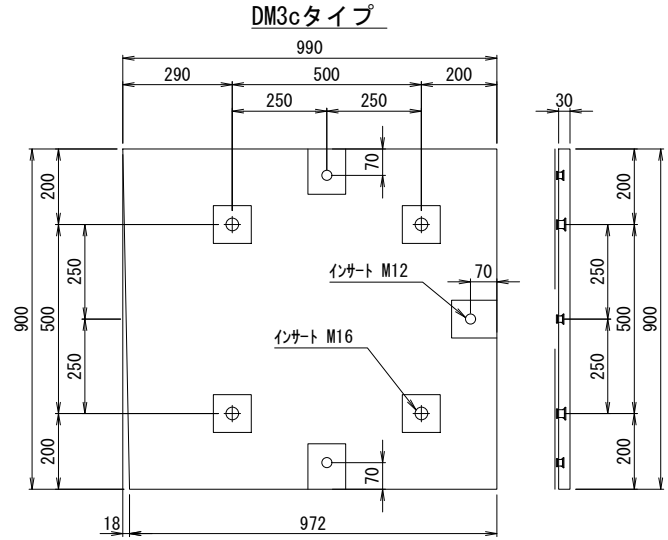
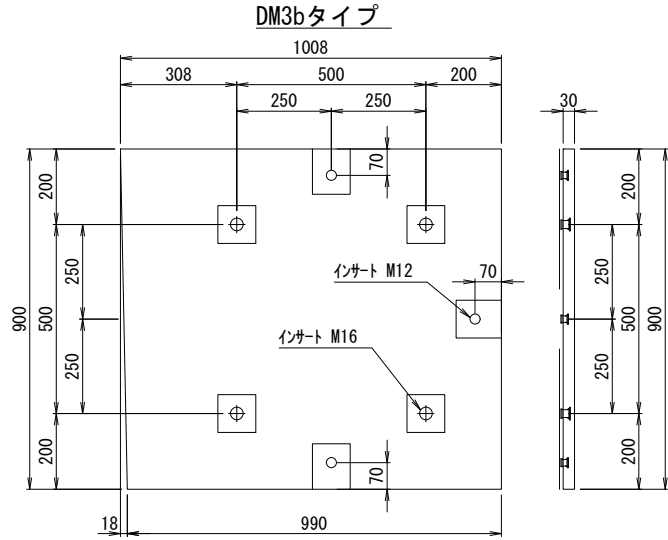
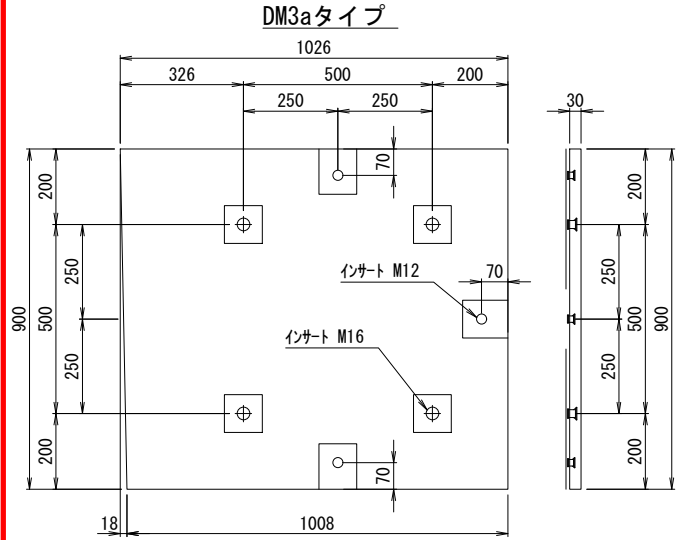


(参考図)

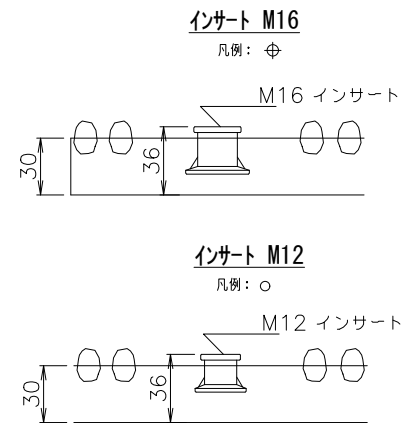
5	新規追加
回	変更内容
工事名	南摩ダム本体建設工事
名称	選択取水塔工 取水設備受台PIC詳細図(1)
登録番号	19-16-05
整理番号	参5-12-072
S=図示	
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所	

選択取水塔工
取水設備受台PIC詳細図(2)

S=1:10



インサート部詳細 S=1/2

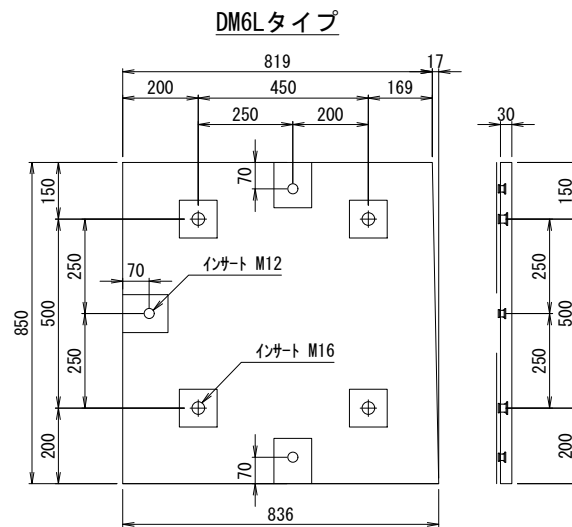
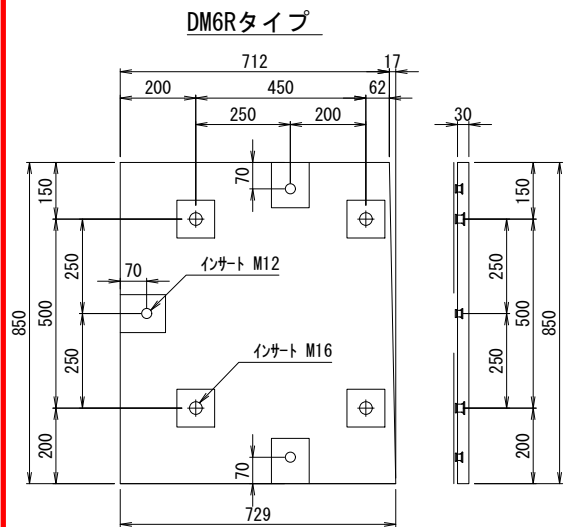
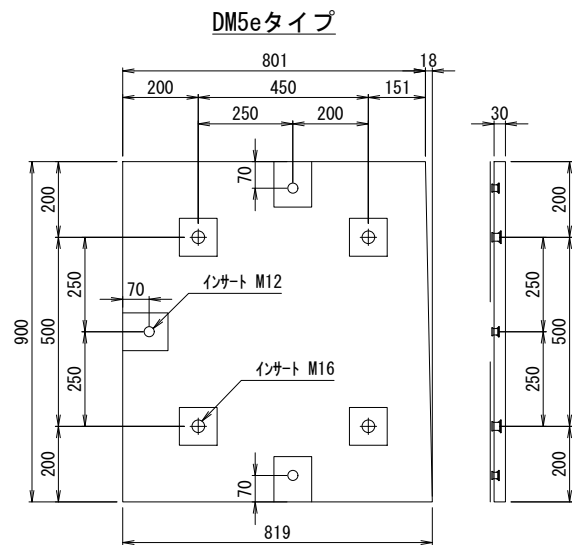
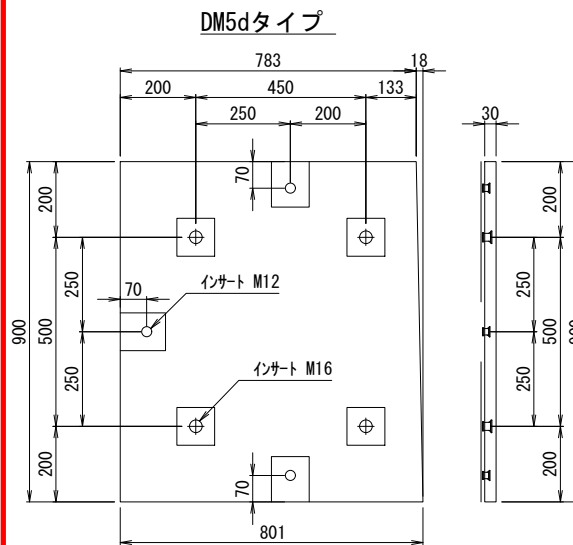
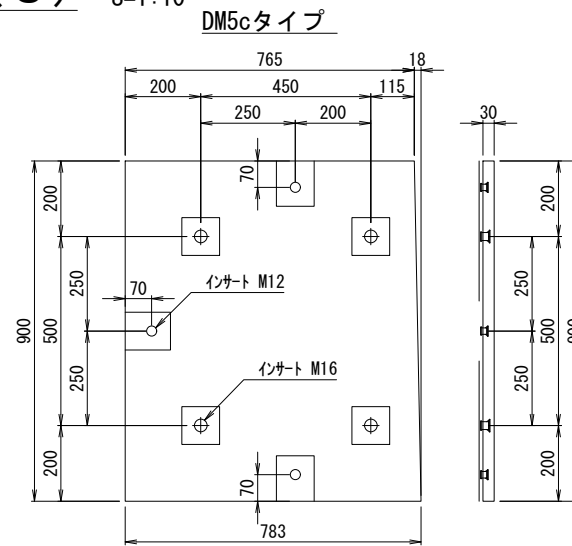
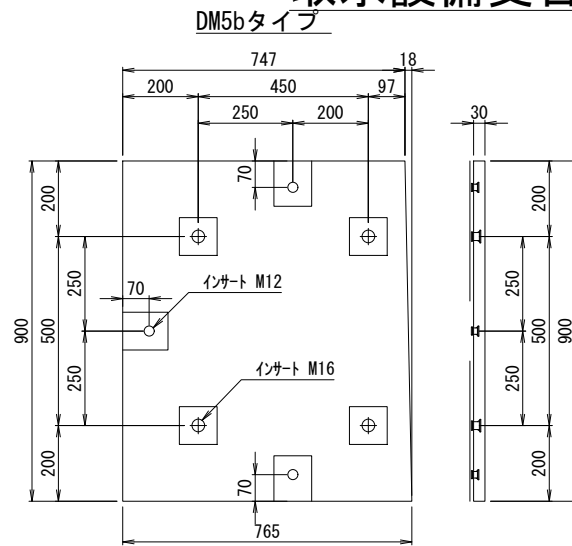
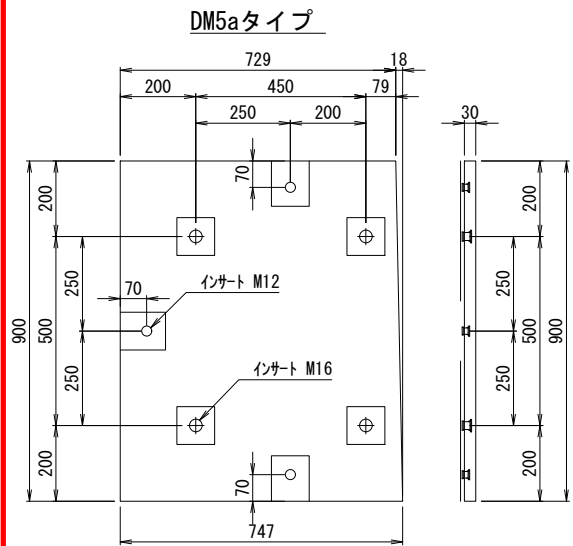


(参考図)

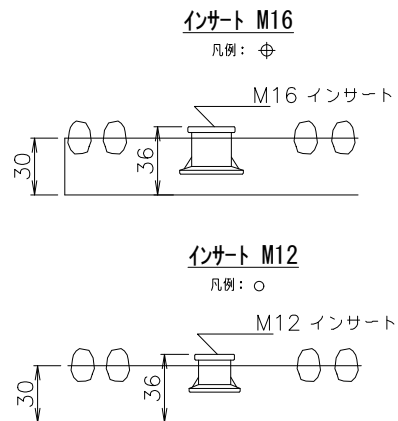
5	新規追加
回	変更内容
工事名	南摩ダム本体建設工事
名称	選択取水塔工 取水設備受台PIC詳細図(2)
登録番号	19-16-05
整理番号	参5-12-073
S=図示	
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所	

選択取水塔工
取水設備受台PIC詳細図(3)

S=1:10



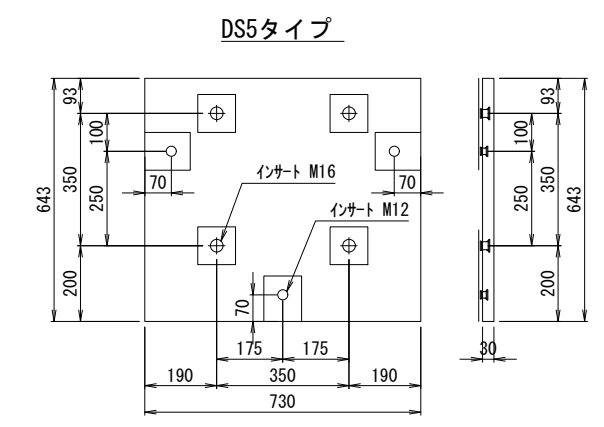
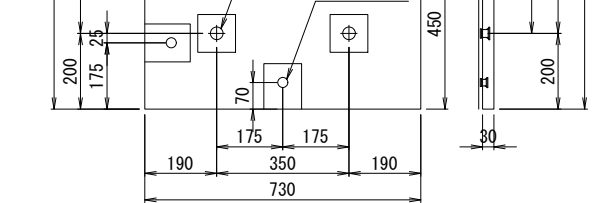
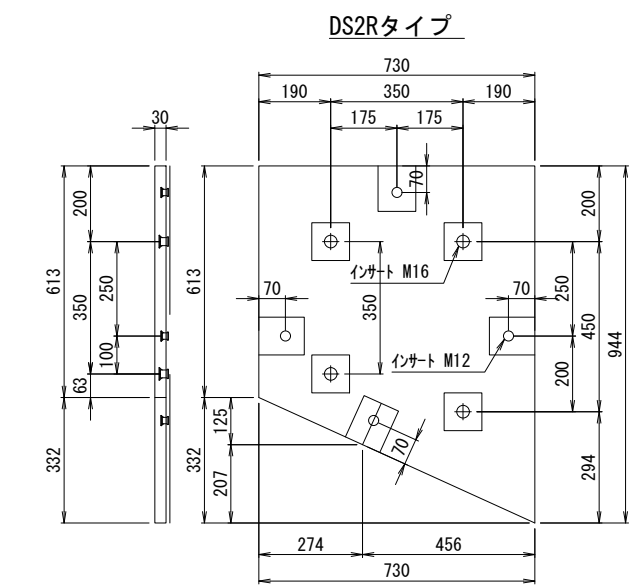
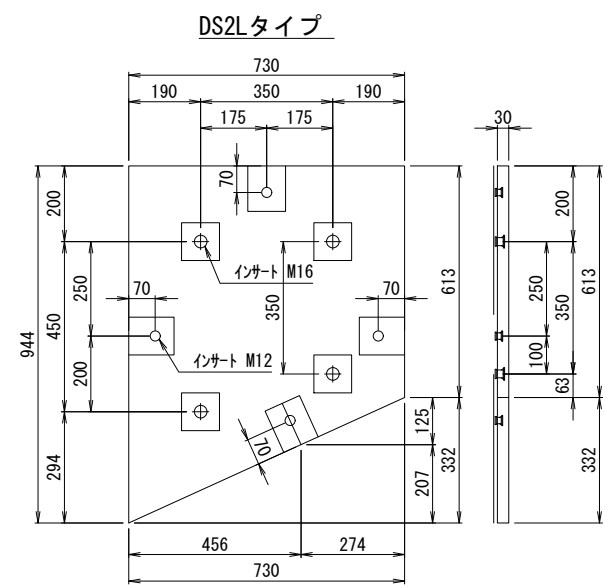
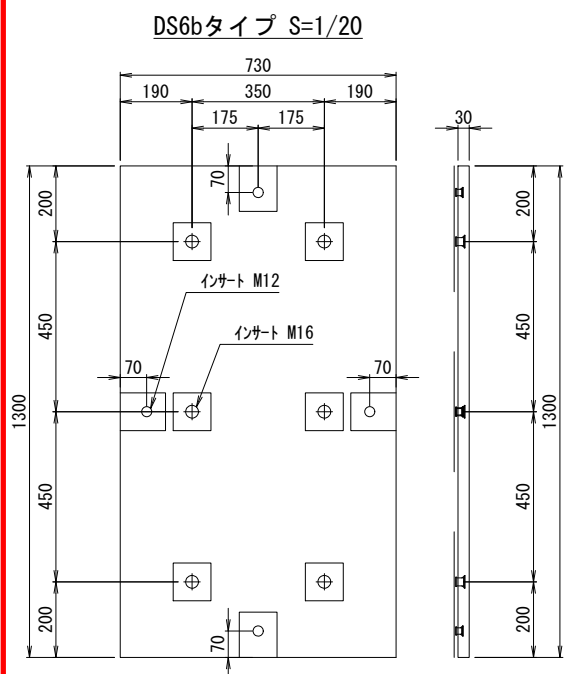
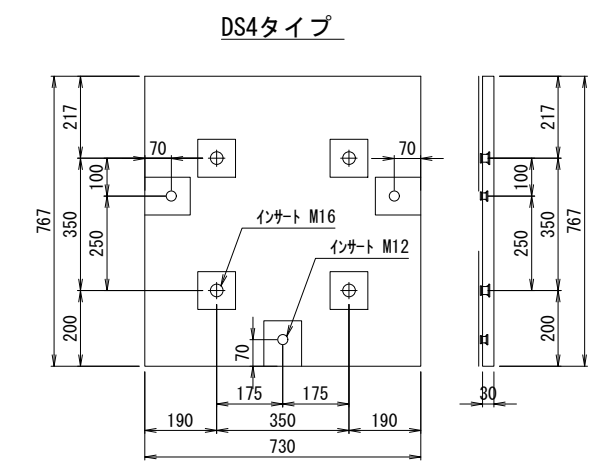
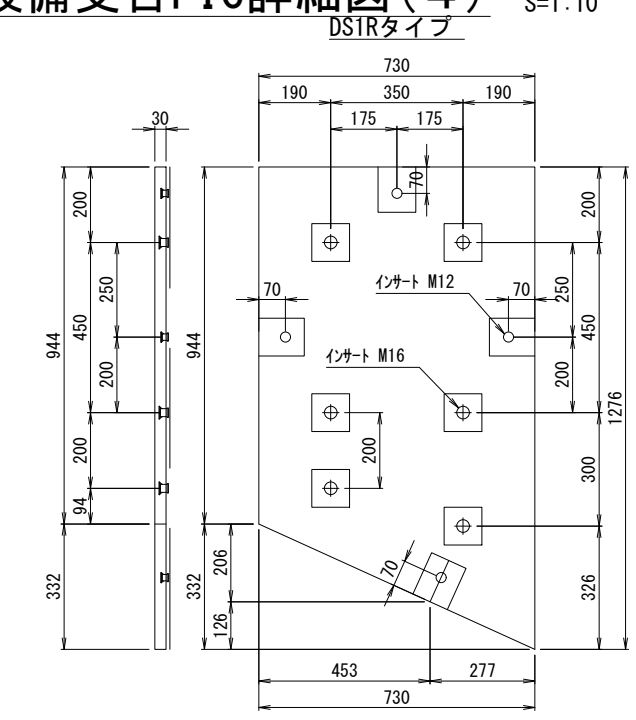
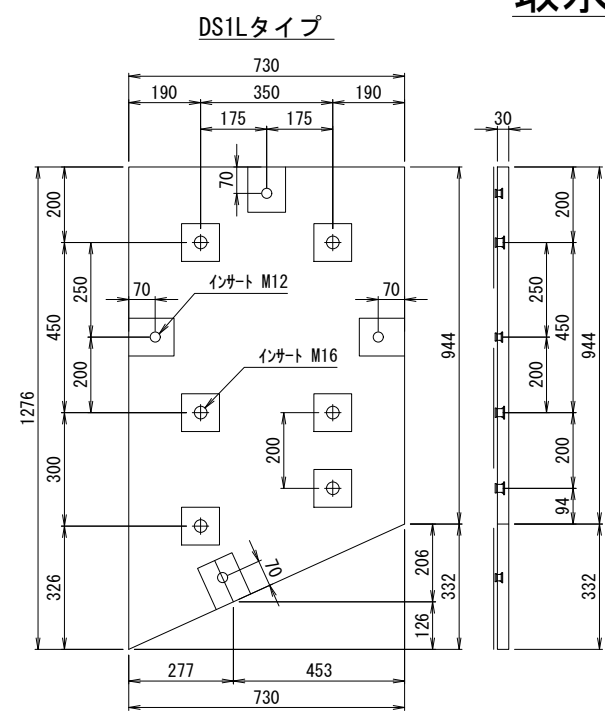
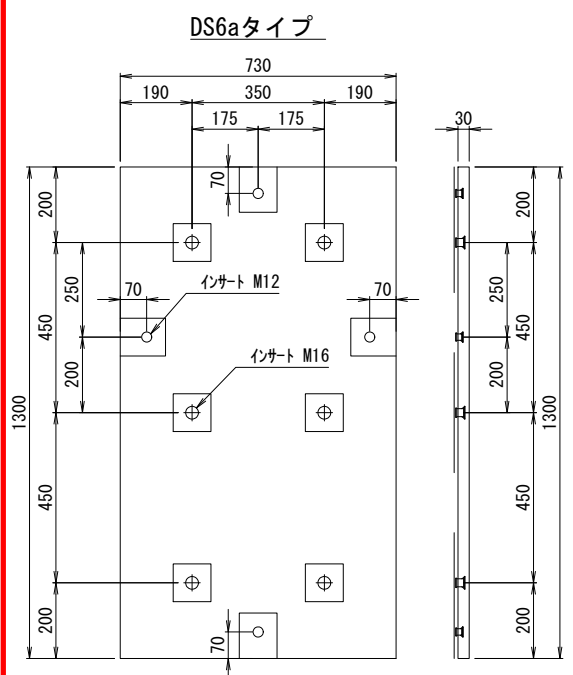
インサート部詳細 S=1/2



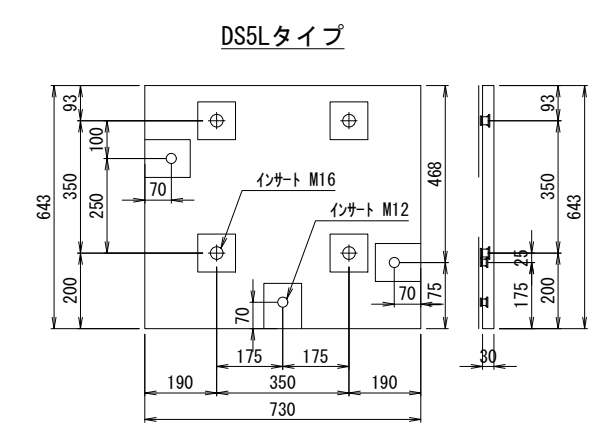
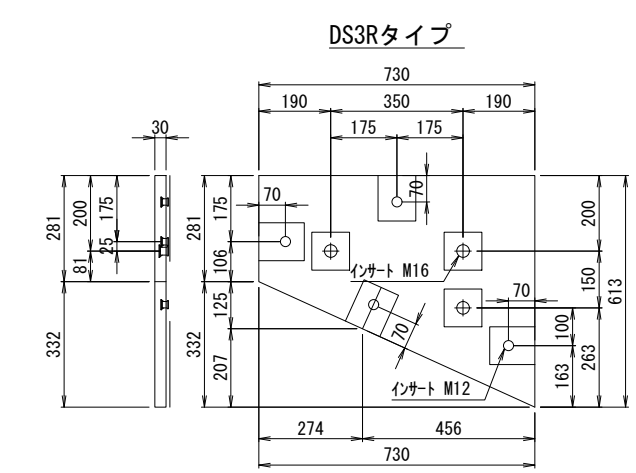
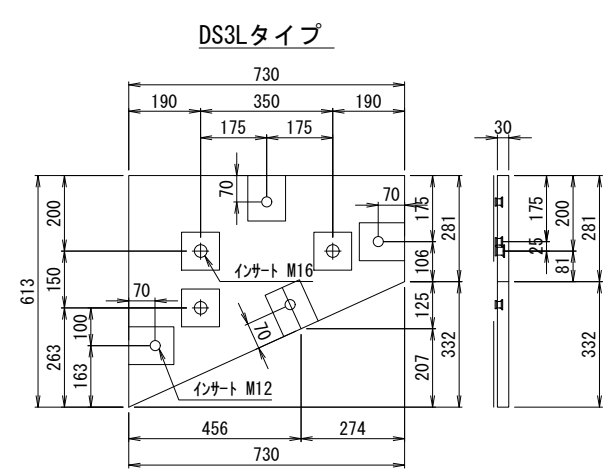
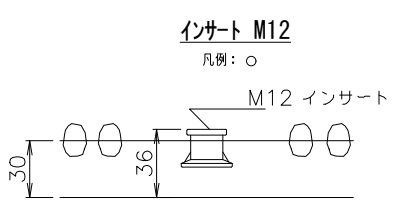
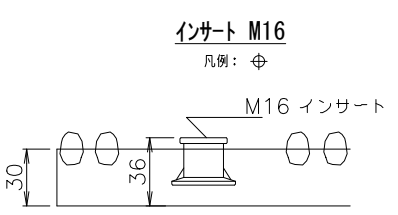
(参考図)

5	新規追加	
回	変更内容	
工事名	南摩ダム本体建設工事	
名称	選択取水塔工 取水設備受台PIC詳細図(3) S=図示	
登録番号	19-16-05	整理番号 参5-12-074
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所		

選択取水塔工
取水設備受台PIC詳細図(4) S=1:10



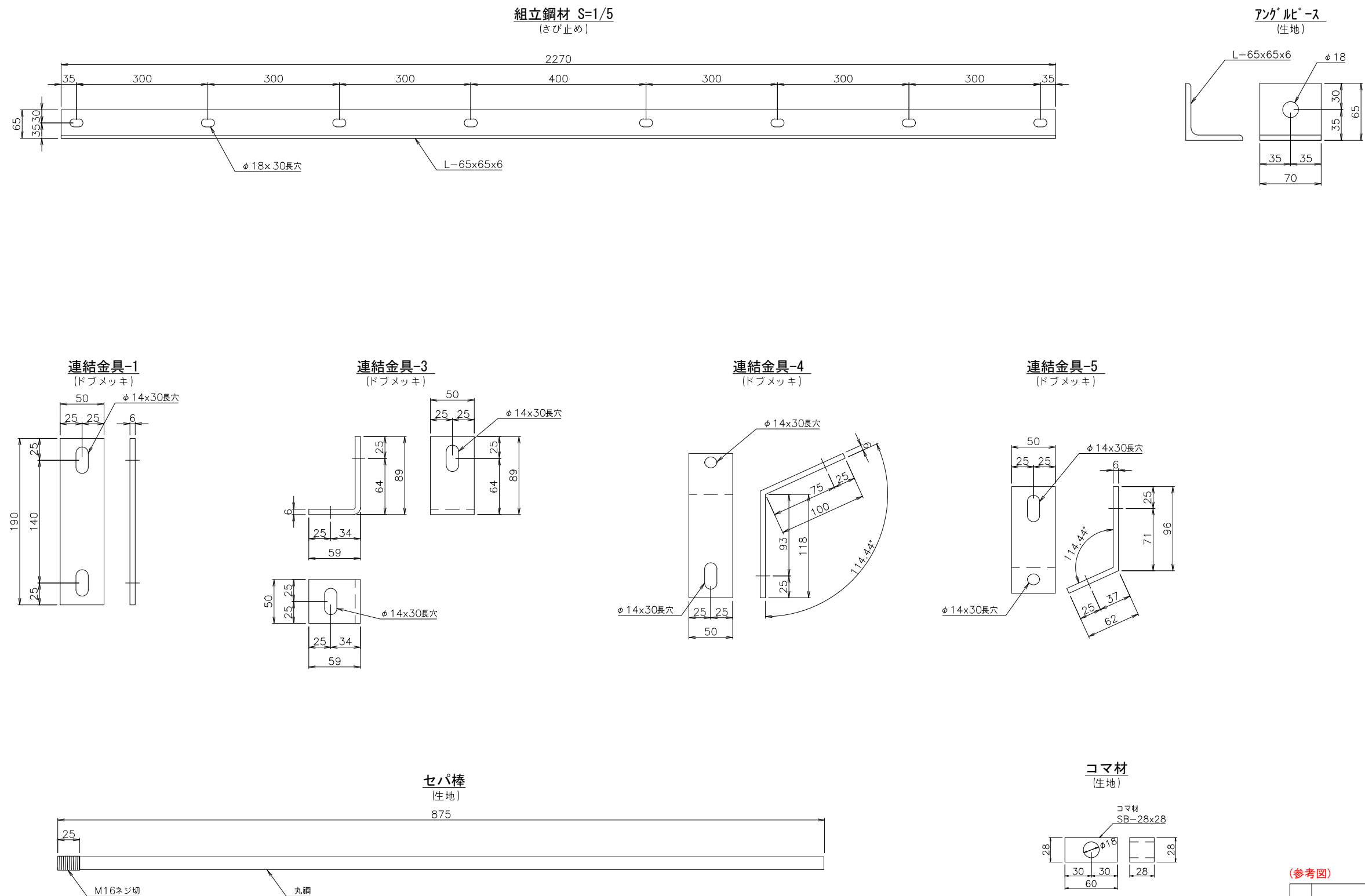
インサート部詳細 S=1/2



(参考図)

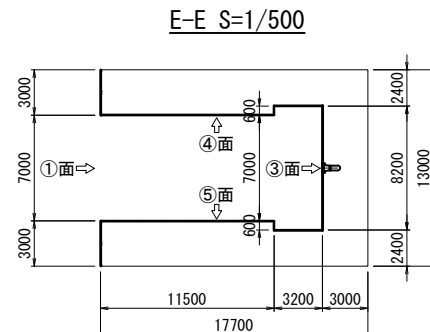
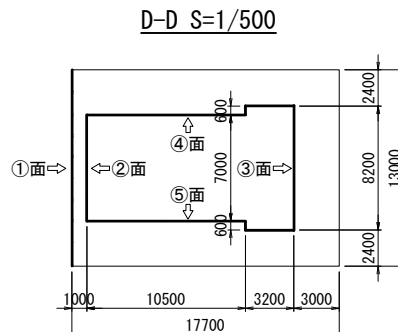
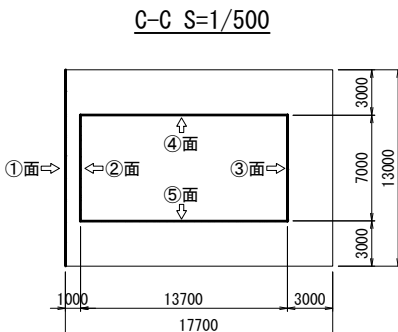
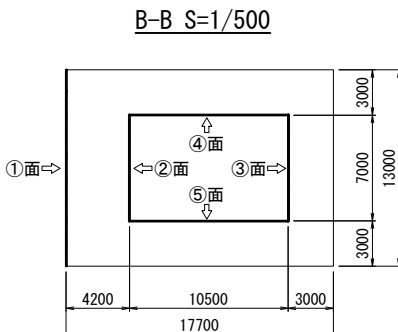
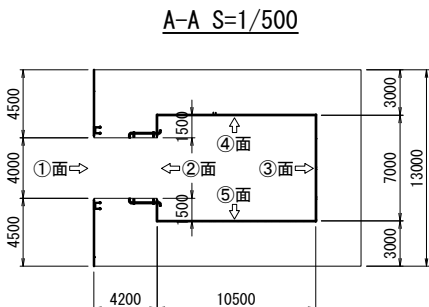
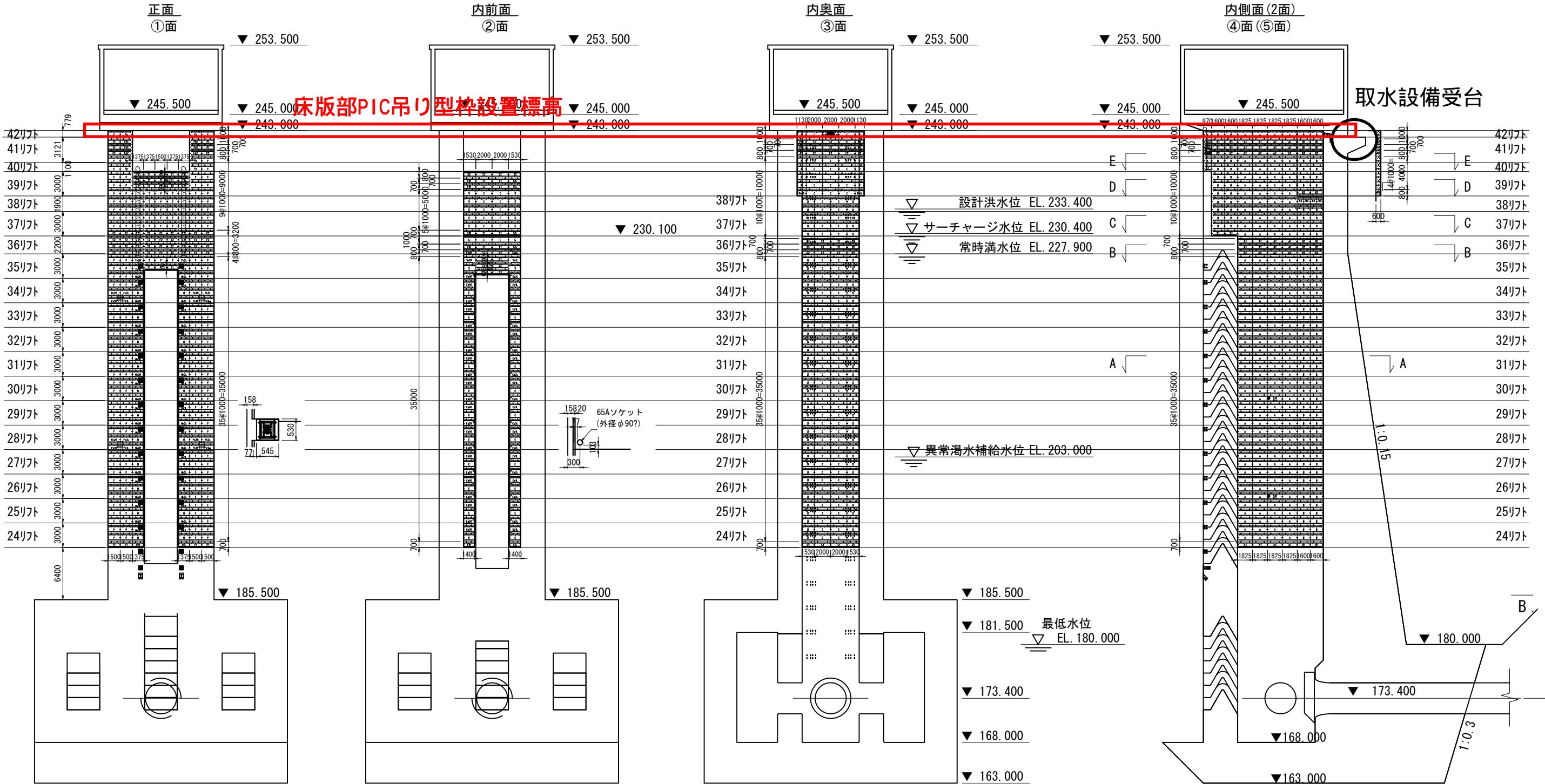
新規追加	
回	変更内容
工事名 南摩ダム本体建設工事	
名称 選択取水塔工 取水設備受台PIC詳細図(4)	
S=図示	
登録番号 19-16-05	整理番号 参5-12-075
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所	

選択取水塔工
取水設備受台PIC詳細図(5) S=1:2.5



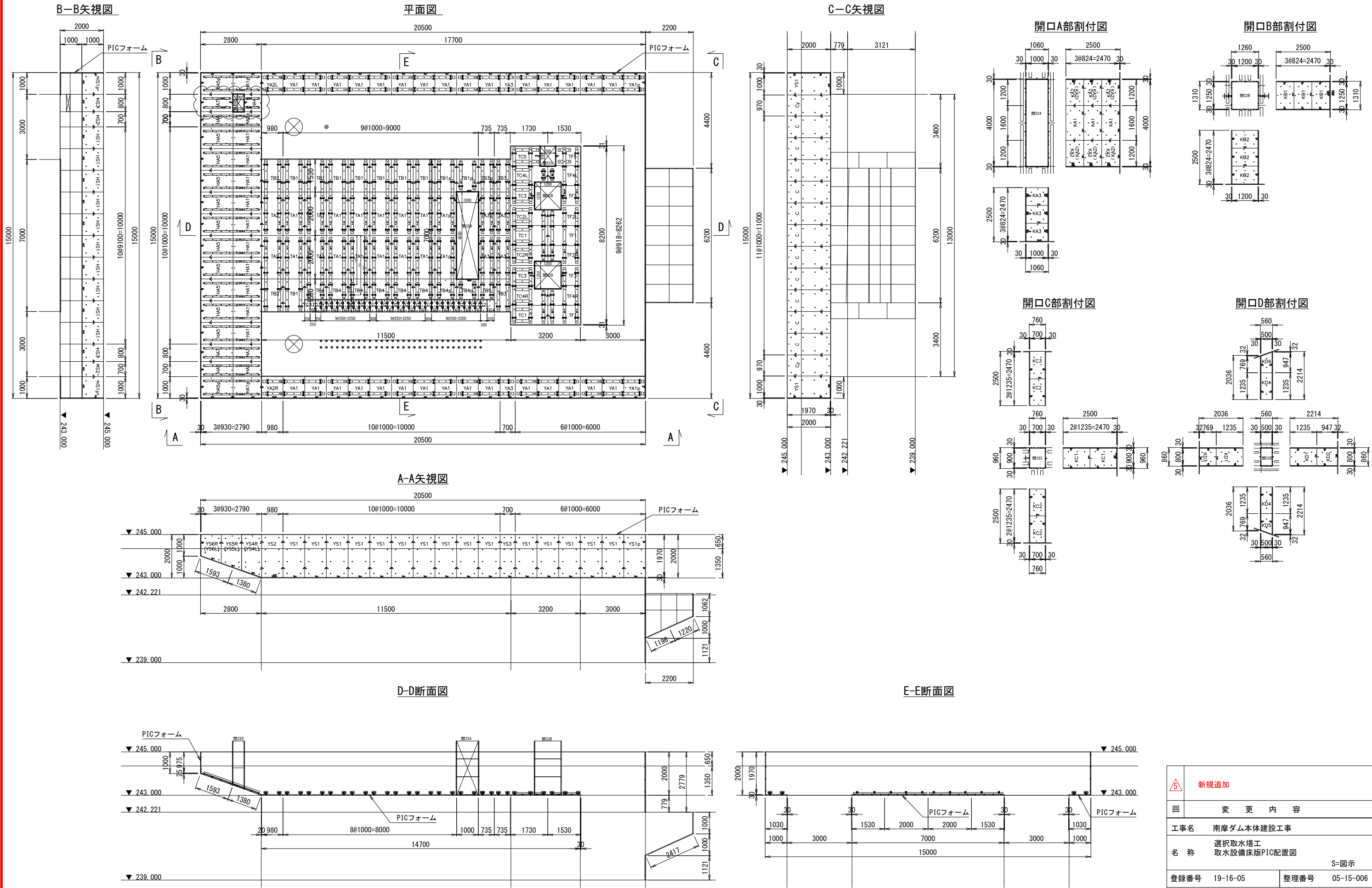
(参考図)	
△5	新規追加
回	変更内容
工事名	南摩ダム本体建設工事
名称	選択取水塔工 取水設備受台PIC詳細図(5) S=図示
登録番号	19-16-05
整理番号	参5-12-076
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所	

選択取水塔工
取水設備PIC配置図 S=1/250



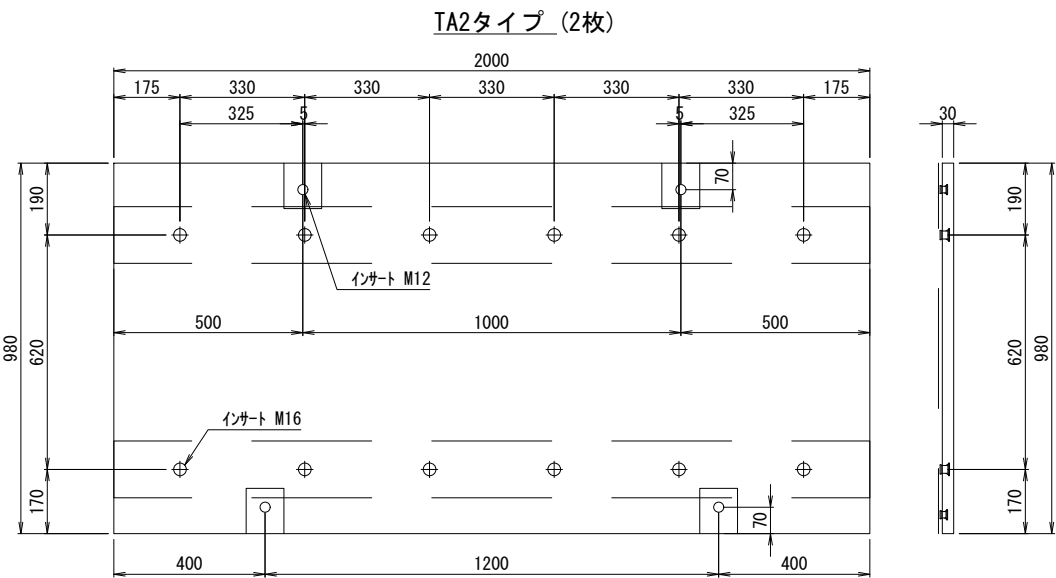
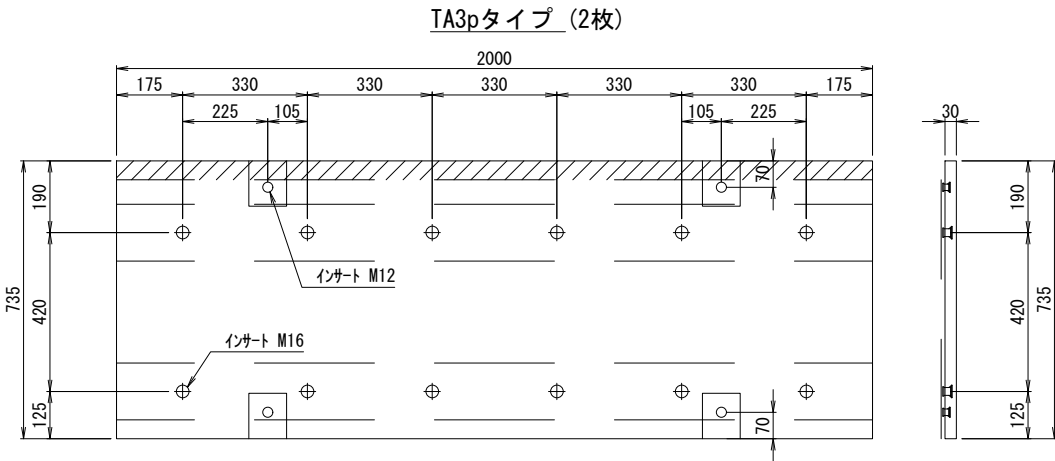
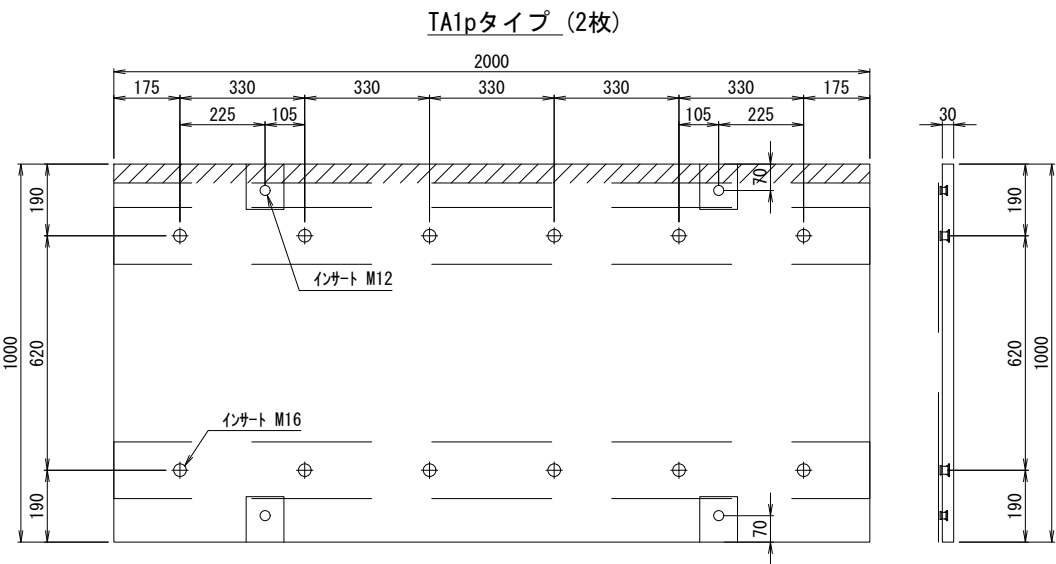
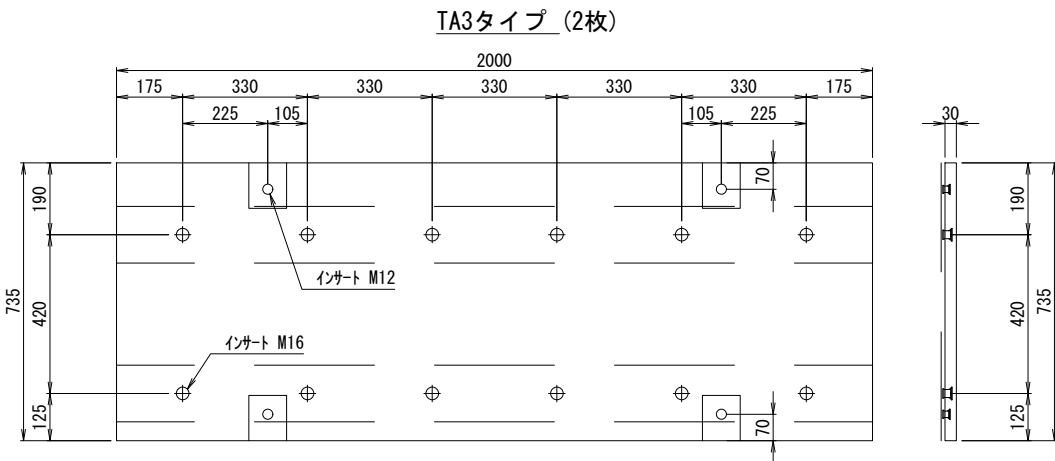
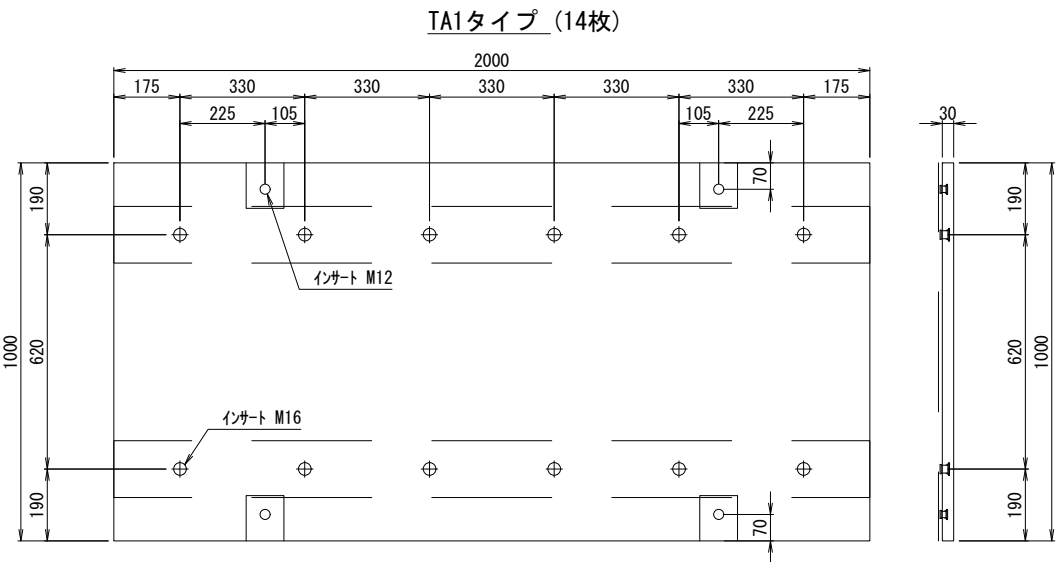
工事名	南摩ダム本体建設工事		
名 称	選択取水塔工 取水設備PCI型枠一般図		
登録番号	19-16-05	整理番号	05-15-030
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所			

選択取水塔工
取水設備床版PIC配置図 S=1:80

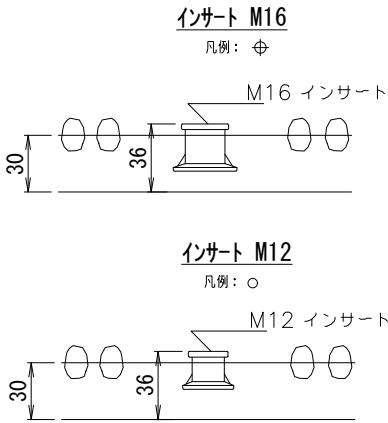


5	新規追加
回	変更内容
工事名	南摩ダム本体建設工事
名称	選択取水塔工 取水設備床版PIC配置図
登録番号	19-16-05
整理番号	05-15-006
S=図示	
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所	

選択取水塔工
取水設備床板PIC詳細図(1)_{S=1:10}



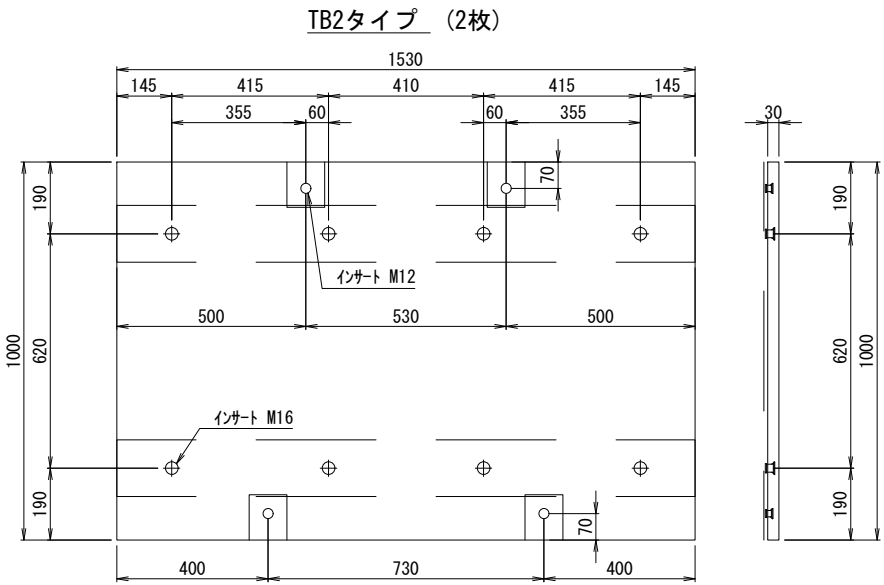
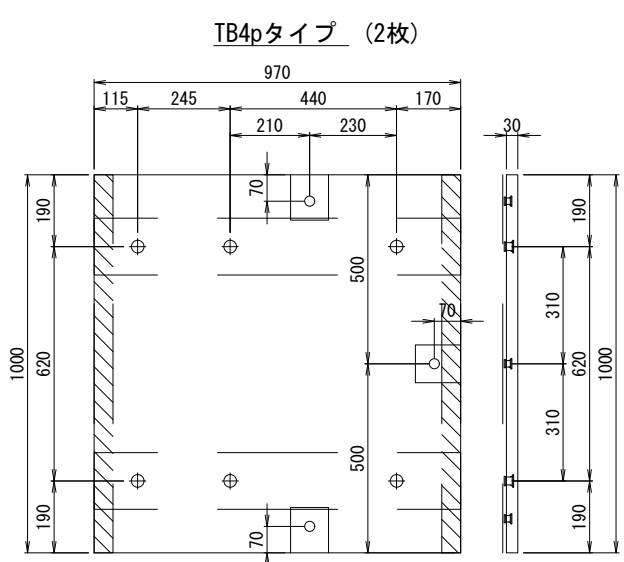
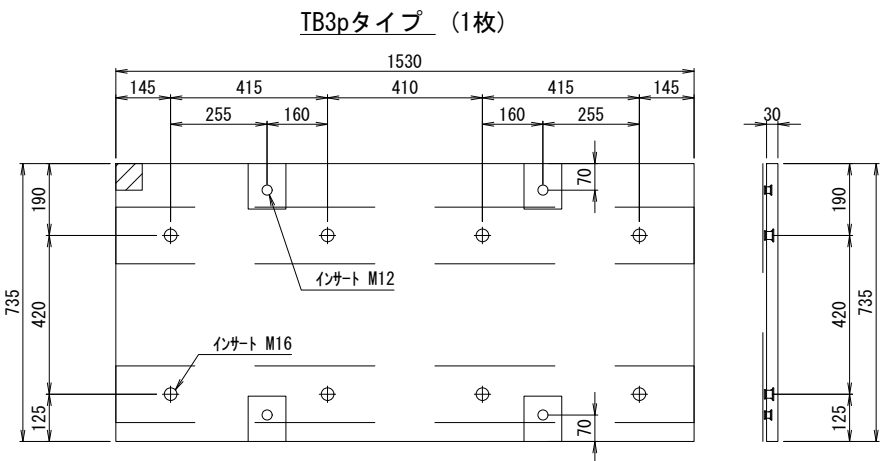
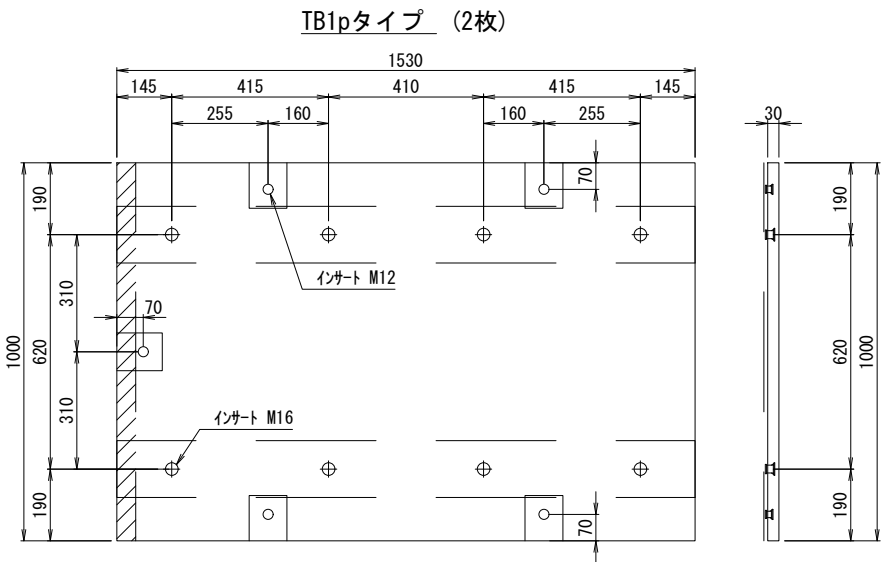
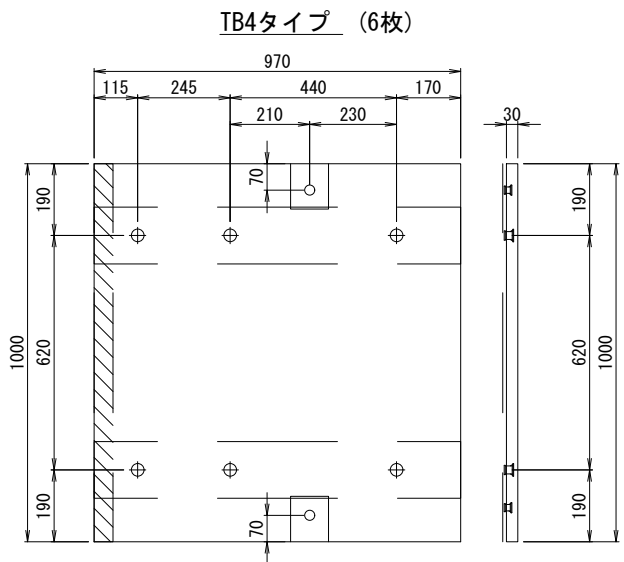
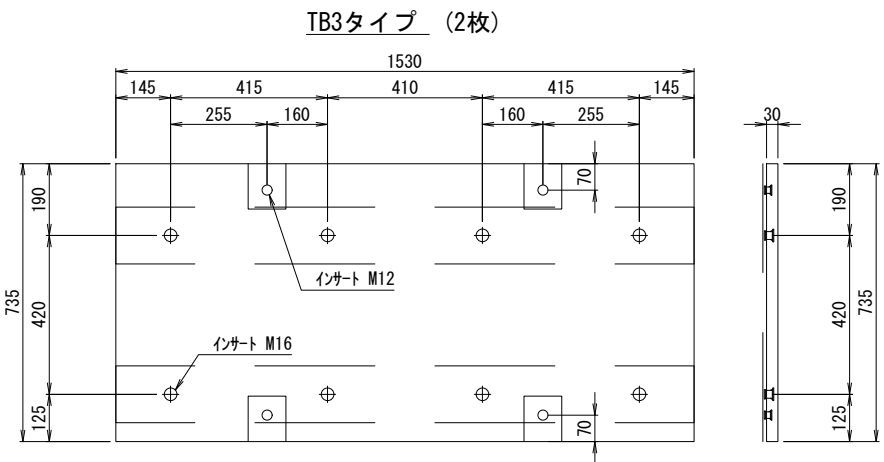
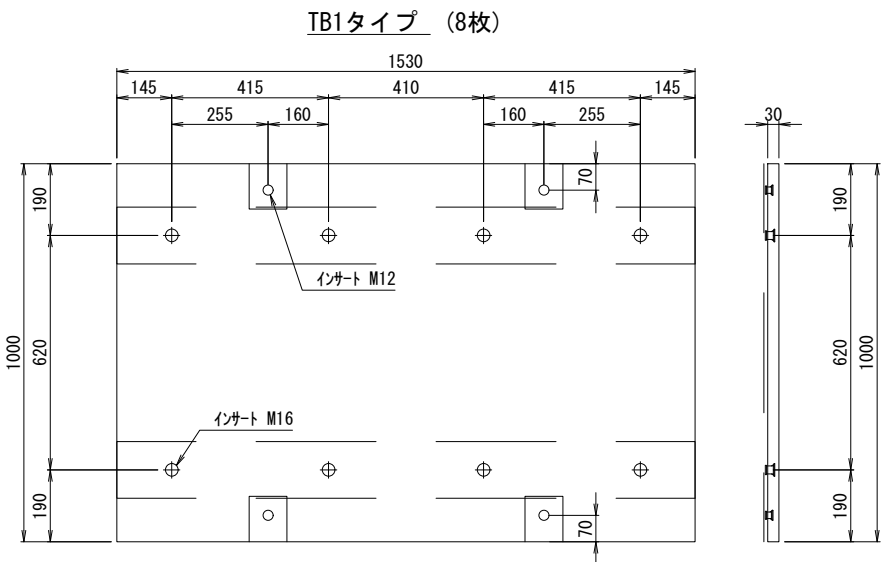
インサート部詳細 S=1/2



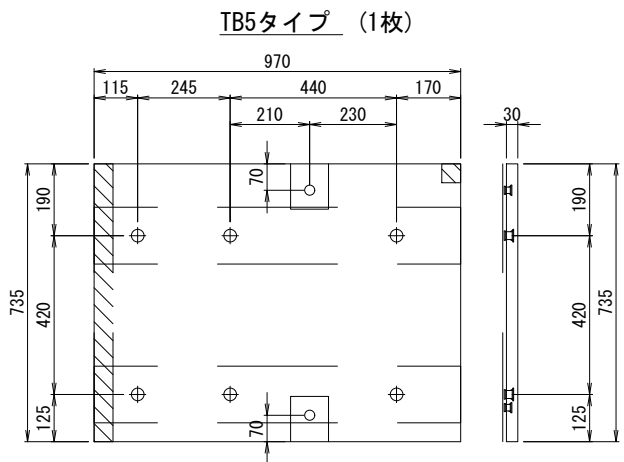
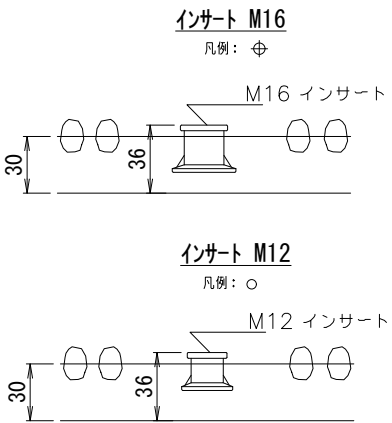
(参考図)

5	新規追加
回	変更内容
工事名	南摩ダム本体建設工事
名称	選択取水塔工 取水設備床板PIC詳細図(1) S=図示
登録番号	19-16-05
整理番号	参5-12-077
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所	

選択取水塔工
取水設備床板PIC詳細図(2)_{S=1:10}



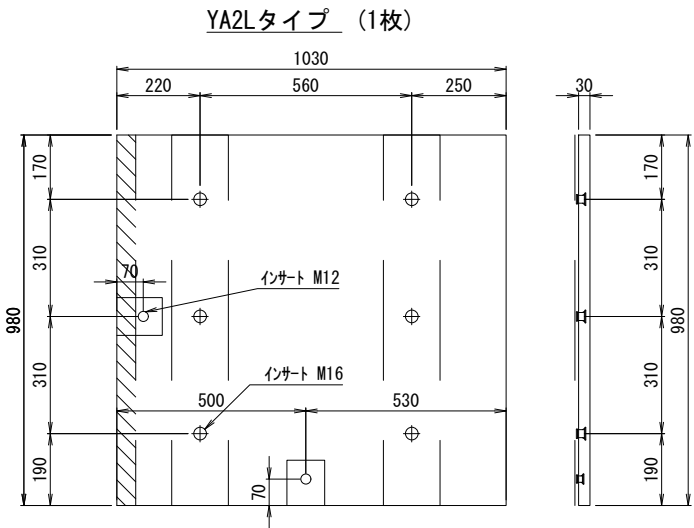
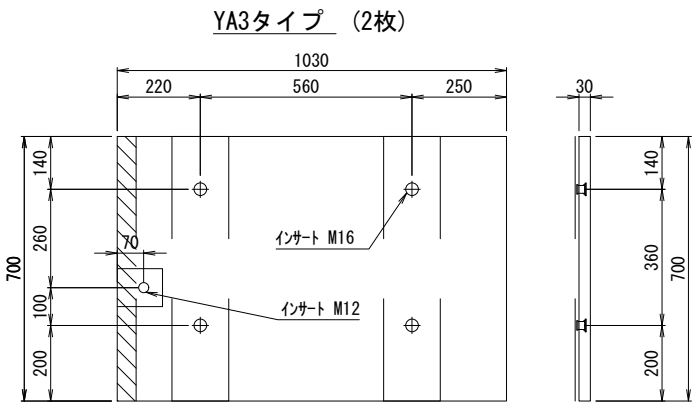
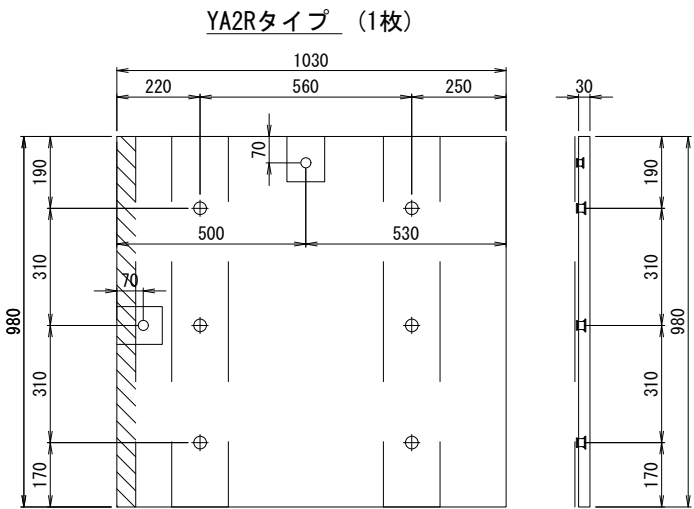
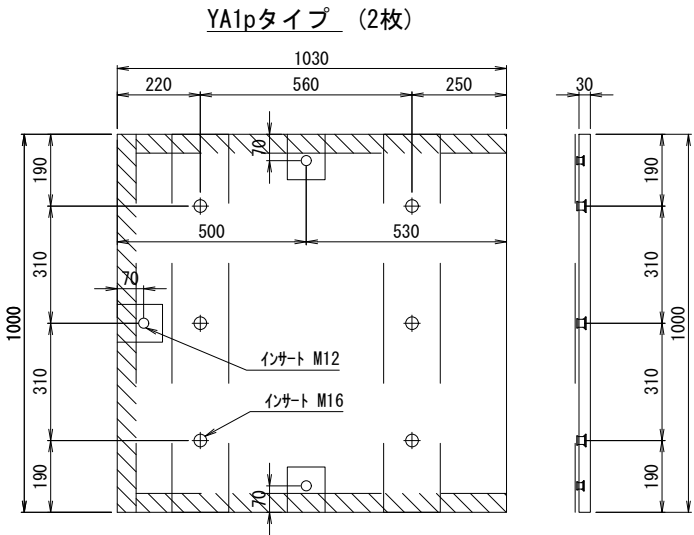
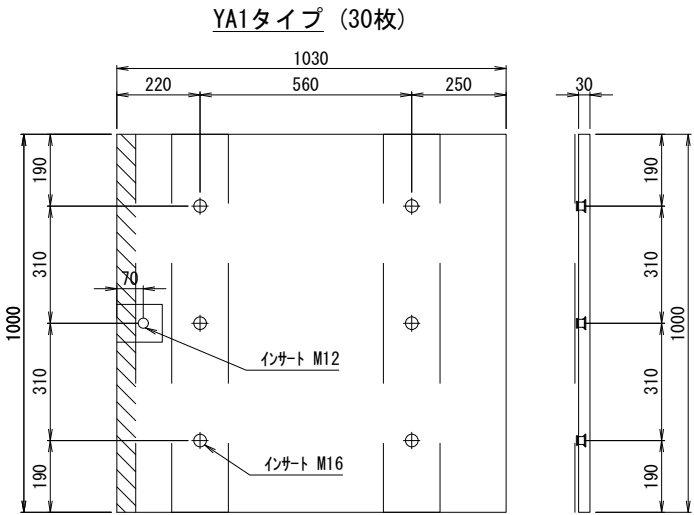
インサート部詳細 S=1/2



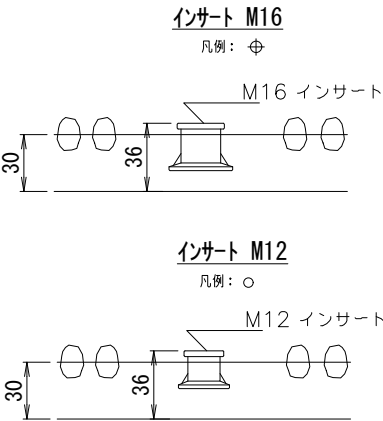
(参考図)

△5	新規追加
回	変更内容
工事名	南摩ダム本体建設工事
名称	選択取水塔工 取水設備床板PIC詳細図(2)
登録番号	19-16-05
整理番号	参5-12-078
S=図示	
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所	

選択取水塔工
取水設備床板PIC詳細図(3)_{S=1:10}



インサート部詳細 S=1/2

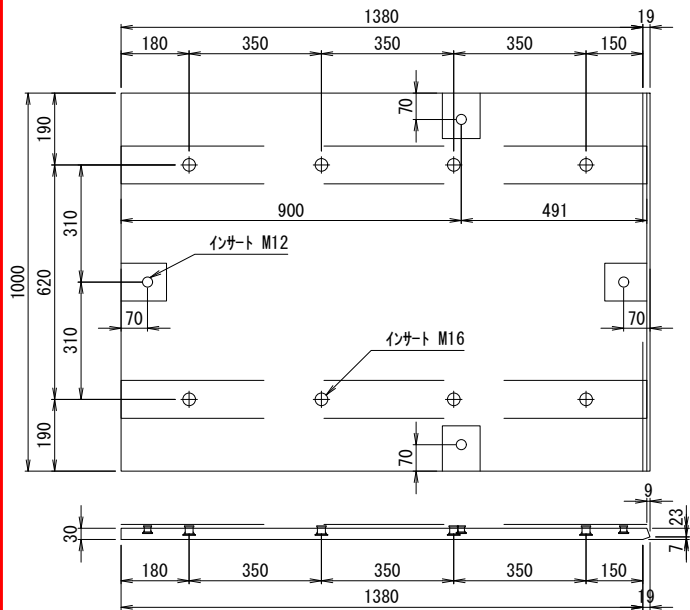


(参考図)

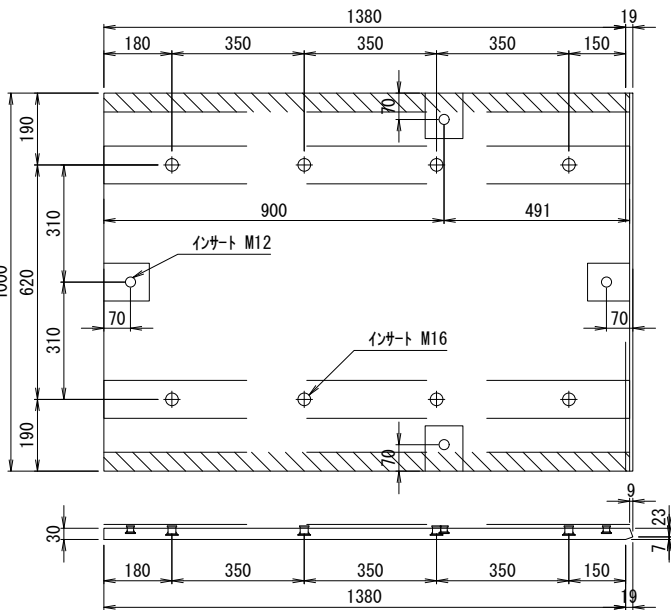
△5	新規追加		
回	変 更 内 容		
工事名	南摩ダム本体建設工事		
名 称	選択取水塔工 取水設備床板PCI詳細図(3) S=図示		
登録番号	19-16-05	整理番号	参5-12-079
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所			

選択取水塔工
取水設備床板PIC詳細図(4)
S=1:10

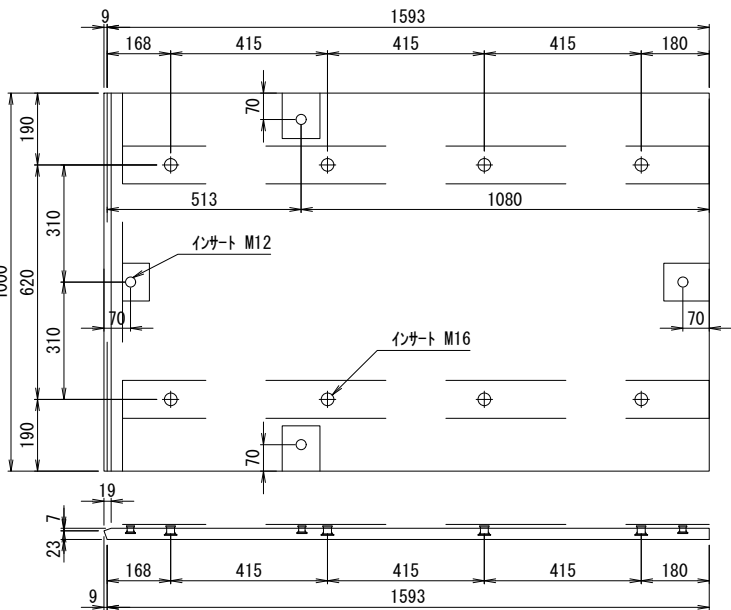
HA1タイプ (10枚)



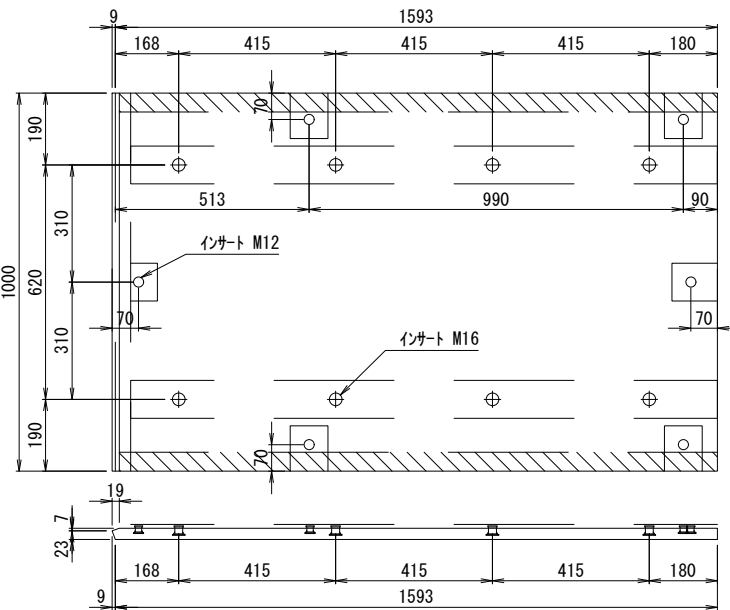
HA1pタイプ (2枚)



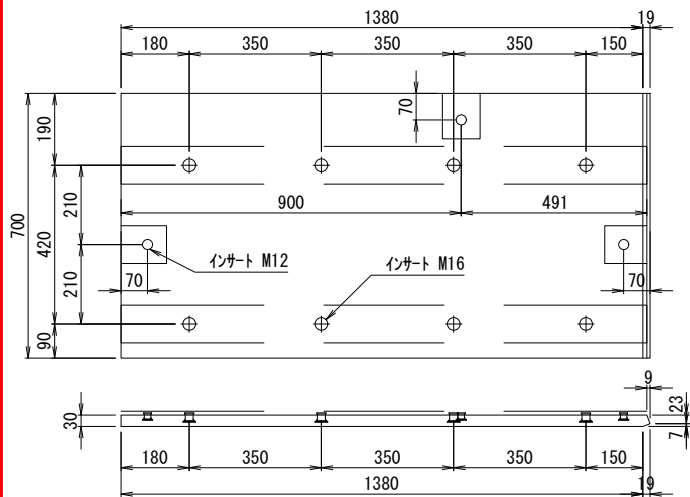
HA5タイプ (10枚)



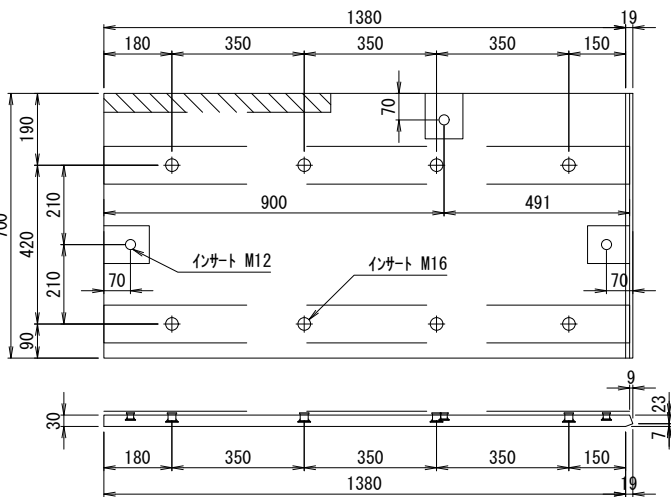
HA5pタイプ (2枚)



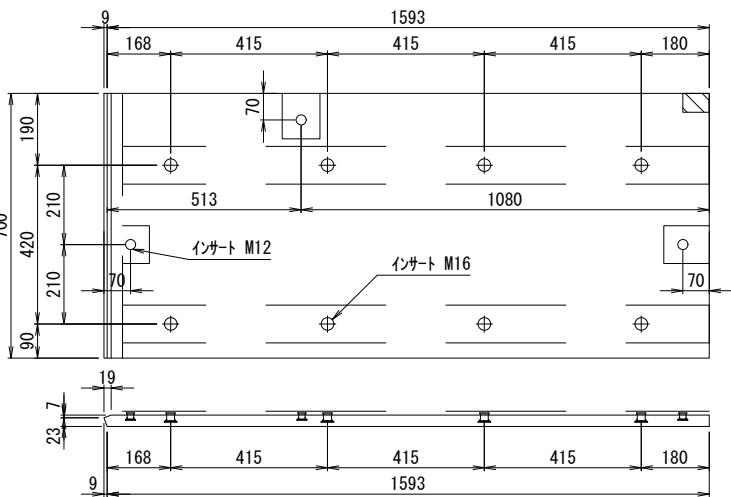
HA2タイプ (1枚)



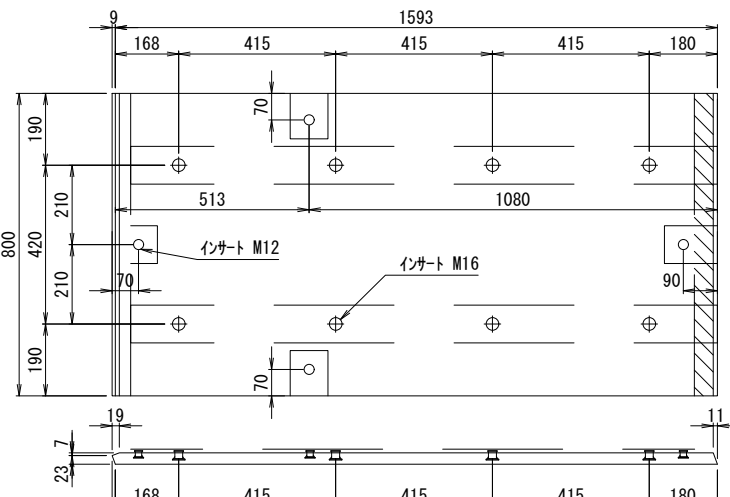
HA2pタイプ (1枚)



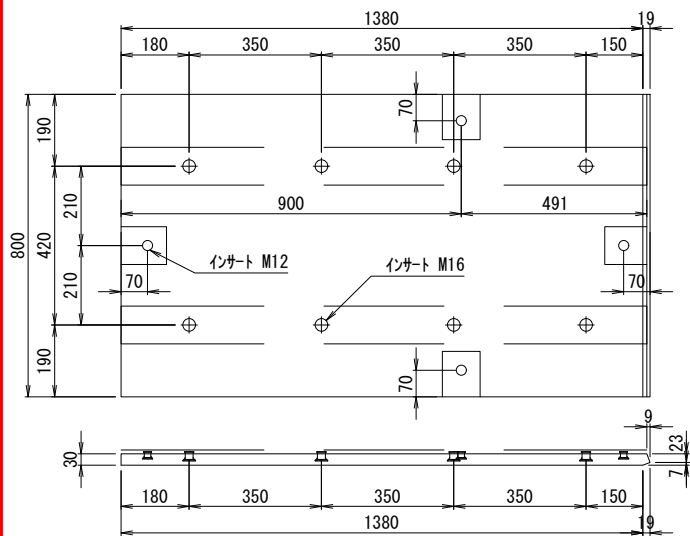
HA6タイプ (2枚)



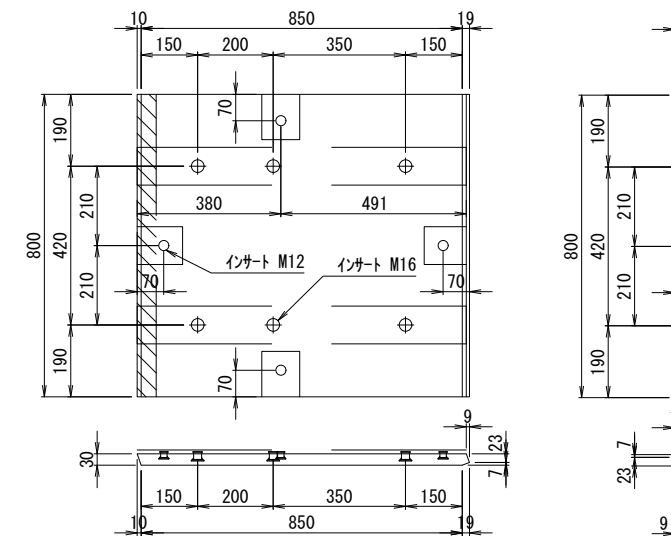
HA7pタイプ (1枚)



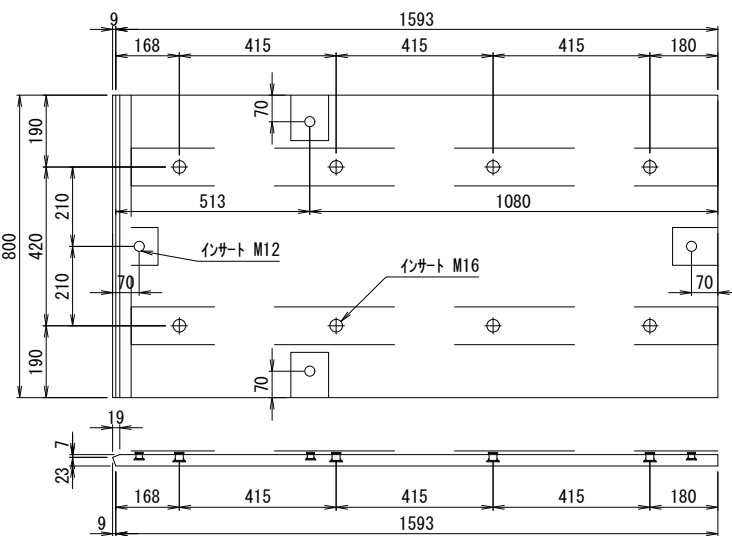
HA3タイプ (1枚)



HA4タイプ (1枚)



HA7タイプ (1枚)

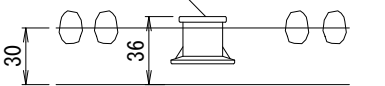


インサート部詳細 S=1/2

インサート M16

凡例: ⊕

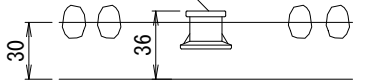
M16 インサート



インサート M12

凡例: ○

M12 インサート



(参考図)

新規追加

回 変 更 内 容
工事名 南摩ダム本体建設工事

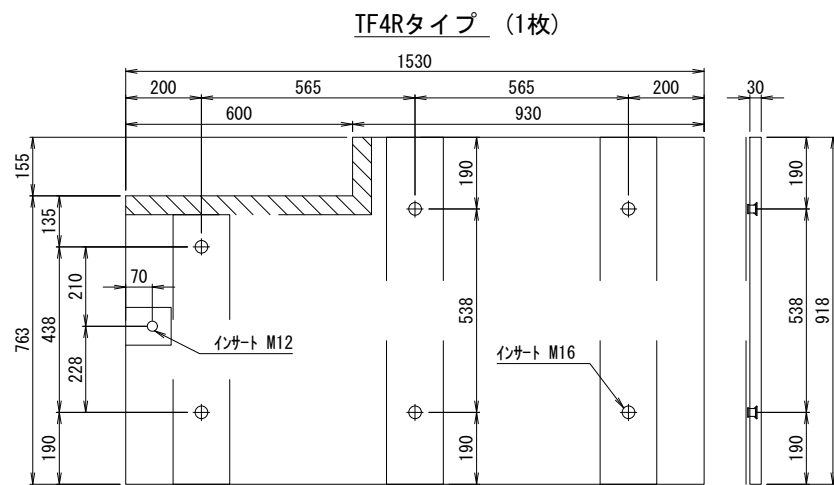
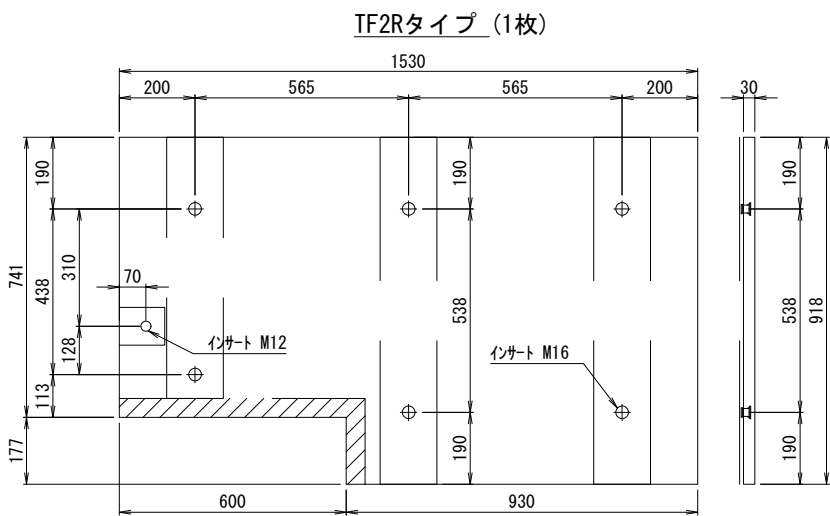
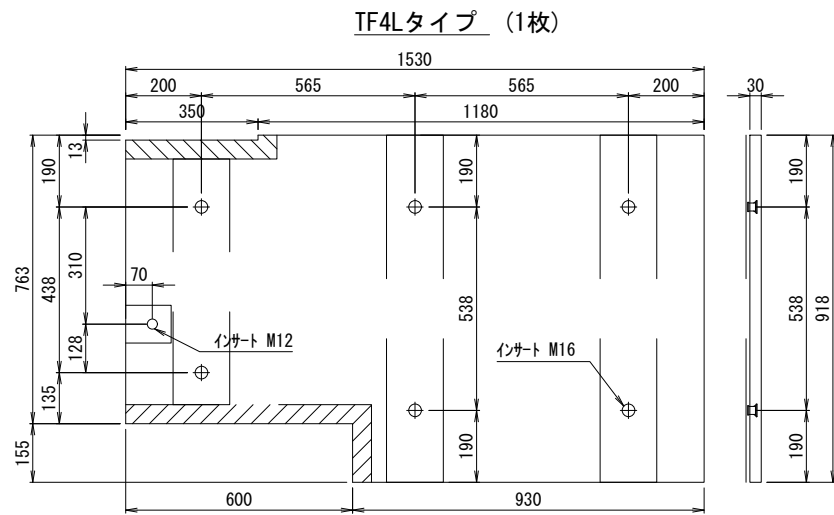
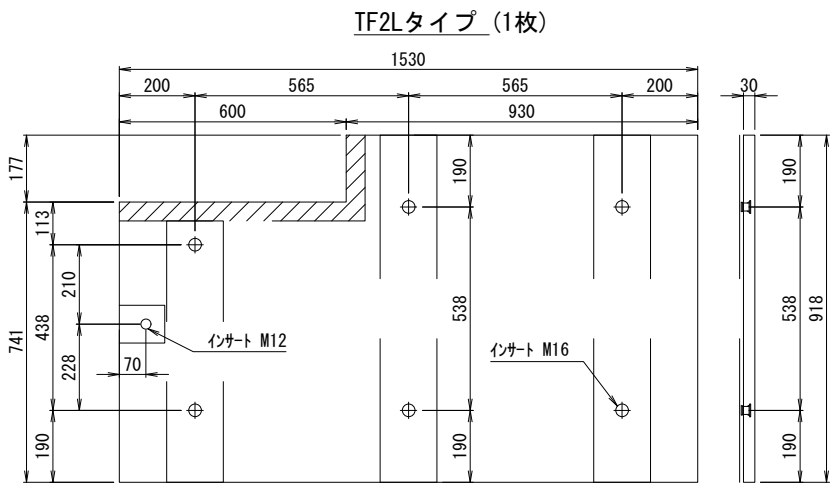
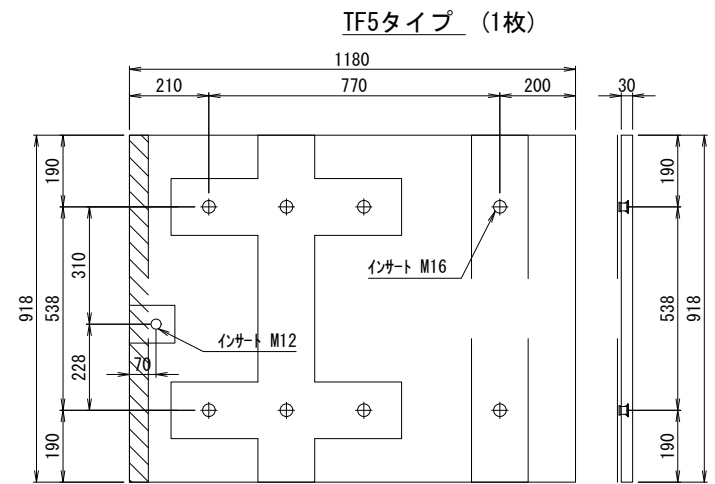
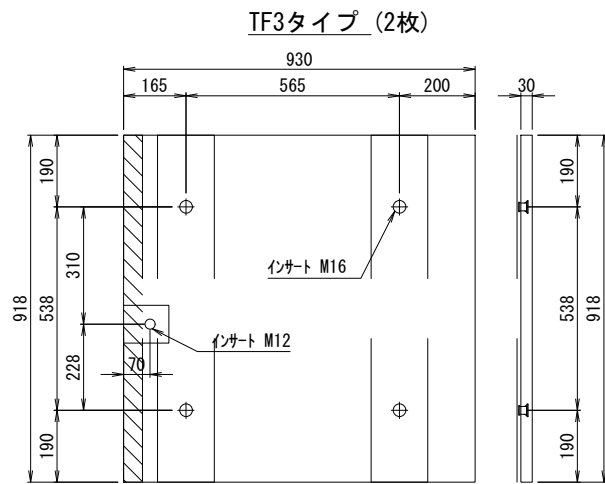
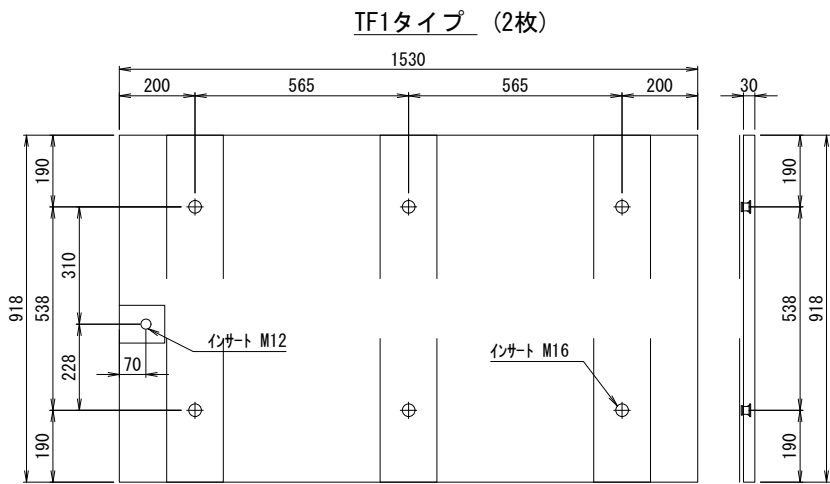
名 称 選択取水塔工
取水設備床板PIC詳細図(4)

S=図示

登録番号 19-16-05 整理番号 参5-12-080

独立行政法人水資源機構 思川開発建設所

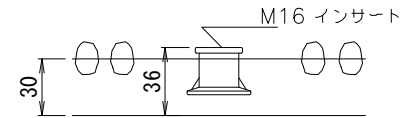
選択取水塔工
取水設備床板PIC詳細図(5)_{S=1:10}



インサート部詳細 S=1/2

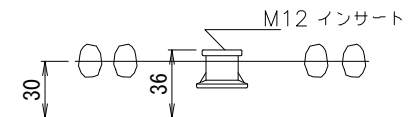
インサート M16

凡例: ⊕



インサート M12

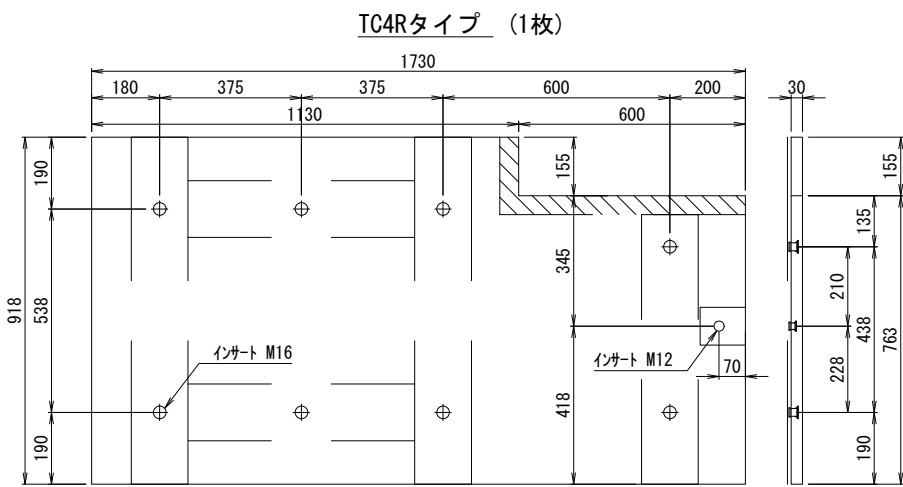
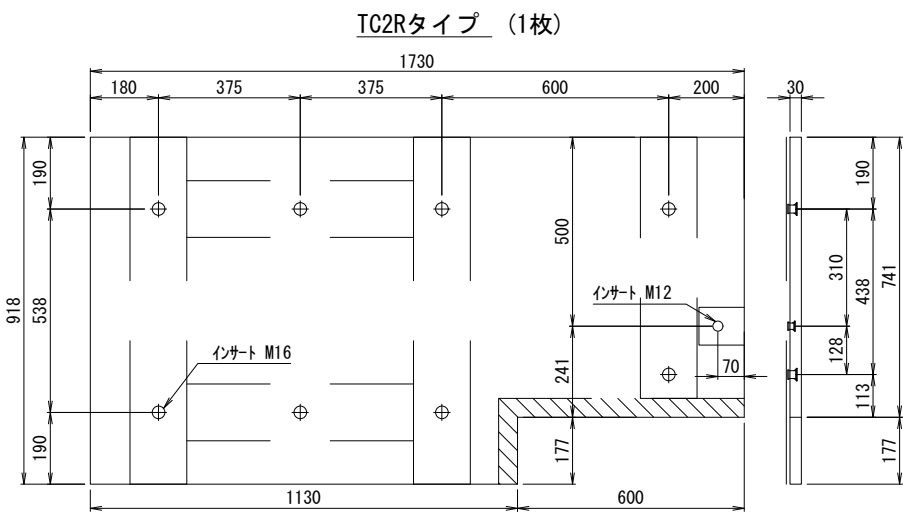
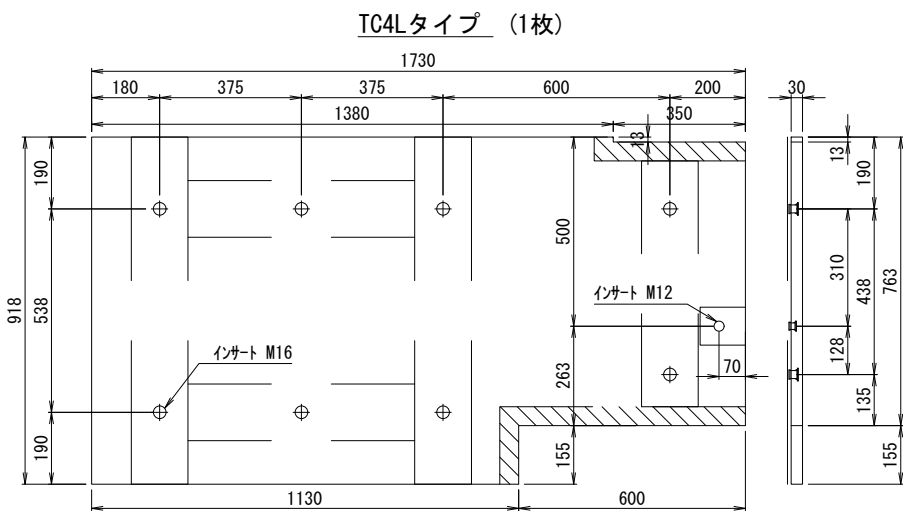
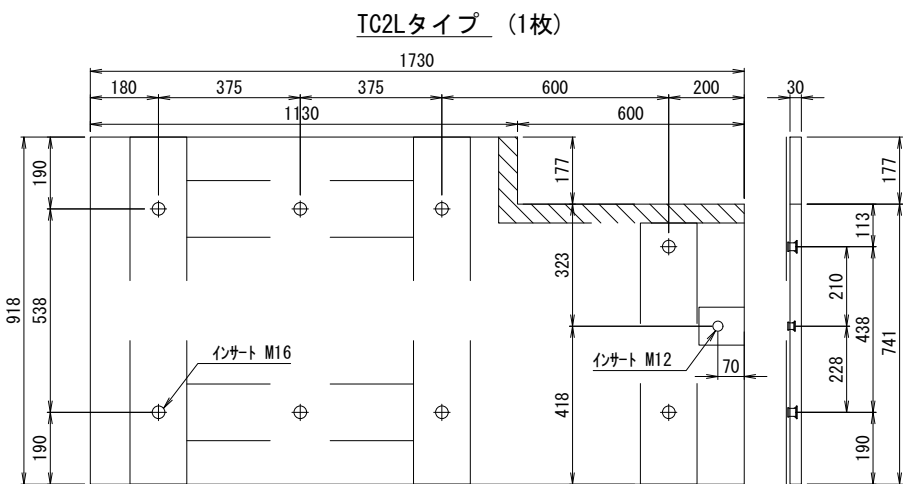
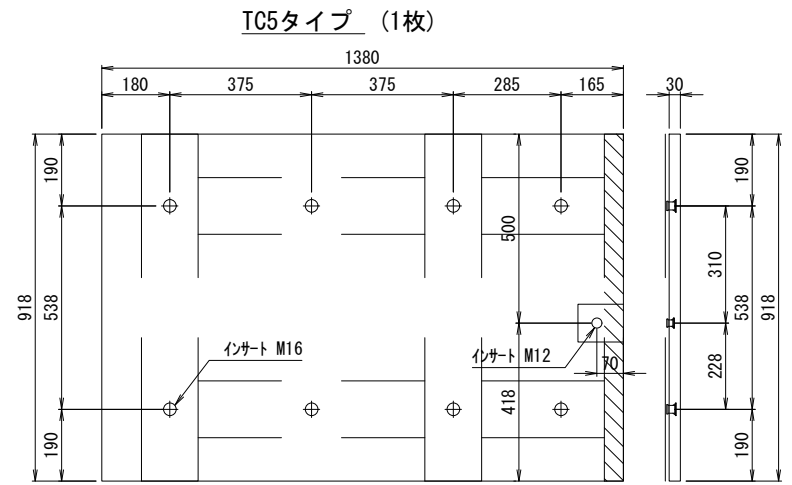
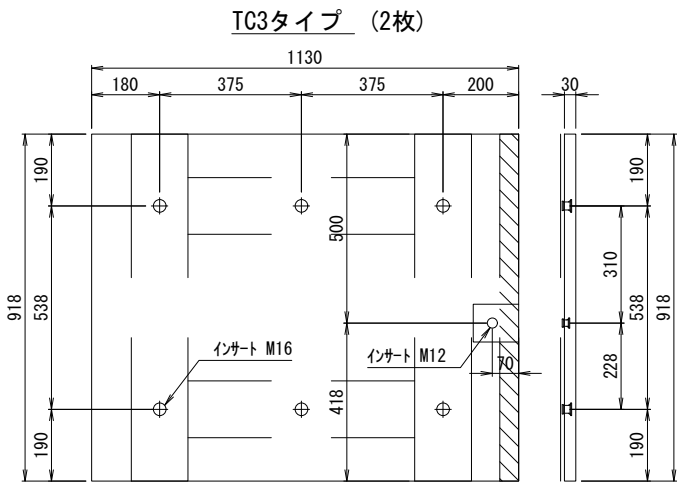
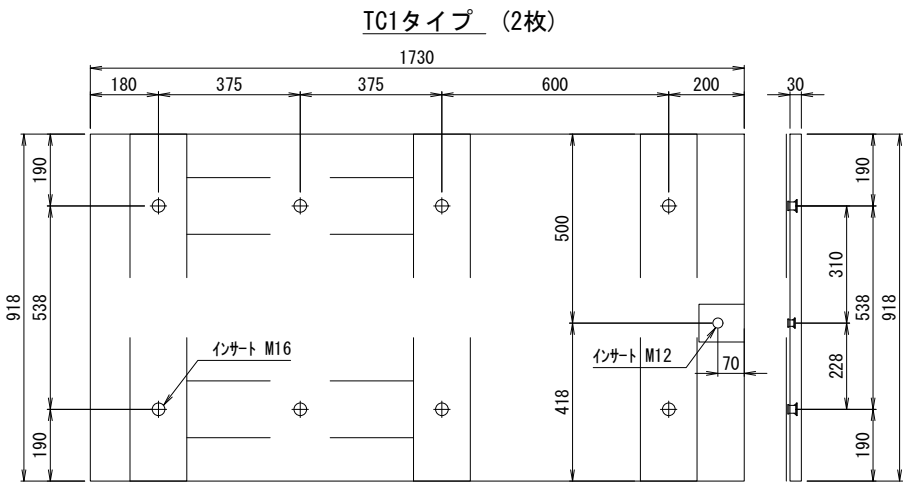
凡例: ○



(参考図)

△5	新規追加	
回	変更内容	
工事名	南摩ダム本体建設工事	
名称	選択取水塔工 取水設備床板PIC詳細図(5) S=図示	
登録番号	19-16-05	整理番号 参5-12-081
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所		

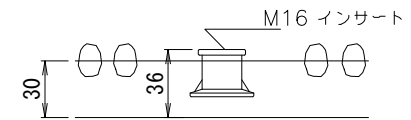
選択取水塔工
取水設備床板PIC詳細図(6)_{S=1:10}



インサート部詳細 S=1/2

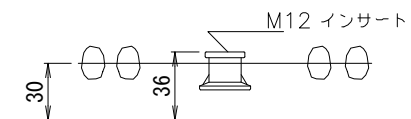
インサート M16

凡例: ⊕



インサート M12

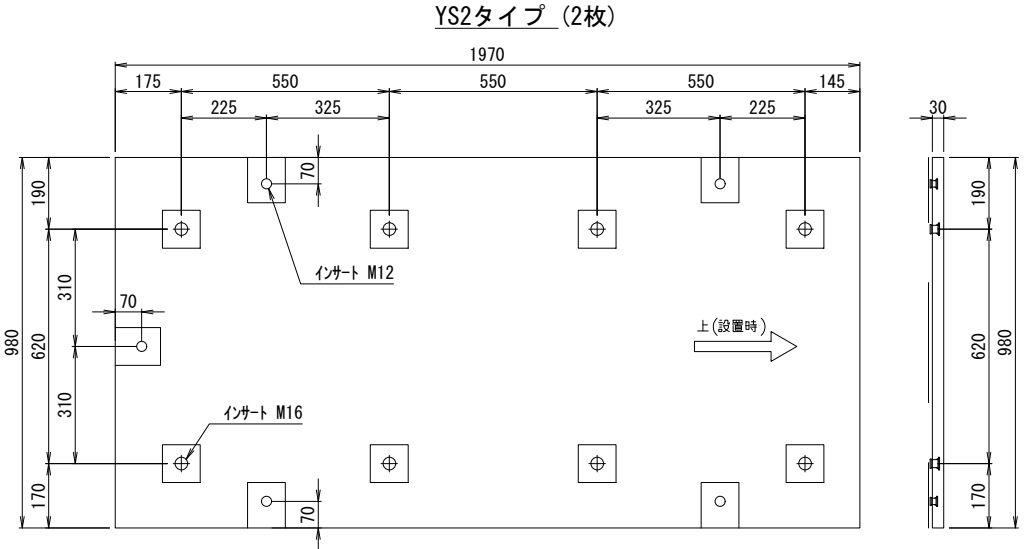
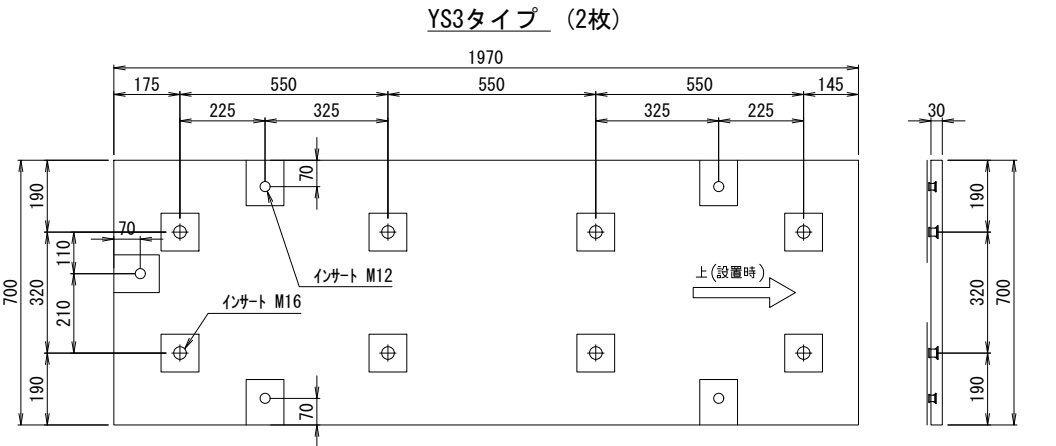
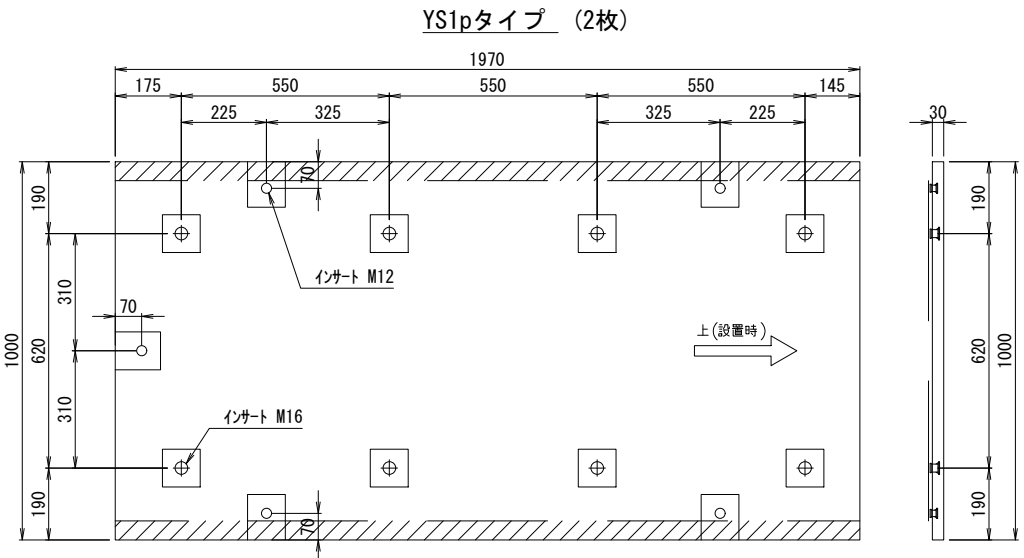
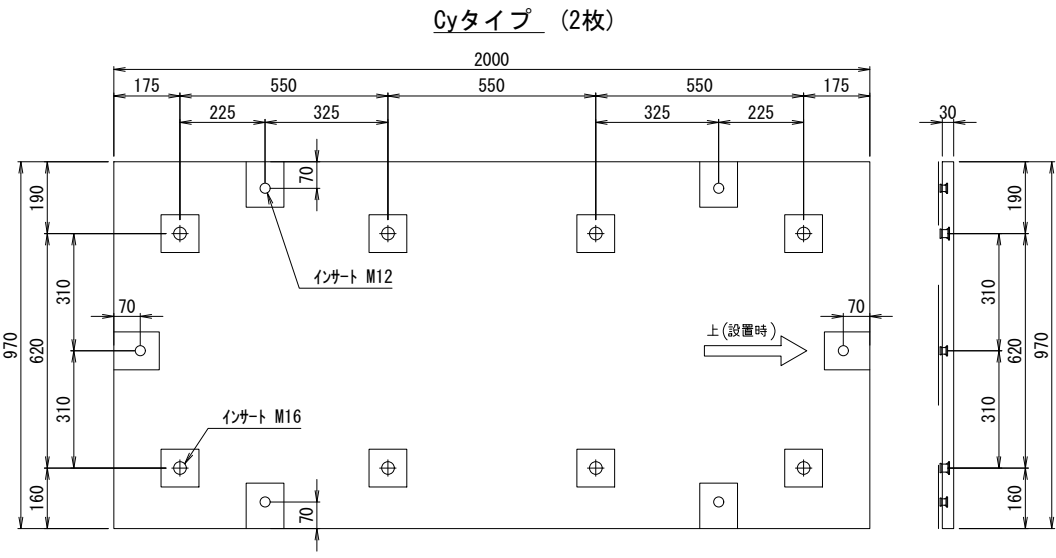
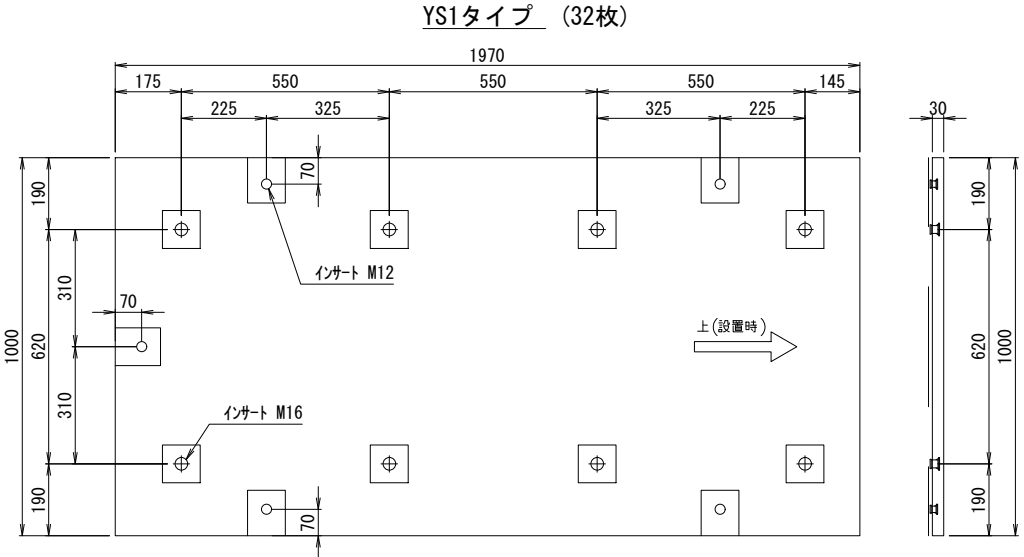
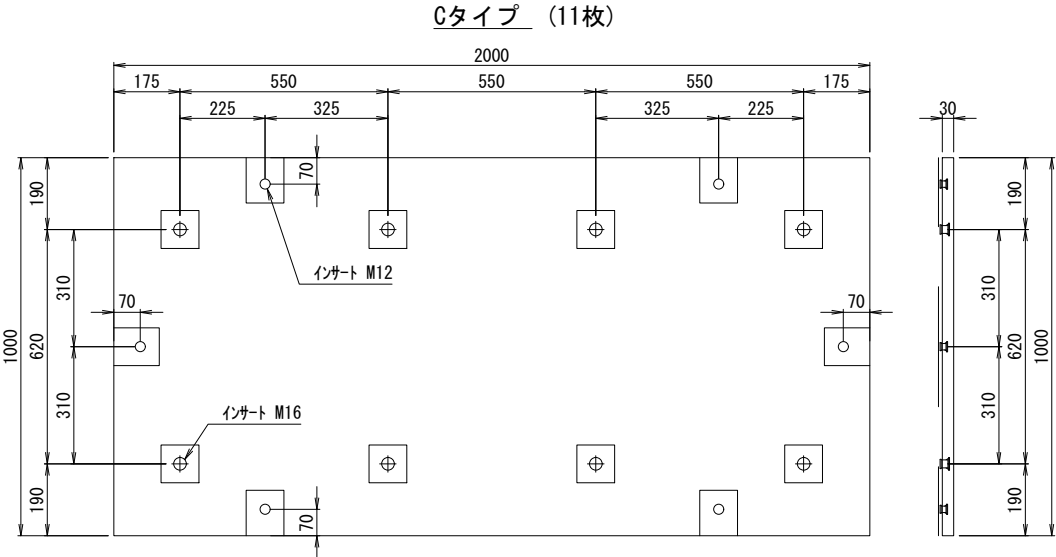
凡例: ○



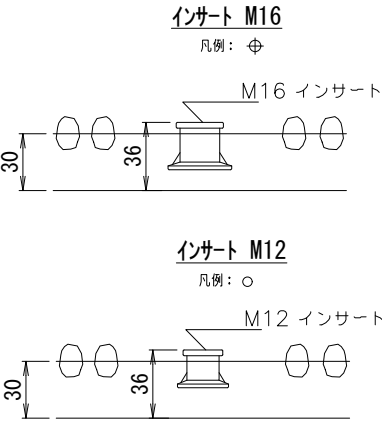
(参考図)

△5	新規追加
回	変更内容
工事名	南摩ダム本体建設工事
名称	選択取水塔工 取水設備床板PIC詳細図(6) S=図示
登録番号	19-16-05
整理番号	参5-12-082
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所	

選択取水塔工
取水設備床板PIC詳細図(7)_{S=1:10}



インサート部詳細 S=1/2

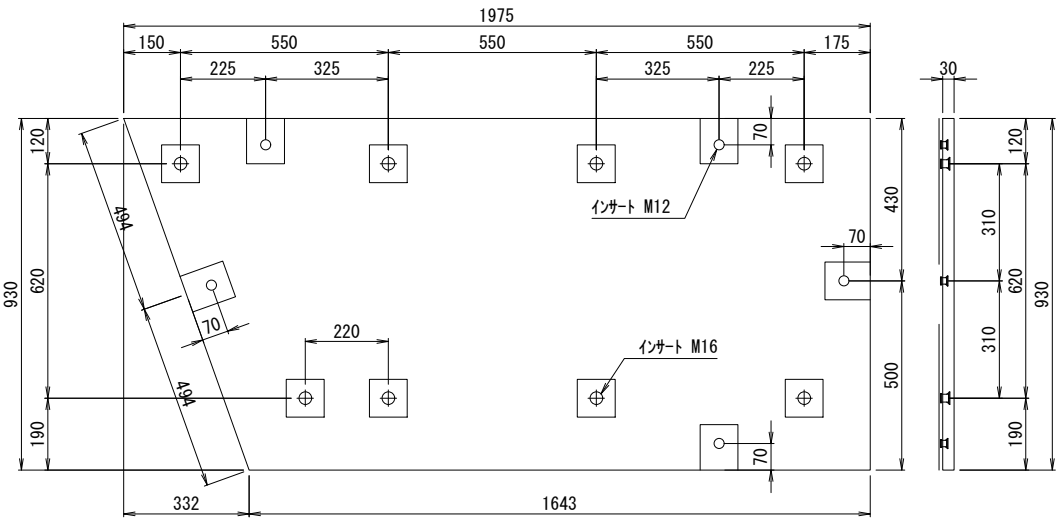


(参考図)

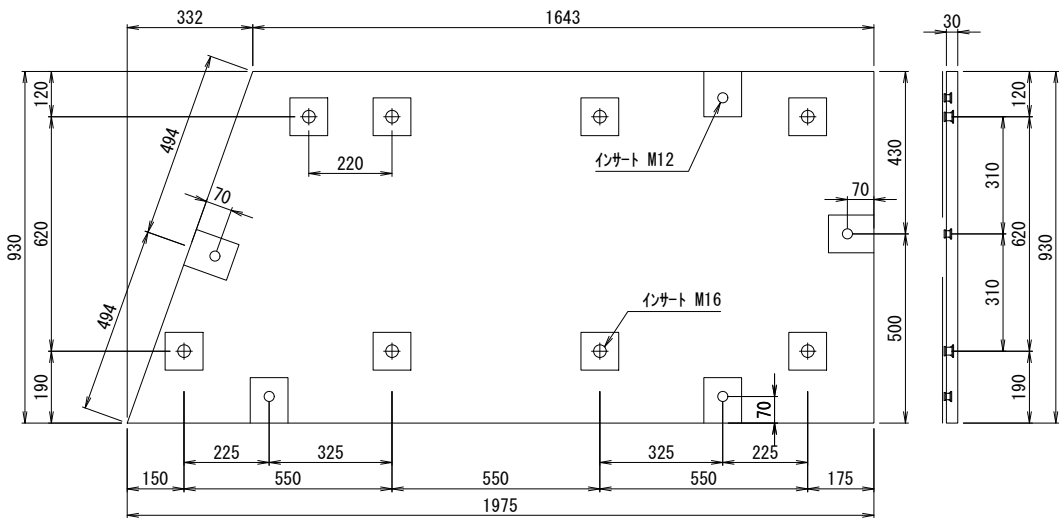
△5	新規追加	
回	変更内容	
工事名	南摩ダム本体建設工事	
名称	選択取水塔工 取水設備床板PIC詳細図(7) S=図示	
登録番号	19-16-05	整理番号 参5-12-083
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所		

選択取水塔工
取水設備床板PIC詳細図(8)_{S=1:10}

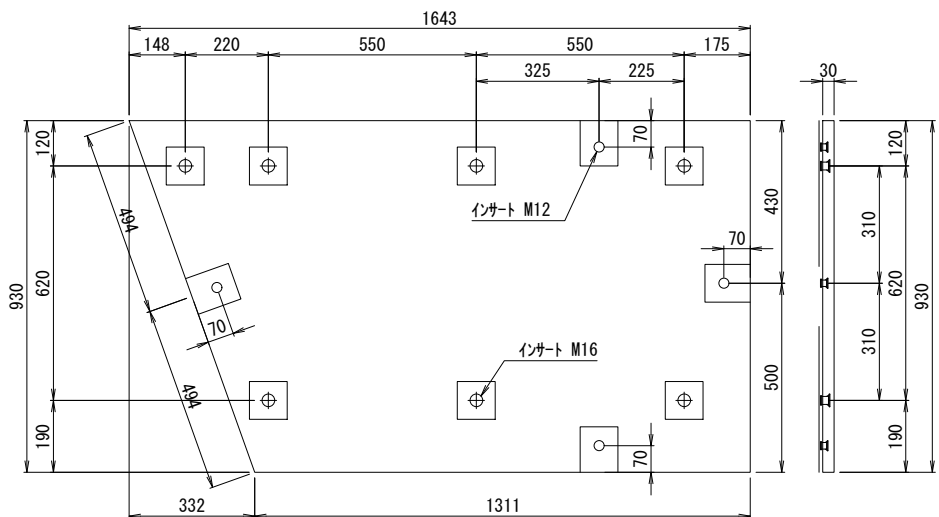
YS4Rタイプ (1枚)



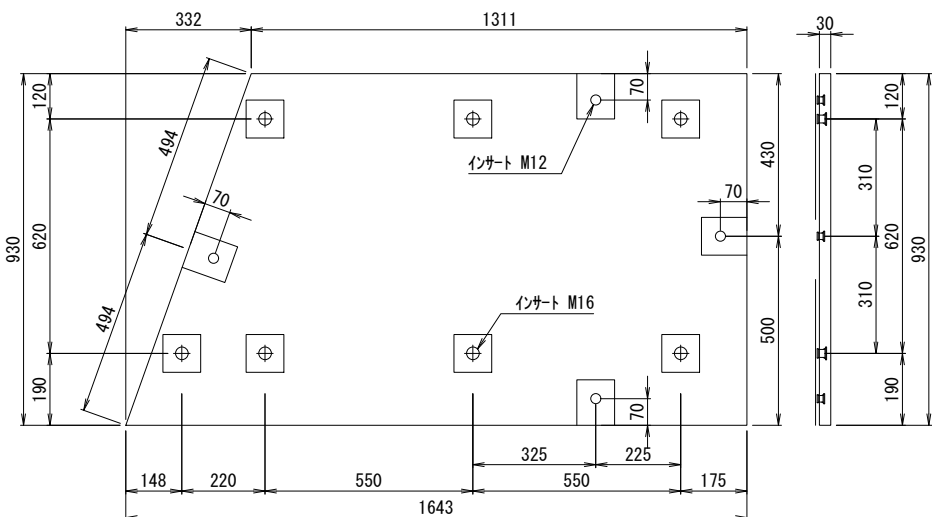
YS4Lタイプ (1枚)



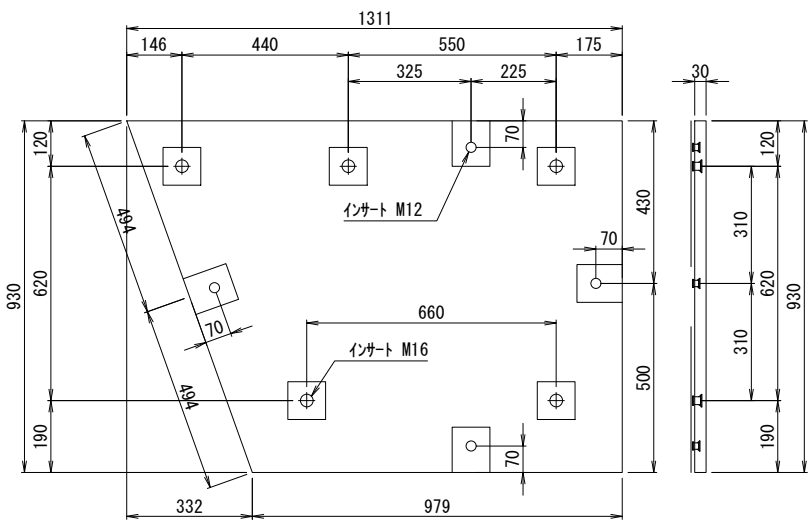
YS5Rタイプ (1枚)



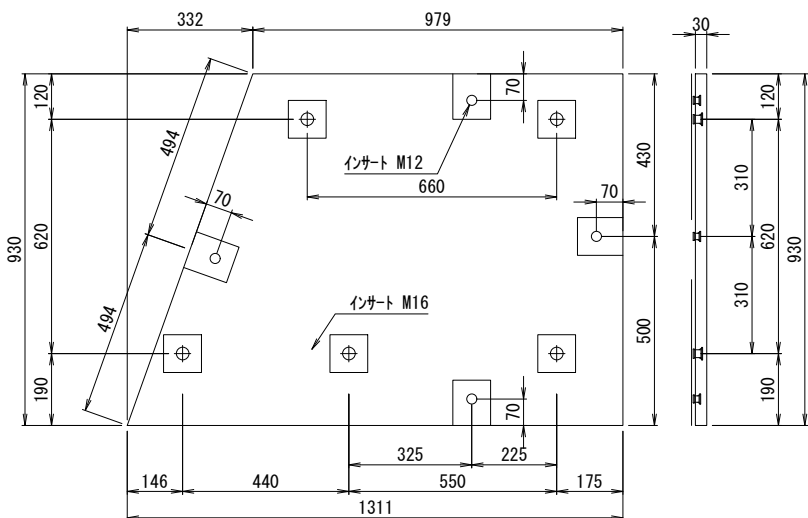
YS5Lタイプ (1枚)



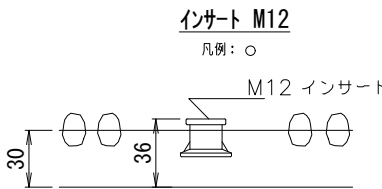
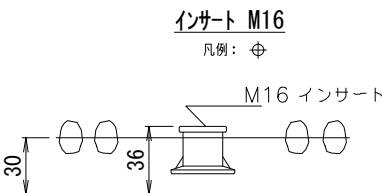
YS6Rタイプ (1枚)



YS6Lタイプ (1枚)



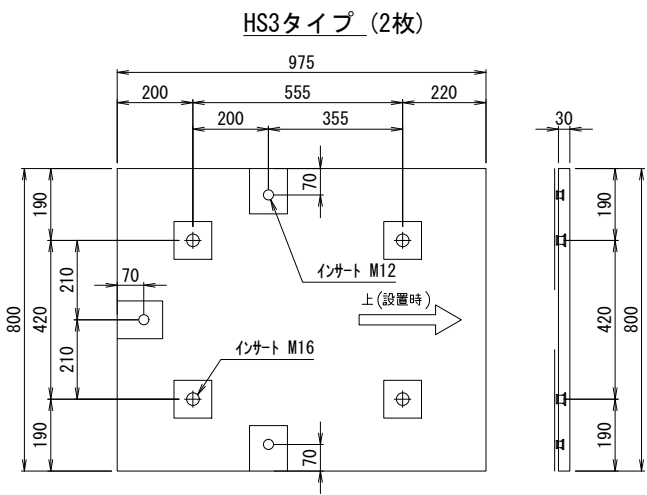
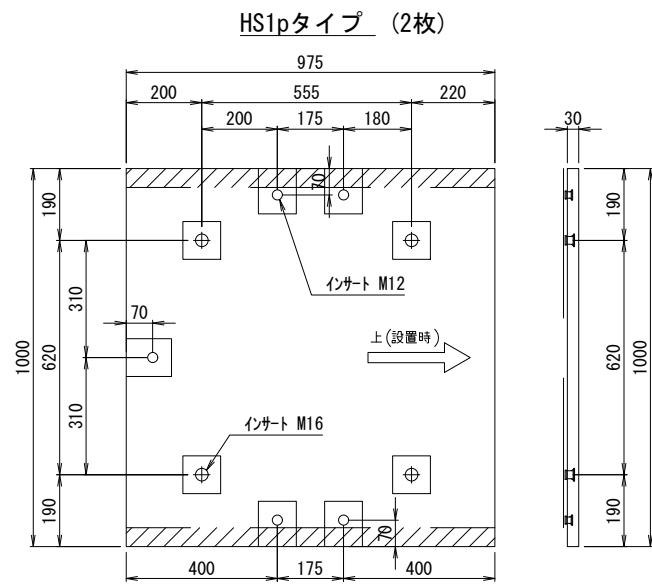
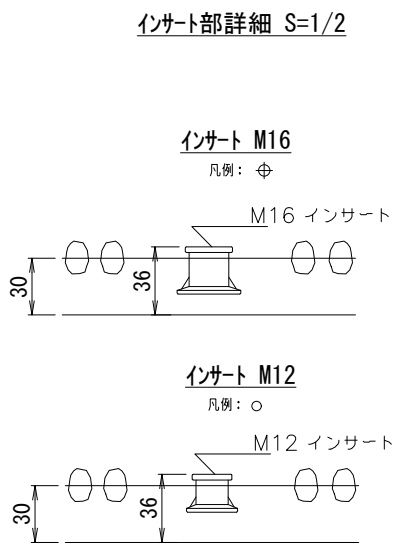
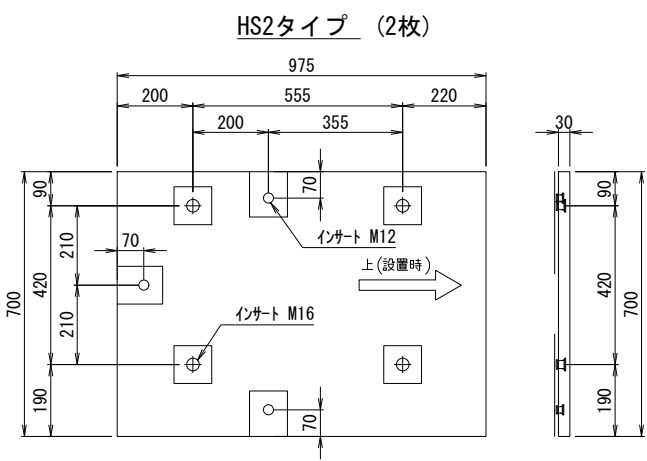
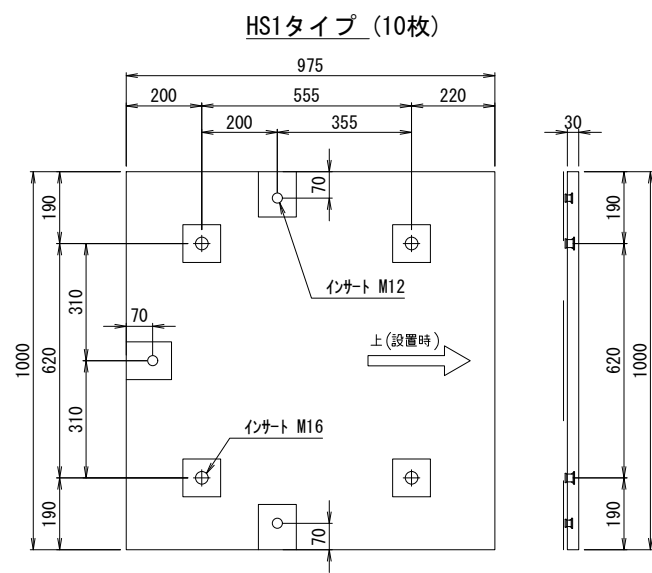
インサート部詳細 S=1/2



(参考図)

△5	新規追加
回	変更内容
工事名	南摩ダム本体建設工事
名称	選択取水塔工 取水設備床板PIC詳細図(8)
登録番号	19-16-05
整理番号	参5-12-084
S=図示	
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所	

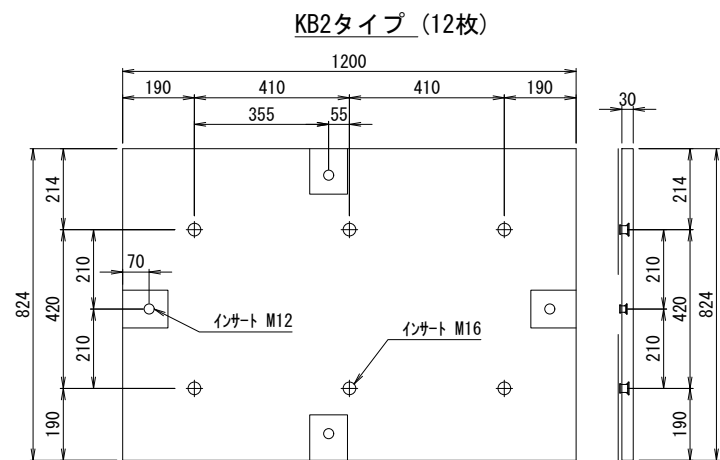
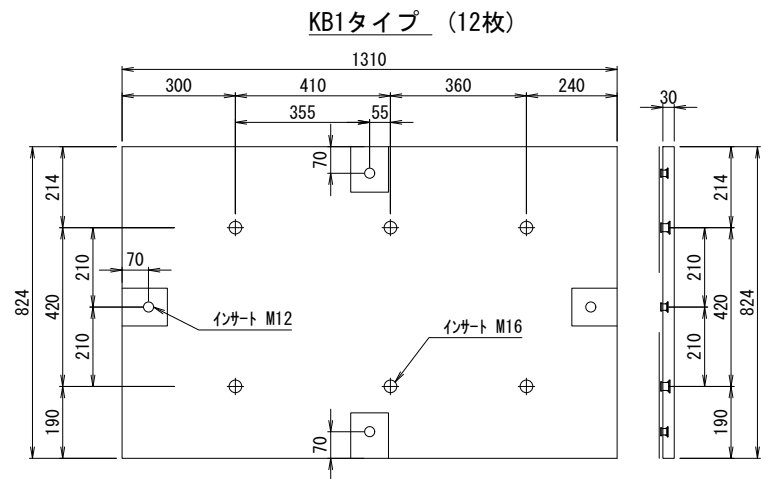
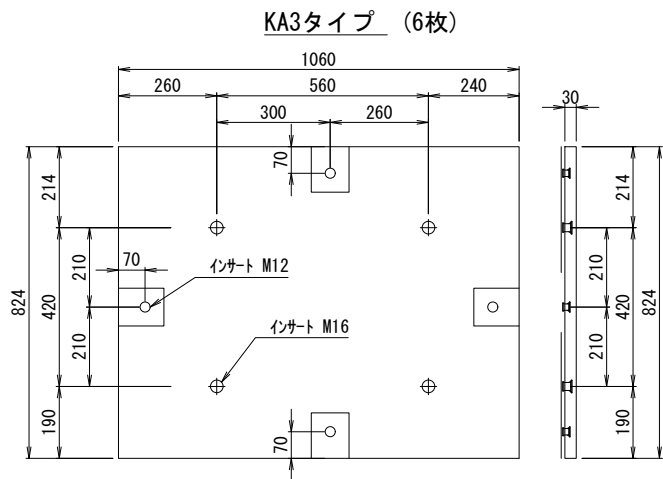
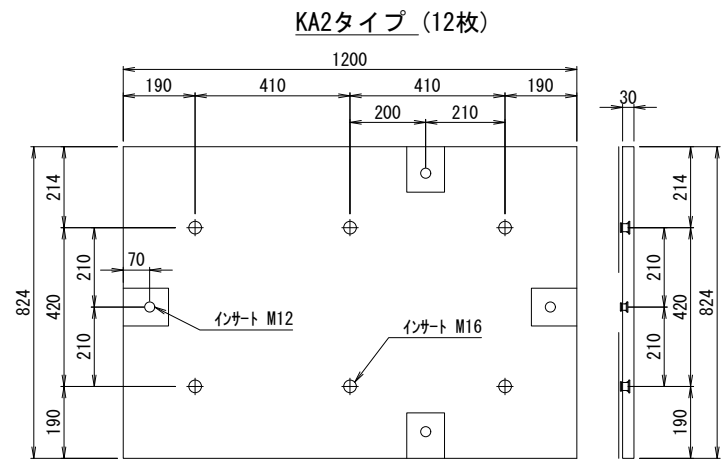
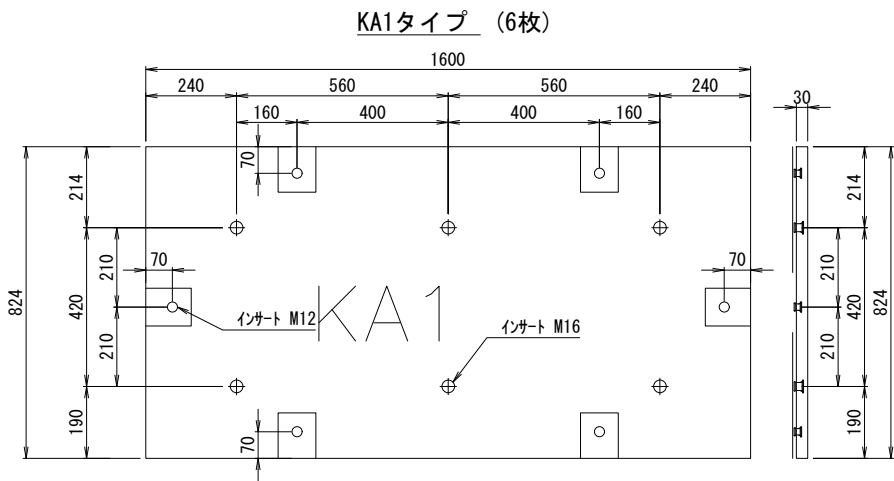
選択取水塔工
取水設備床板PIC詳細図(9) S=1:10



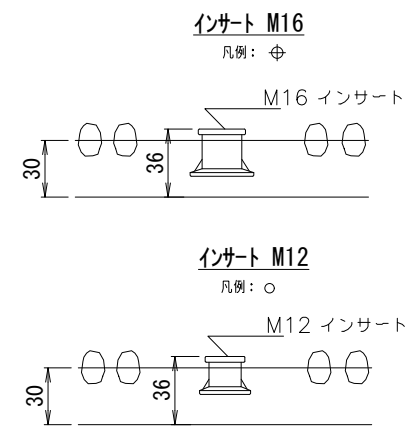
(参考図)

5	新規追加
回	変更内容
工事名	南摩ダム本体建設工事
名称	選択取水塔工 取水設備床板PIC詳細図(9) S=図示
登録番号	19-16-05
整理番号	参5-12-085
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所	

選択取水塔工
取水設備床板PIC詳細図(10) S=1:10



インサート部詳細 S=1/2

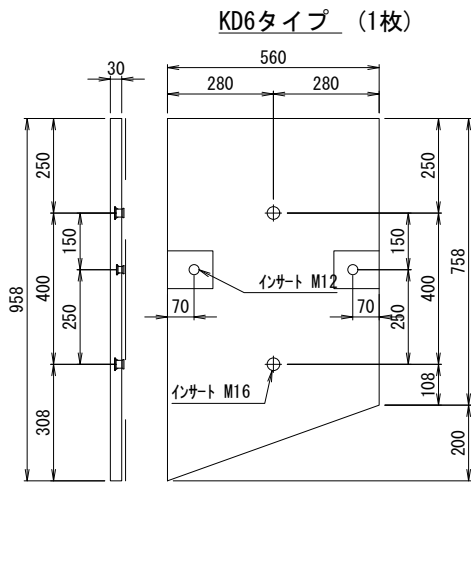
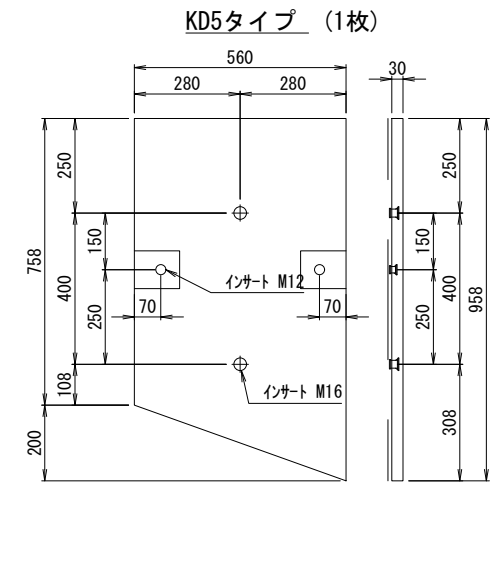
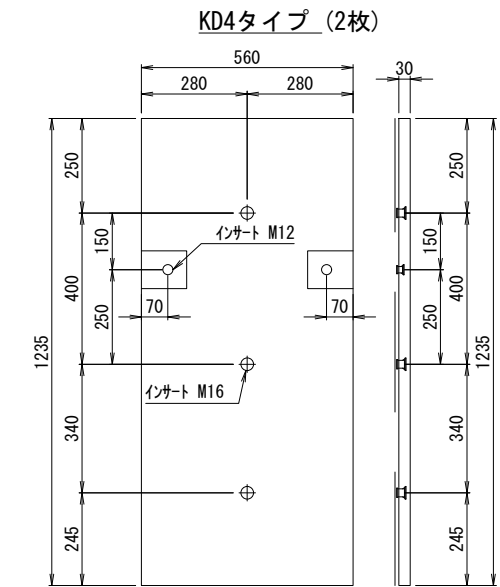
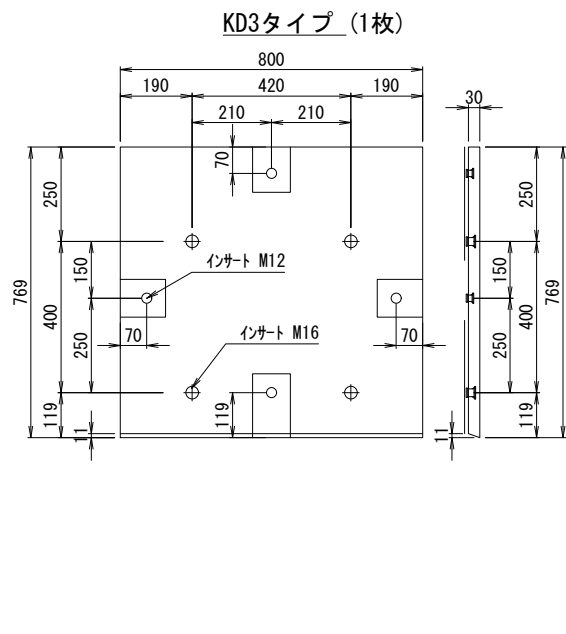
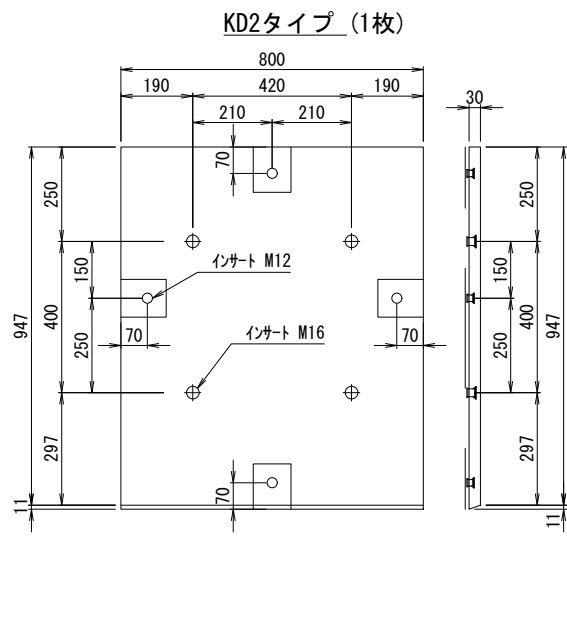
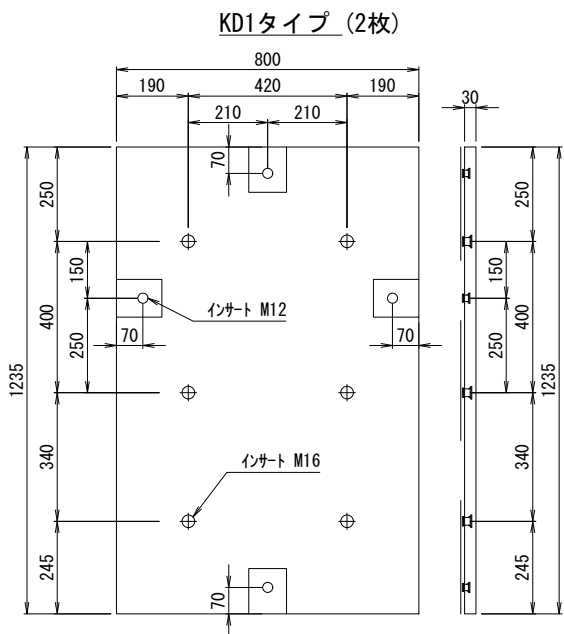
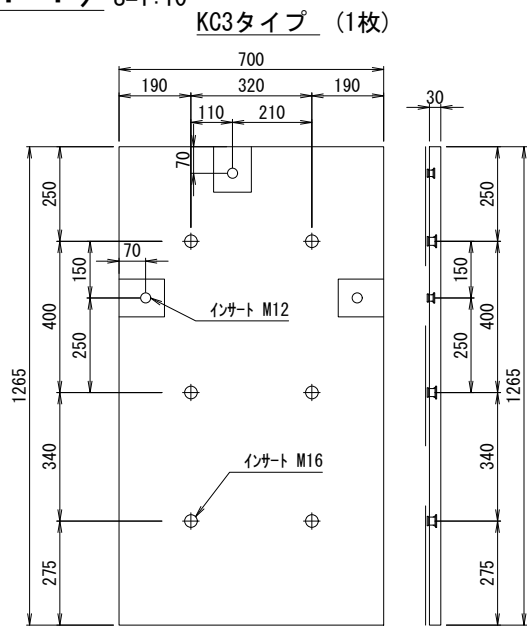
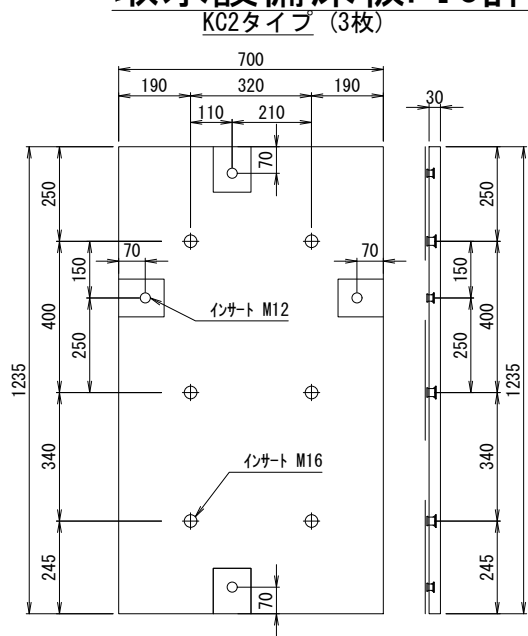
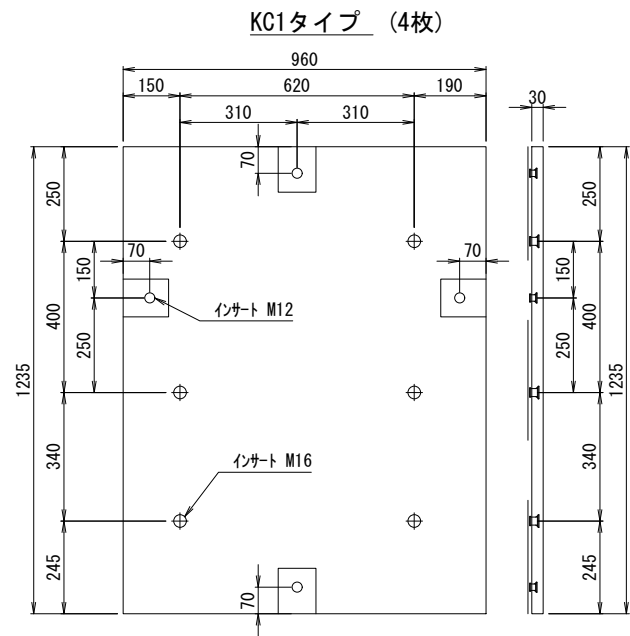


(参考図)

5	新規追加	
回	変更内容	
工事名	南摩ダム本体建設工事	
名称	選択取水塔工 取水設備床板PIC詳細図(10) S=図示	
登録番号	19-16-05	整理番号 参5-12-086
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所		

選択取水塔工
取水設備床板PIC詳細図(1 1)

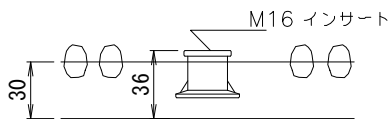
S=1:10



インサート部詳細 S=1/2

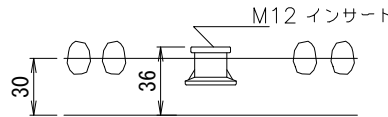
インサート M16

凡例: ⊕



インサート M12

凡例: ○

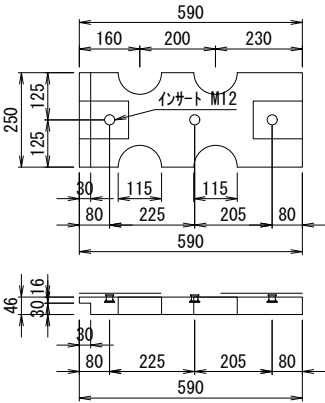


(参考図)

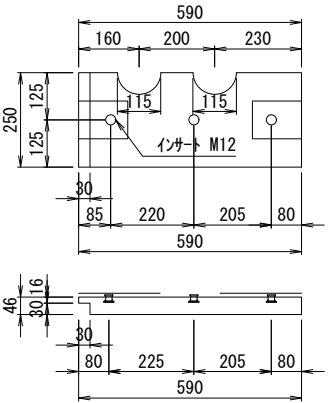
5	新規追加
回	変 更 内 容
工事名	南摩ダム本体建設工事
名 称	選択取水塔工 取水設備床板PIC詳細図(1 1) S=図示
登録番号	19-16-05
整理番号	参5-12-087
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所	

選択取水塔工
取水設備床板PIC詳細図(1 2) S=1:10

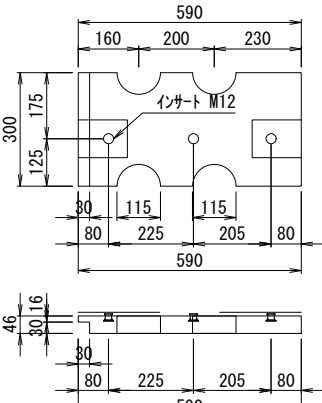
TG1タイプ (27枚)



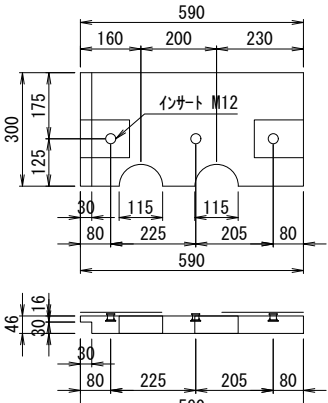
TG1Rタイプ (1枚)



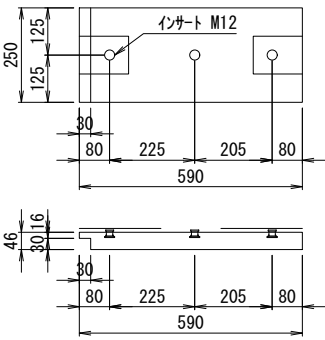
TG2タイプ (2枚)



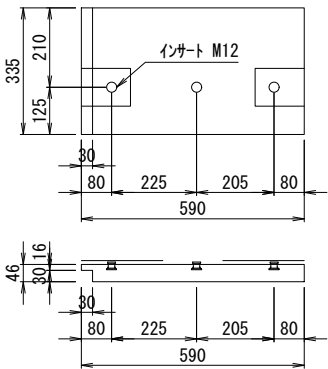
TG2Lタイプ (1枚)



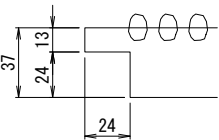
TG3タイプ (2枚)



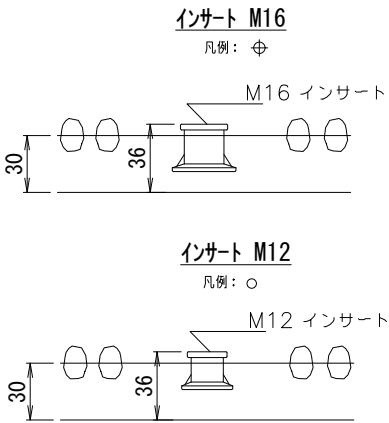
TG4タイプ (1枚)



段差部詳細 S=1/2.5



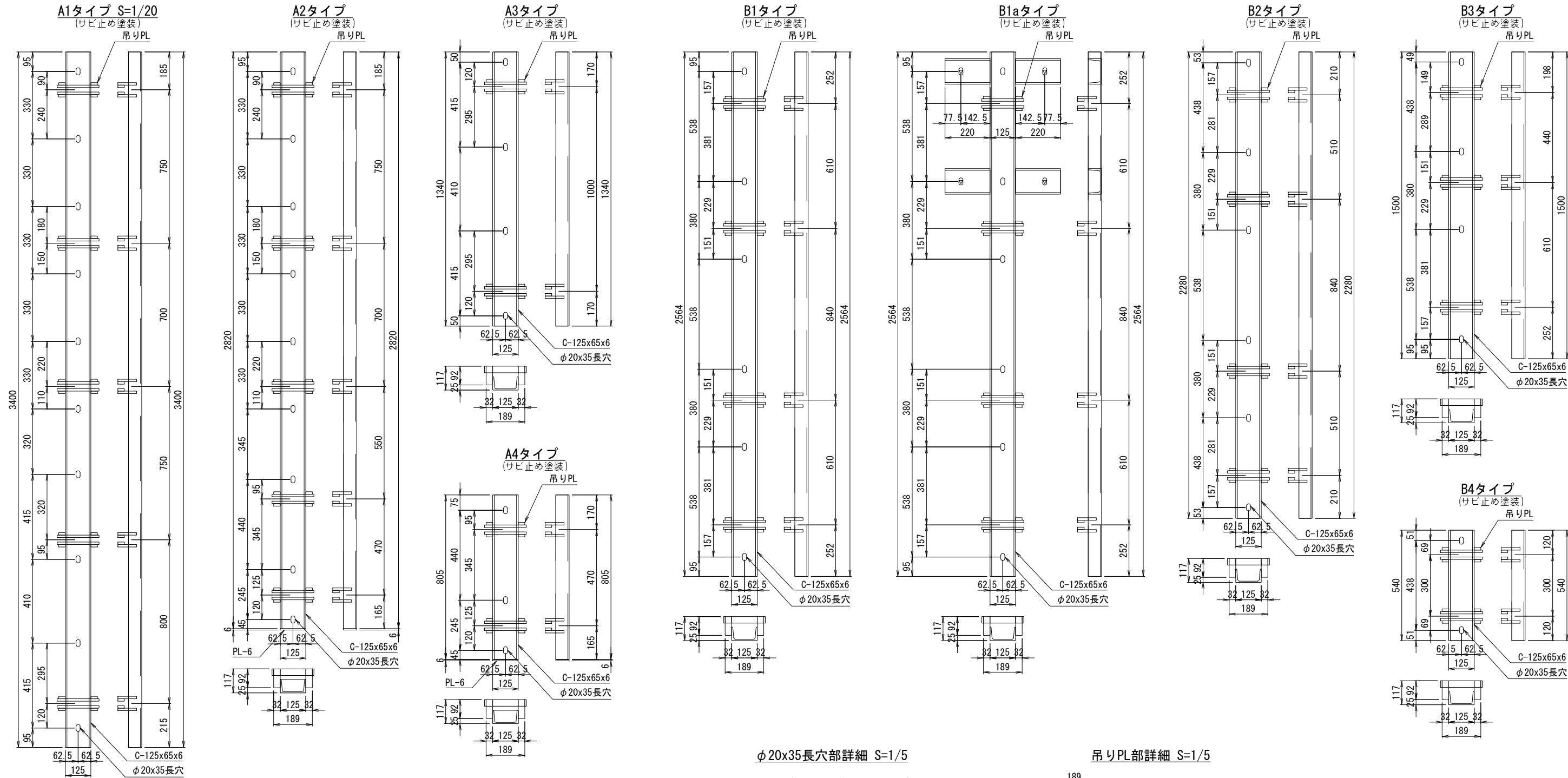
インサート部詳細 S=1/2



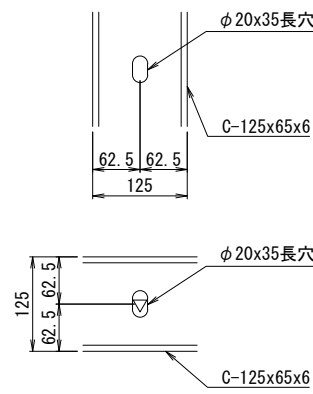
(参考図)

5	新規追加
回	変更内容
工事名	南摩ダム本体建設工事
名称	選択取水塔工 取水設備床板PIC詳細図(1 2) S=図示
登録番号	19-16-05
整理番号	参5-12-088
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所	

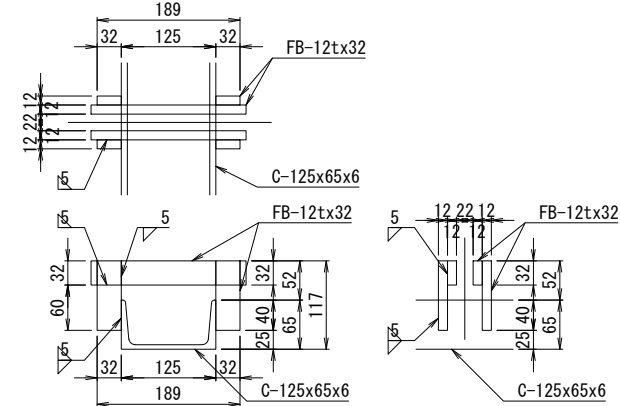
選択取水塔工
取水設備床板PIC詳細図(1 3) S=1:10



φ20x35長穴部詳細 S=1/5



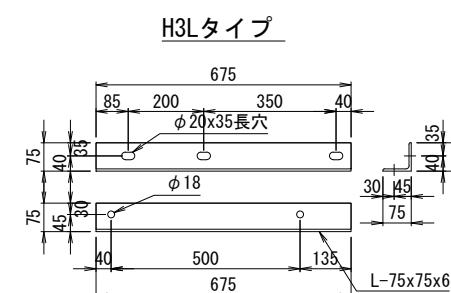
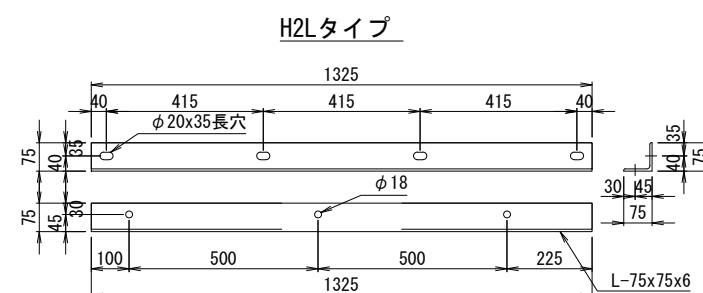
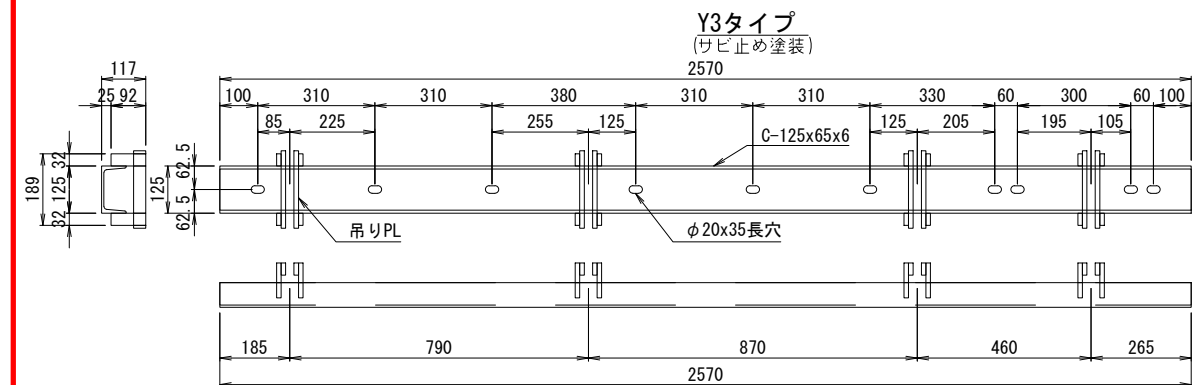
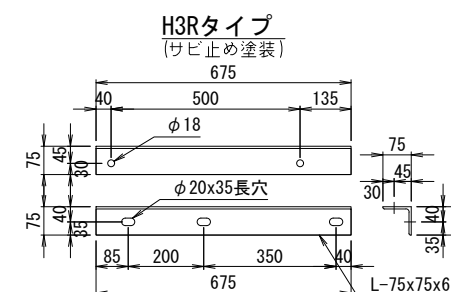
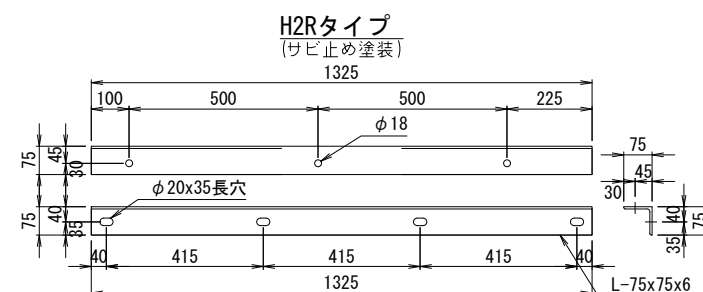
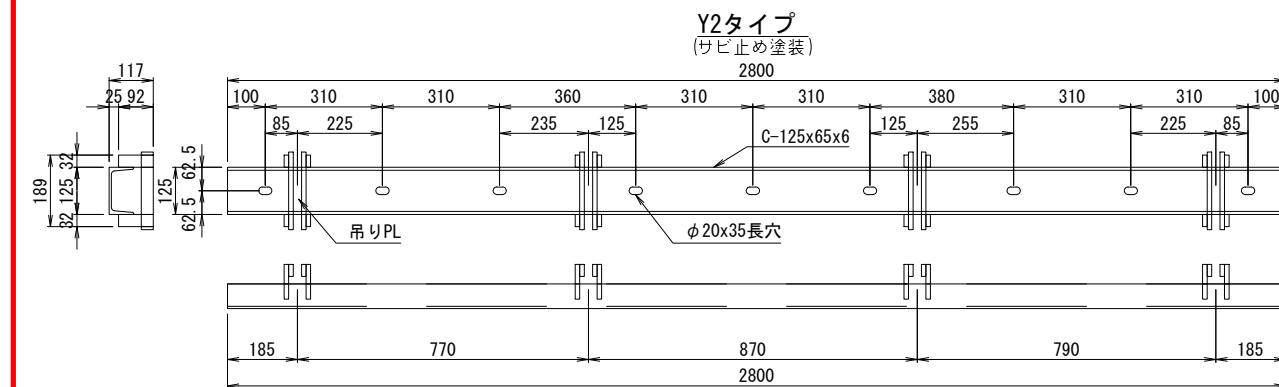
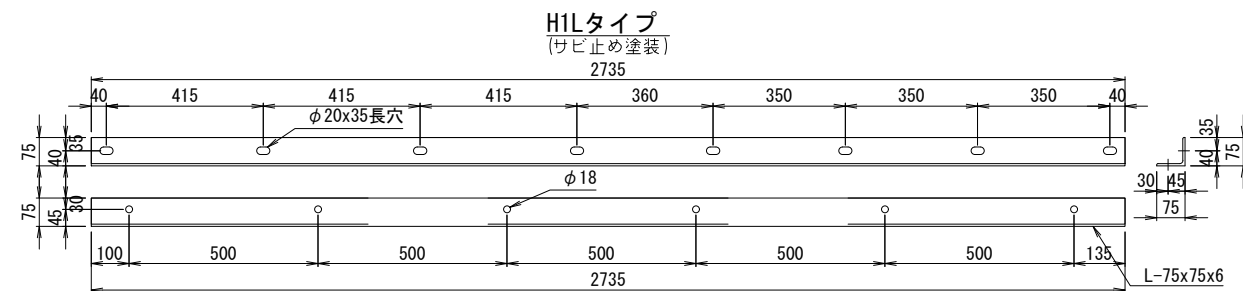
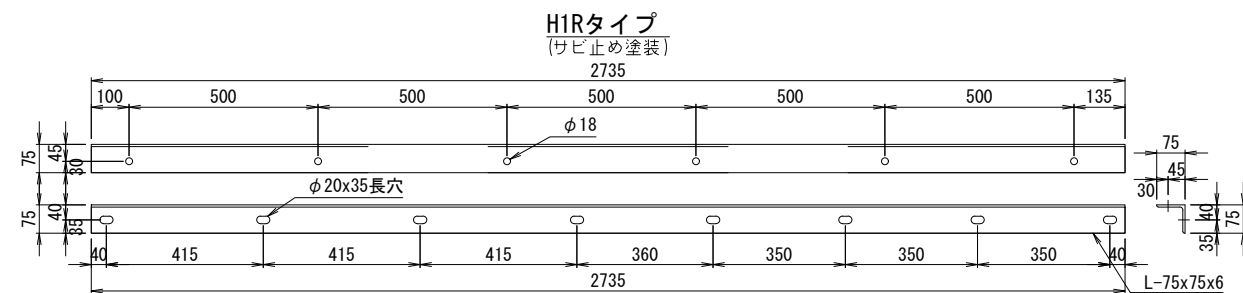
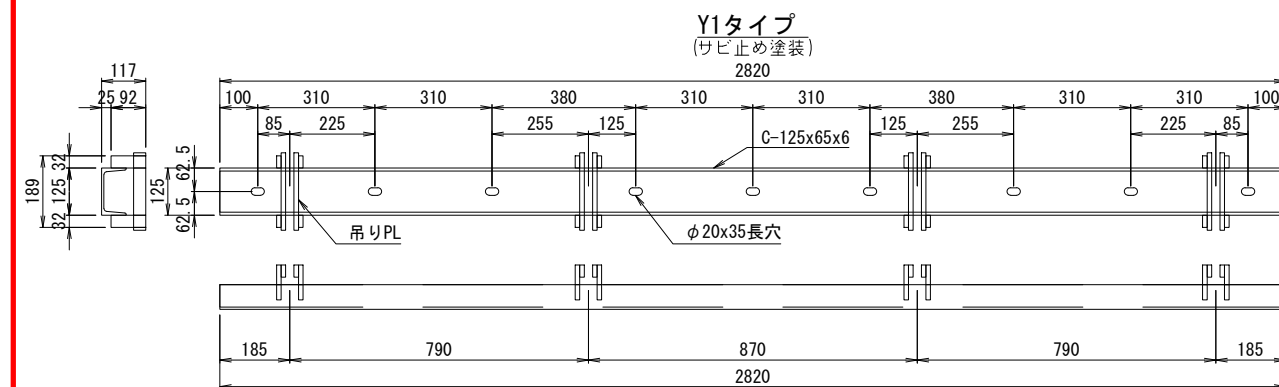
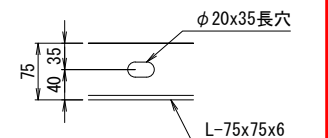
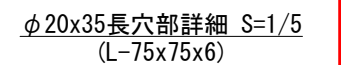
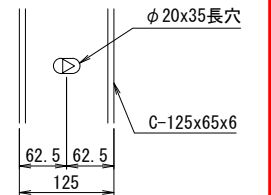
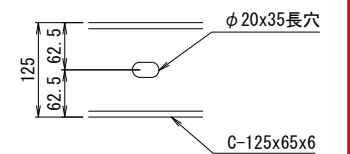
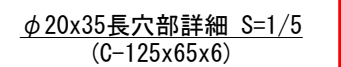
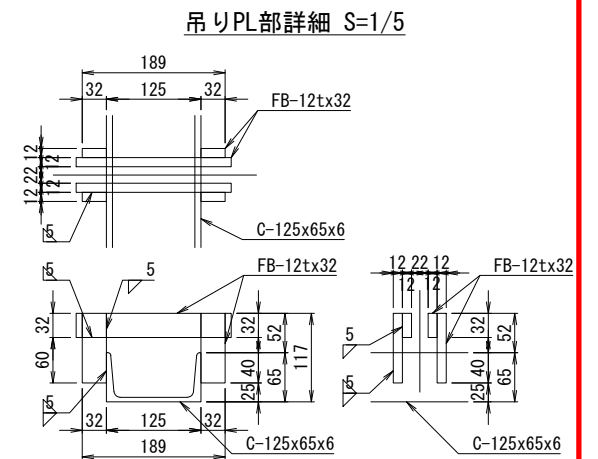
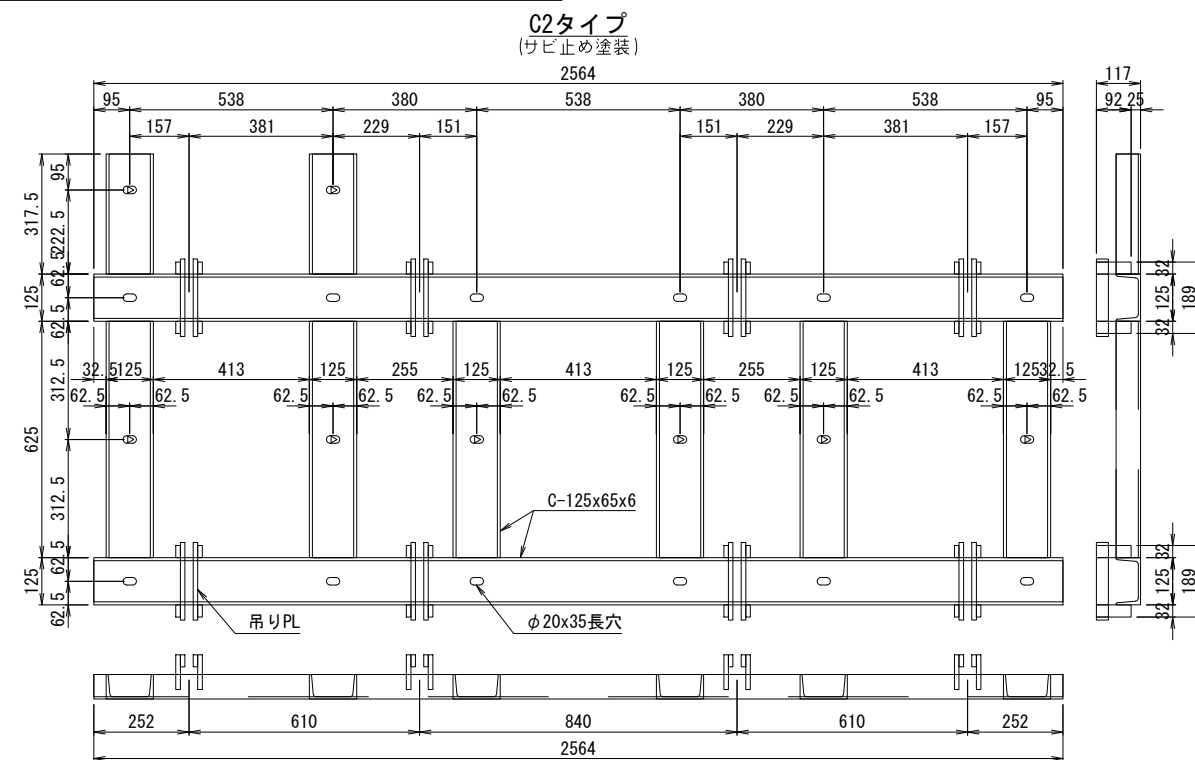
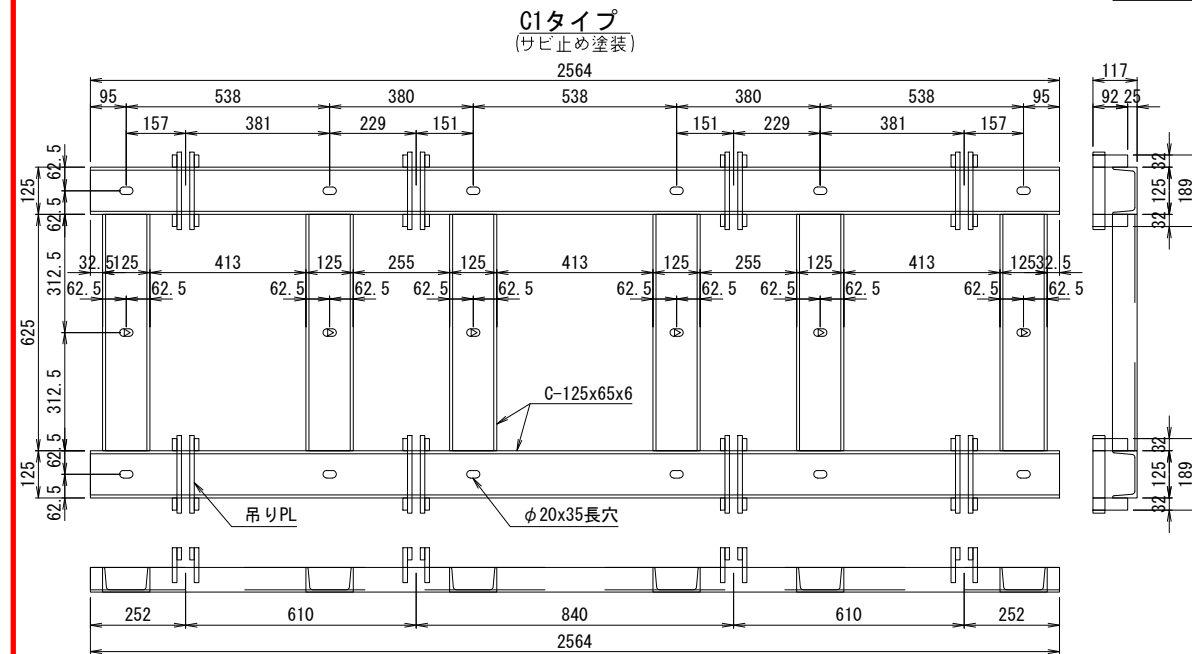
吊りPL部詳細 S=1/5



(参考図)

5	新規追加
回	変 更 内 容
工事名	南摩ダム本体建設工事
名 称	選択取水塔工 取水設備床板PIC詳細図(1 3) S=図示
登録番号	19-16-05
整理番号	参5-12-089
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所	

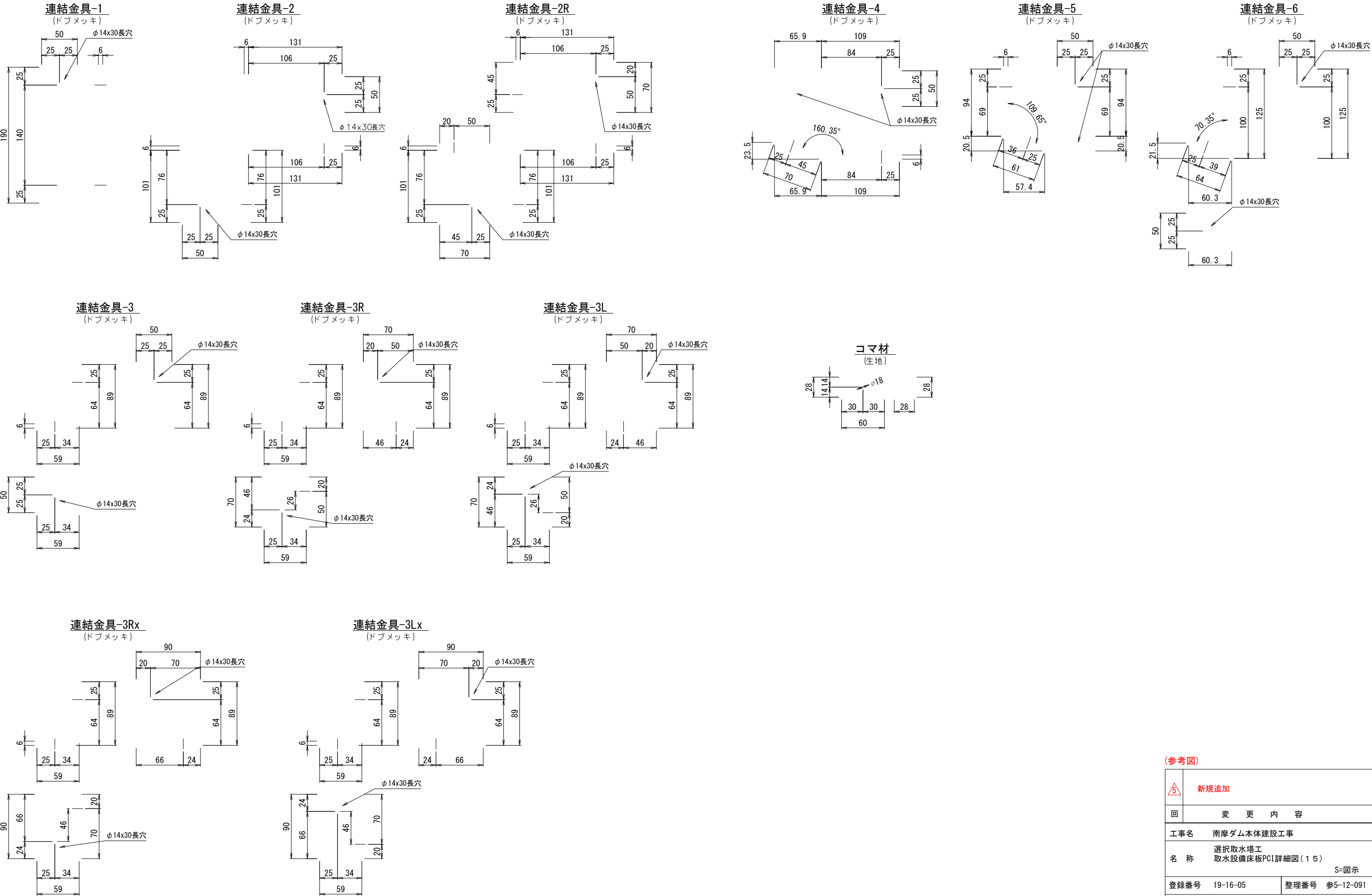
選択取水塔工
取水設備床板PIC詳細図(14) S=1:10



(参考図)

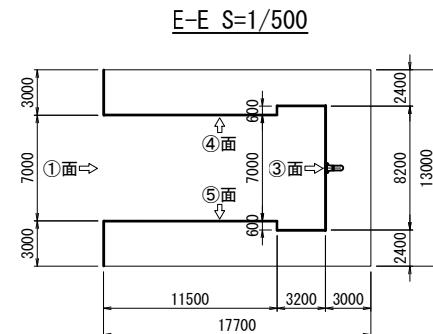
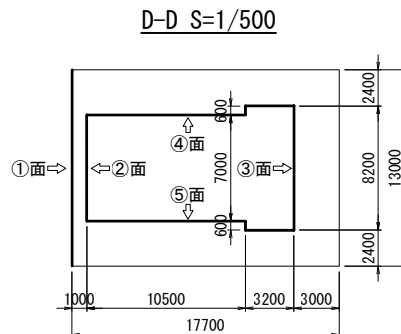
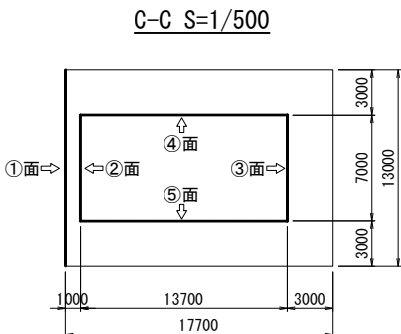
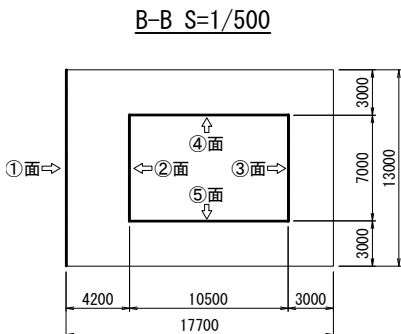
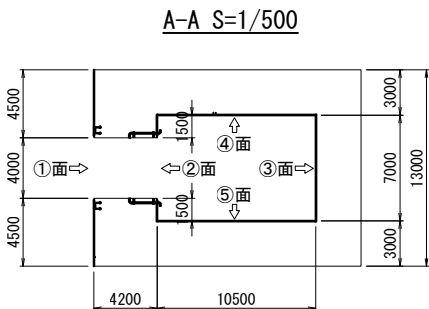
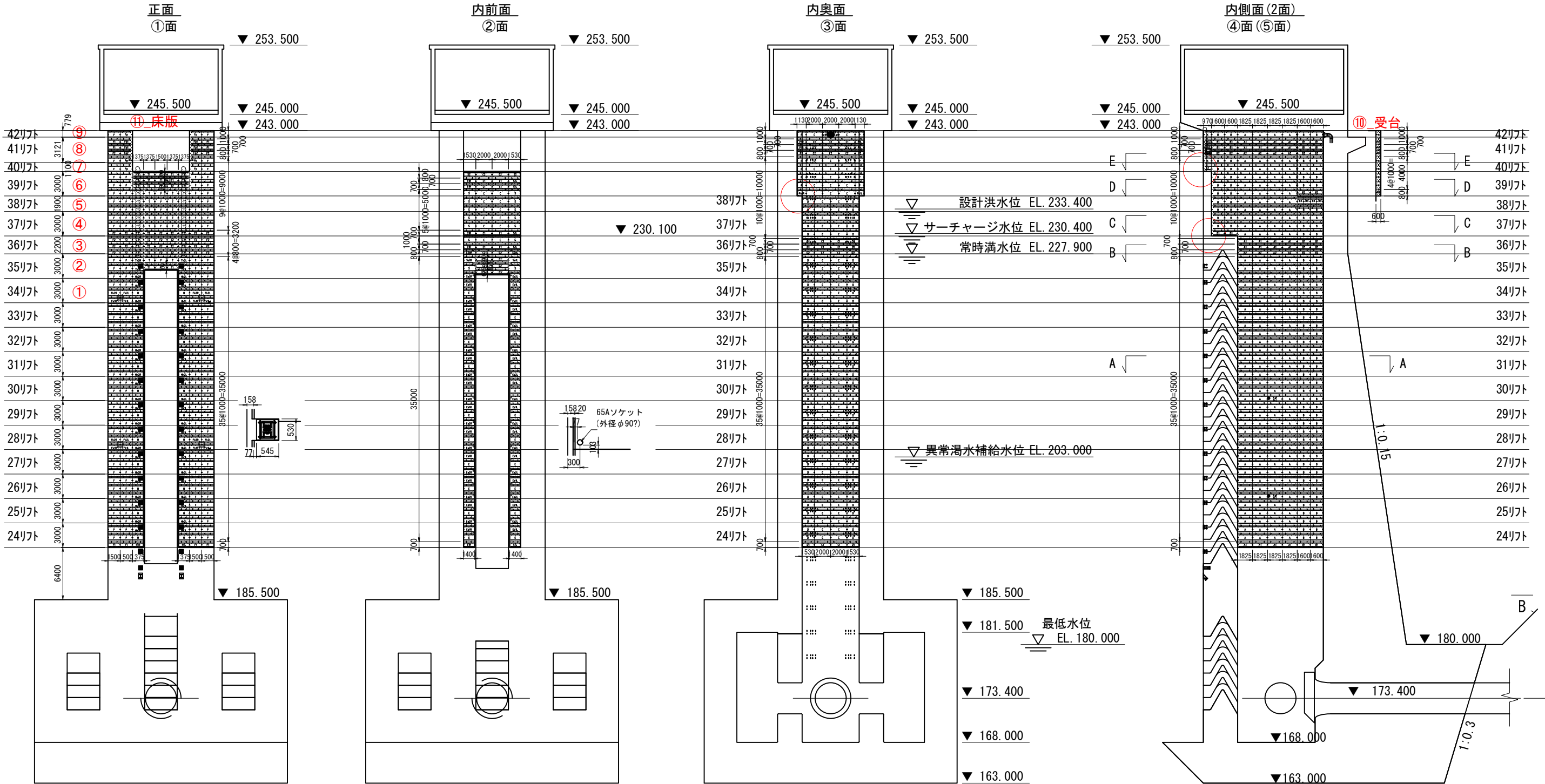
	新規追加	
回	変 更 内 容	
工事名	南摩ダム本体建設工事	
名 称	選択取水塔工 取水設備床板PCI詳細図(14)	
	S=図示	
登録番号	19-10-05	整理番号 参5-12-090
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所		

選択取水塔工
取水設備床板PIC詳細図(1 5)
S=1:2.5



(参考図)	
△5	新規追加
回	変更内容
工事名	南摩ダム本体建設工事
名称	選択取水塔工 取水設備床板PIC詳細図(1 5) S=図示
登録番号	19-16-05
整理番号	参5-12-091
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所	

架台配置見取り図 選択取水塔工 取水設備PIC配置図 S=1/250

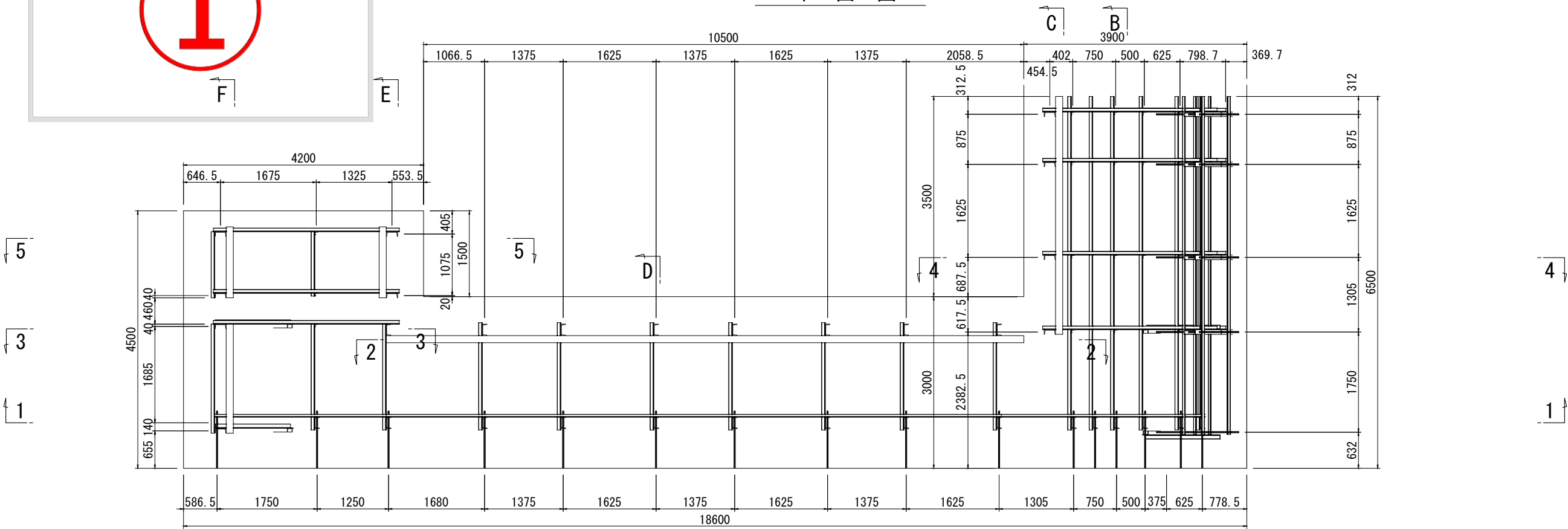


工事名	南摩ダム本体建設工事		
名 称	選択取水塔工 取水設備PCI型枠一般図		
登録番号	19-16-05	整理番号	05-15-030
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所			

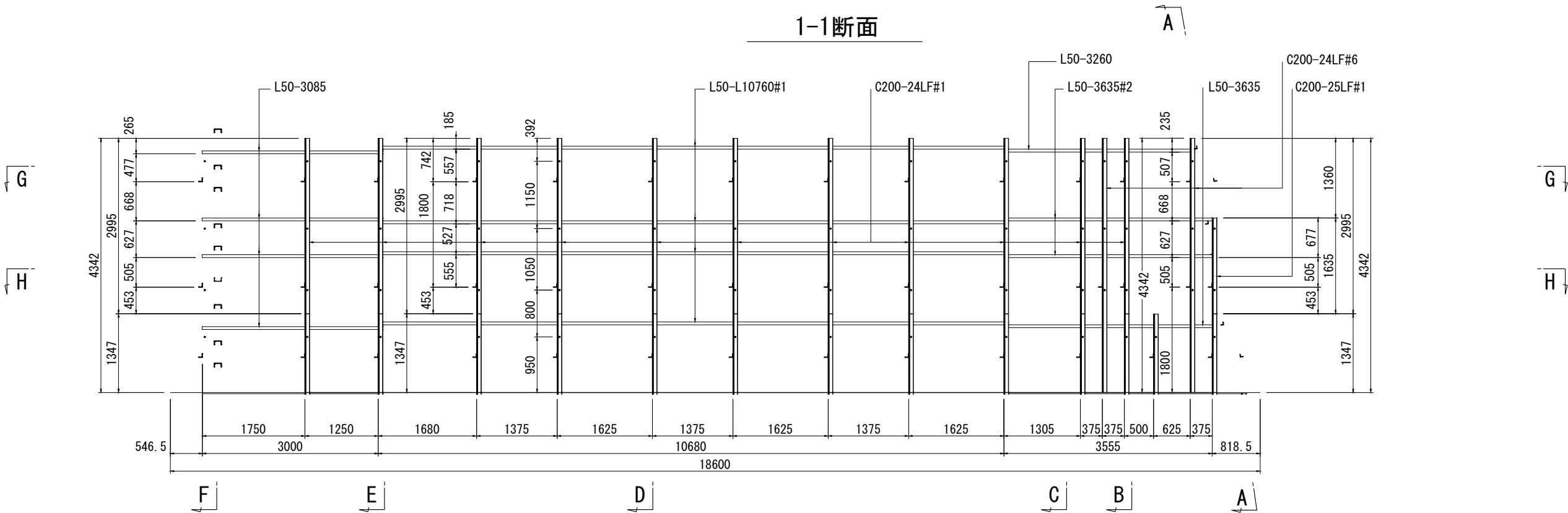
セパレーター架台構造図 (34LF)

S=1:75

平面図



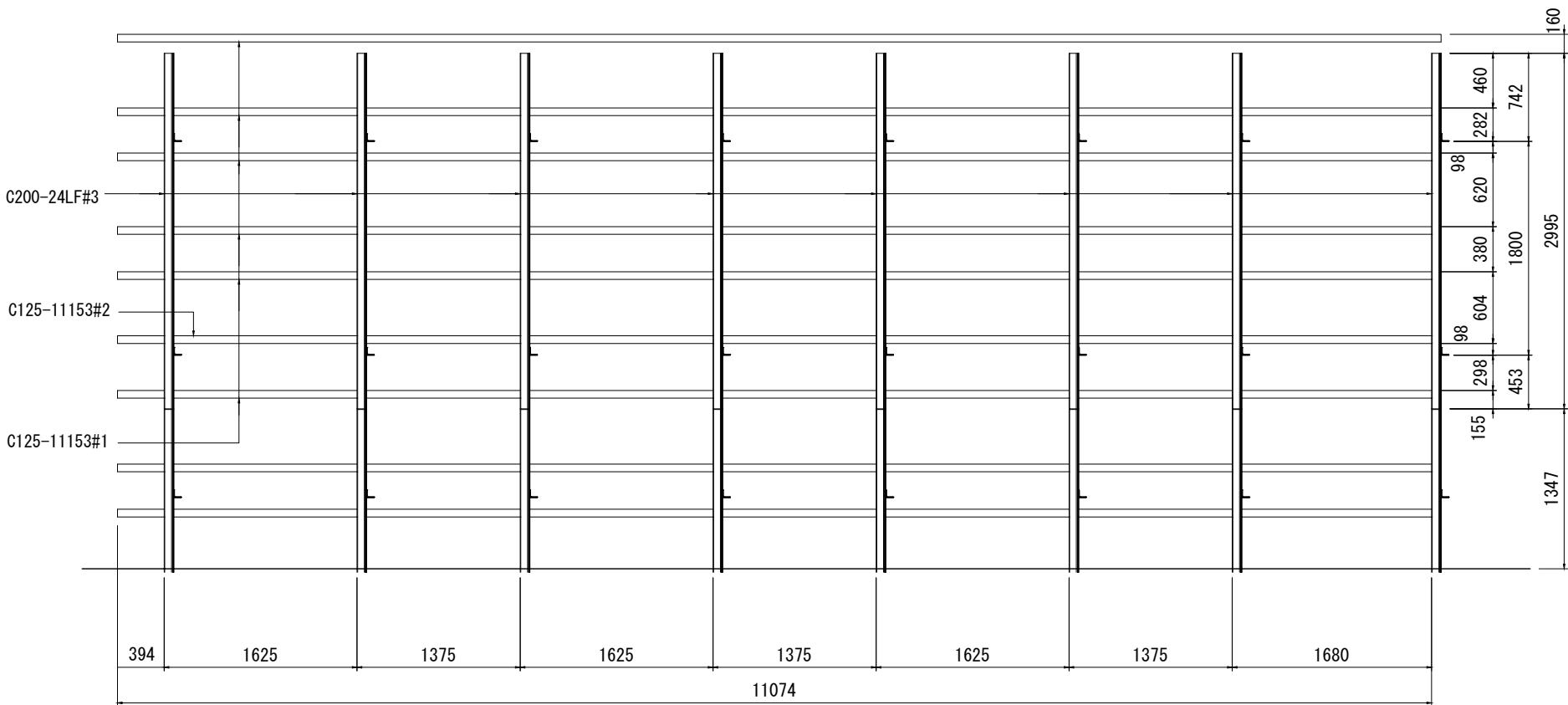
1-1断面



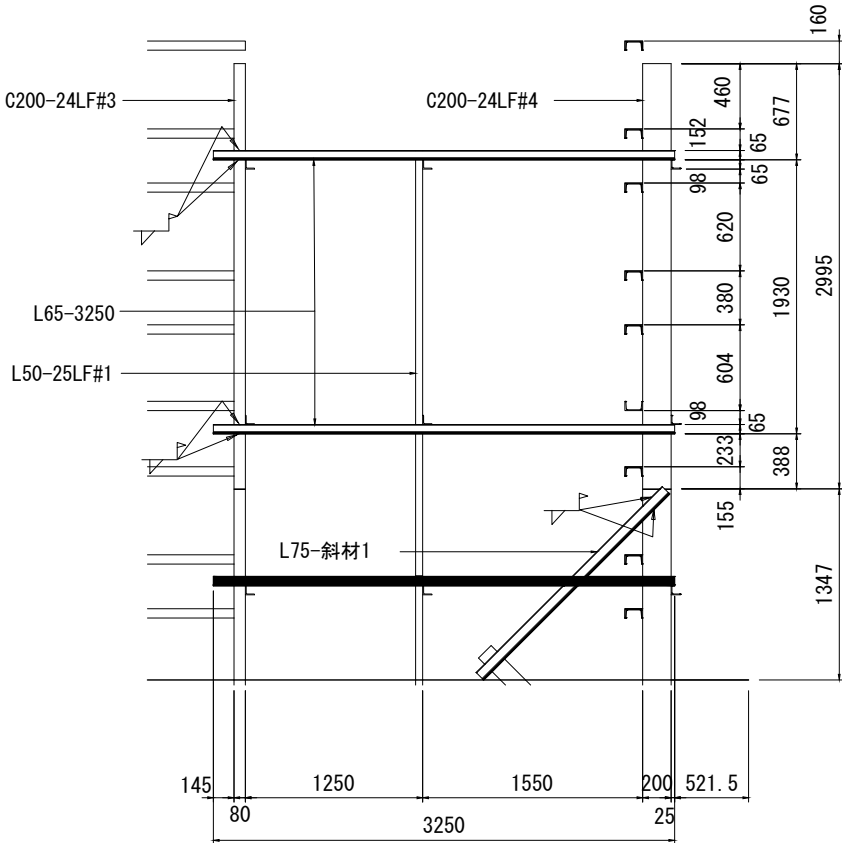
セパレーター架台詳細図(1) (34LF)

S=1:50

2-2断面



3-3断面

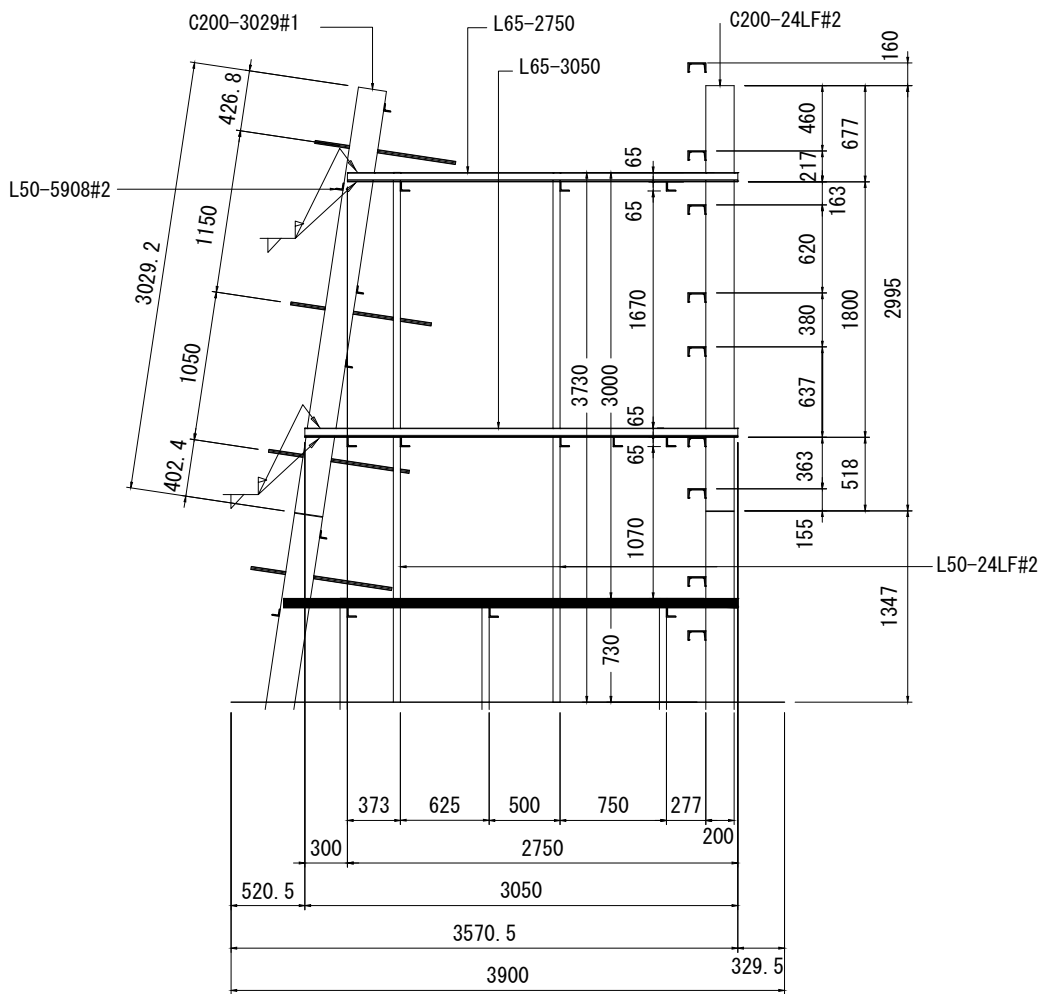


- 特記事項
- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
 - ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、ヤッチクランプ＋単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
 - ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
 - ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
 - ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、
ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
 - ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
 - ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、
可能であれば上部で再利用する
 - ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと

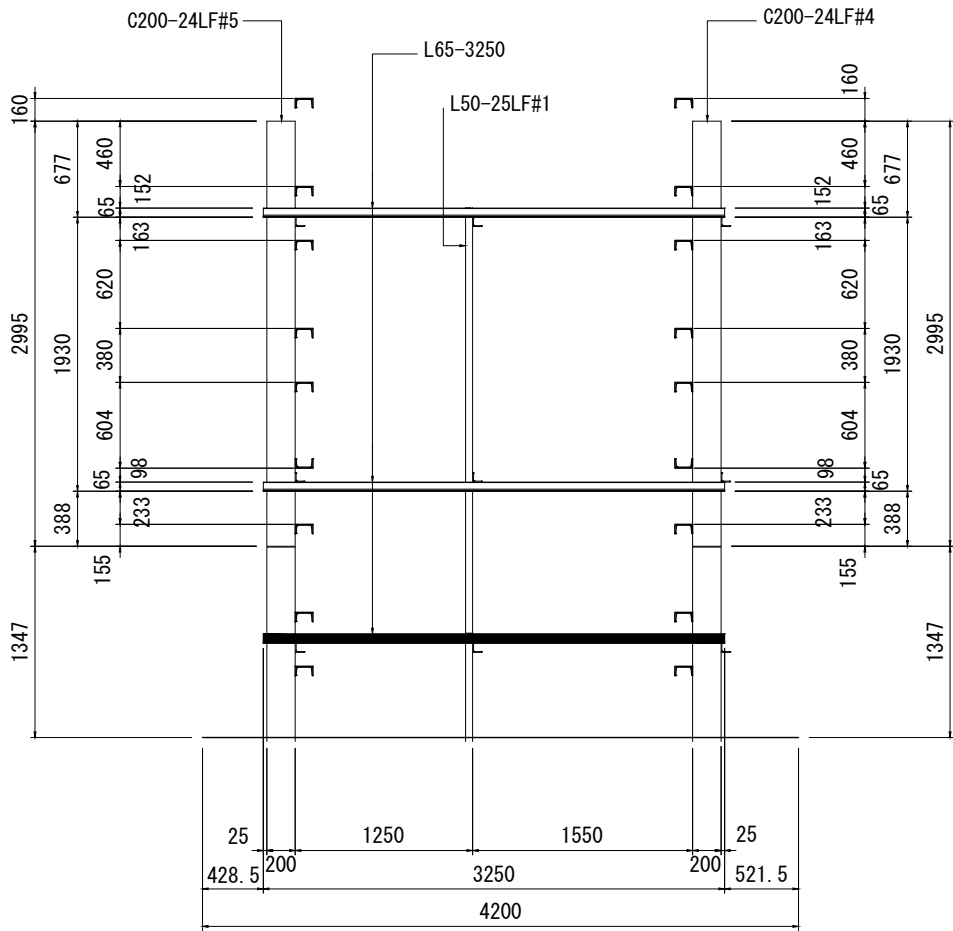
セパレーター架台詳細図(2) (34LF)

S=1:50

4-4断面



5-5断面

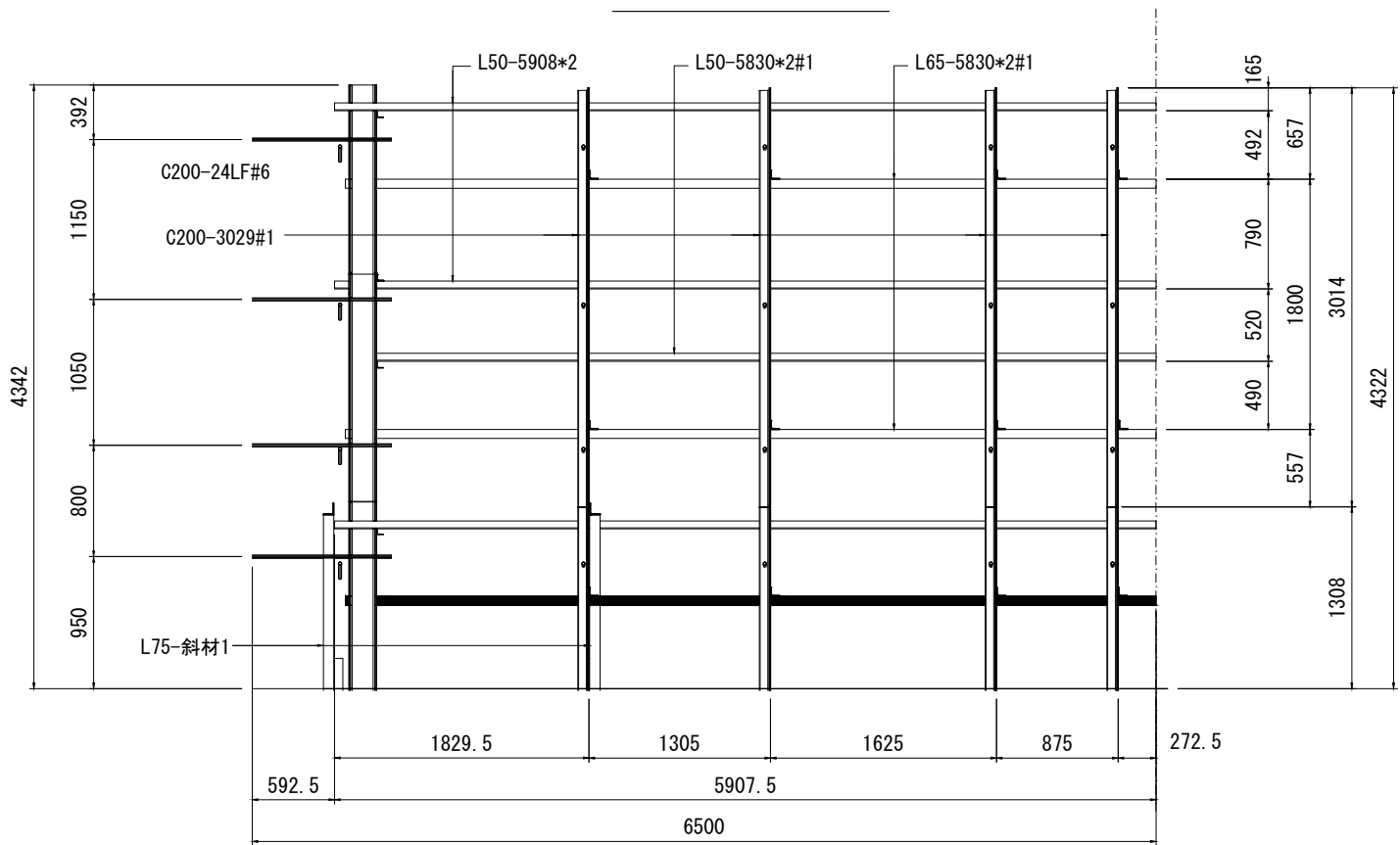


- 特記事項
- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントに
よって延長する。詳細は別図参照。
 - ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、ヤツチラソフ+単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
 - ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
 - ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
 - ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、
ウェブ部は溶接固定とする。セパ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
 - ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレーターを溶接するため、向きに注意すること
 - ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、
可能であれば上部で再利用する

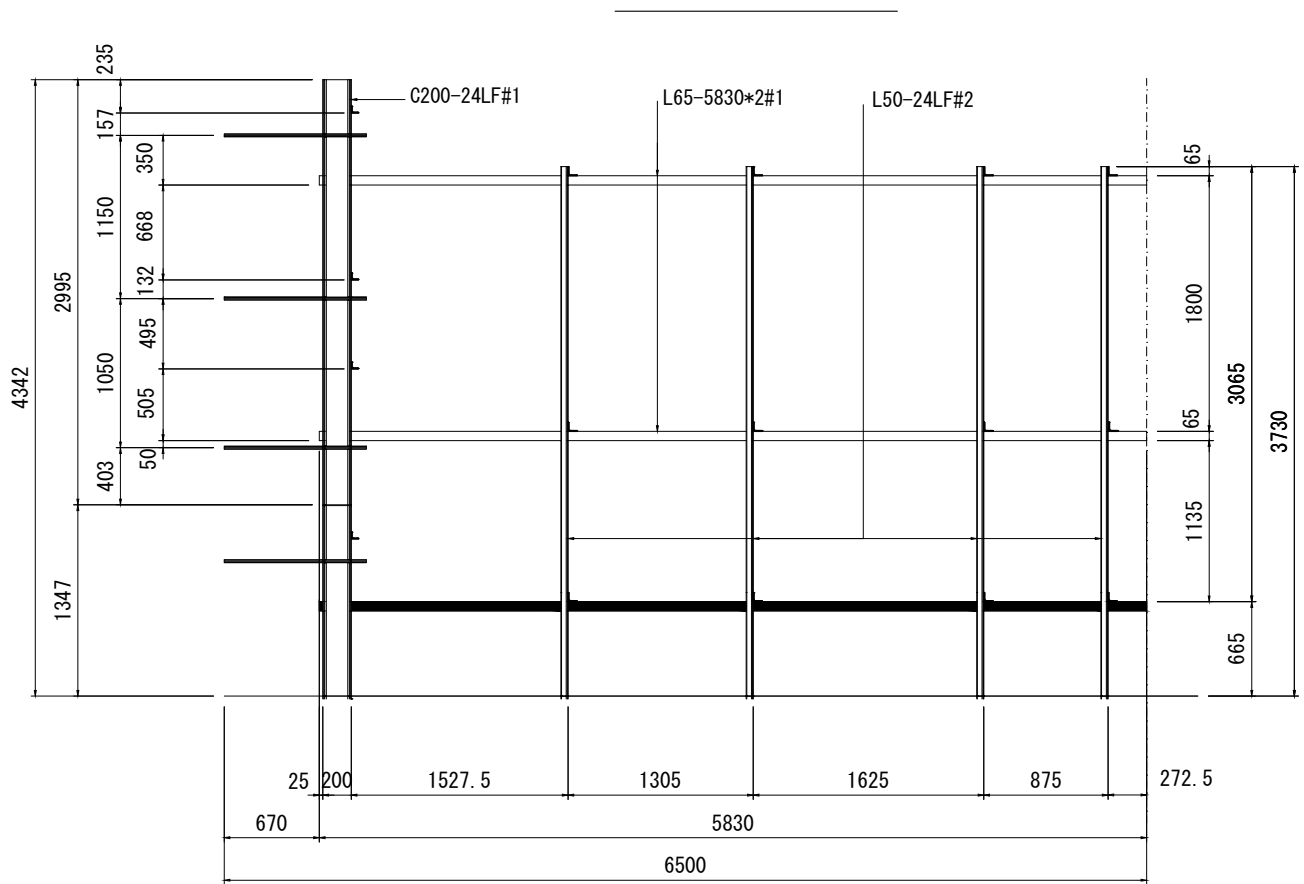
セパレーター架台詳細図(3) (34LF)

S=1:50

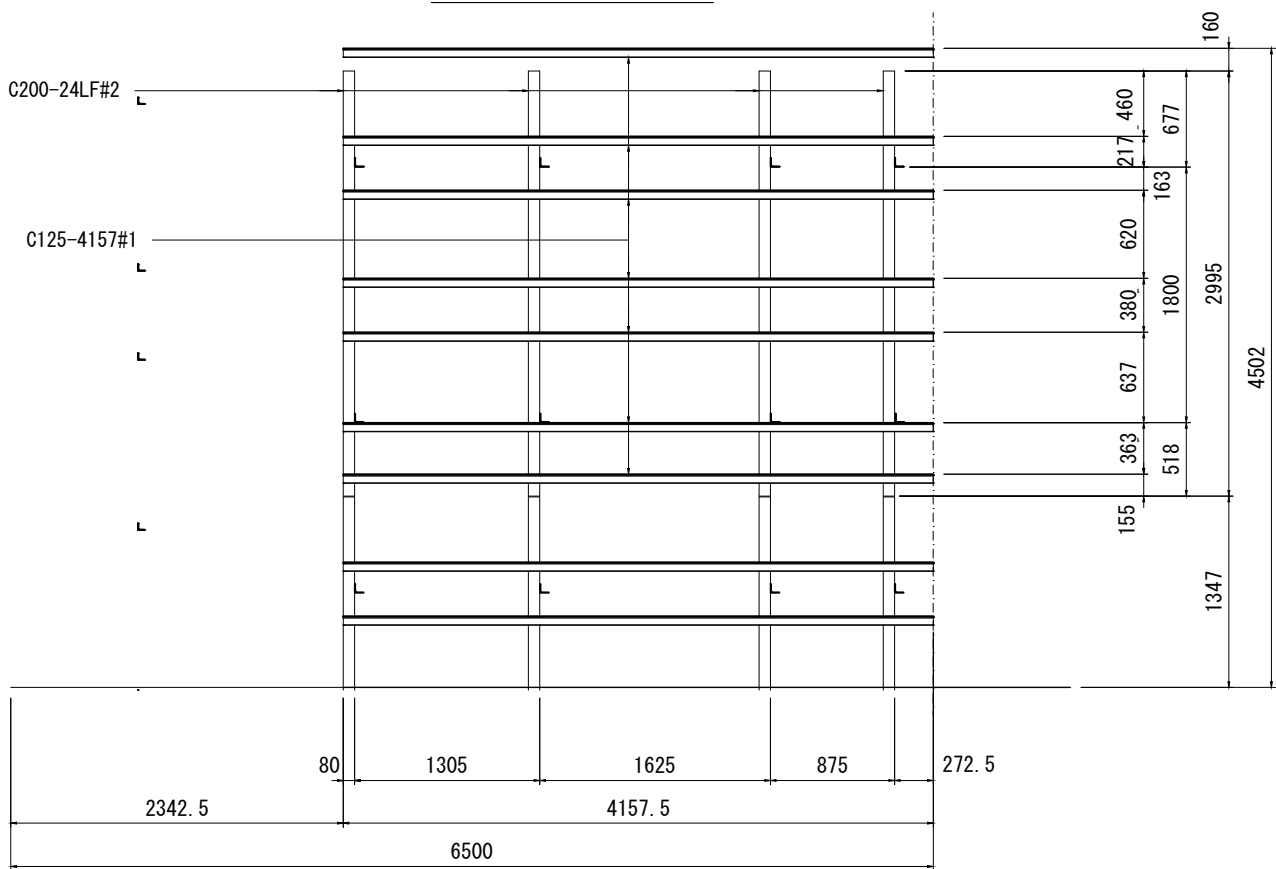
A-A断面



B-B断面



C-C断面



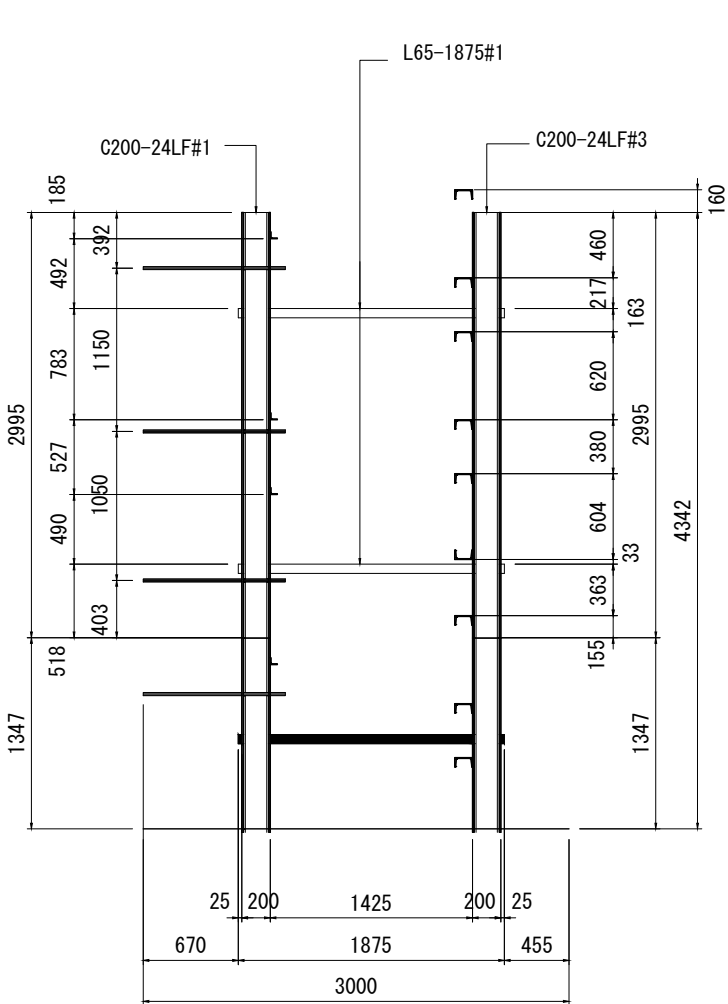
特記事項

- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キャッチアップ+単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、
ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
- ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
- ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、
可能であれば上部で再利用する
- ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと

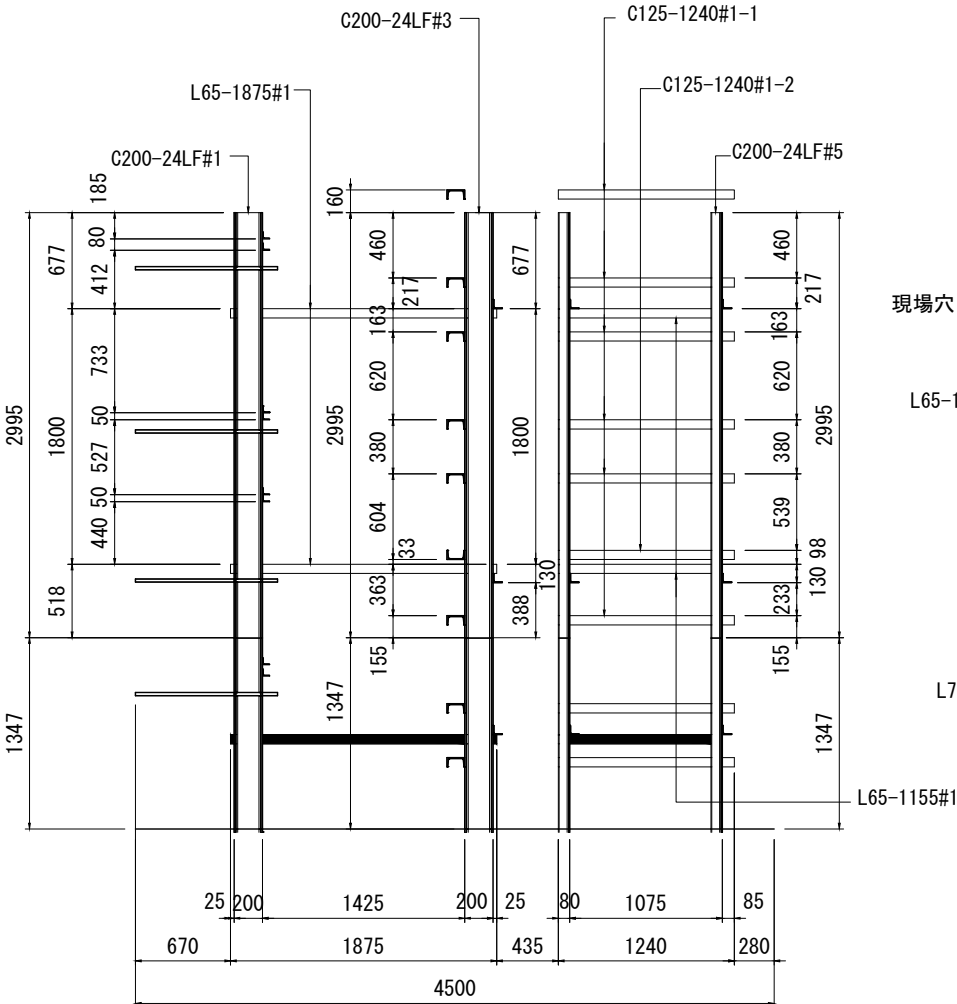
セパレーター架台詳細図(4) (34LF)

S=1:50

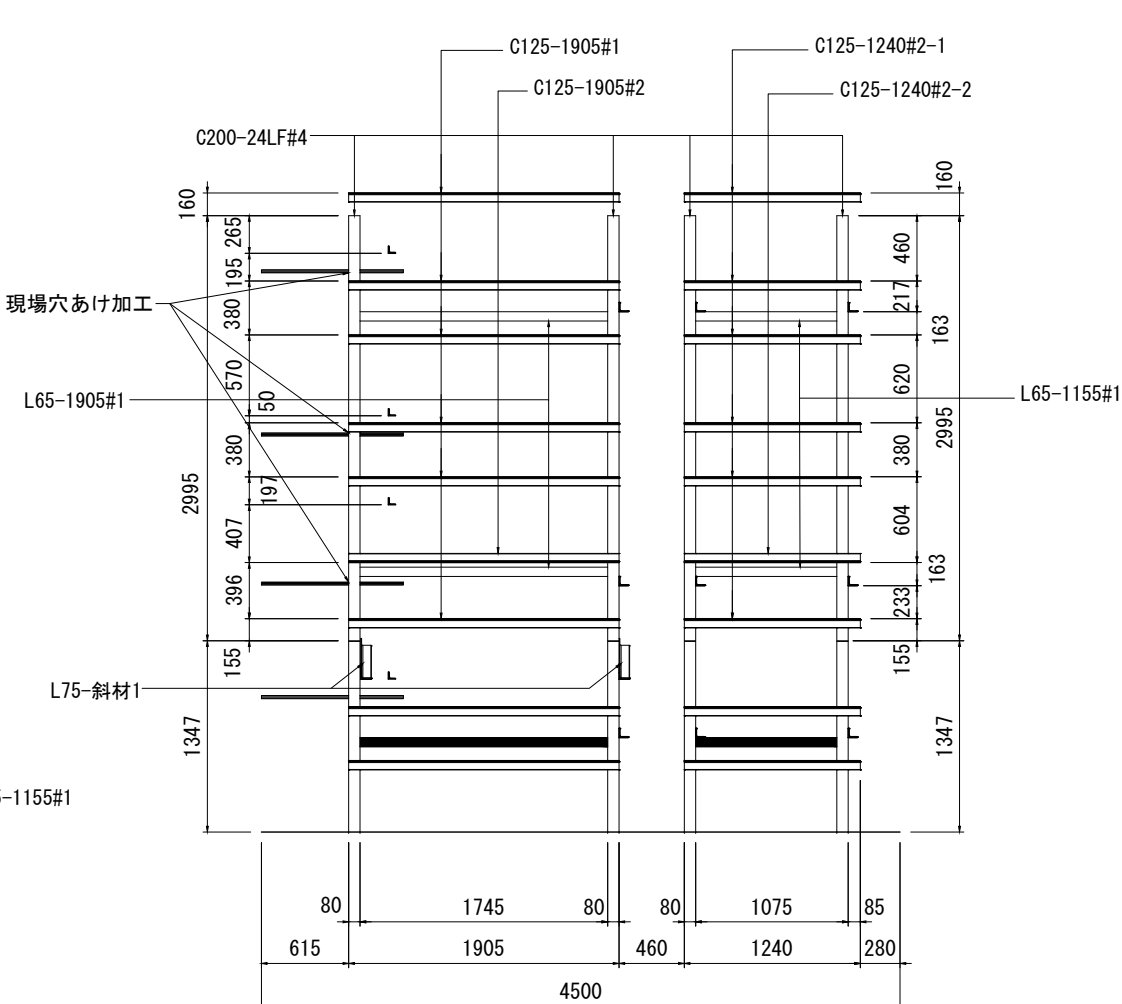
D-D断面



E-E断面



F-F断面

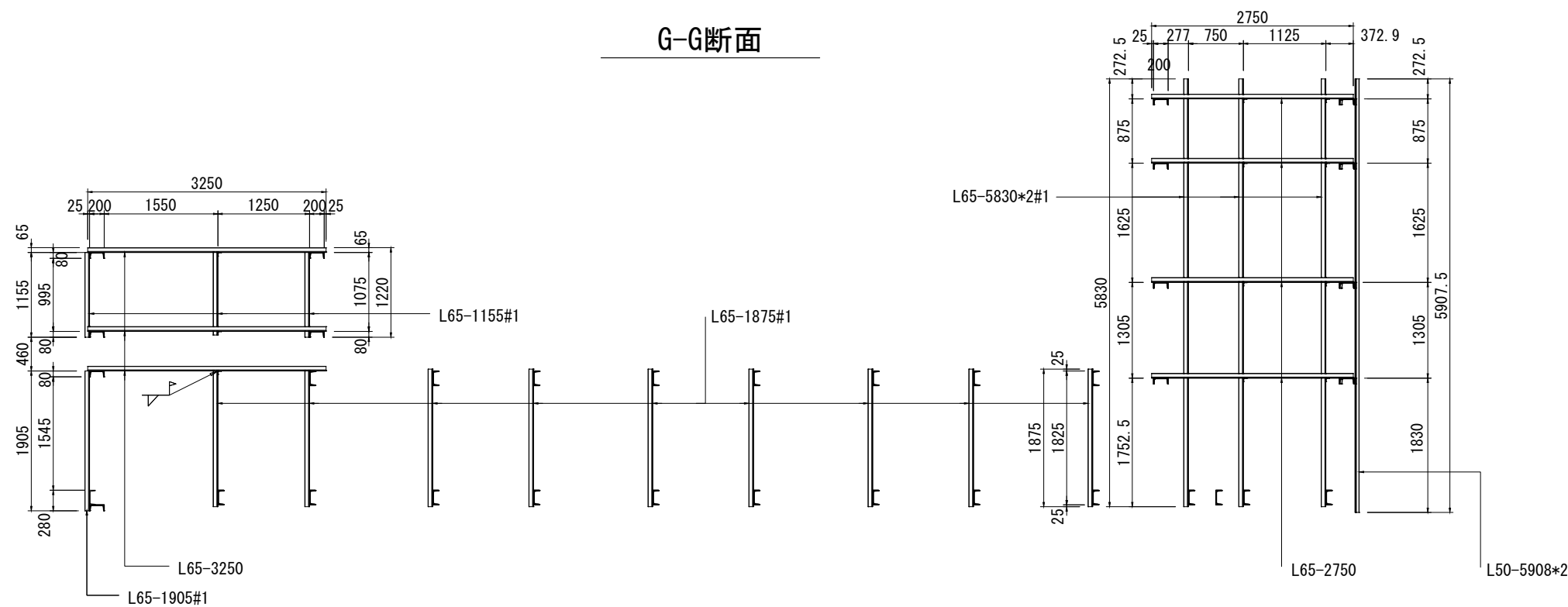


- 特記事項
- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
 - ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A: 添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B: 添接板のみ固定し、キャタラング+単管を手摺として固定する。リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
 - ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
 - ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
 - ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
 - ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
 - ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、
可能であれば上部で再利用する
 - ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと
 - ⑨EL+1.8mのL65-1520とL65-1890は鉄筋組立完了後、打設までに溶接して接合すること

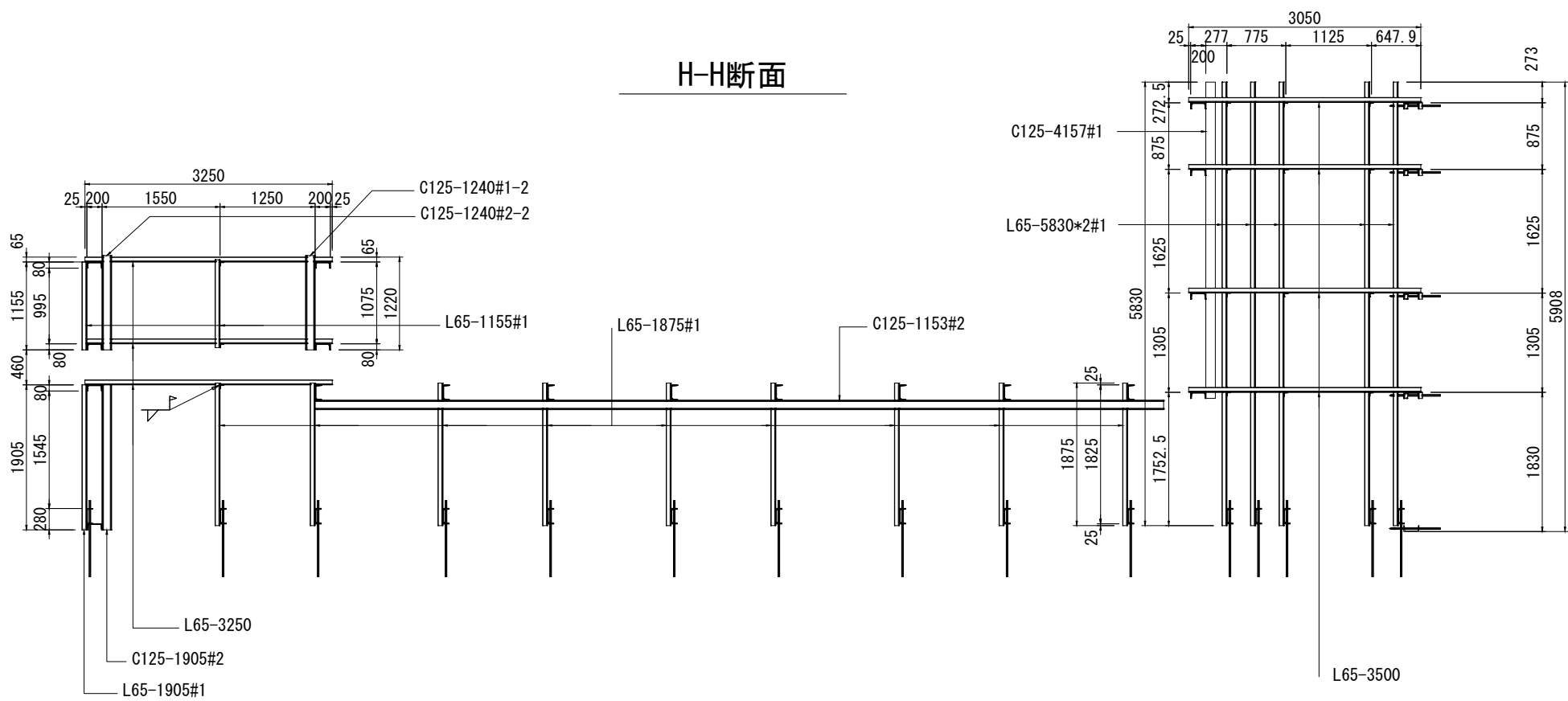
セパレーター架台詳細図(5) (34LF)

S=1:75

G-G断面



H-H断面

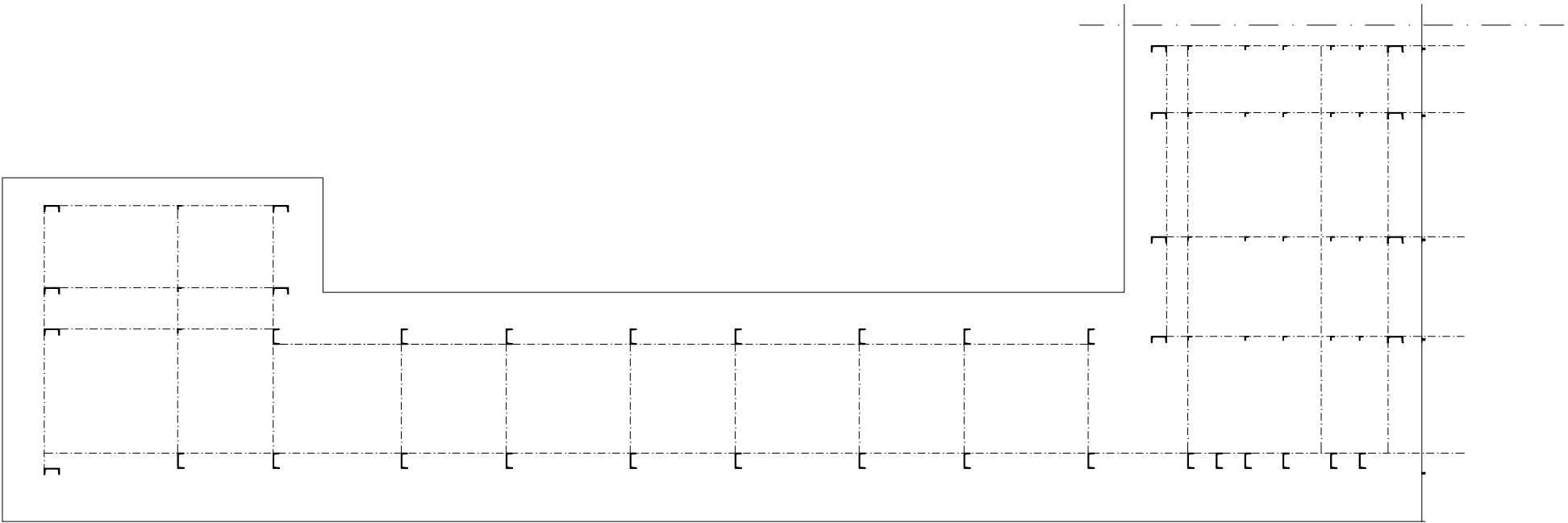


- 特記事項
- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
 - ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合する。方法は以下のいずれかとする。
 - A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
 - B：添接板のみ固定し、キャッチアップ+単管を手摺として固定する。次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
 - ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
 - C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
 - C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
 - L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
 - ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
 - 普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
 - HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
 - ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
 - A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
 - B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セパ溶接時に実施のこと。
 - C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。

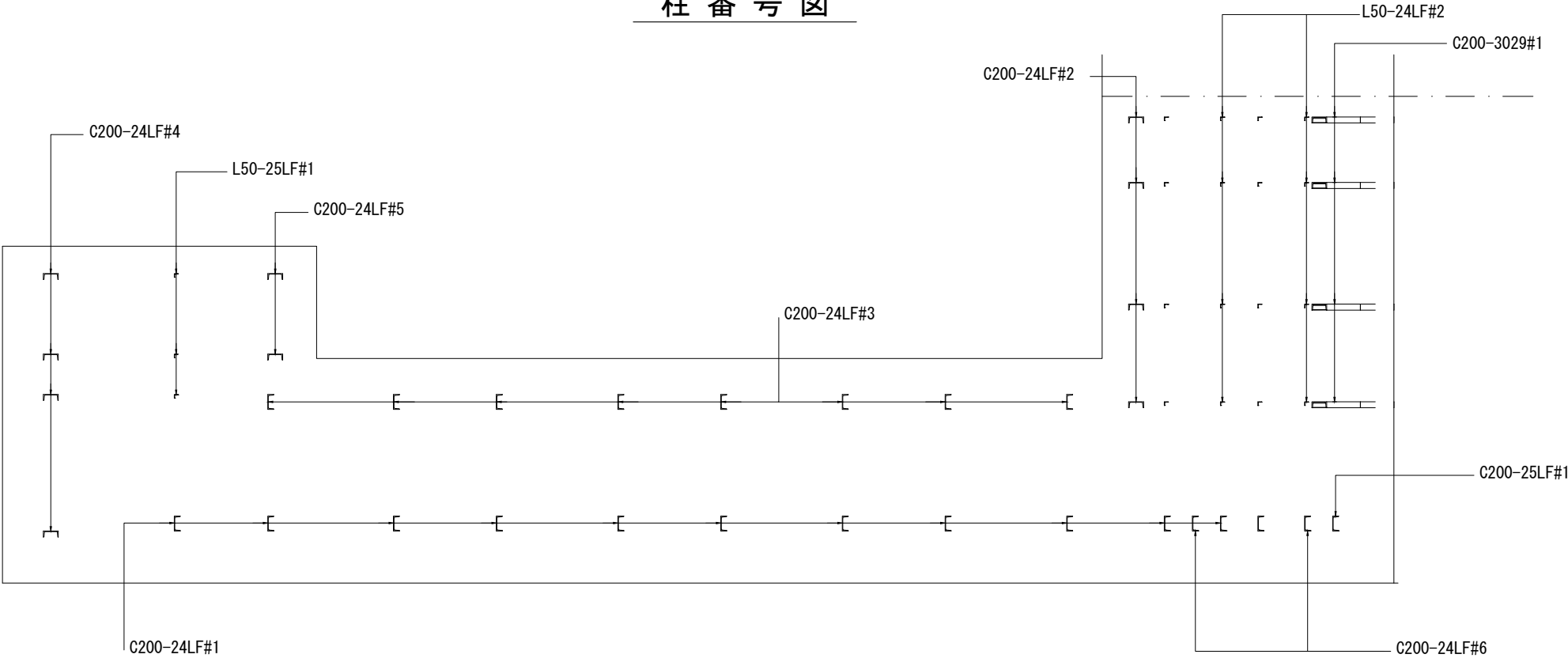
セパレーター架台詳細図(6) (34LF)

C200-24LF#1

柱 伏 図



柱 番 号 図

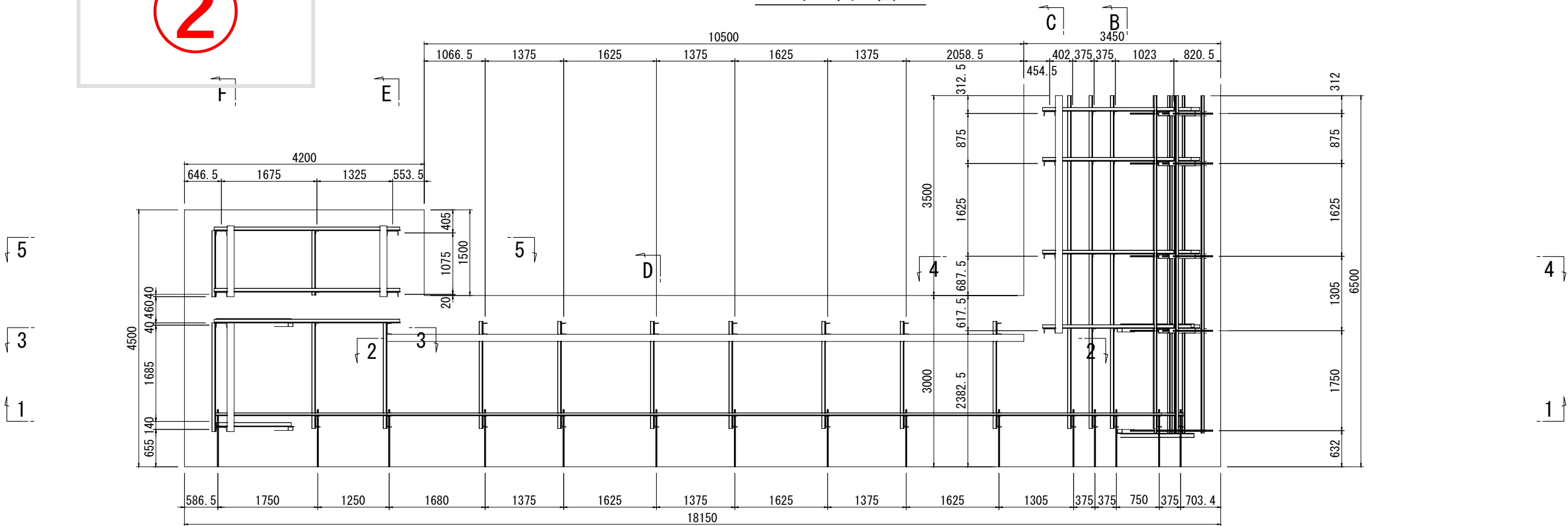


- 特記事項
- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用
したボルトジョイントによって延長する。詳細は別
図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接
板に接合する。方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込
んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キャッチアップ + 単管を手摺
として固定する。次リフト時に単管を撤去し、柱材
を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定
をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め
(フランジ部は1点)
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶
接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで
20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで
142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ
部は溶接固定とする。セパ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施
すること。

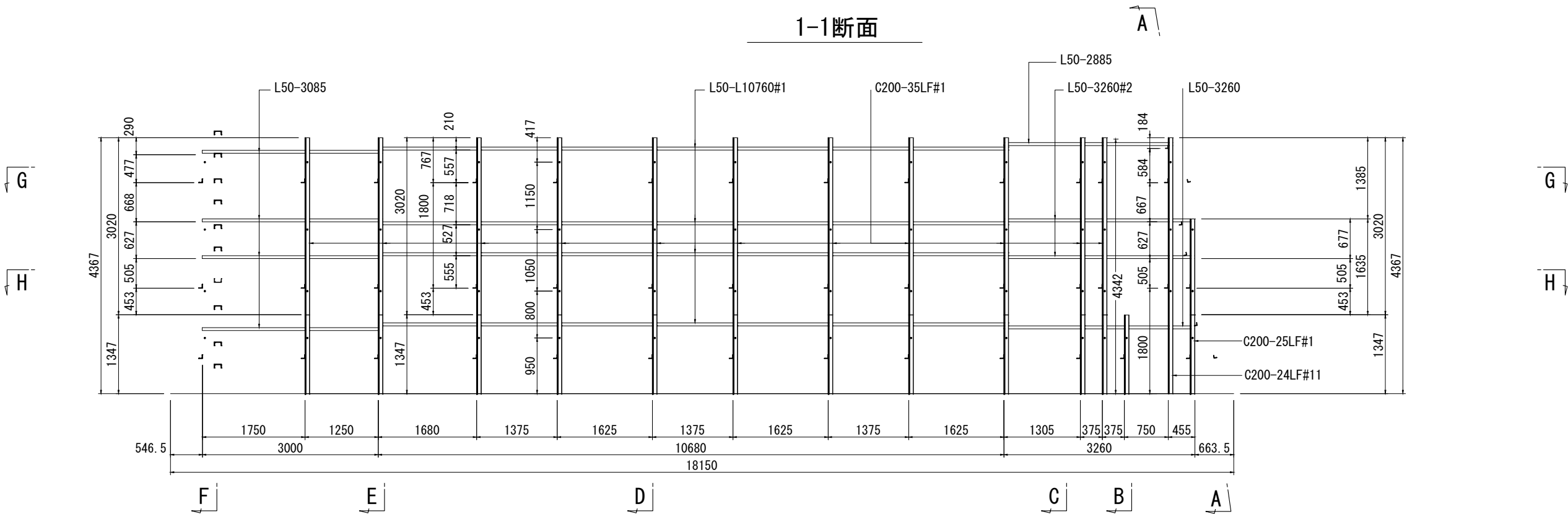
セパレーター架台構造図 (35LF)

S=1:75

平面図



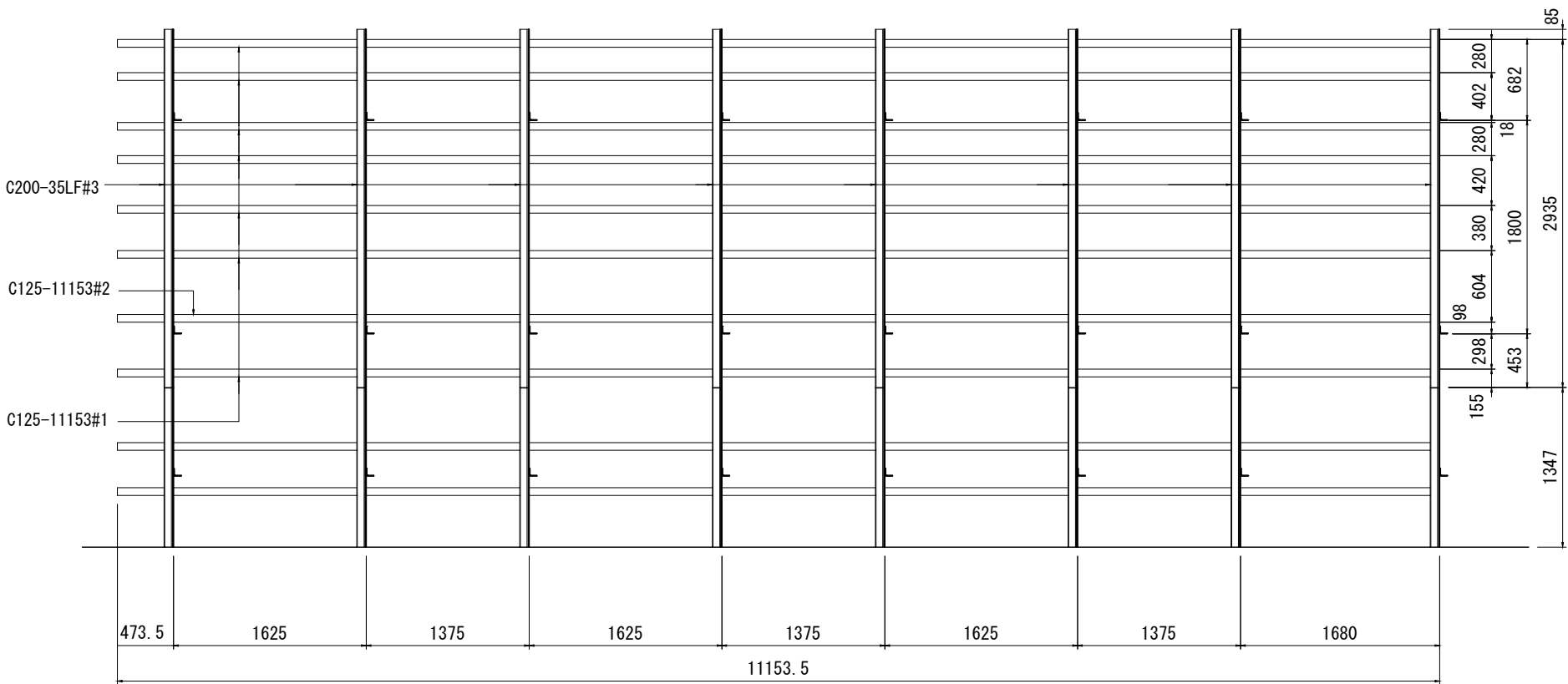
1-1断面



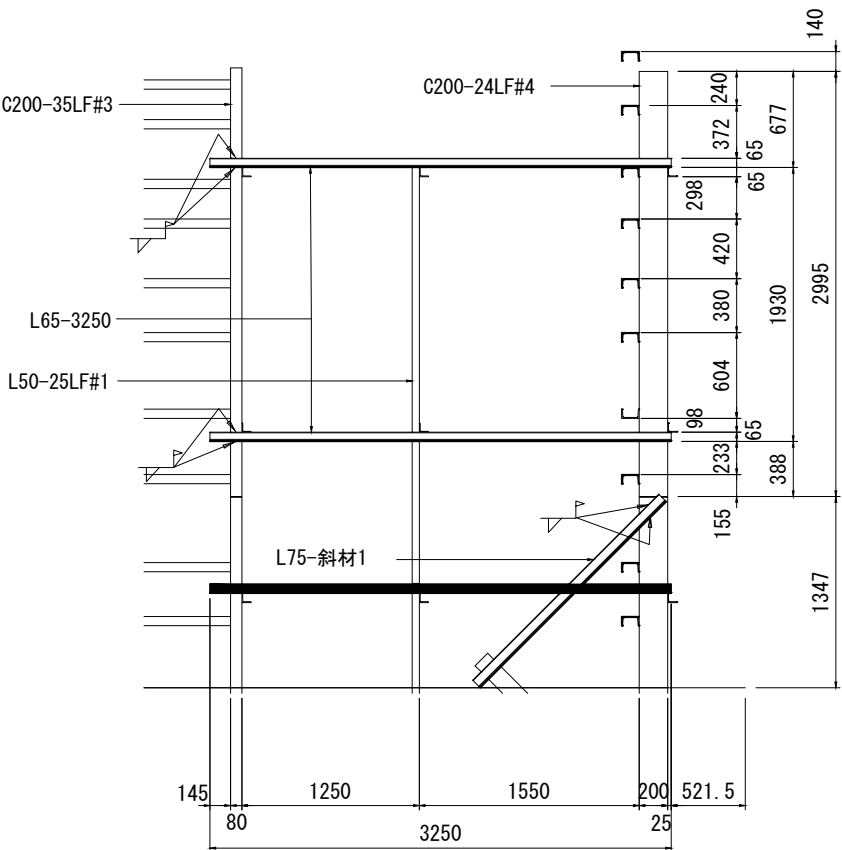
セパレーター架台詳細図(1) (35LF)

S=1:50

2-2断面



3-3断面

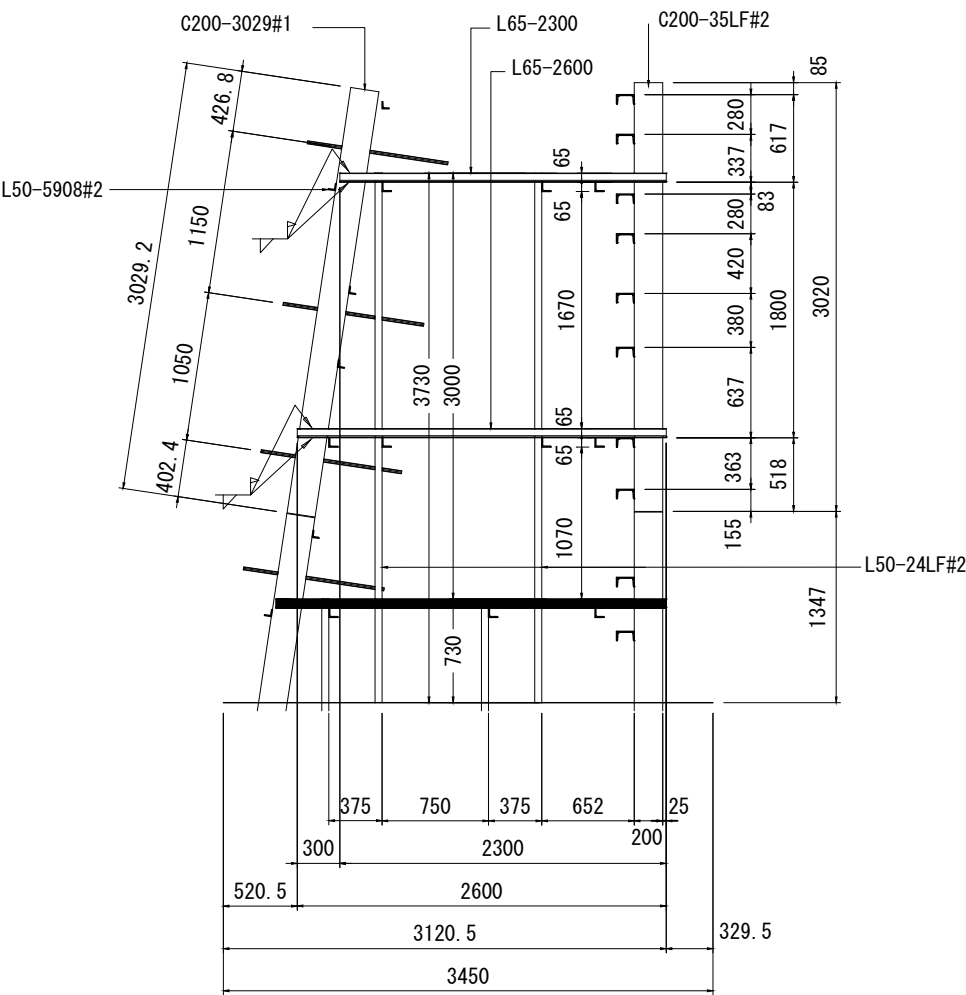


- 特記事項
- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キックアップ+単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、
ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
- ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
- ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、
可能であれば上部で再利用する
- ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと

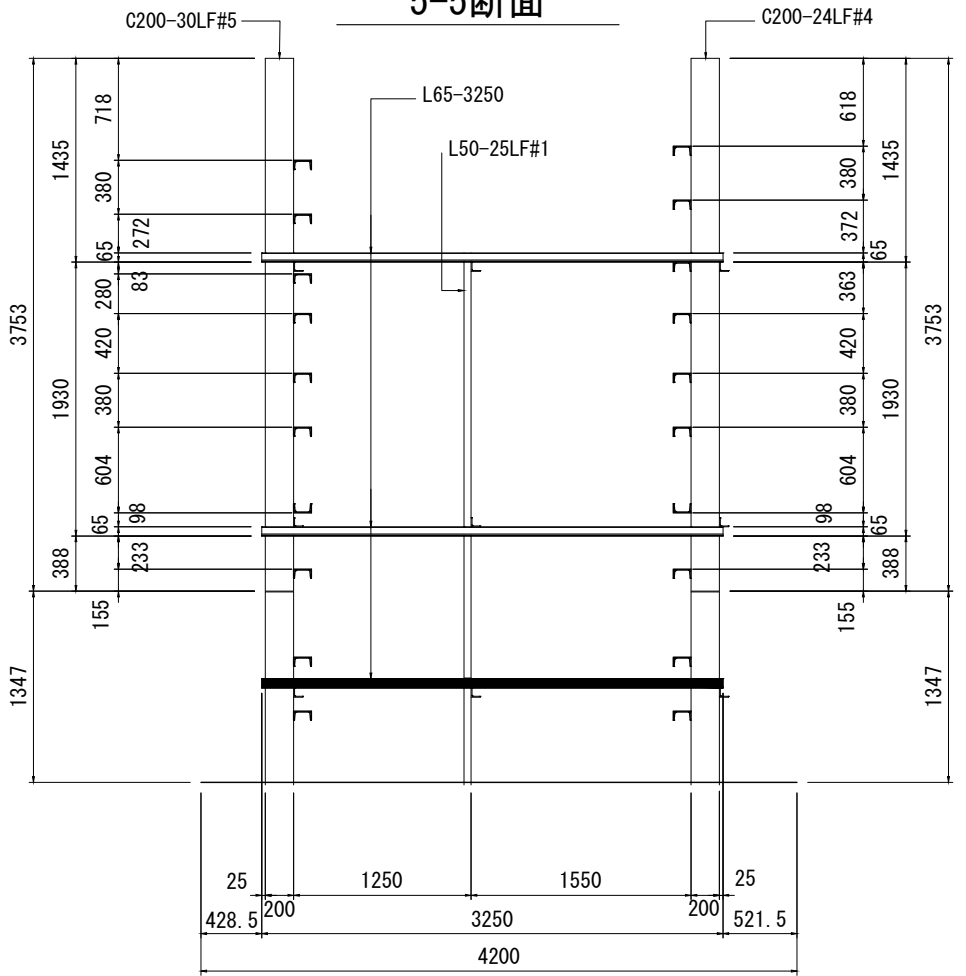
セパレーター架台詳細図(2) (35LF)

S=1:50

4-4断面



5-5断面

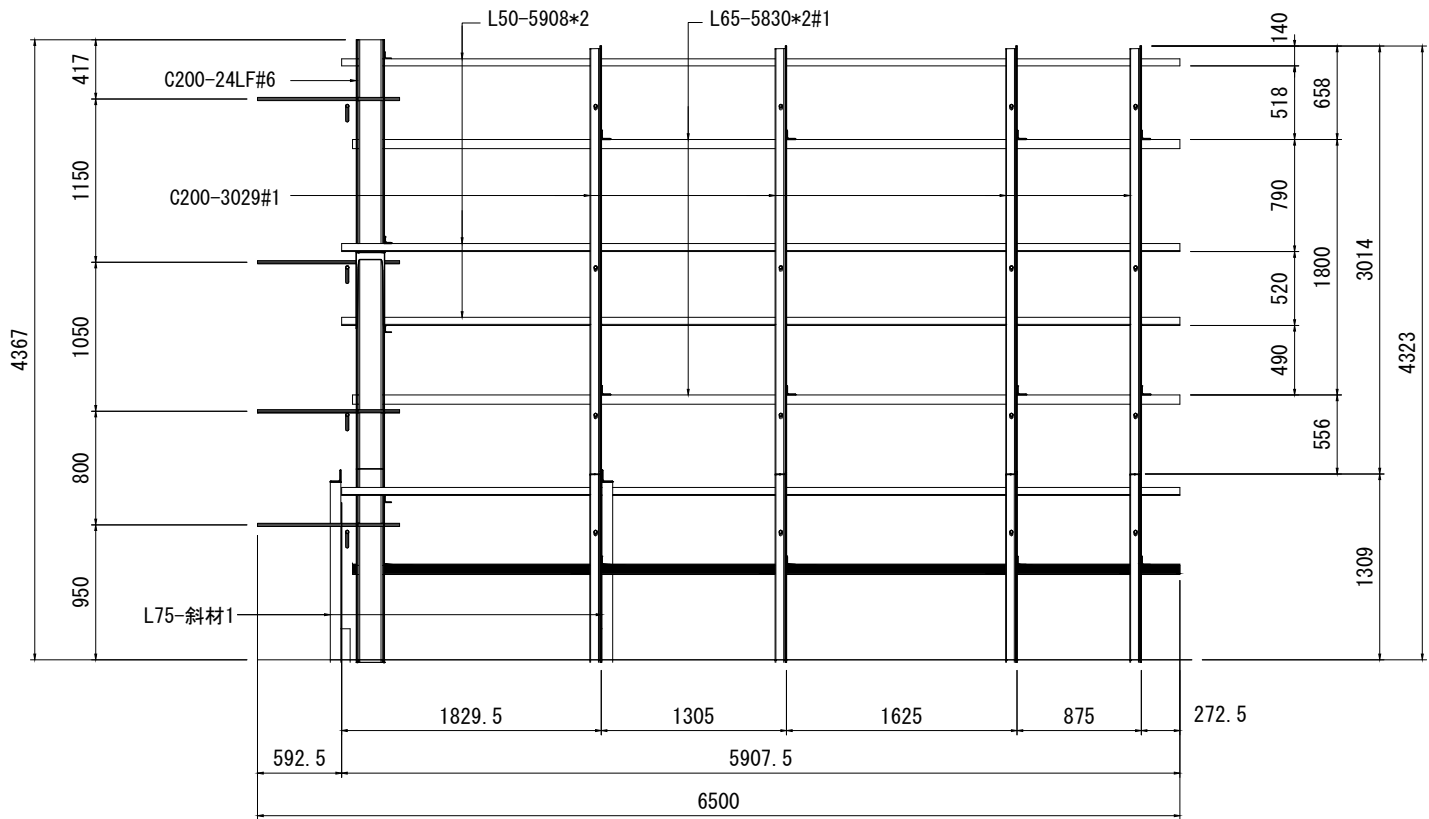


- 特記事項
- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
 - ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キャッチアップ+単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
 - ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
 - ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
 - ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
 - ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
 - ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、可能であれば上部で再利用する

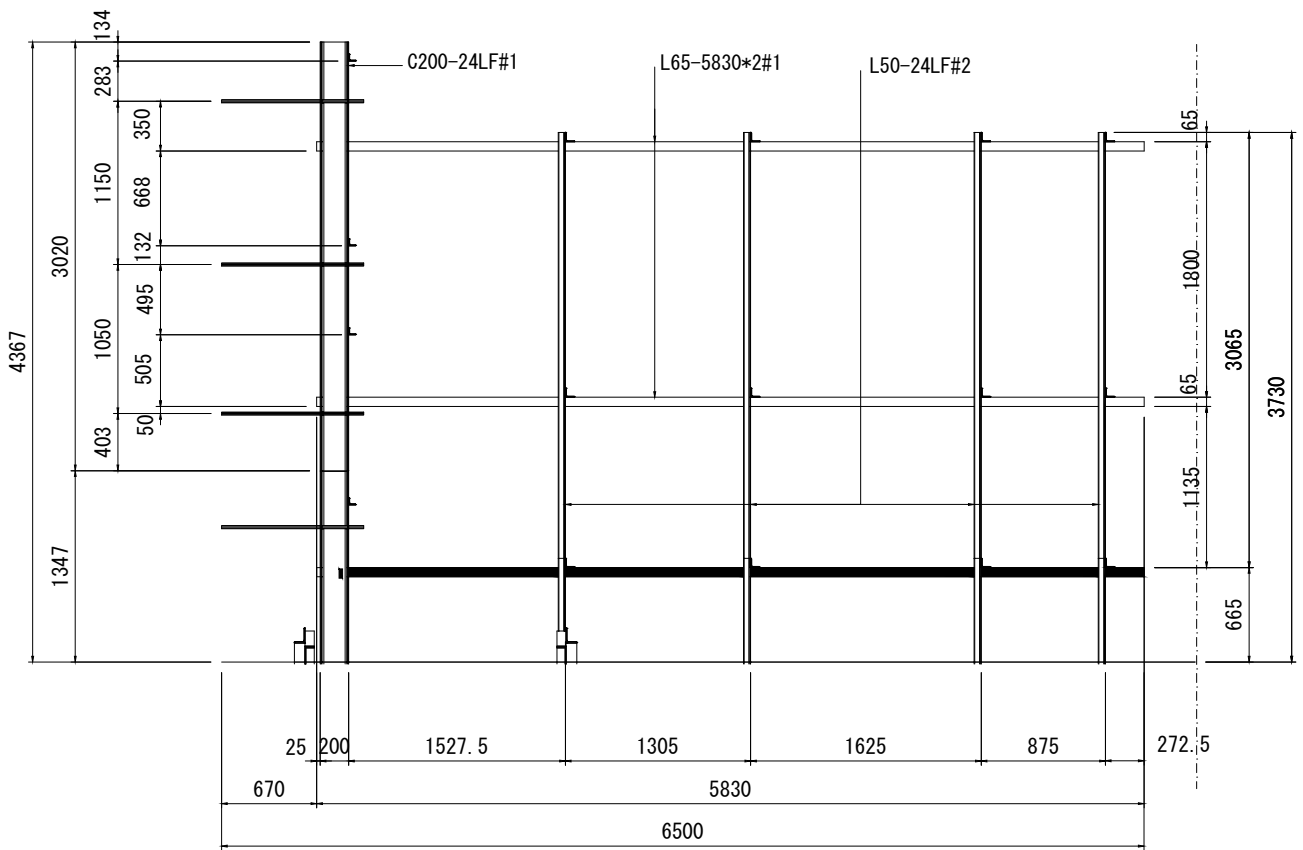
セパレーター架台詳細図(3) (35LF)

S=1:50

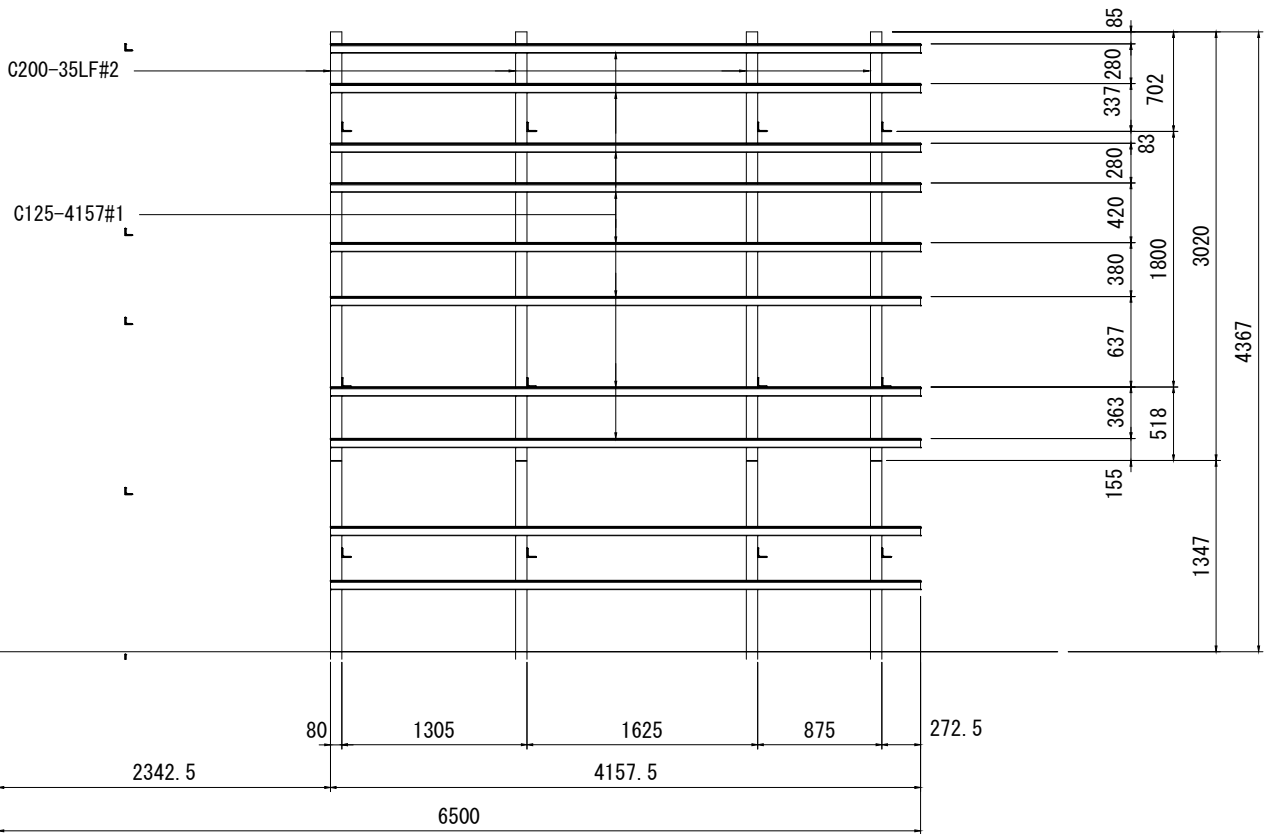
A-A断面



B-B断面



C-C断面



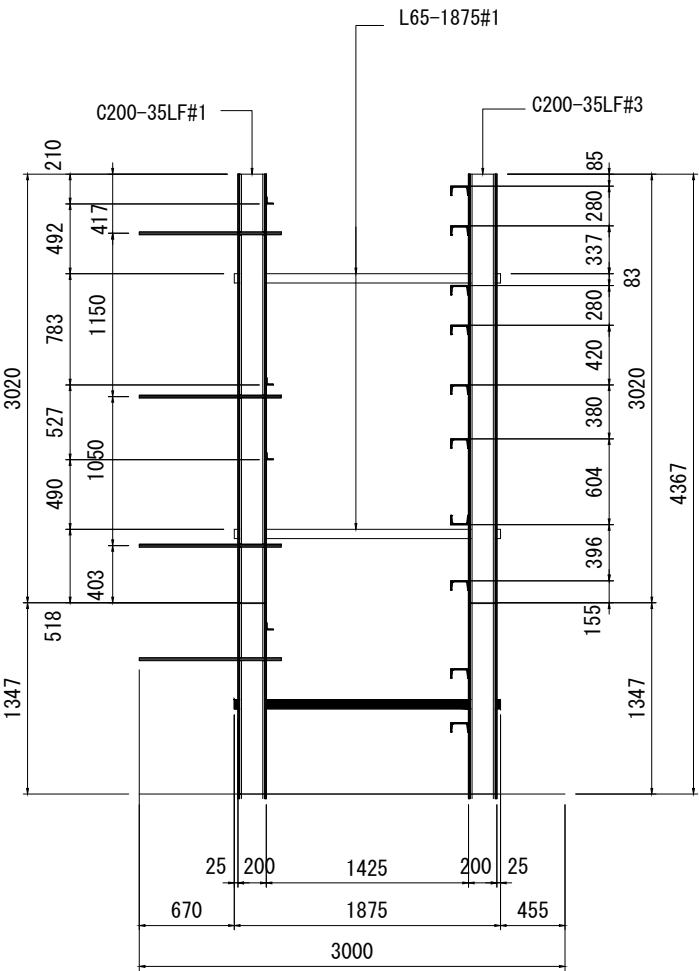
特記事項

- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キックアップ + 単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
- ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
- ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、可能であれば上部で再利用する
- ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと

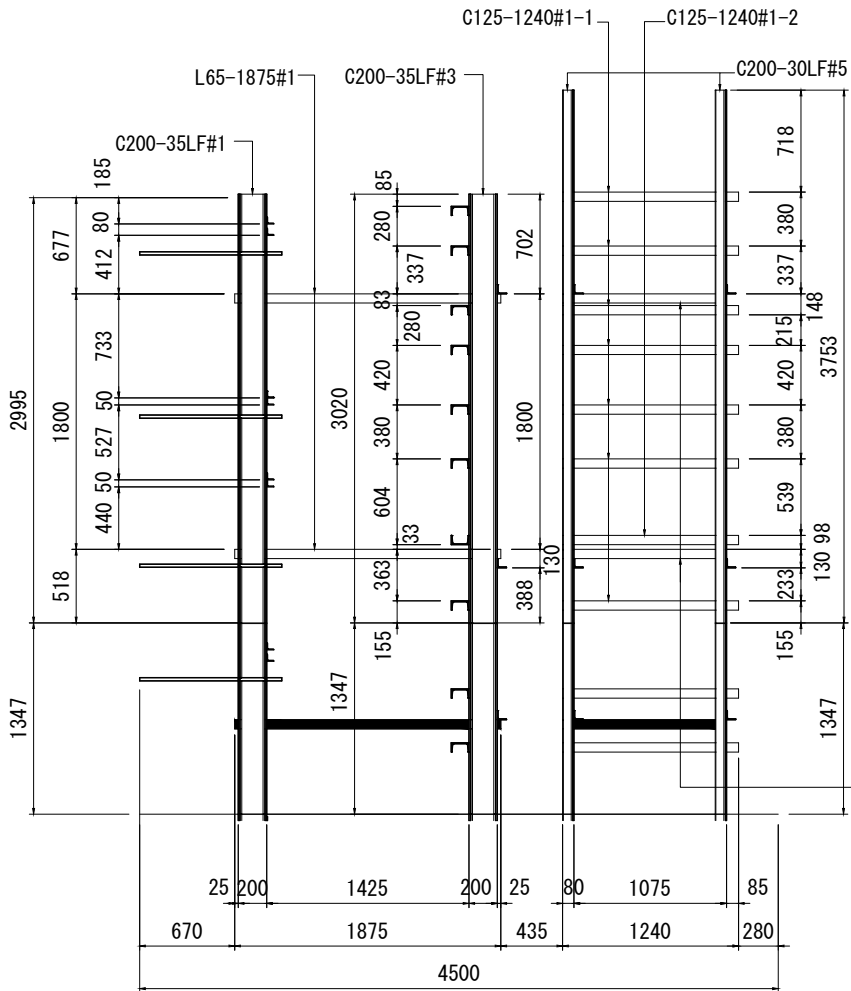
セパレーター架台詳細図(4) (35LF)

S=1:50

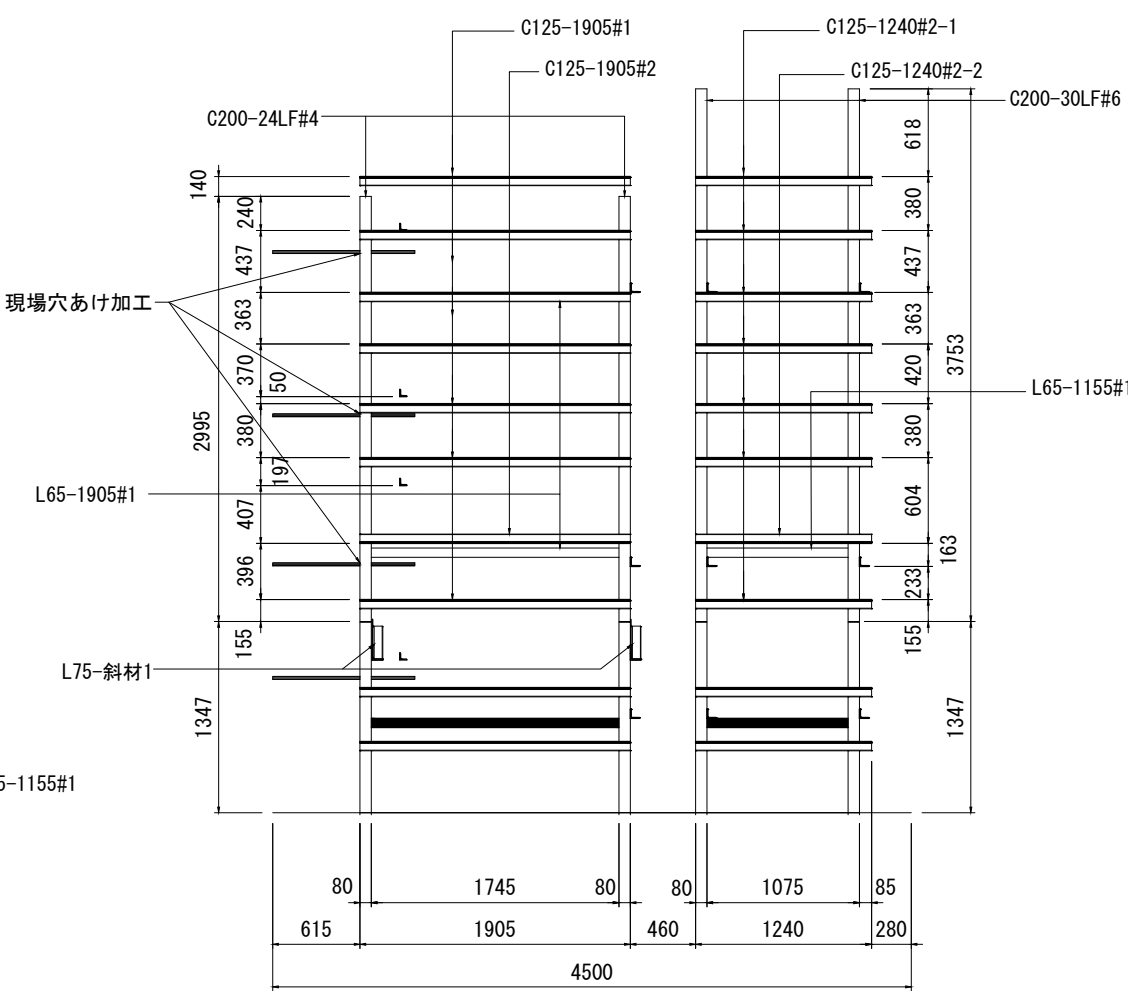
D-D断面



E-E断面



F-F断面

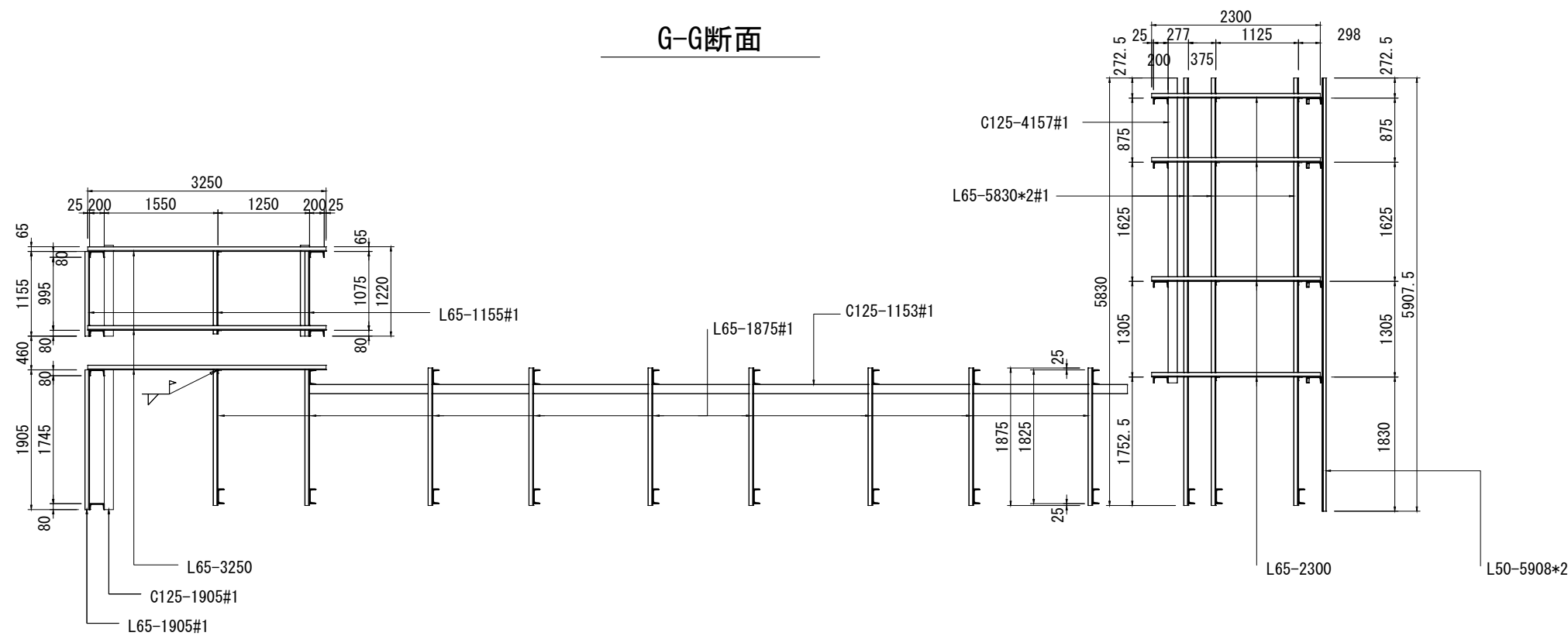


- 特記事項
- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
 - ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A: 添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B: 添接板のみ固定し、キャッチラング+単管を手摺として固定する。リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
 - ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め (フランジ部は1点)
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
 - ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
 - ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
 - ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
 - ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、
可能であれば上部で再利用する
 - ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと
 - ⑨EL+1.8mのL65-1520とL65-1890は鉄筋組立完了後、打設までに溶接して接合すること

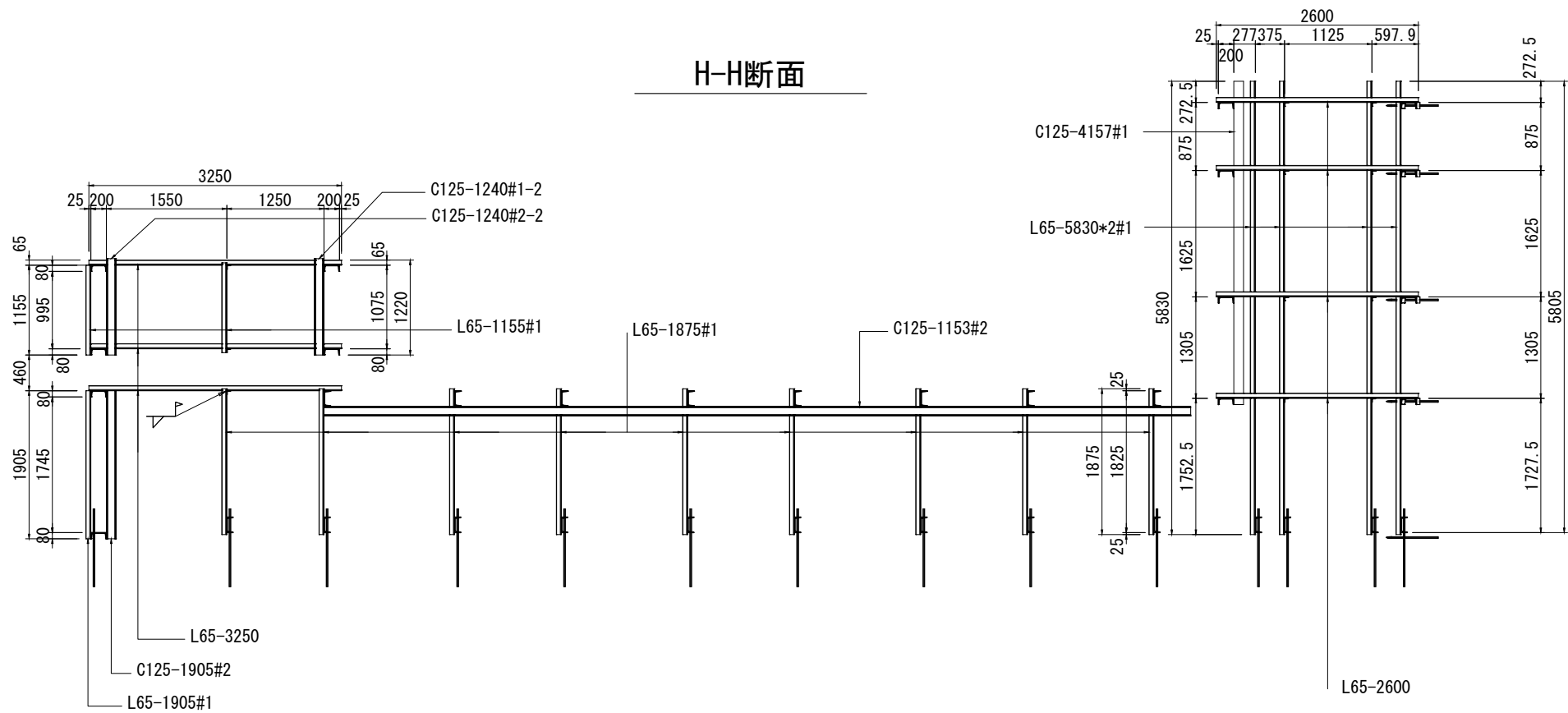
セパレーター架台詳細図(5) (35LF)

S=1:75

G-G断面



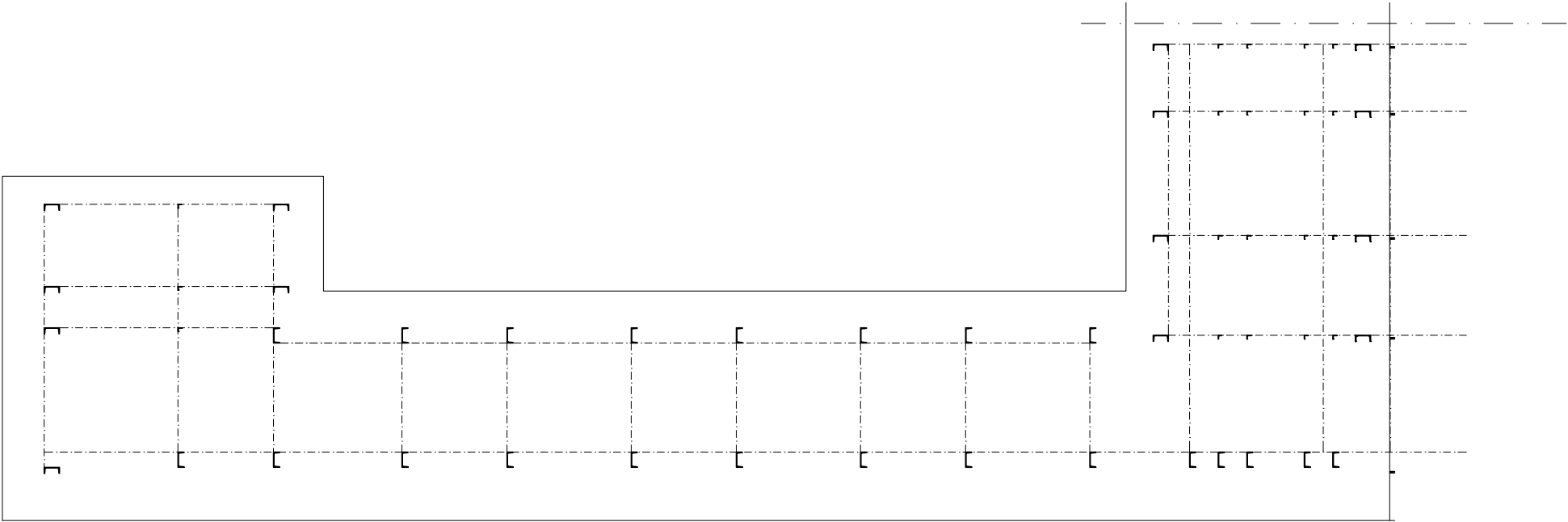
H-H断面



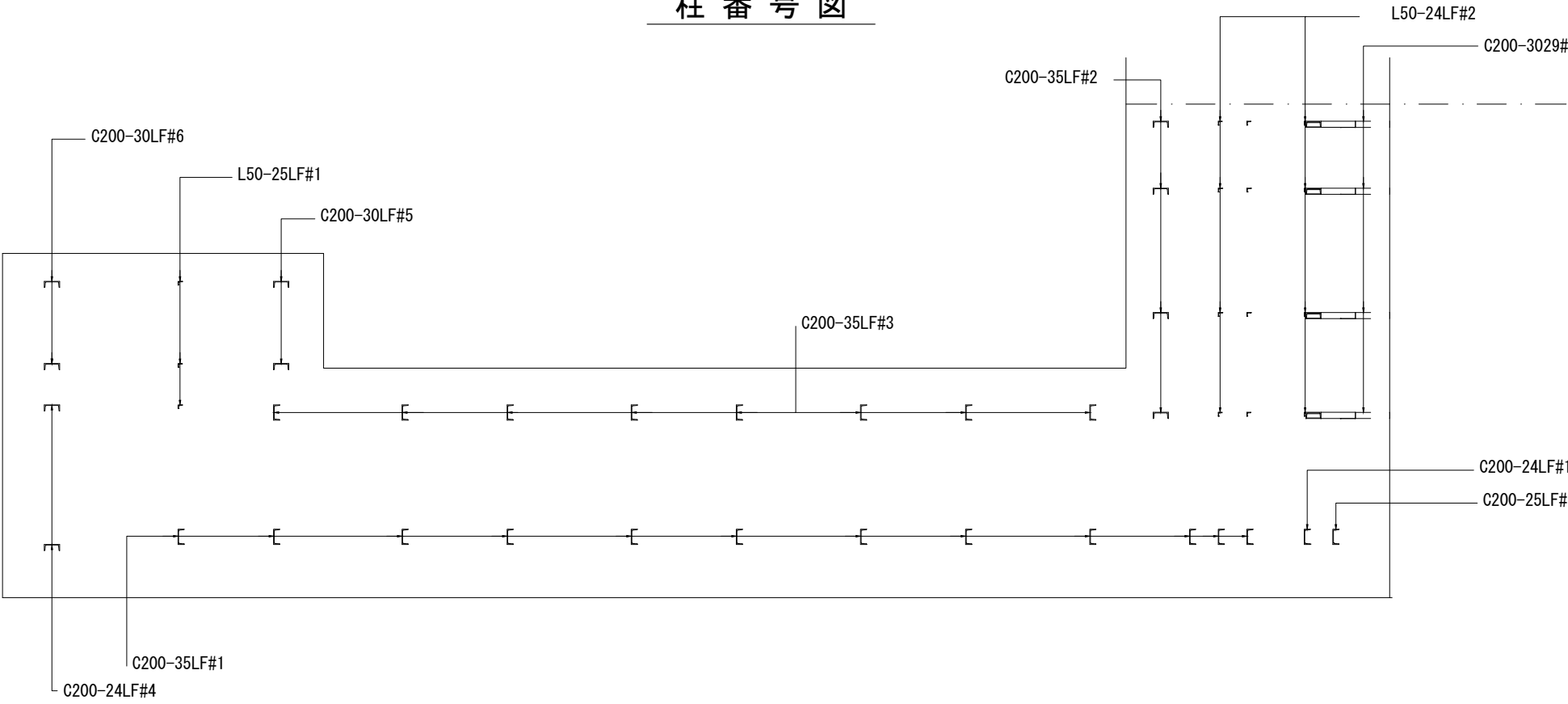
- 特記事項
- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用
したボルトジョイントによって延長する。詳細は別
図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接
板に接合する。方法は以下のいずれかとする。
A: 添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込
んだ後に固定する。
B: 添接板のみ固定し、キャッチアップ+単管を手摺
として固定する。次リフト時に単管を撤去し、柱材
を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定
をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め
(フランジ部は1点)
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶
接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで
20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで
142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ
部は溶接固定とする。セパ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施
すること。

セパレーター架台詳細図(6) (35LF)

柱 伏 図



柱 番 号 図



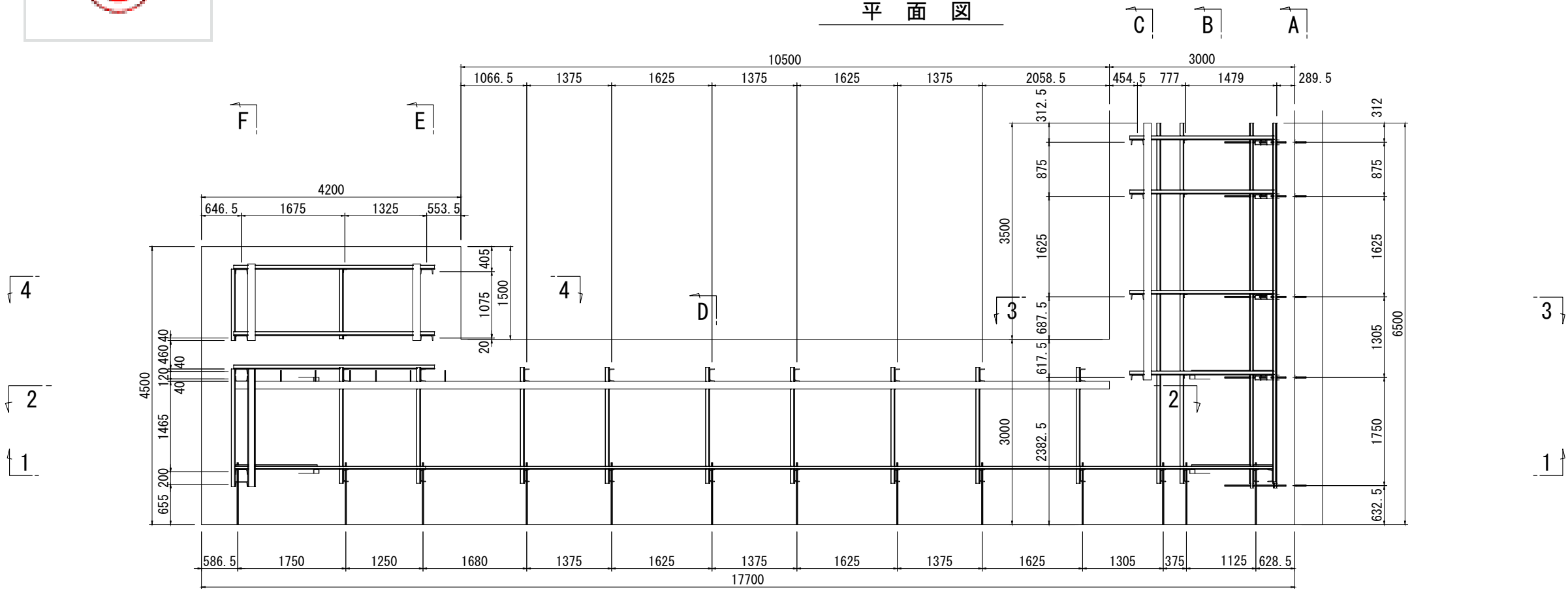
- 特記事項
- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合する。方法は以下のいずれかとする。
- A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
- B：添接板のみ固定し、キャッチアップ + 単管を手摺として固定する。次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
- C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め
(フランジ部は1点)
- C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
- L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
- 普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
- HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
- A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
- B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セパ溶接時に実施のこと。
- C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。

3

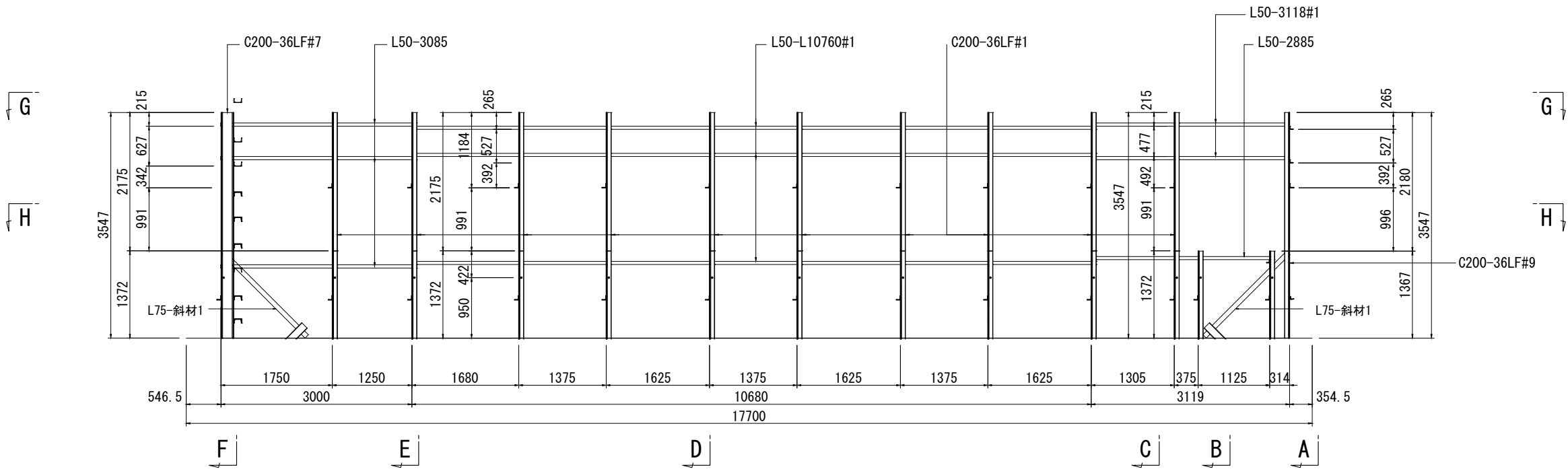
セパレーター架台構造図 (36LF)

S=1:75

平面図



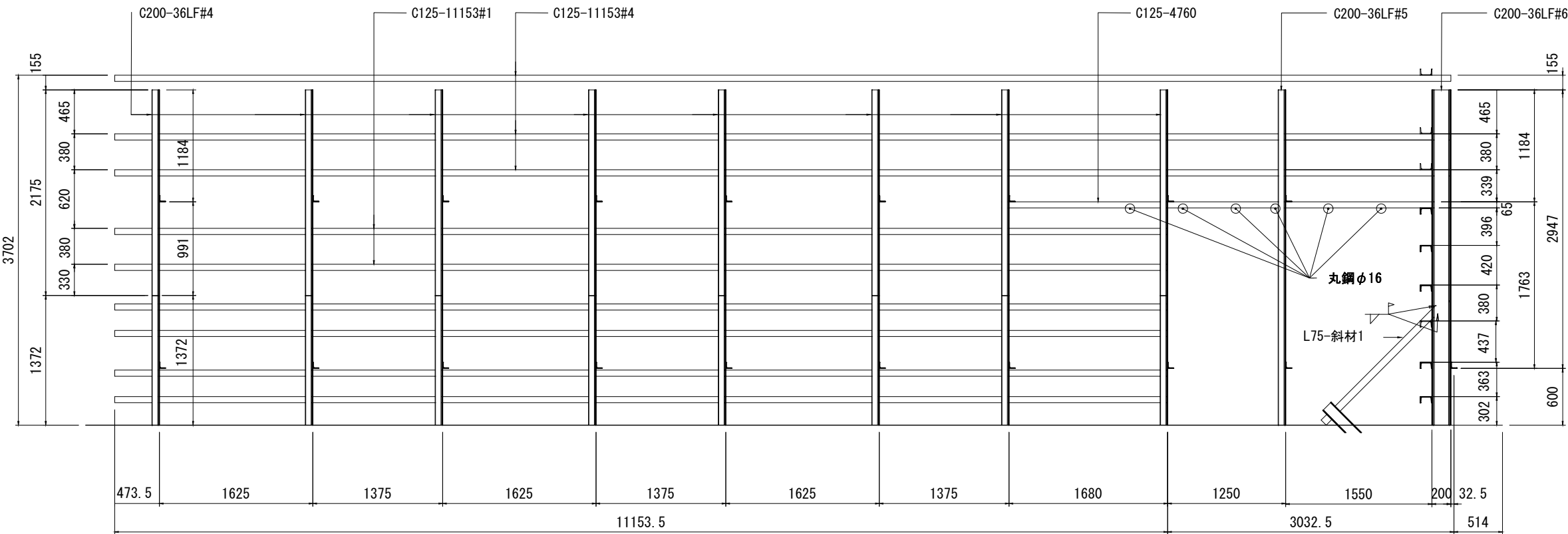
1-1断面



セパレーター架台詳細図(1) (36LF)

S=1:50

2-2断面



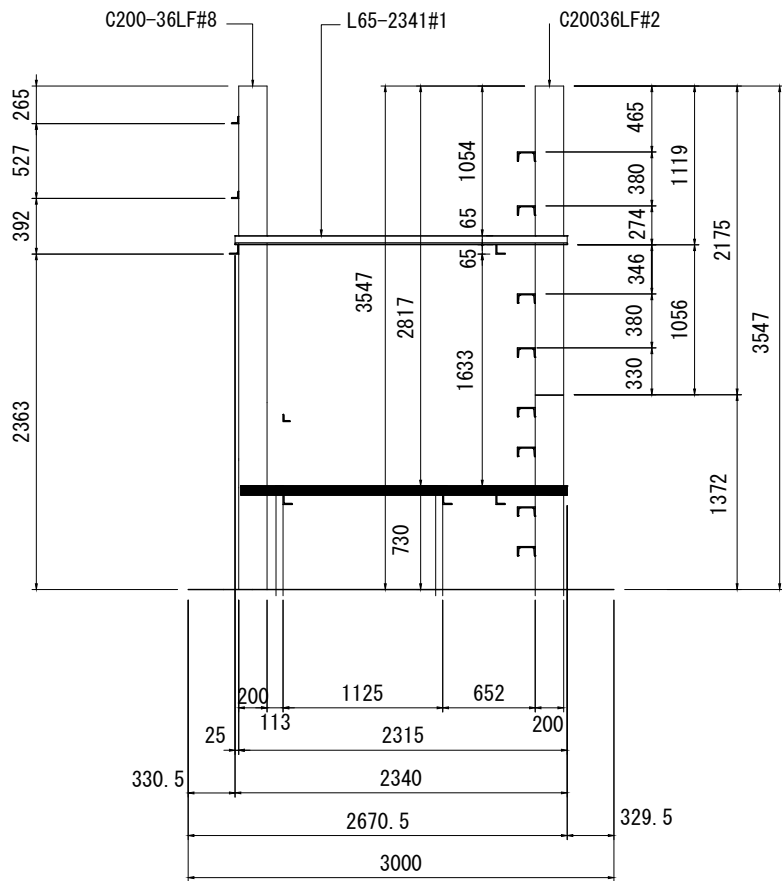
特記事項

- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キャッチアップ+単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、
ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
- ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
- ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、
可能であれば上部で再利用する
- ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと

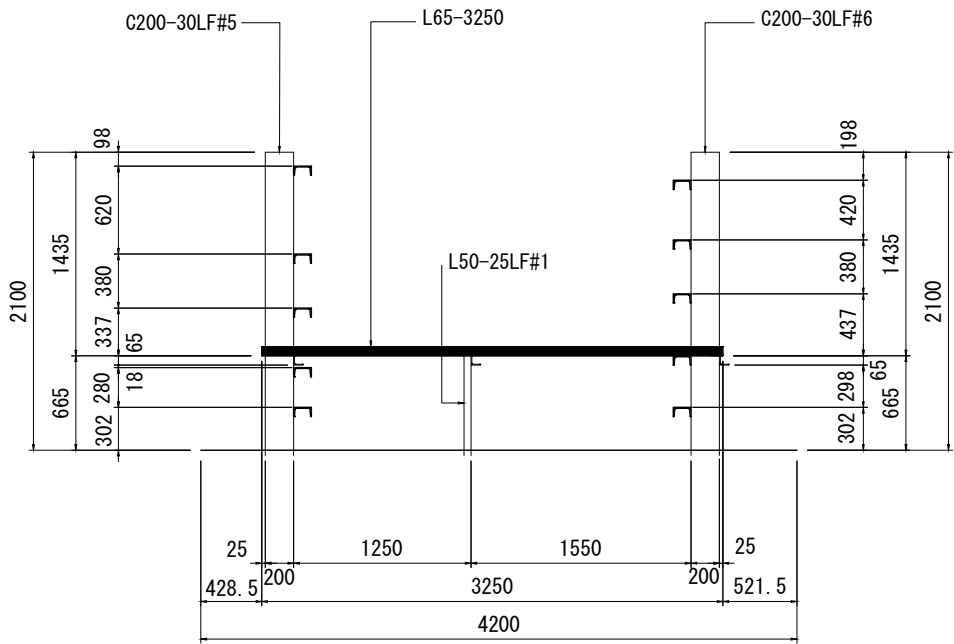
セパレーター架台詳細図(2) (36LF)

S=1:50

3-3断面



4-4断面



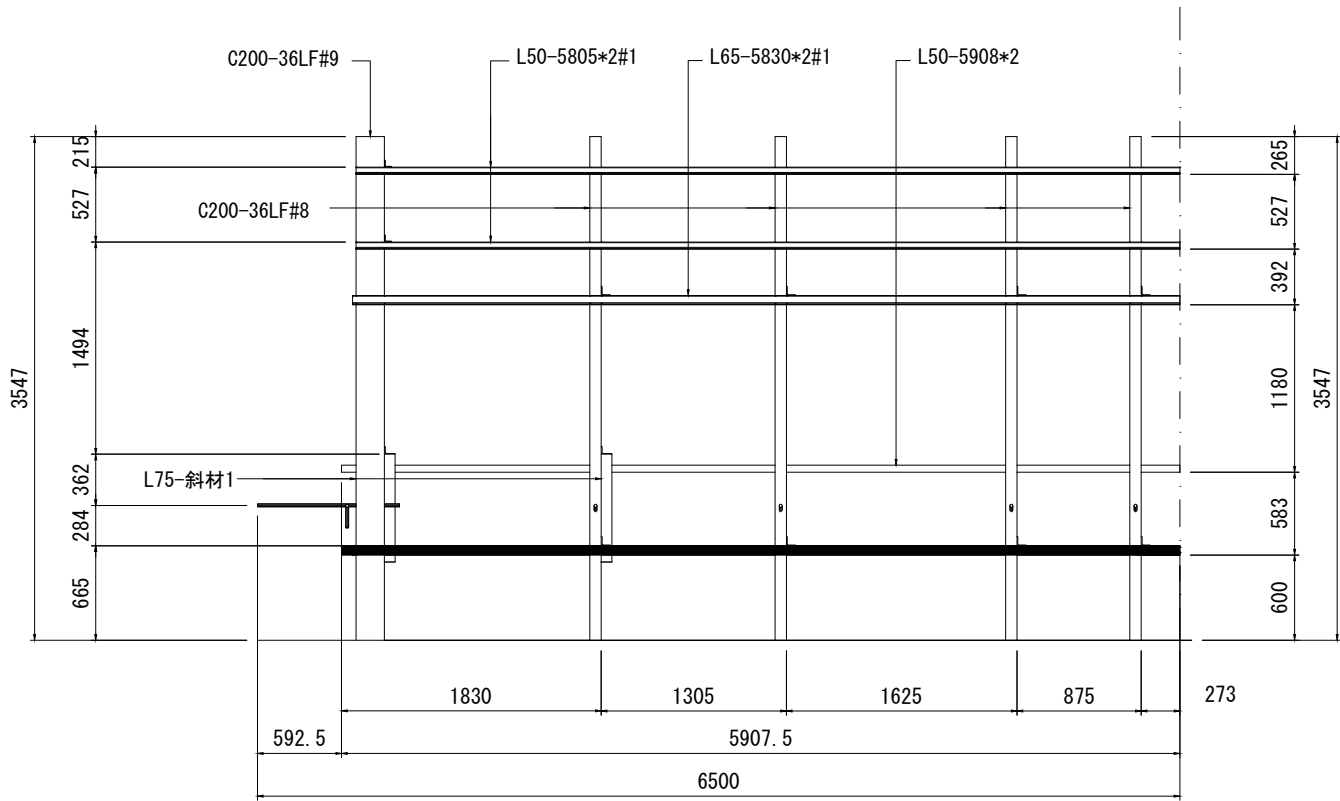
特記事項

- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キャッチラフ + 単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セパ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
- ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレーターを溶接するため、向きに注意すること
- ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、可能であれば上部で再利用する

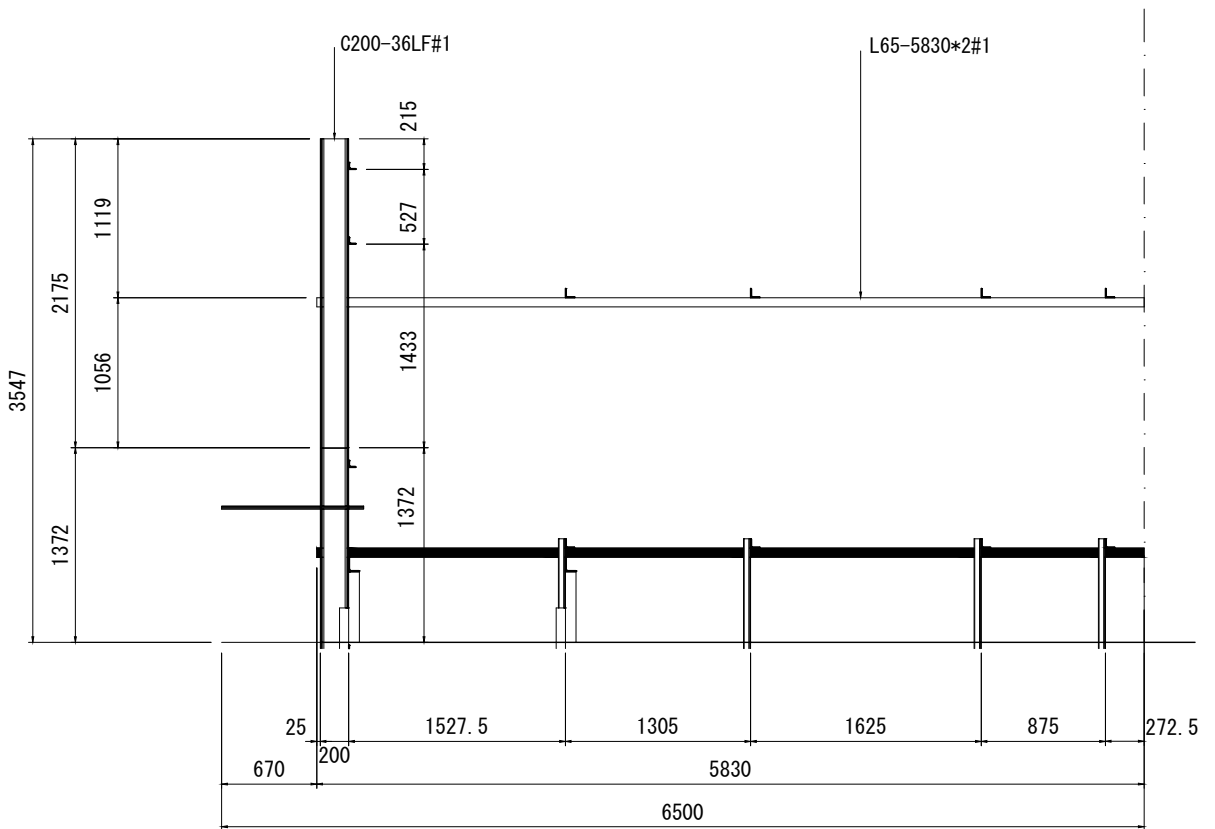
セパレーター架台詳細図(3) (36LF)

S=1:50

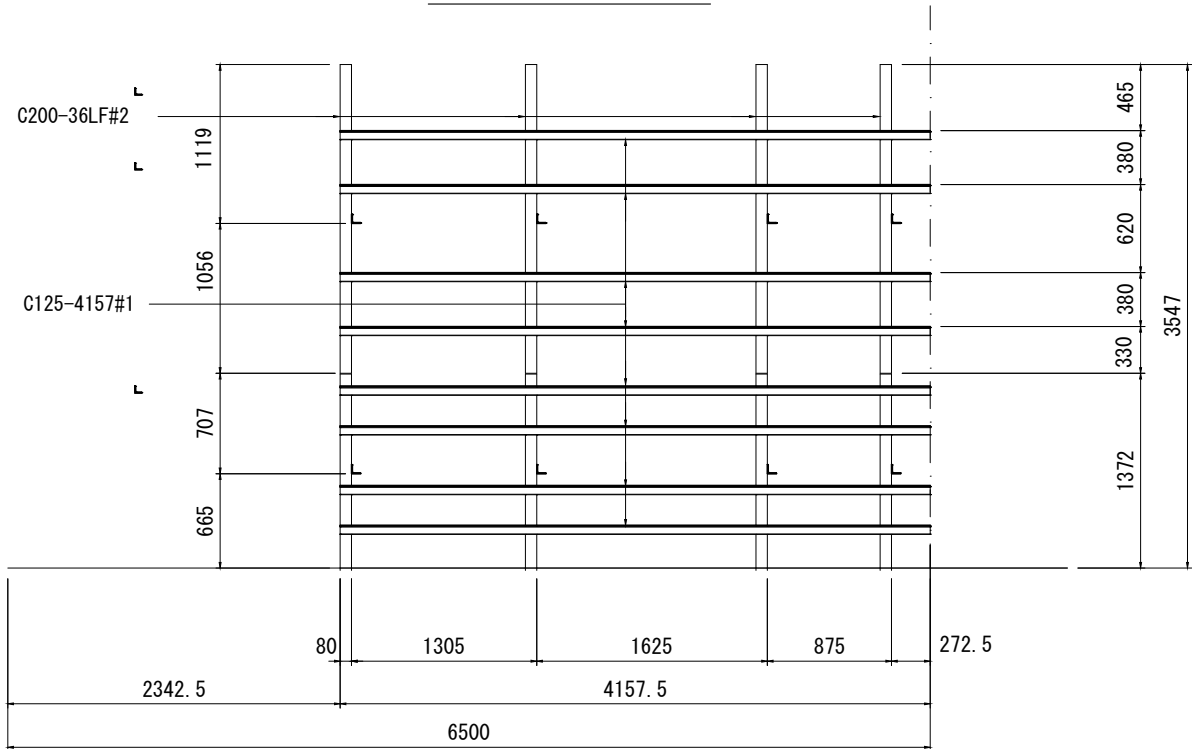
A-A断面



B-B断面



C-C断面



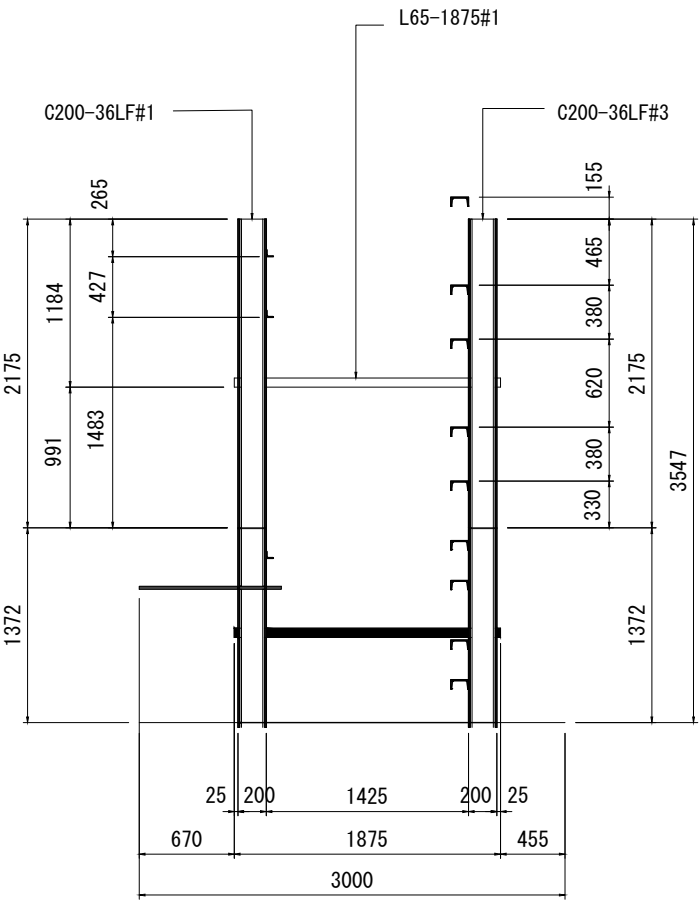
特記事項

- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A: 添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B: 添接板のみ固定し、キックアップ+単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め(フランジ部は1点)
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
- ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
- ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、可能であれば上部で再利用する
- ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと

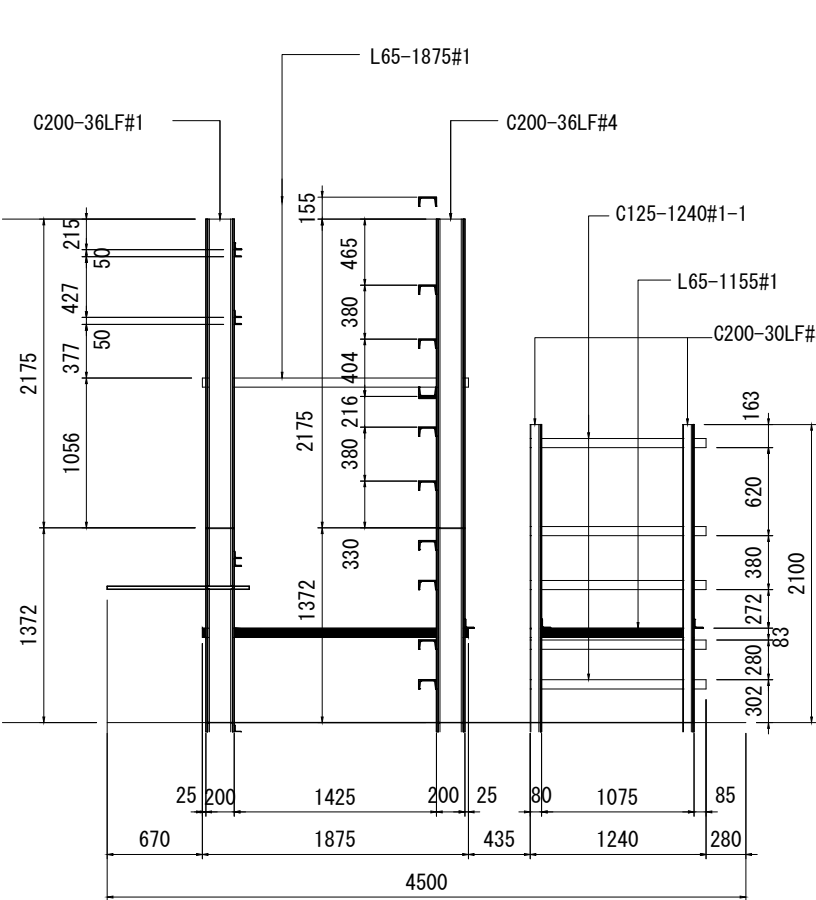
セパレーター架台詳細図(4) (36LF)

S=1:50

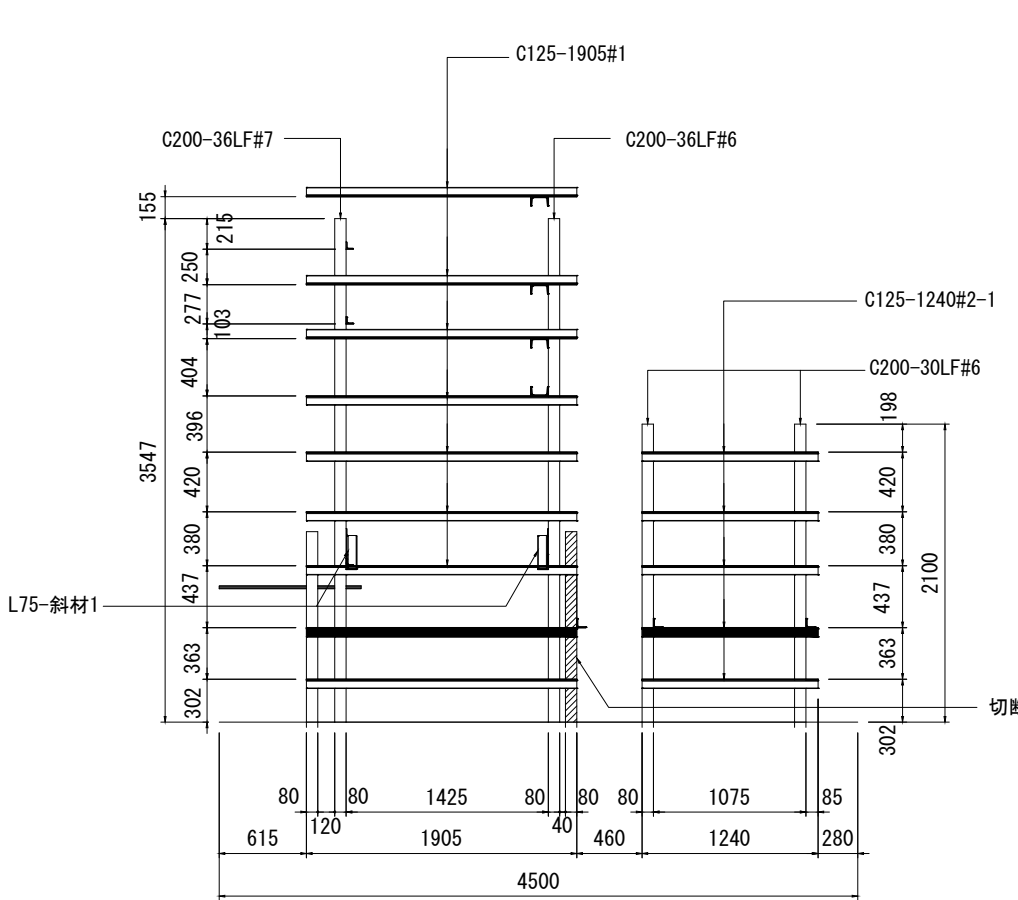
D-D断面



E-E断面



F-F断面

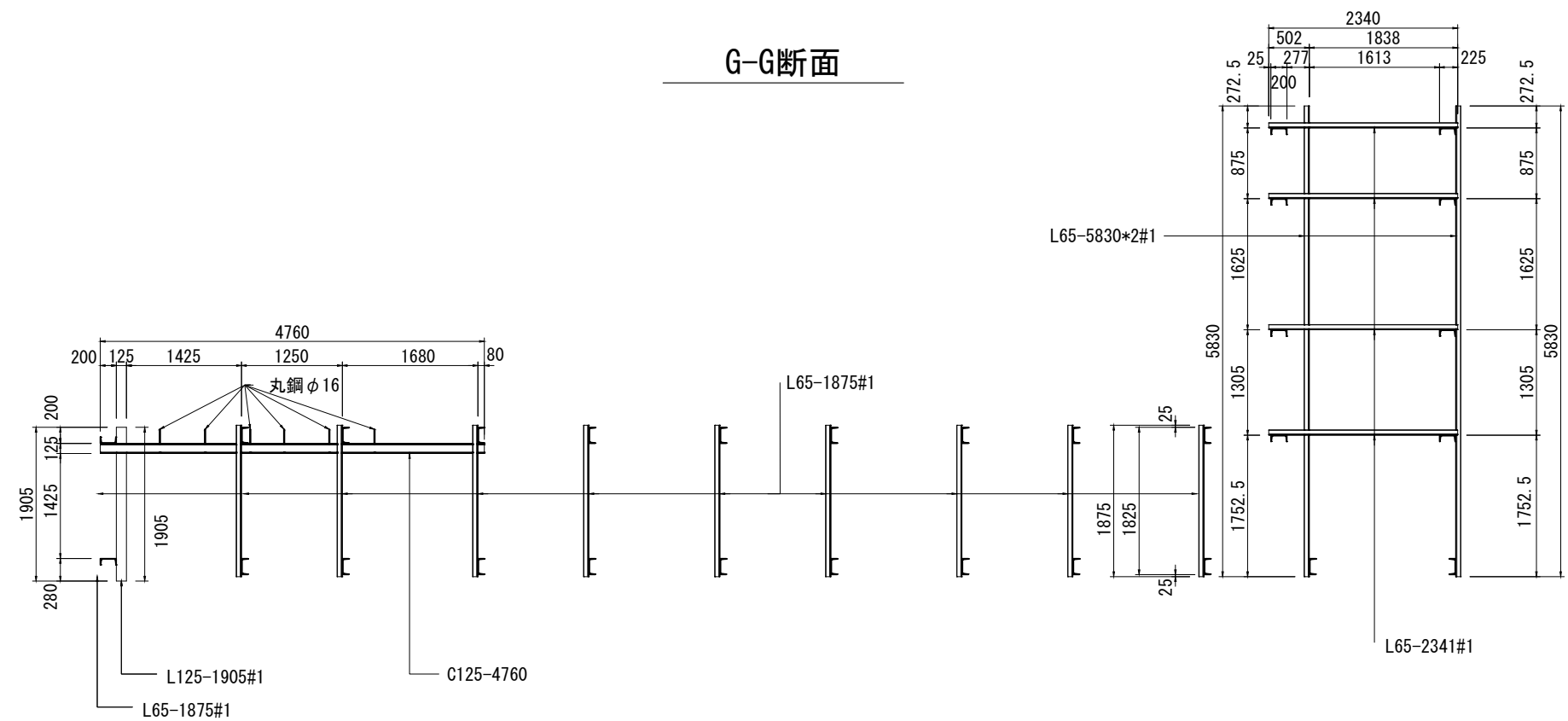


特記事項

- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A: 添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B: 添接板のみ固定し、ヤッチアップ + 単管を手摺として固定する。リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め (フランジ部は1点)
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
- ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
- ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、
可能であれば上部で再利用する
- ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと
- ⑨EL+1.8mのL65-1520とL65-1890は鉄筋組立完了後、打設までに溶接して接合すること

セパレーター架台詳細図(5) (36LF)

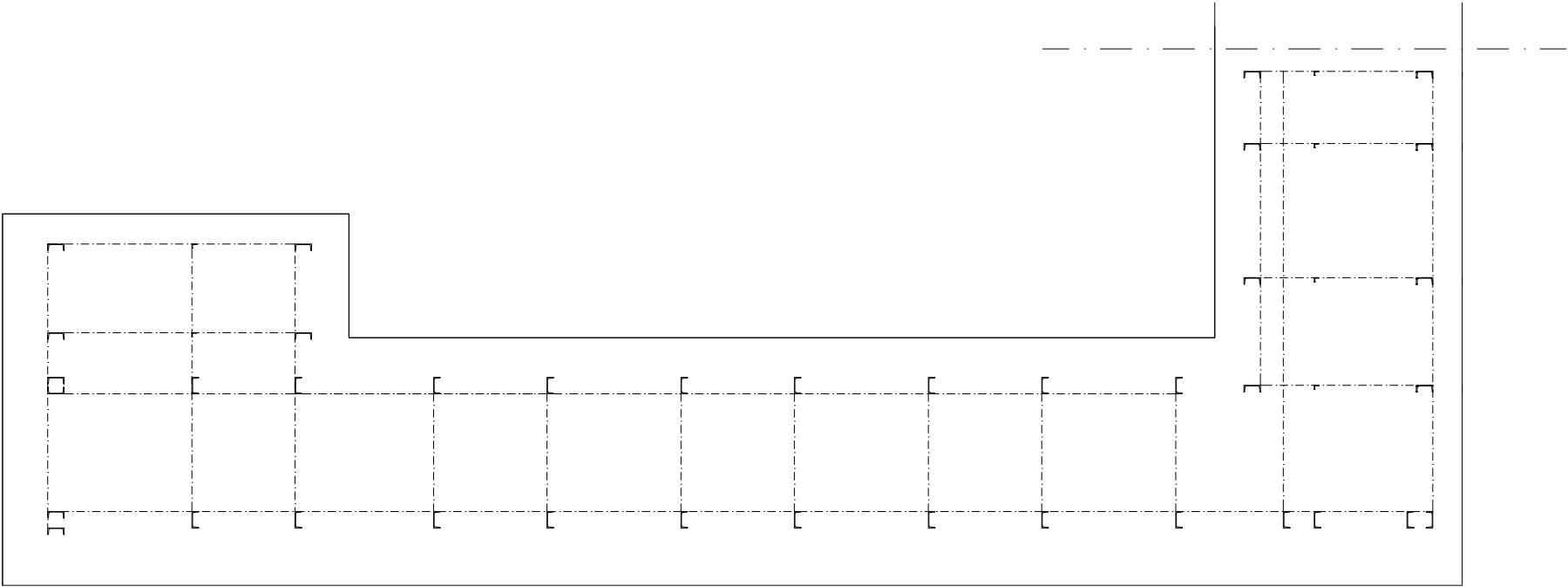
S=1:75



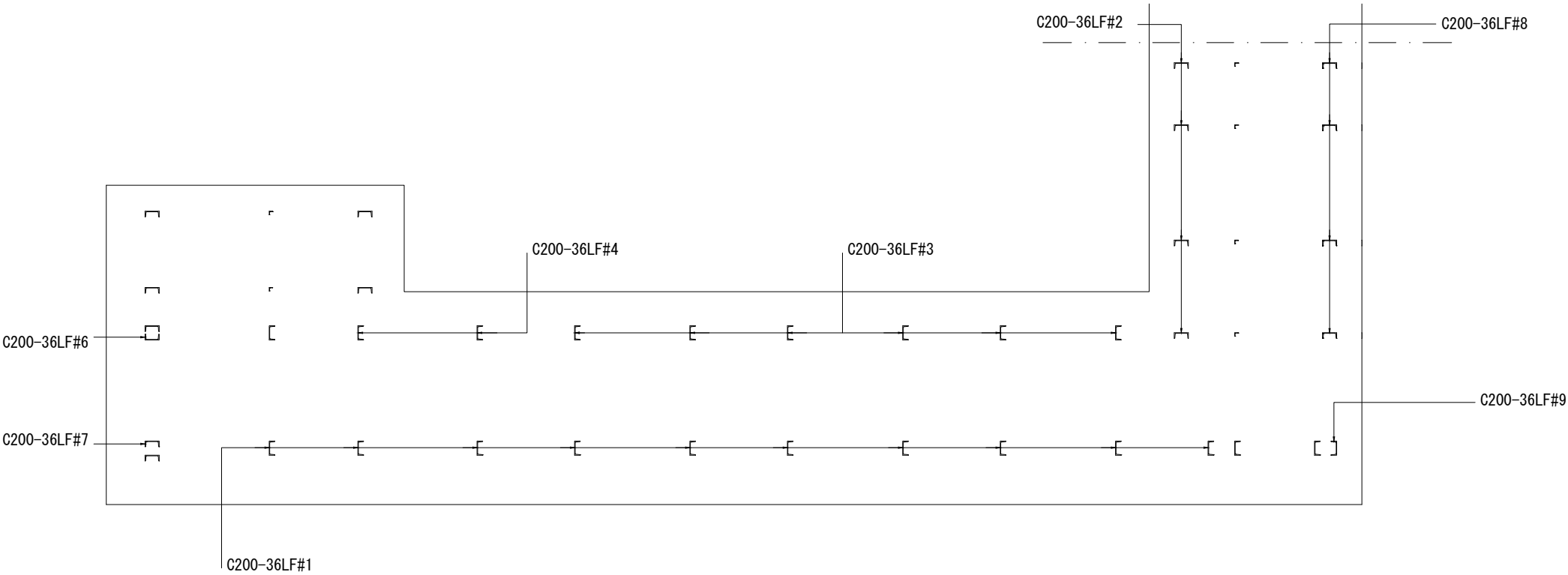
- 特記事項
- ①C200柱およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合する。方法は以下のいずれかとする。
- A: 添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
- B: 添接板のみ固定し、キャッチアップ+単管を手摺として固定する。次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
- C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め
(フランジ部は1点)
- C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
- L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
- 普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
- HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
- A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
- B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
- C. L50, C100に関しては溶接にずれ止めを実施すること。

セパレーター架台詳細図(6) (36LF)

柱 伏 図



柱 番 号 図



特記事項

①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。

②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合する。方法は以下のいずれかとする。

A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。

B：添接板のみ固定し、キックアップ + 単管を手摺として固定する。次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。

③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること

C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め
(フランジ部は1点)

C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め

L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め

④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること

普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで
20mm以上

HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで
142mm以上

⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。

A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。

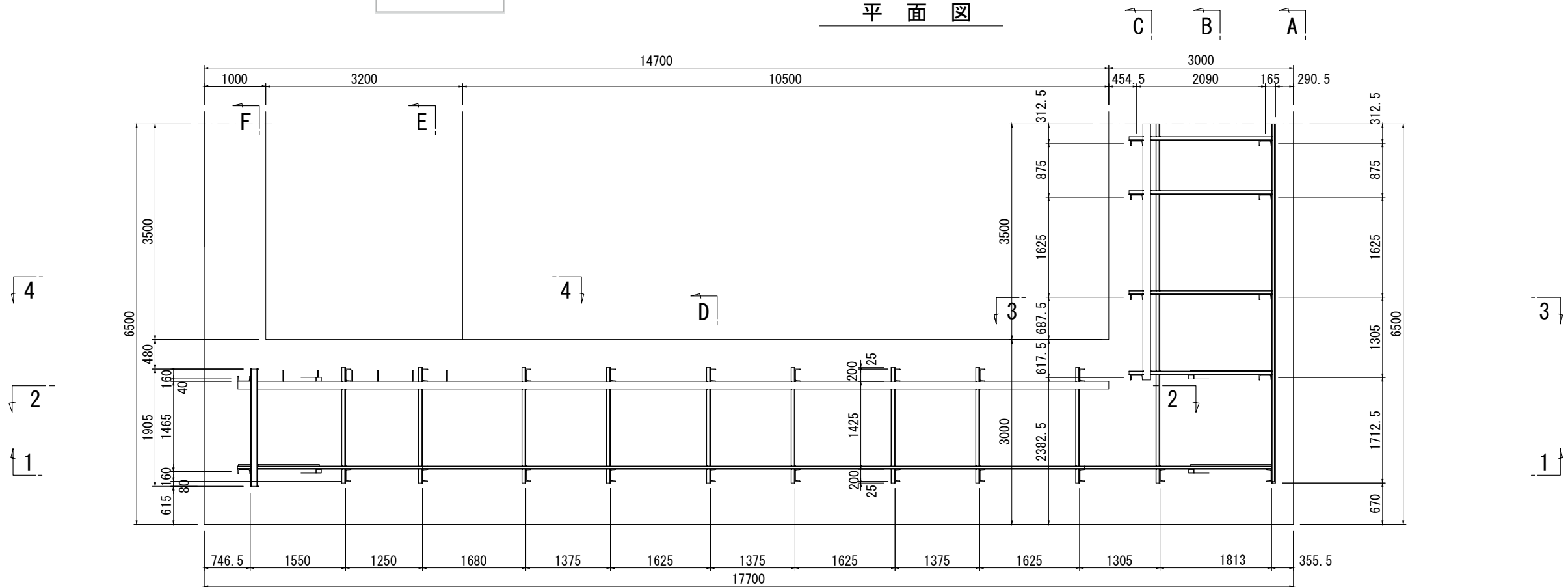
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。

C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。

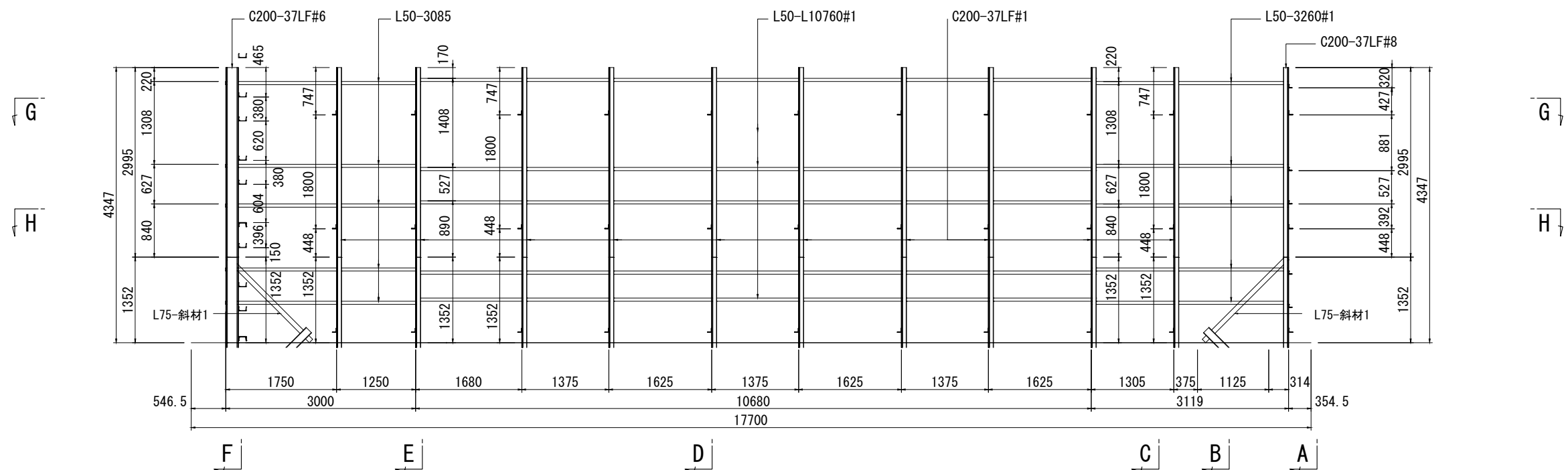
セパレーター一架台構造図 (37LF)

S=1:75

平面图



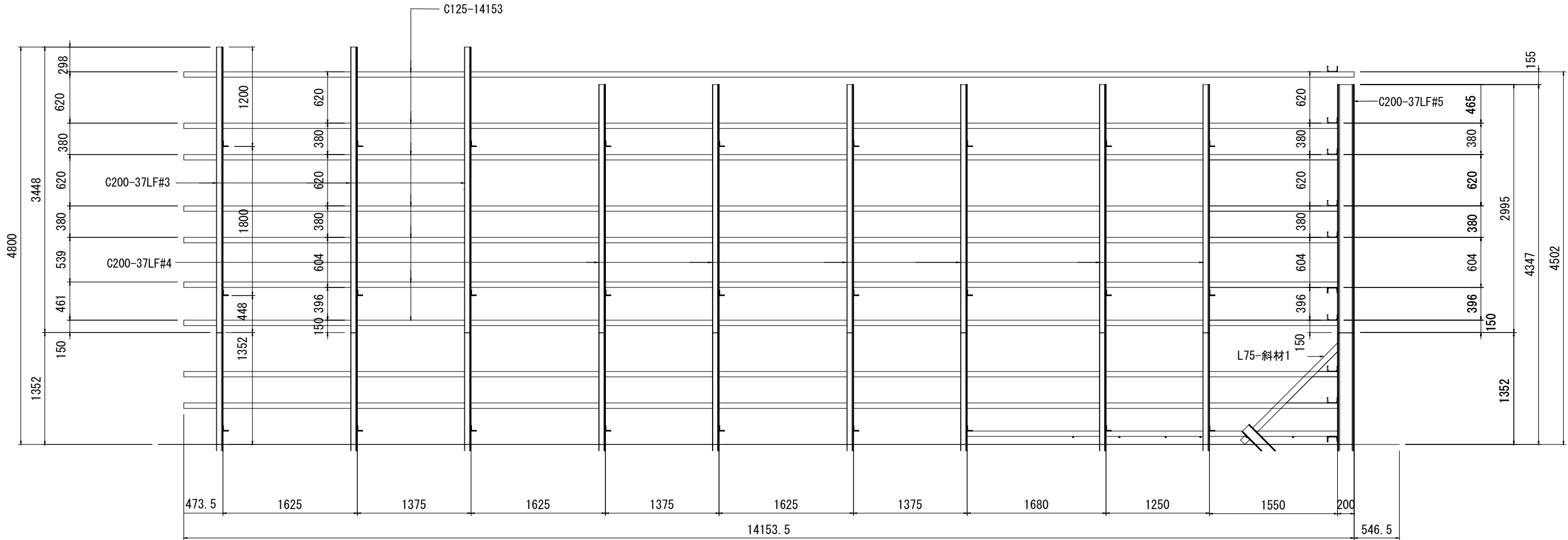
1-1断面



セパレーター架台詳細図(1) (37LF)

S=1:50

2-2断面

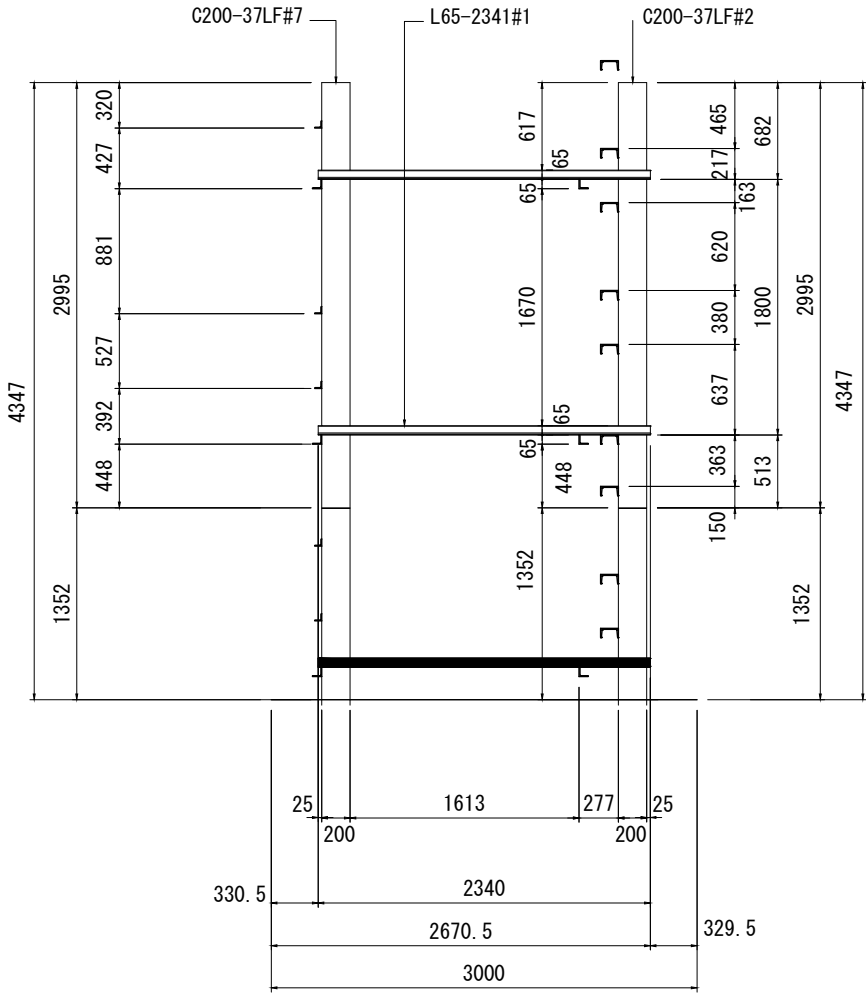


- 特記事項
- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
 - ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キャッチアップ+単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
 - ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
 - ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
 - ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、
ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
 - ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
 - ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、
可能であれば上部で再利用する
 - ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと

セパレーター架台詳細図(2) (37LF)

S=1:50

3-3断面



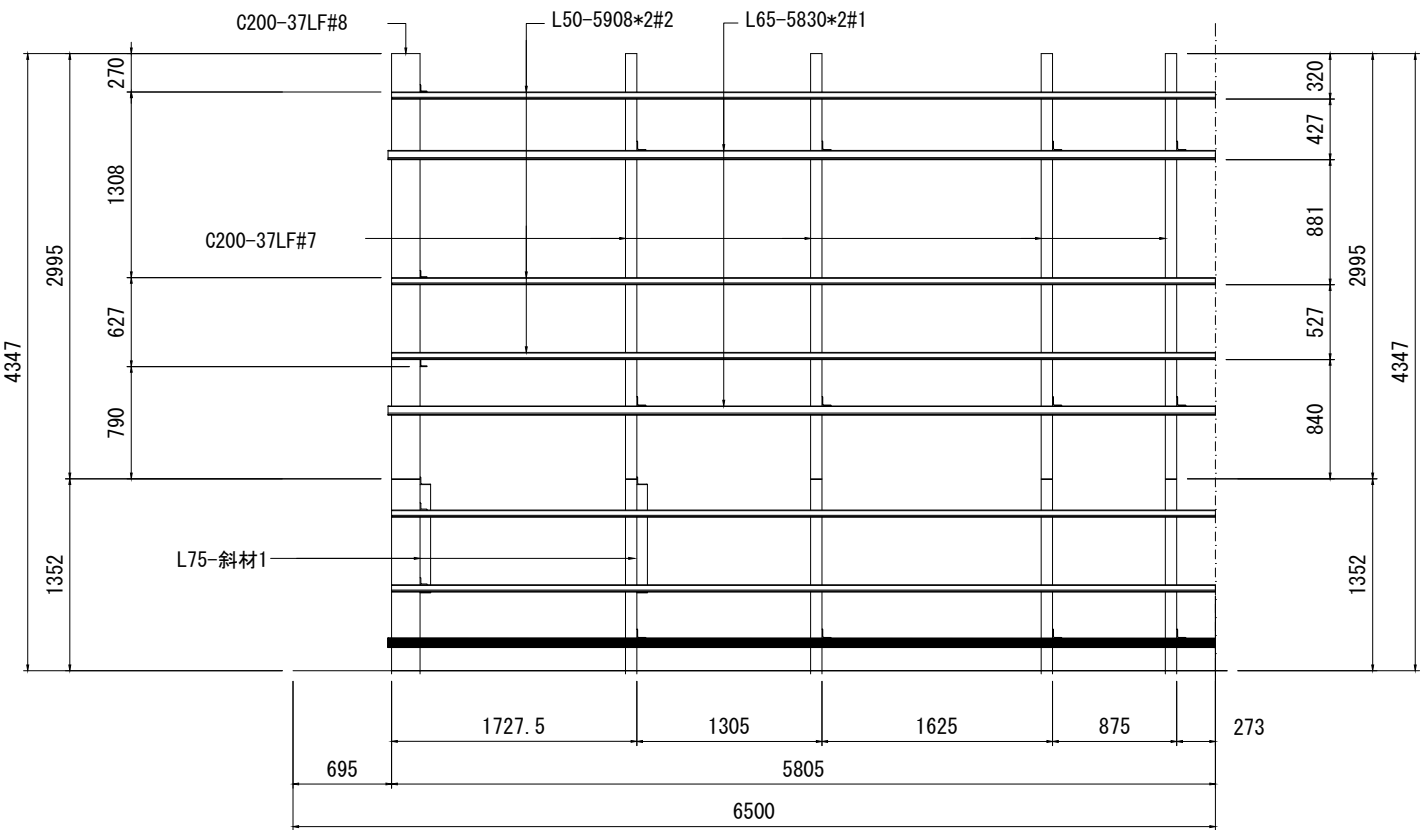
特記事項

- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キャッチアップ＋単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、
ウェブ部は溶接固定とする。セパ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
- ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレーターを溶接するため、向きに注意すること
- ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、
可能であれば上部で再利用する

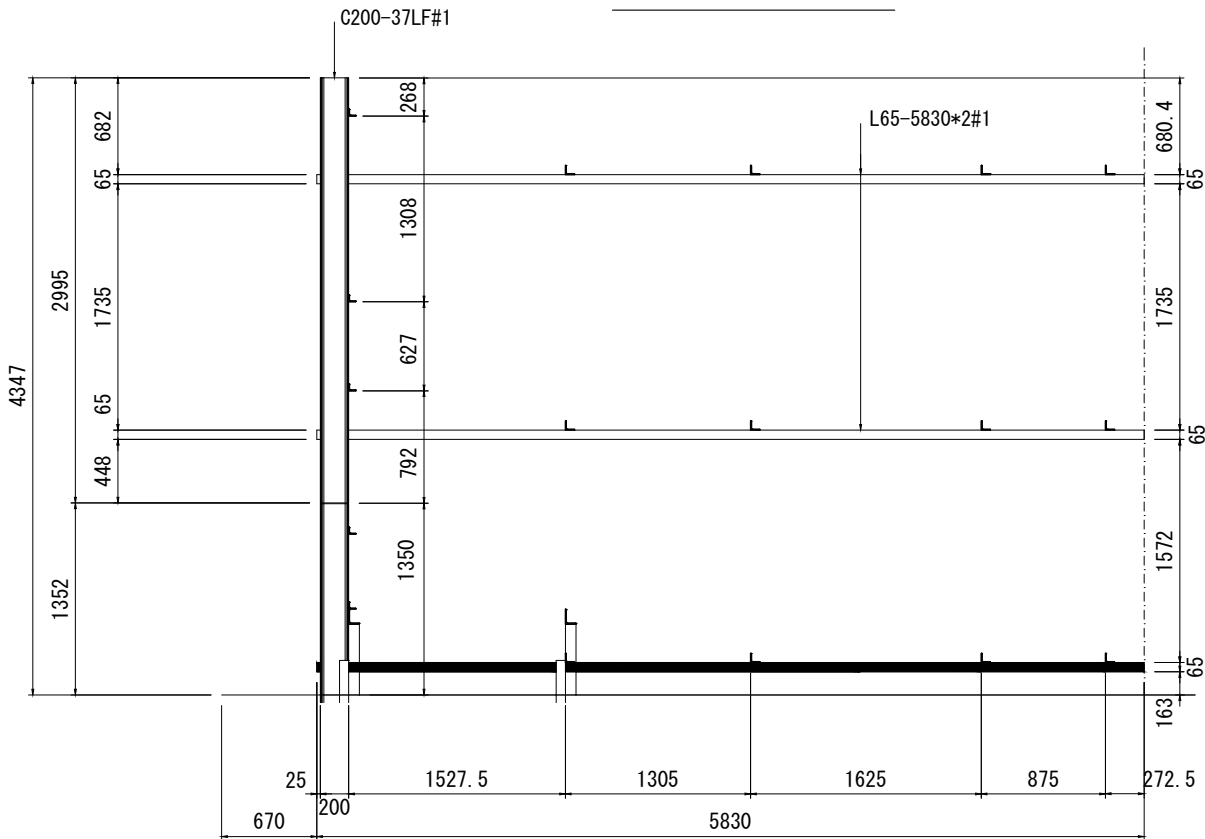
セパレーター架台詳細図(3) (37LF)

S=1:50

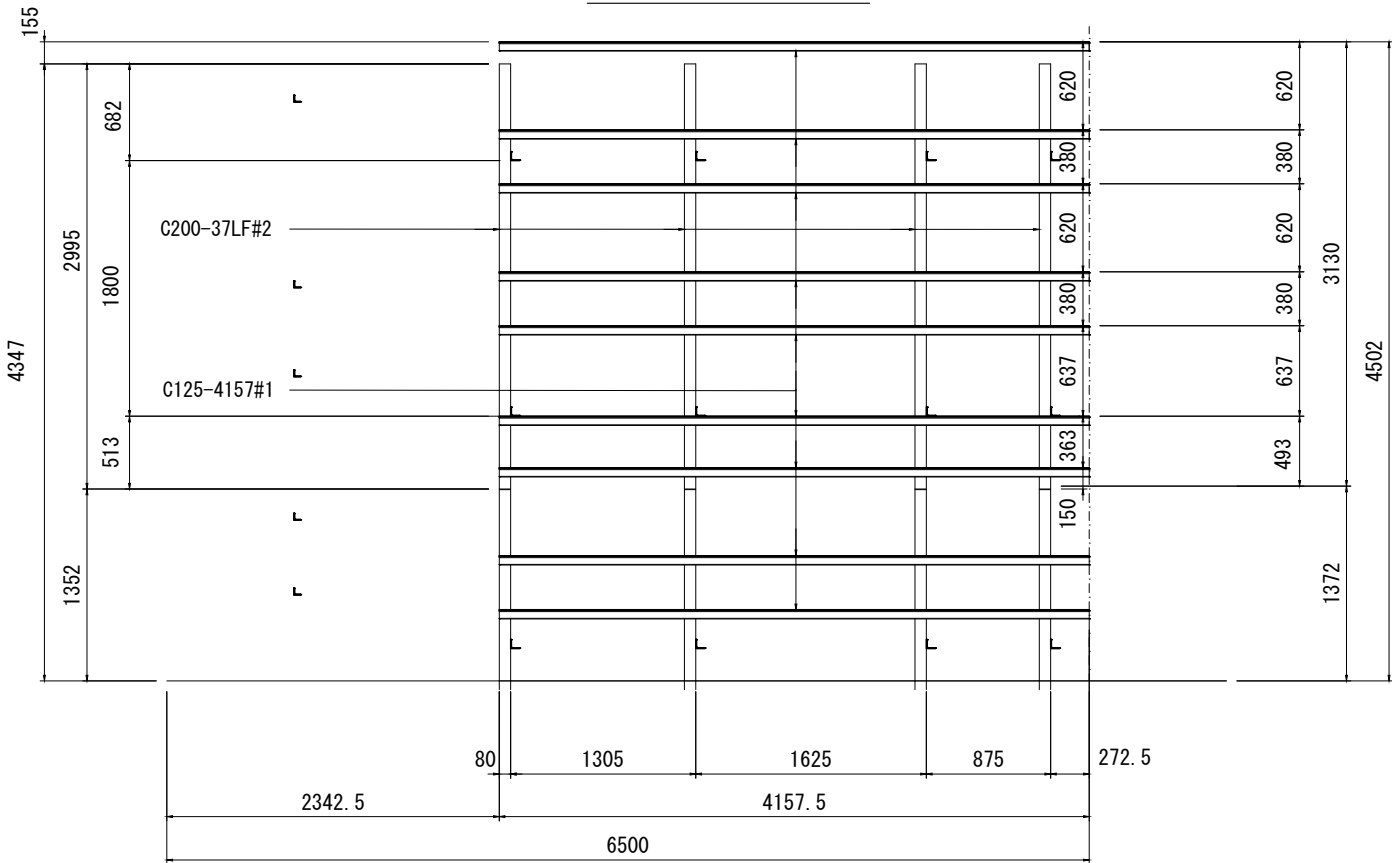
A-A断面



B-B断面



C-C断面



特記事項

- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A: 添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B: 添接板のみ固定し、キックアップ+単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
- ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
- ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、可能であれば上部で再利用する
- ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと

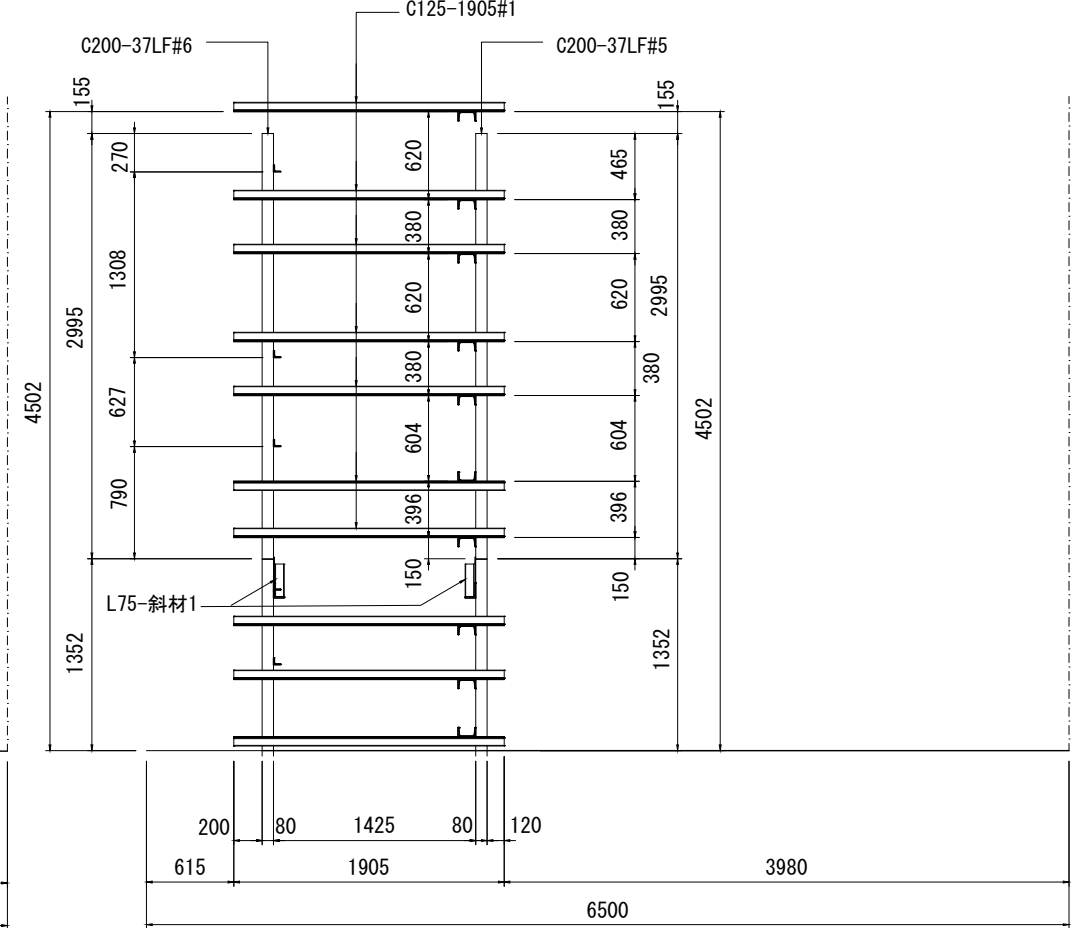
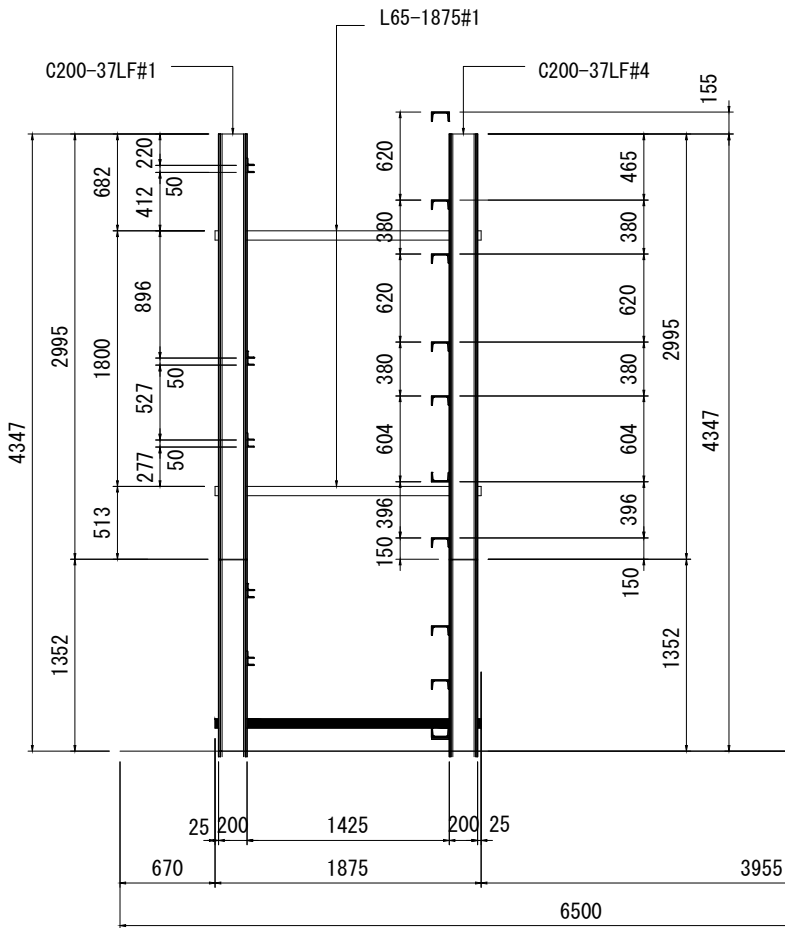
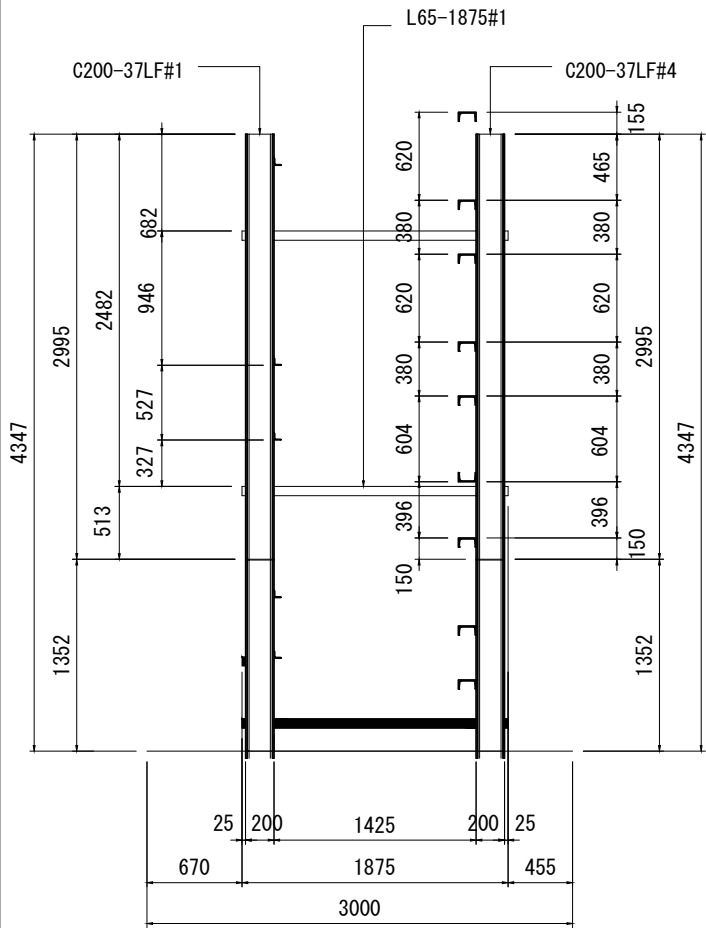
セパレーター架台詳細図(4) (37LF)

S=1:50

D-D断面

E-E断面

F-F断面



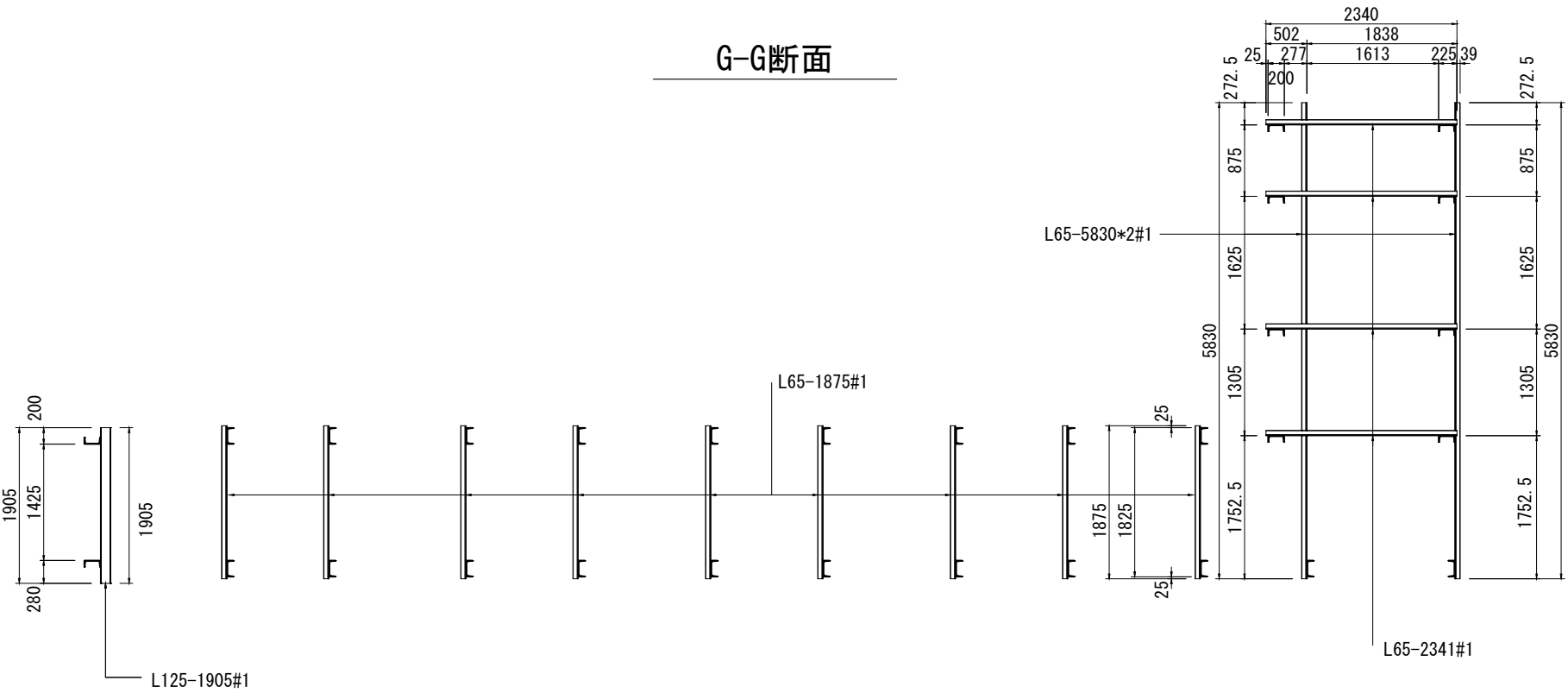
特記事項

- ①C200柱およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キックアップ + 単管を手摺として固定する。リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
- ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
- ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、
可能であれば上部で再利用する
- ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと
- ⑨EL+1.8mのL65-1520とL65-1890は鉄筋組立完了後、打設までに溶接して接合すること

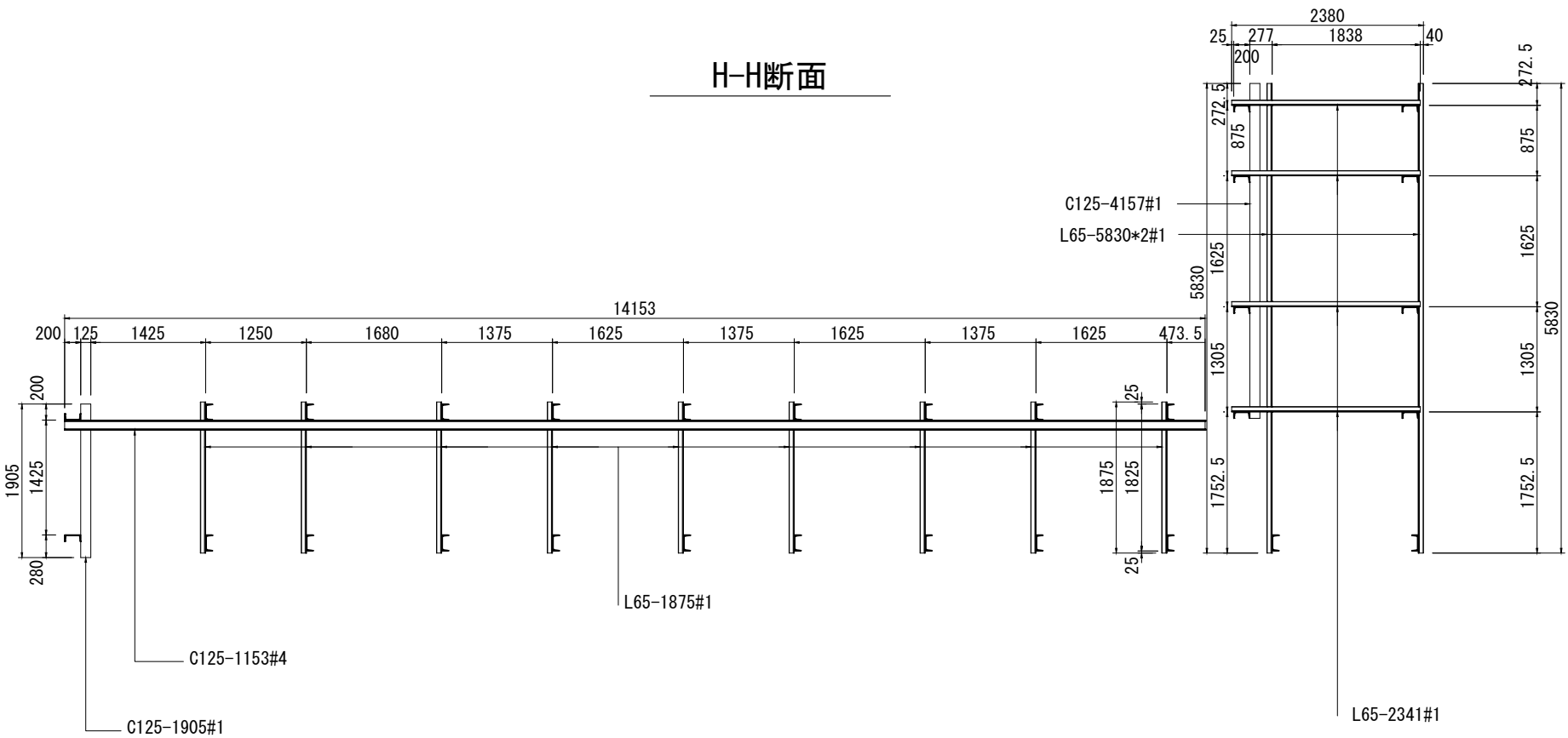
セパレーター架台詳細図(5) (37LF)

S=1:75

G-G断面



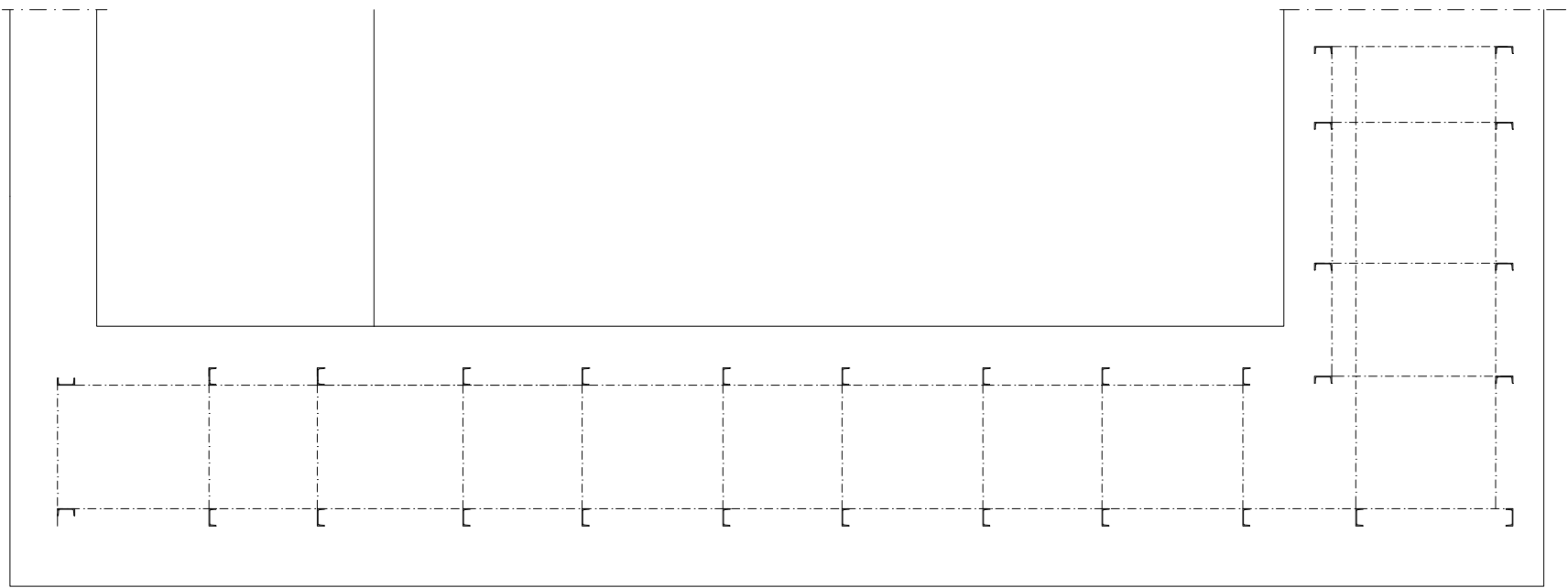
H-H断面



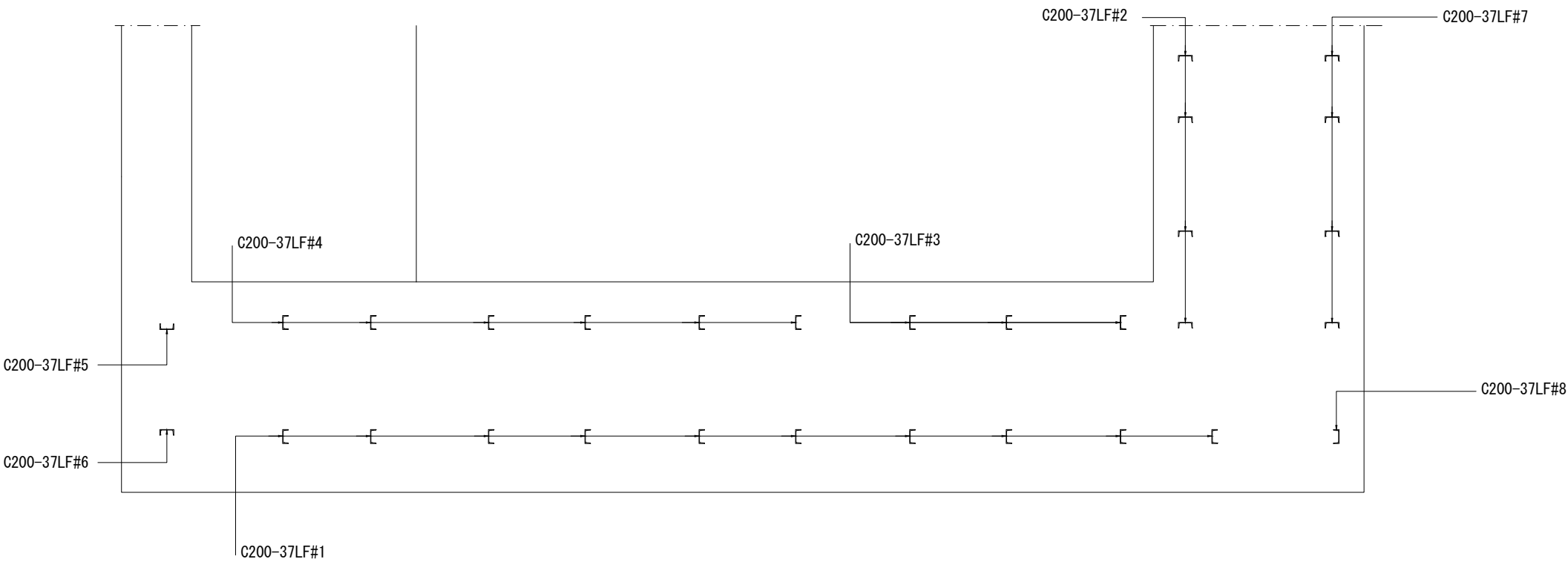
- 特記事項
- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合する。方法は以下のいずれかとする。
- A: 添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
- B: 添接板のみ固定し、キャッチアップ + 単管を手摺として固定する。次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
- C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め (フランジ部は1点)
- C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
- L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
- 普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
- HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
- A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
- B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
- C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。

セパレーター架台詳細図(6) (37LF)

柱 伏 図



柱 番 号 図



- 特記事項
- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合する。方法は以下のいずれかとする。
- A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
- B：添接板のみ固定し、キャッチアップ + 単管を手摺として固定する。次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
- C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め
(フランジ部は1点)
- C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
- L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
- 普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
- HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
- A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
- B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
- C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。

セパレーター一架台構造図 (38LF)

S=1:75

平面图



41

4

14

1-1 断面

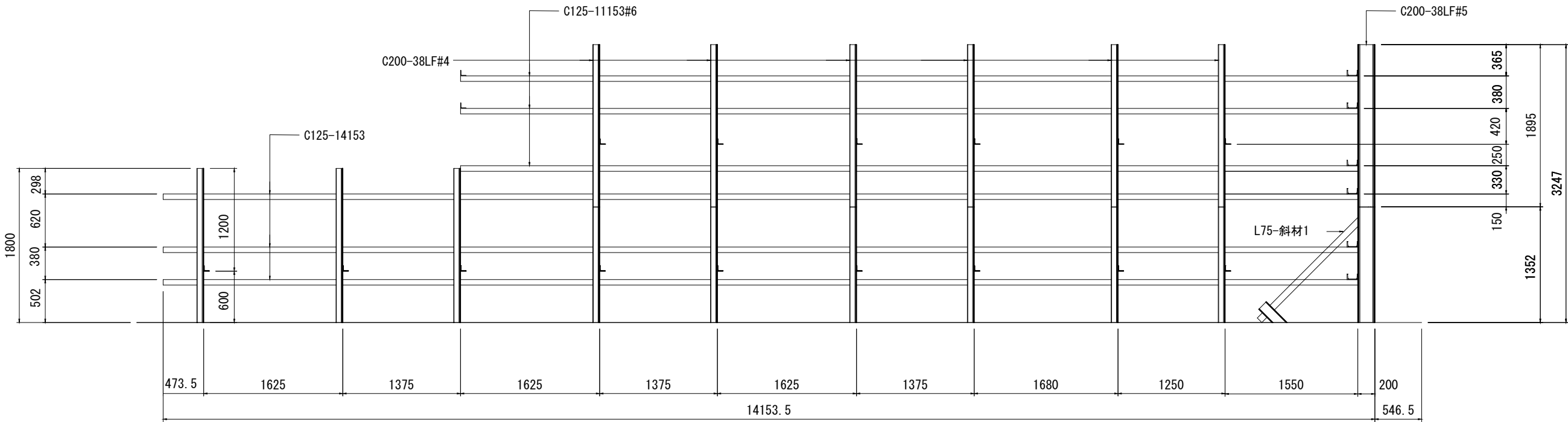


G

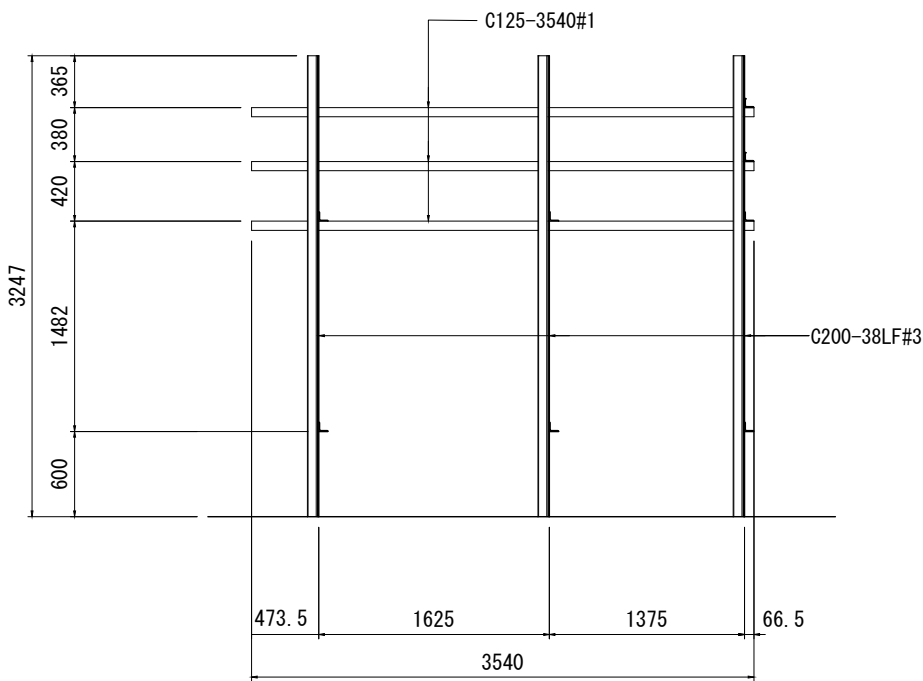
セパレーター架台詳細図(1) (38LF)

S=1:50

2-2断面



3-3断面



特記事項

- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キャッチラフ＋単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、
ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
- ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
- ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、
可能であれば上部で再利用する
- ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと

S=1 : 50

Technical drawing of a window frame assembly. The drawing shows a cross-section of the frame with various dimensions and component labels.

Dimensions:

- Overall width: 3247
- Overall height: 3247
- Top section height: 1895
- Bottom section height: 1352
- Left side height: 1352
- Right side height: 1895
- Top section width: 1895
- Bottom section width: 1352
- Top section width (left): 648
- Top section width (middle): 392
- Top section width (right): 527
- Top section width (far right): 328
- Bottom section width (left): 330.5
- Bottom section width (middle): 200
- Bottom section width (right): 277
- Bottom section width (far right): 25
- Bottom section width (total): 329.5
- Bottom section width (total): 3000
- Bottom section width (total): 2670.5
- Bottom section width (total): 2340
- Bottom section width (total): 1613
- Bottom section width (total): 25

Component Labels:

- C200-38LF#7
- L65-2341#1
- C200-38LF#2

①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。

②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。

A: 添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。

B: 添接板のみ固定し、キャッチクランプ® + 単管を手摺として固定する。

次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。

③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること

C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）

C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め

L50+各種部材 ⇒ 普通ボルトM10にて1点止め

④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること

普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上

HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上

⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。

A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。

B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セパ溶接時に実施のこと。

C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。

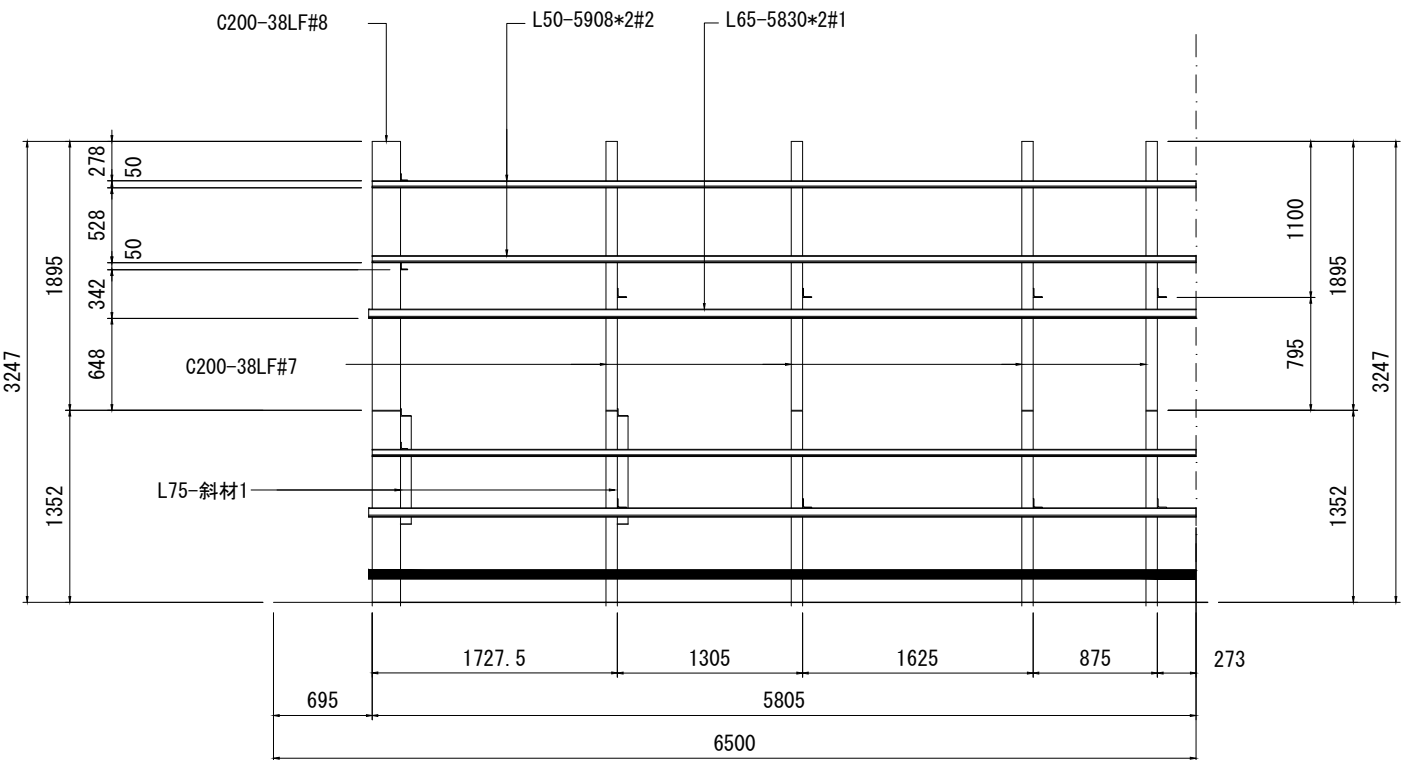
⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること

⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、
可能であれば上部で再利用する

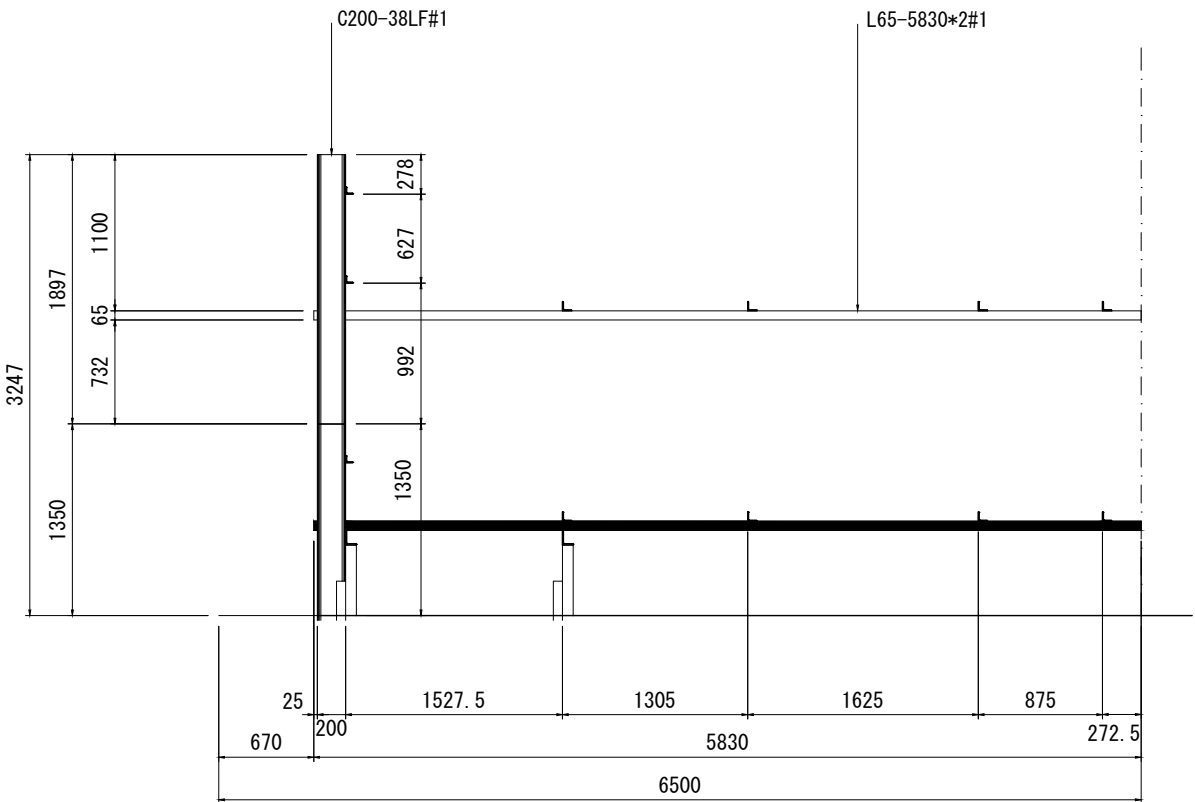
セパレーター架台詳細図(3) (38LF)

S=1:50

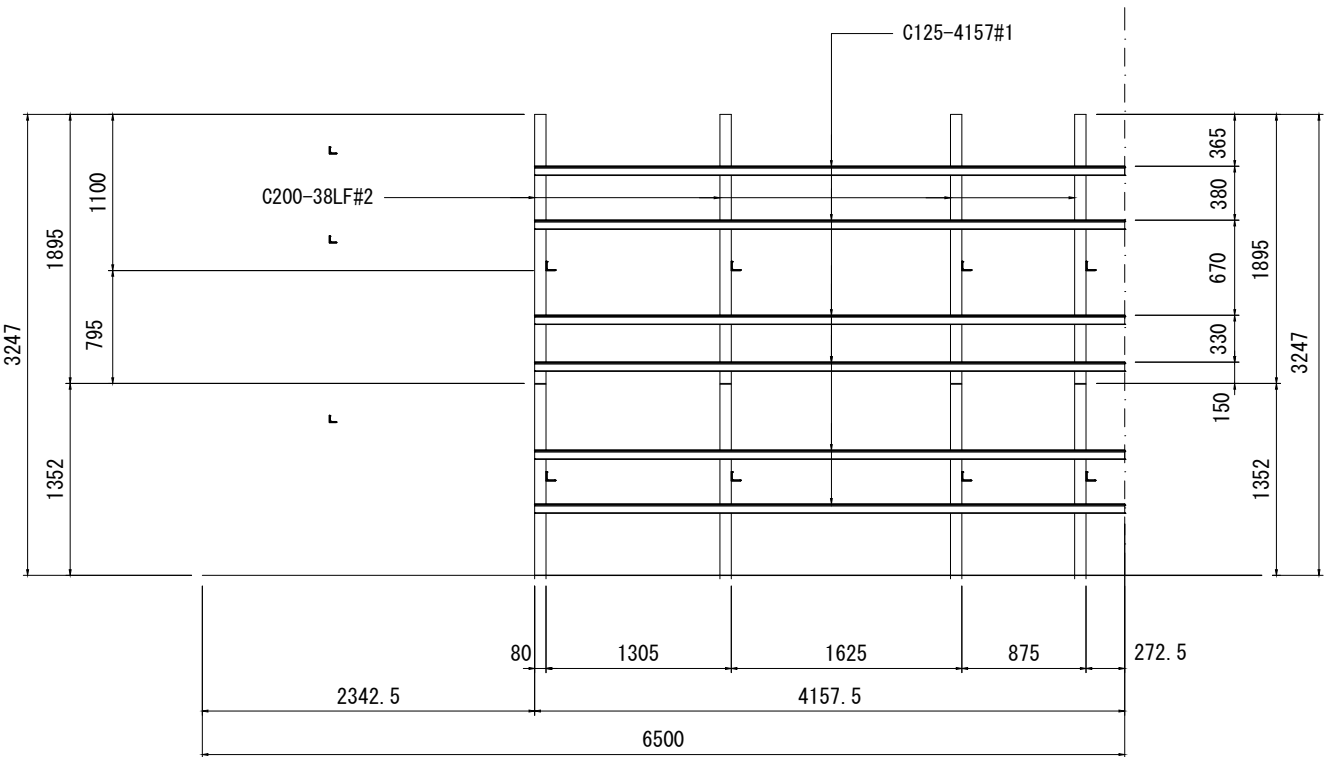
A-A断面



B-B断面



C-C断面



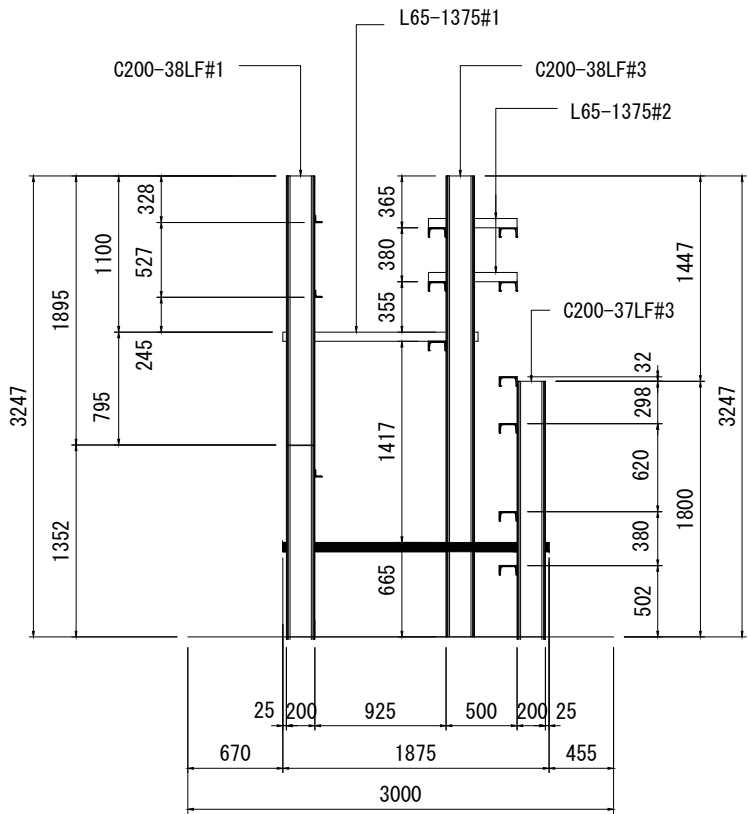
特記事項

- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キックアップ+単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
- ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
- ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、可能であれば上部で再利用する
- ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと

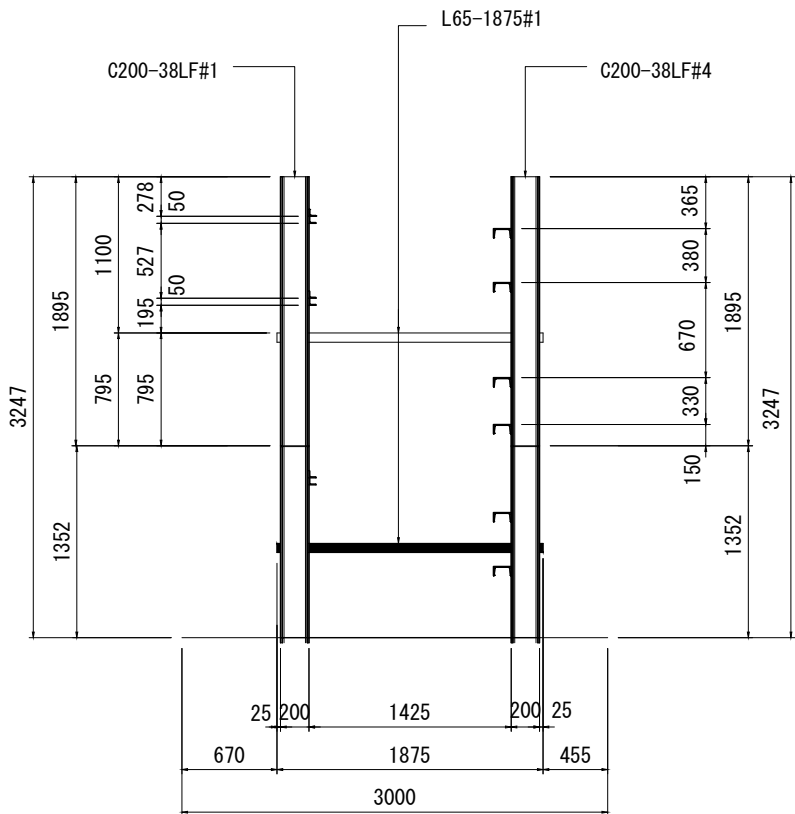
セパレーター架台詳細図(4) (38LF)

S=1:50

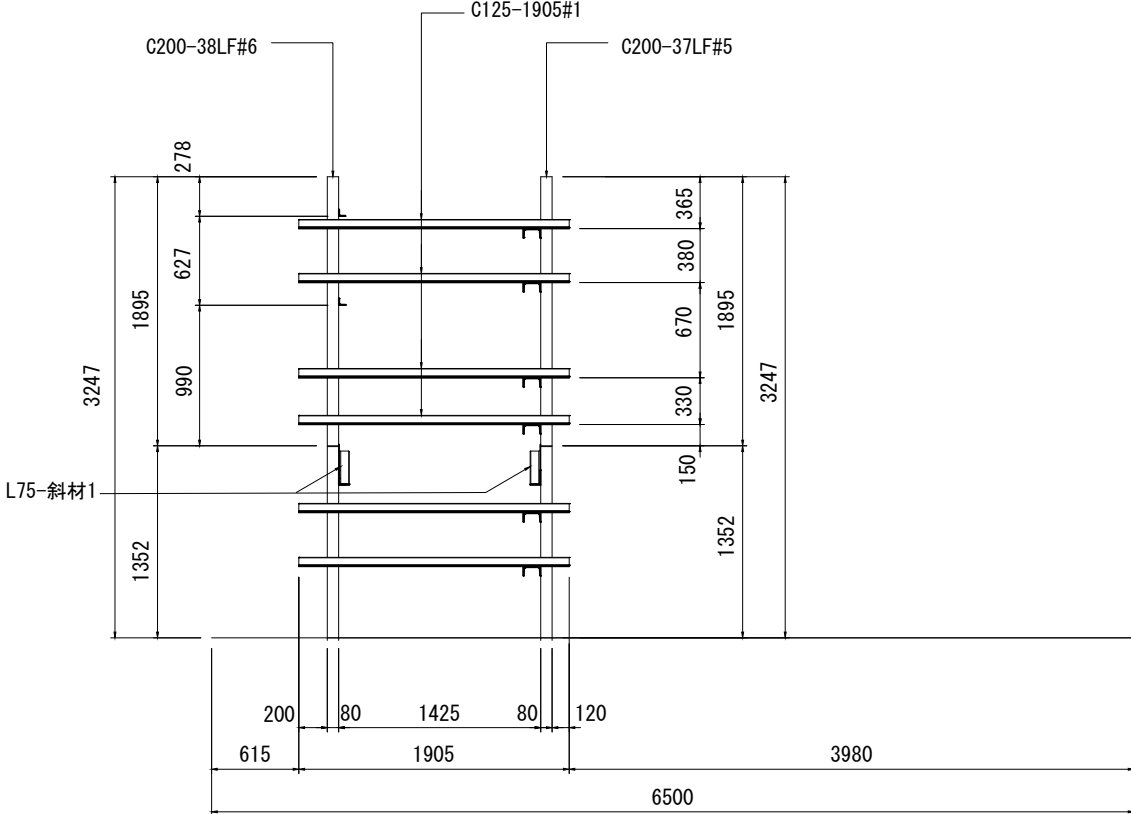
D-D断面



E-E断面



F-F断面

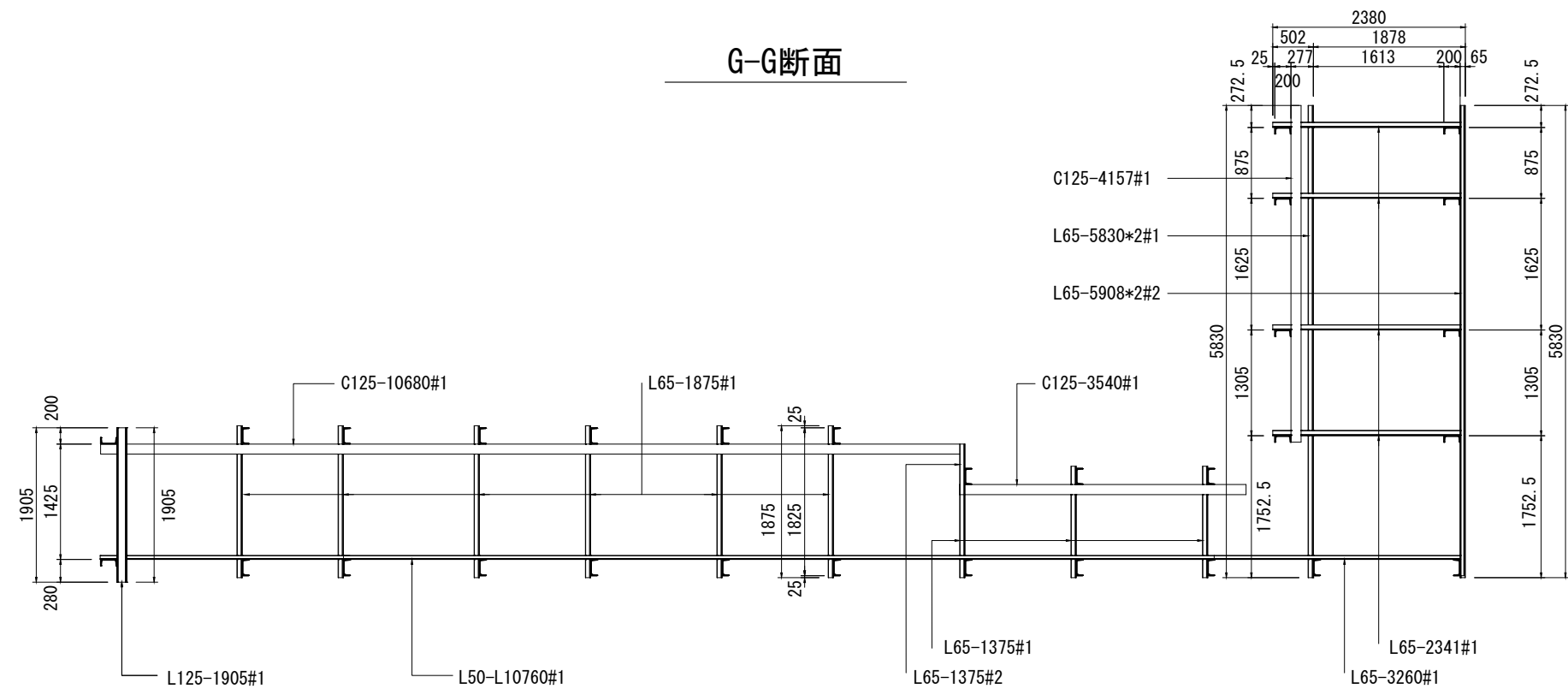


特記事項

- ①C200柱およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キャッチラップ + 単管を手摺として固定する。リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
- ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
- ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、
可能であれば上部で再利用する
- ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと
- ⑨EL+1.8mのL65-1520とL65-1890は鉄筋組立完了後、打設までに溶接して接合すること

セパレーター架台詳細図(5) (38LF)

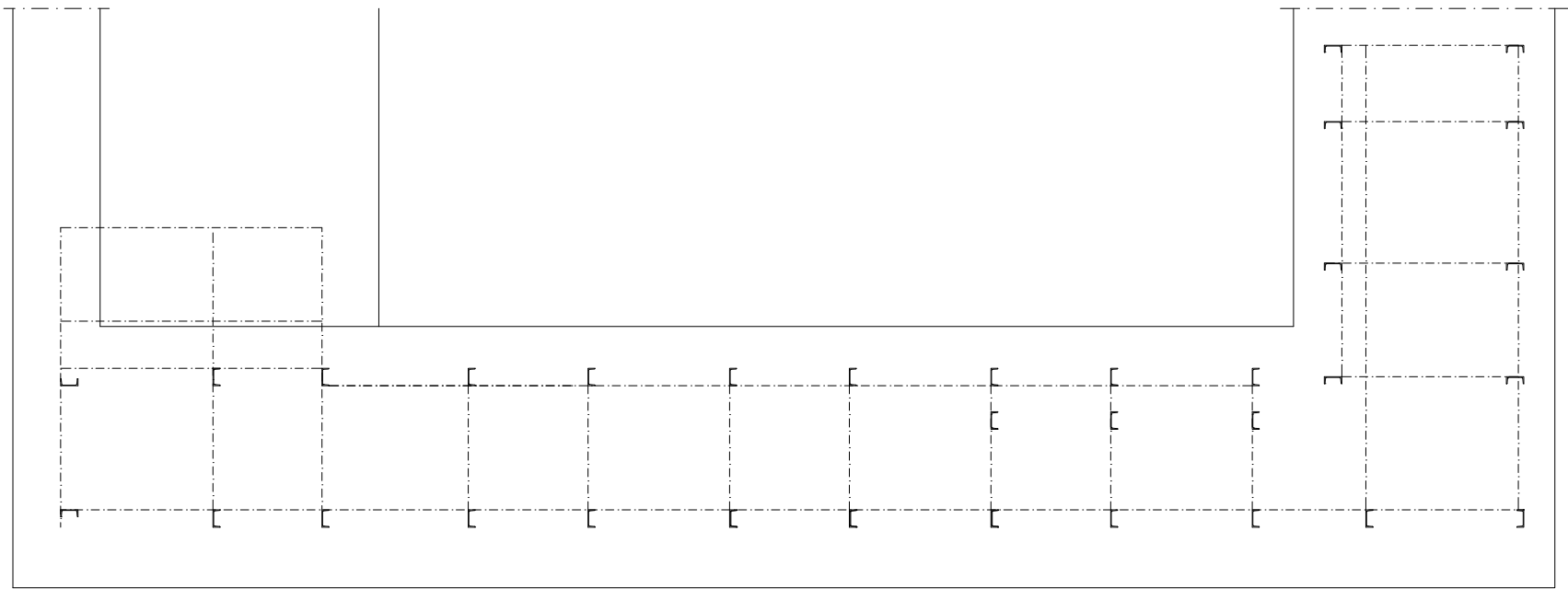
S=1:75



- 特記事項
- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合する。方法は以下のいずれかとする。
A: 添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B: 添接板のみ固定し、キャッチアップ + 単管を手摺として固定する。次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め (フランジ部は1点)
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セパ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。

セパレーター架台詳細図(6) (38LF)

柱 伏 図



特記事項
①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。

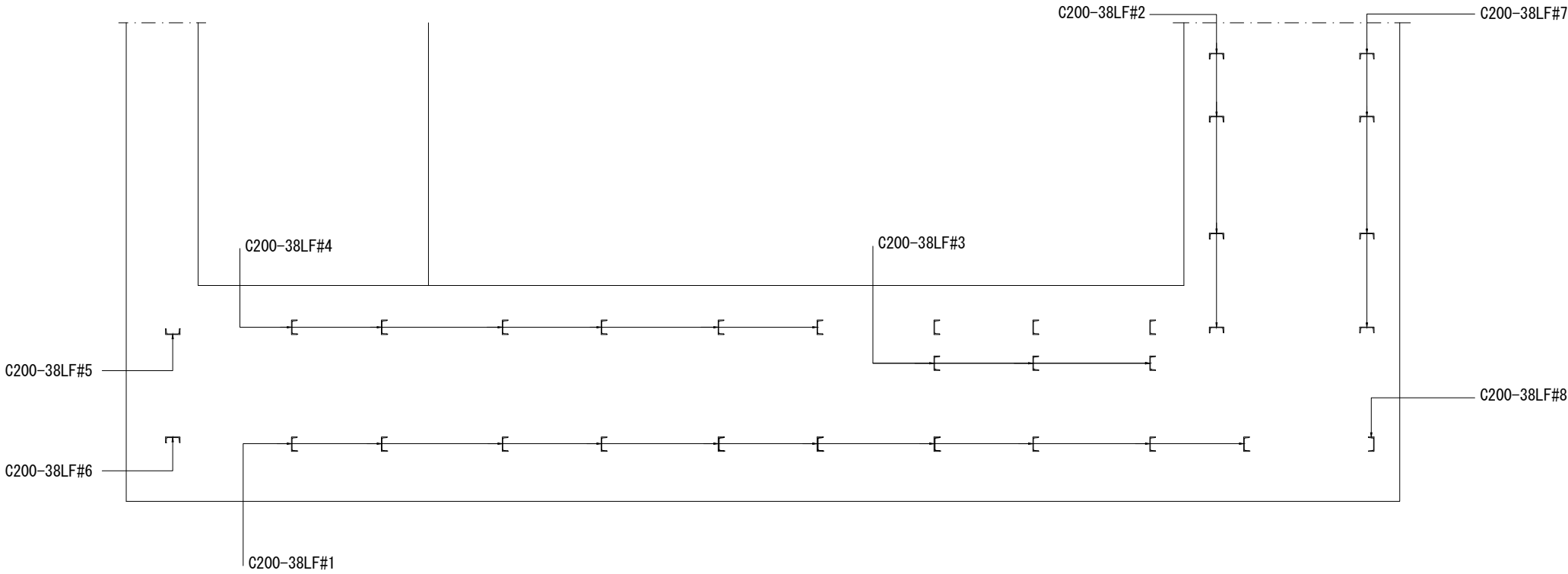
②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合する。方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キャッチラック[®]＋単管を手摺として固定する。次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。

③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め
(フランジ部は1点)
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め

④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上

⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セパ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。

柱 番 号 図

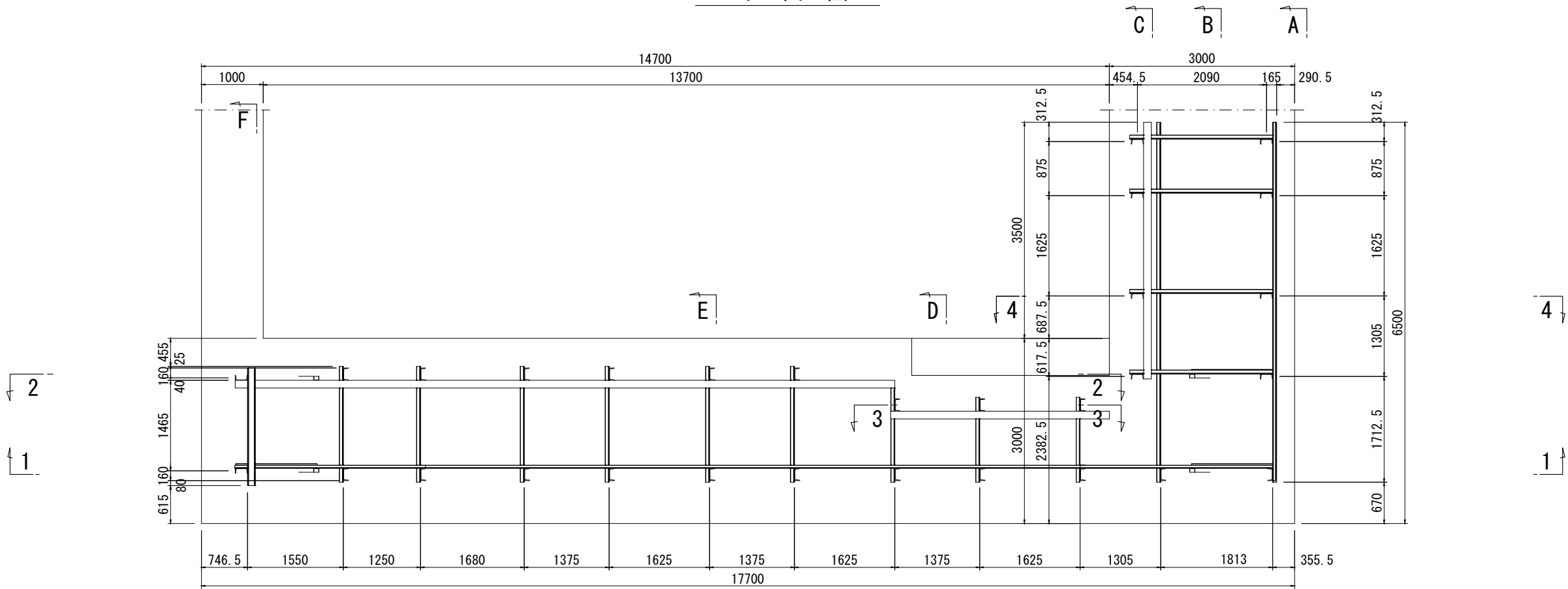


⑥

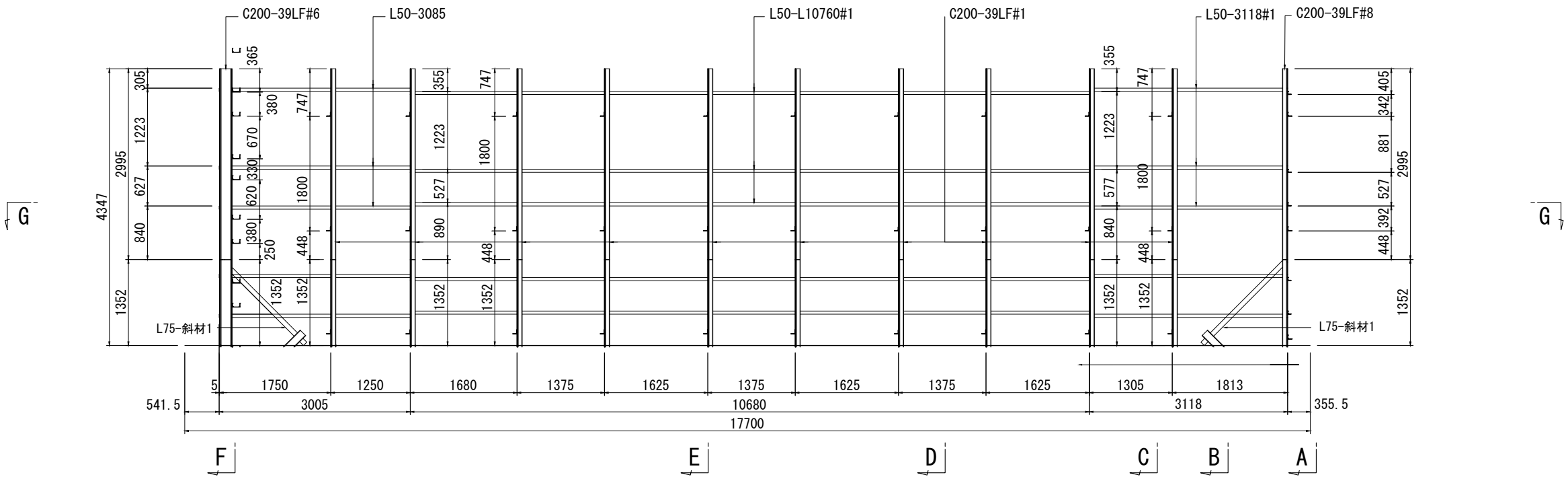
セパレーター架台構造図（39LF）

S=1:75

平面図



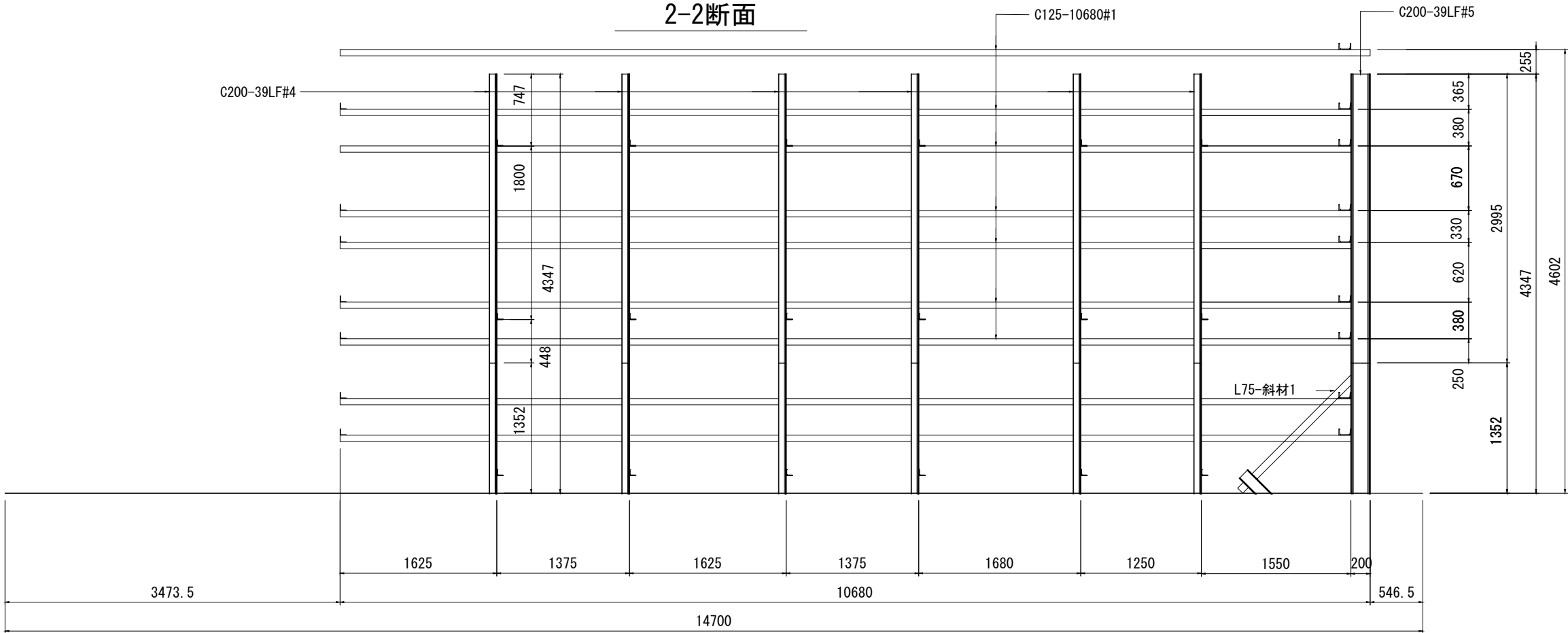
1-1断面



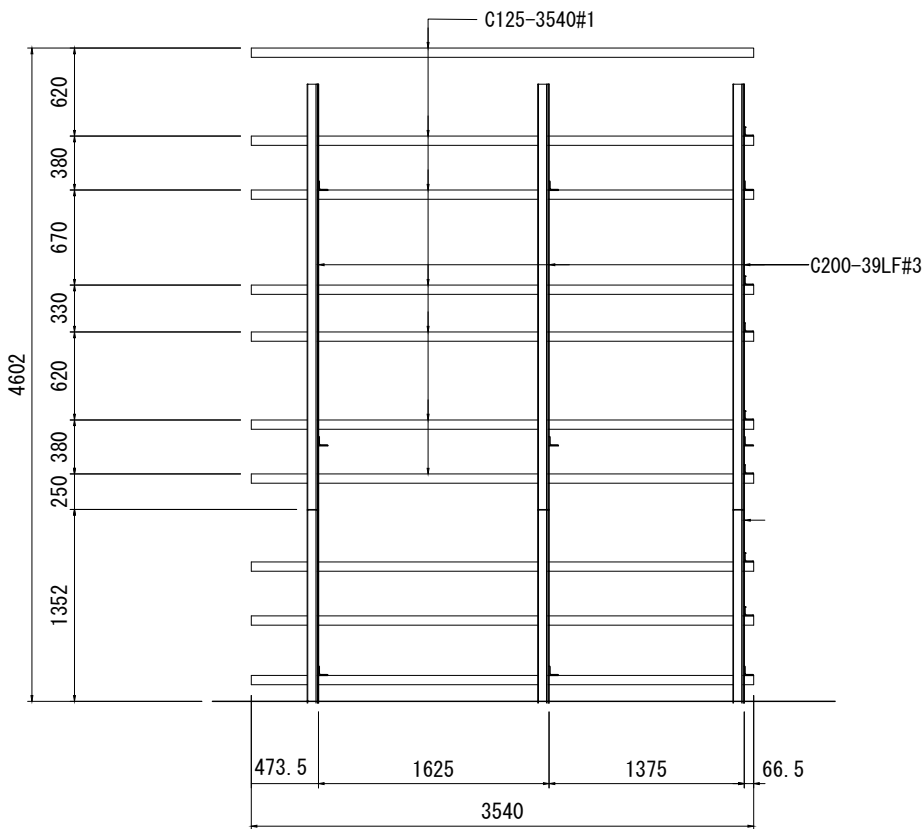
セパレーター架台詳細図(1) (39LF)

S=1:50

2-2断面



3-3断面

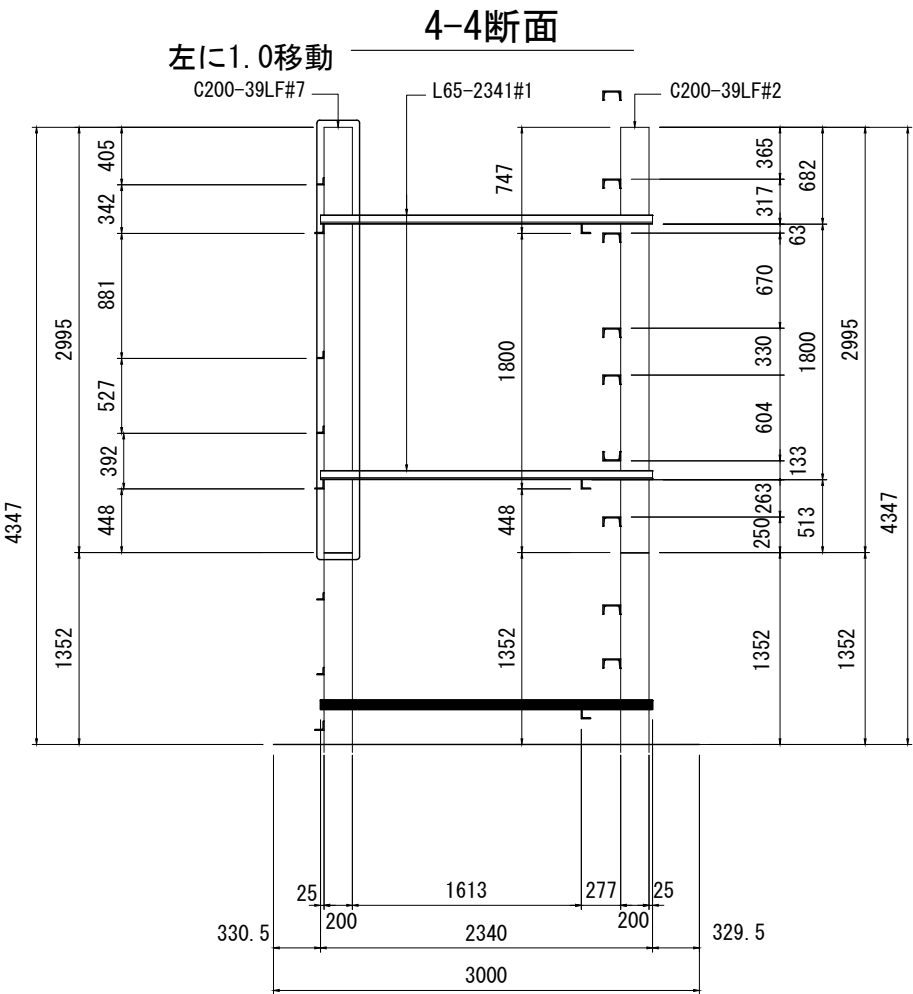


特記事項

- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キャッチラフ[®]＋単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、
ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
- ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
- ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、
可能であれば上部で再利用する
- ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと

セパレーター架台詳細図(2) (39LF)

S=1:50



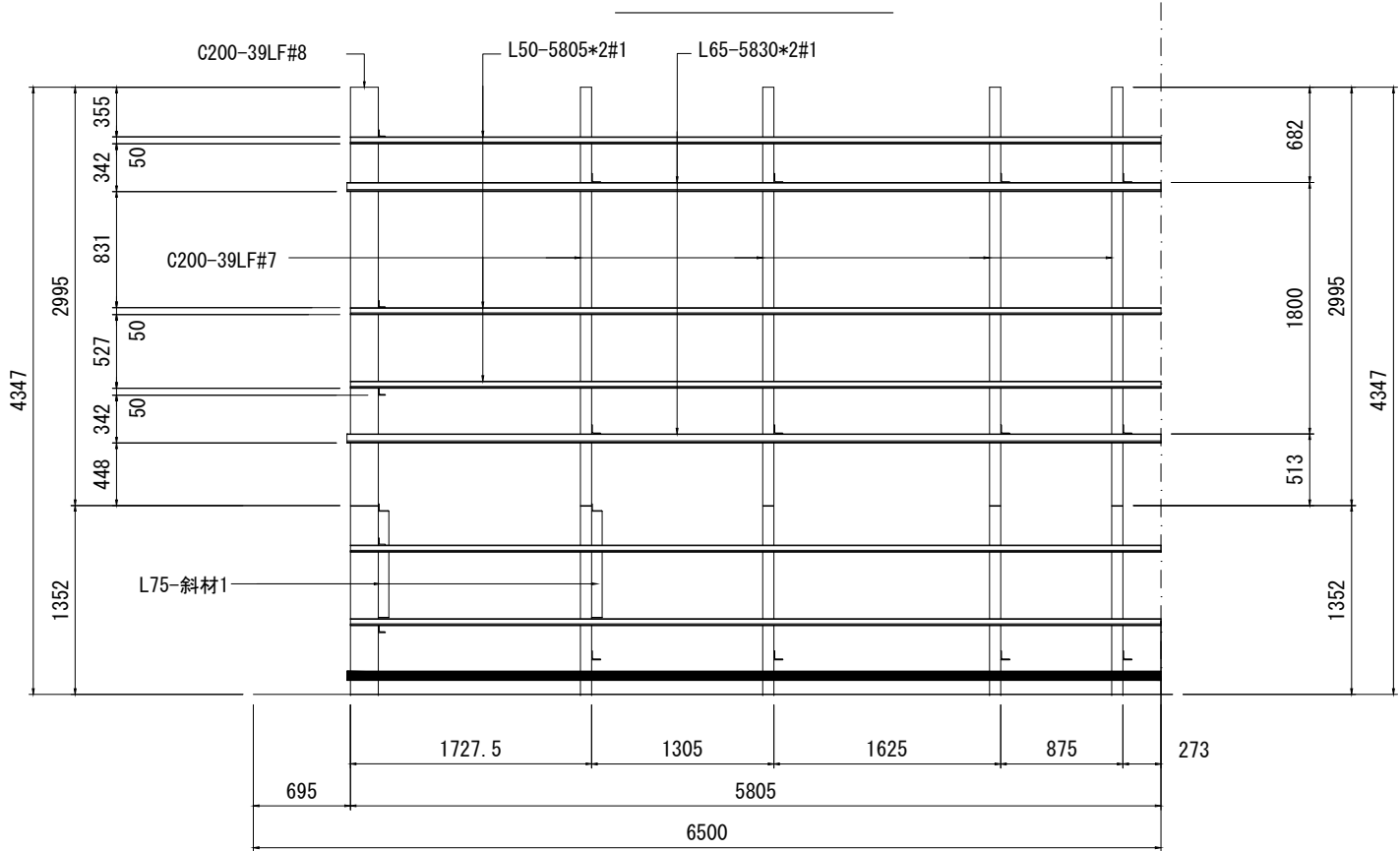
特記事項

- ① C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ② C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A: 添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B: 添接板のみ固定し、キャッチアップ+単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③ 各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒ HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒ HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒ 普通ボルトM10にて1点止め
- ④ 各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒ 1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒ 1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤ 水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、
ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
- ⑥ C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
- ⑦ グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、
可能であれば上部で再利用する

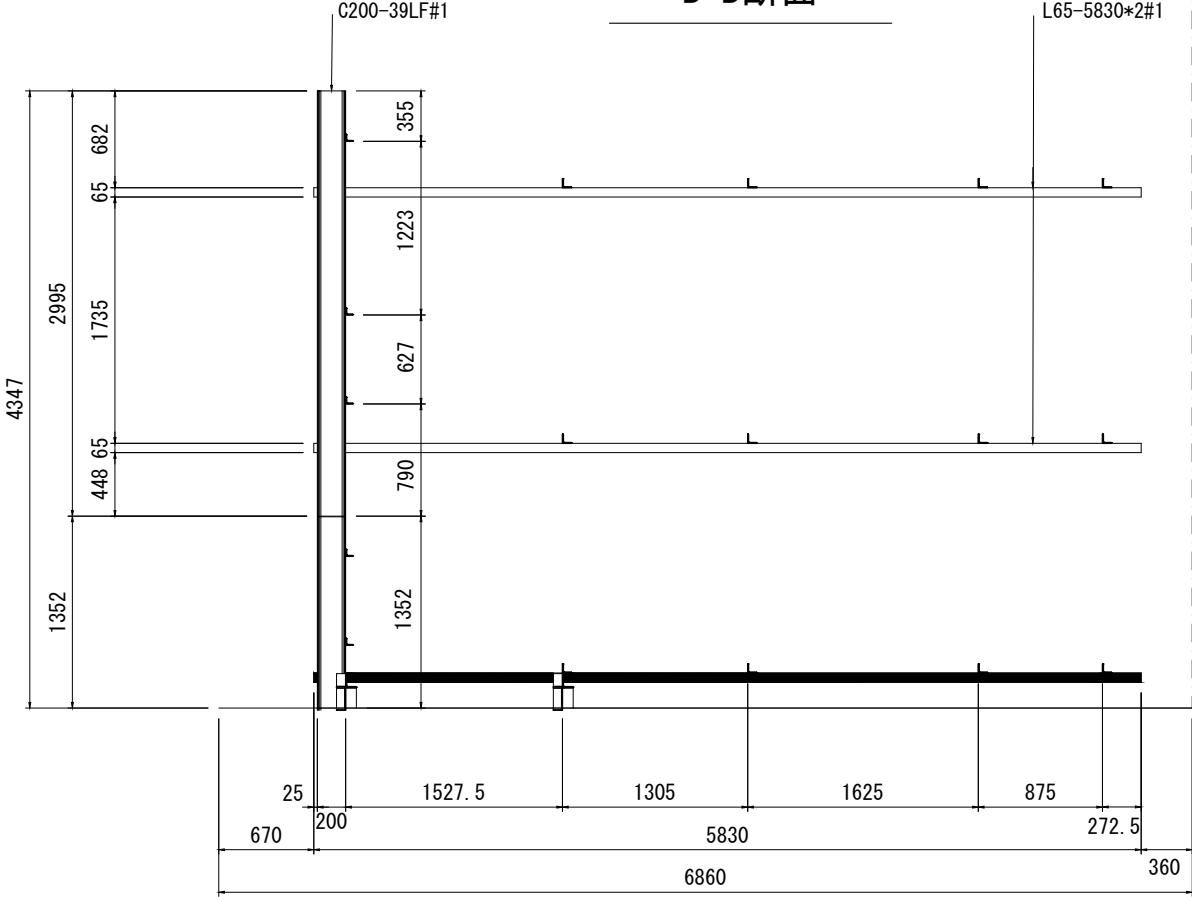
セパレーター架台詳細図(3) (39LF)

S=1:50

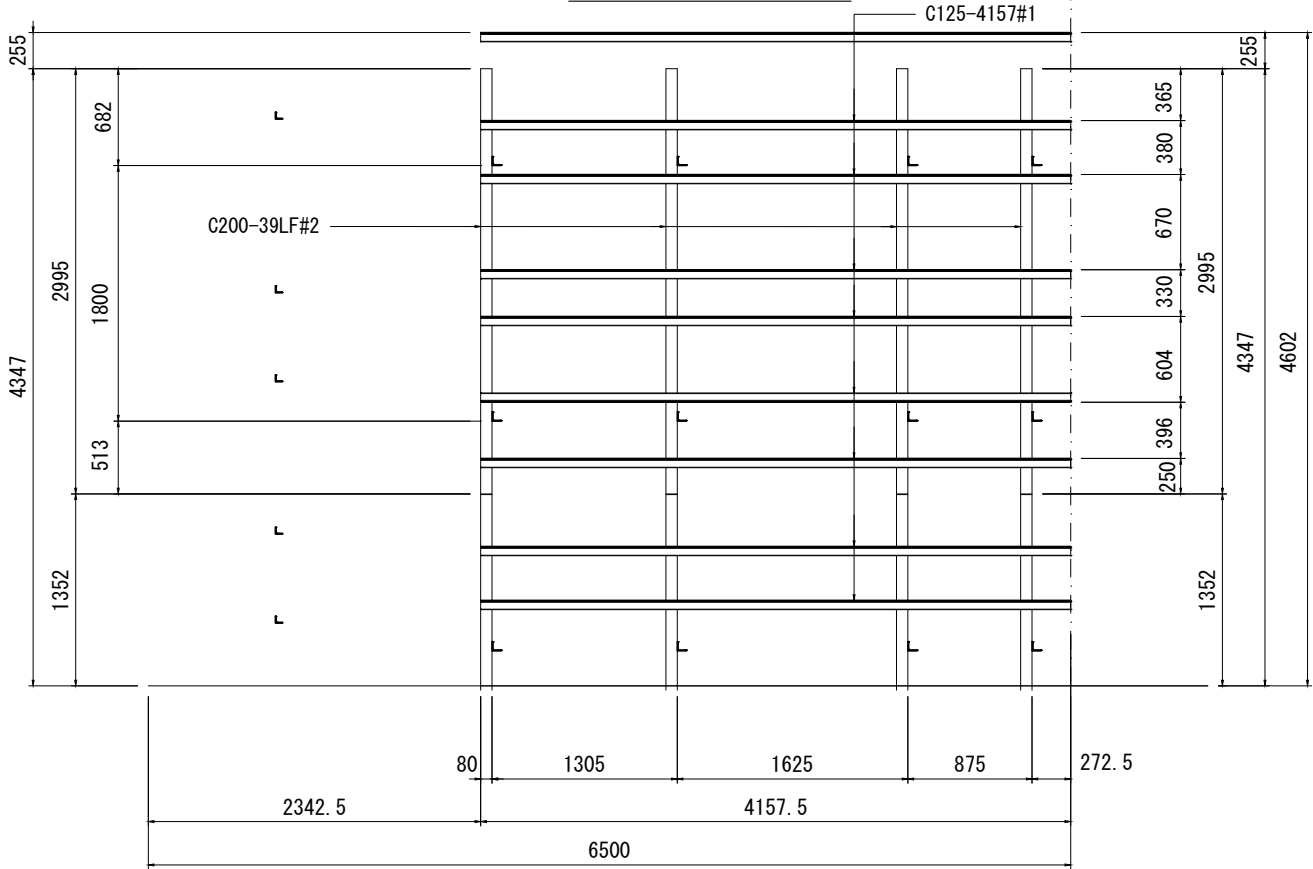
A-A断面



B-B断面



C-C断面



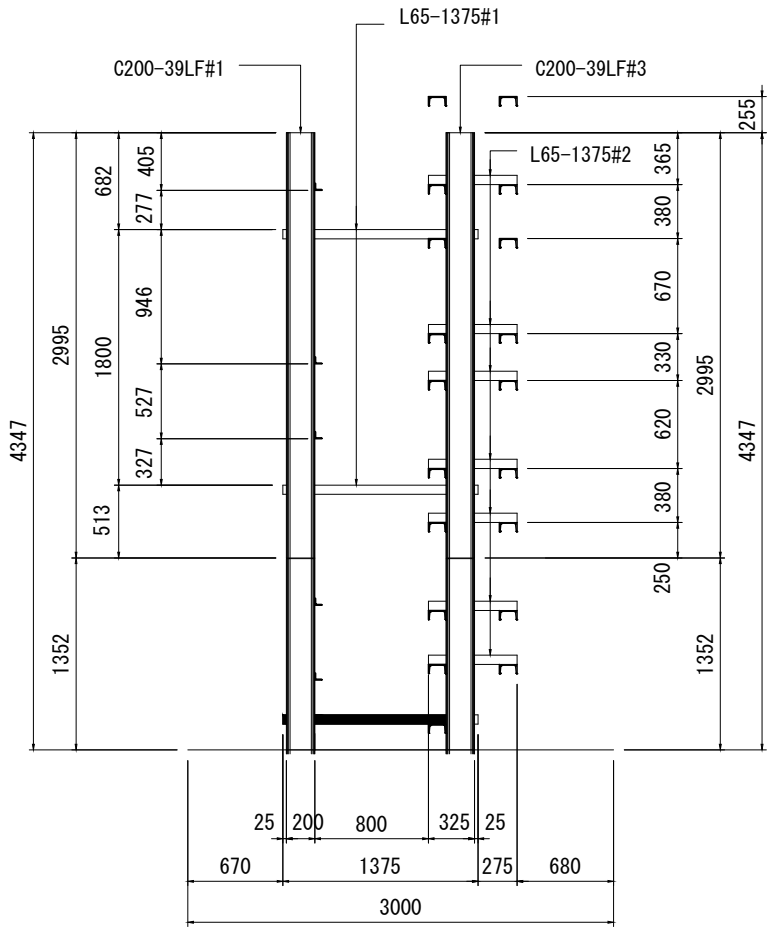
特記事項

- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キックアップ+単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50、C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
- ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
- ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、可能であれば上部で再利用する
- ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと

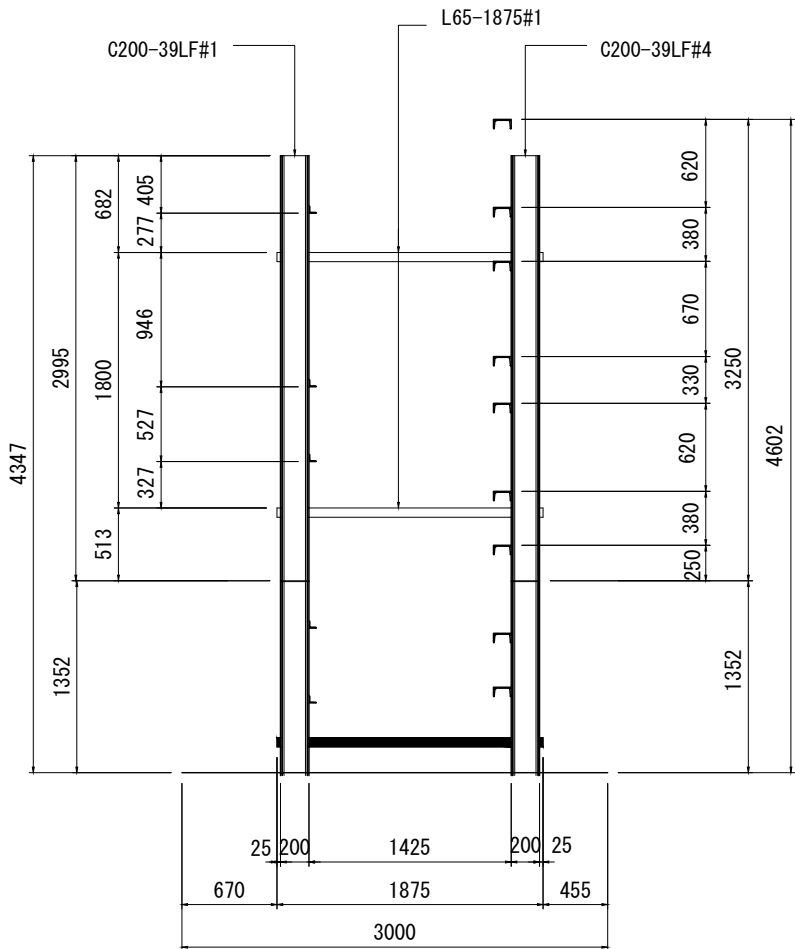
セパレーター架台詳細図(4) (39LF)

S=1:50

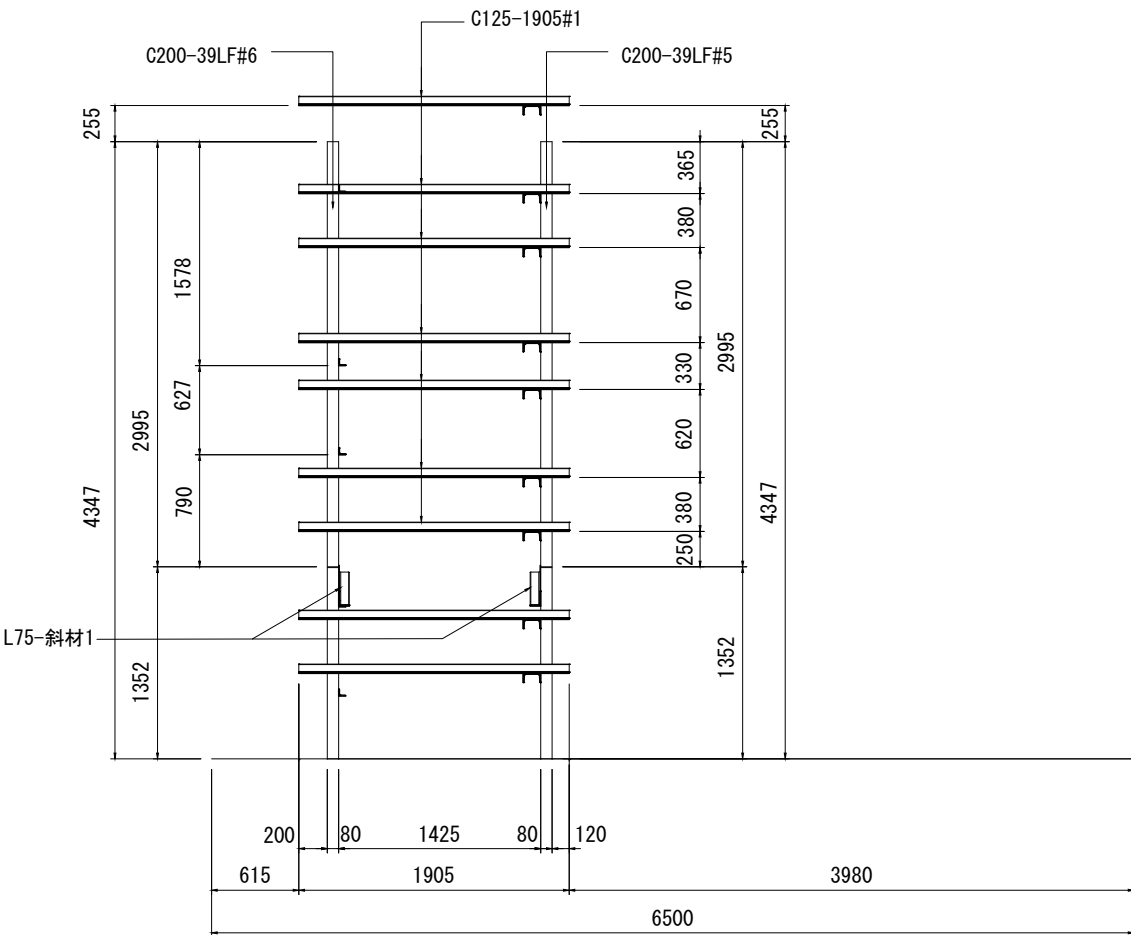
D-D断面



E-E断面



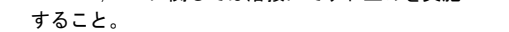
F-F断面



- 特記事項
- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
 - ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キャッチラック + 単管を手摺として固定する。リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
 - ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
 - ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
 - ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
 - ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
 - ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、
可能であれば上部で再利用する
 - ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと
 - ⑨EL+1.8mのL65-1520とL65-1890は鉄筋組立完了後、打設までに溶接して接合すること

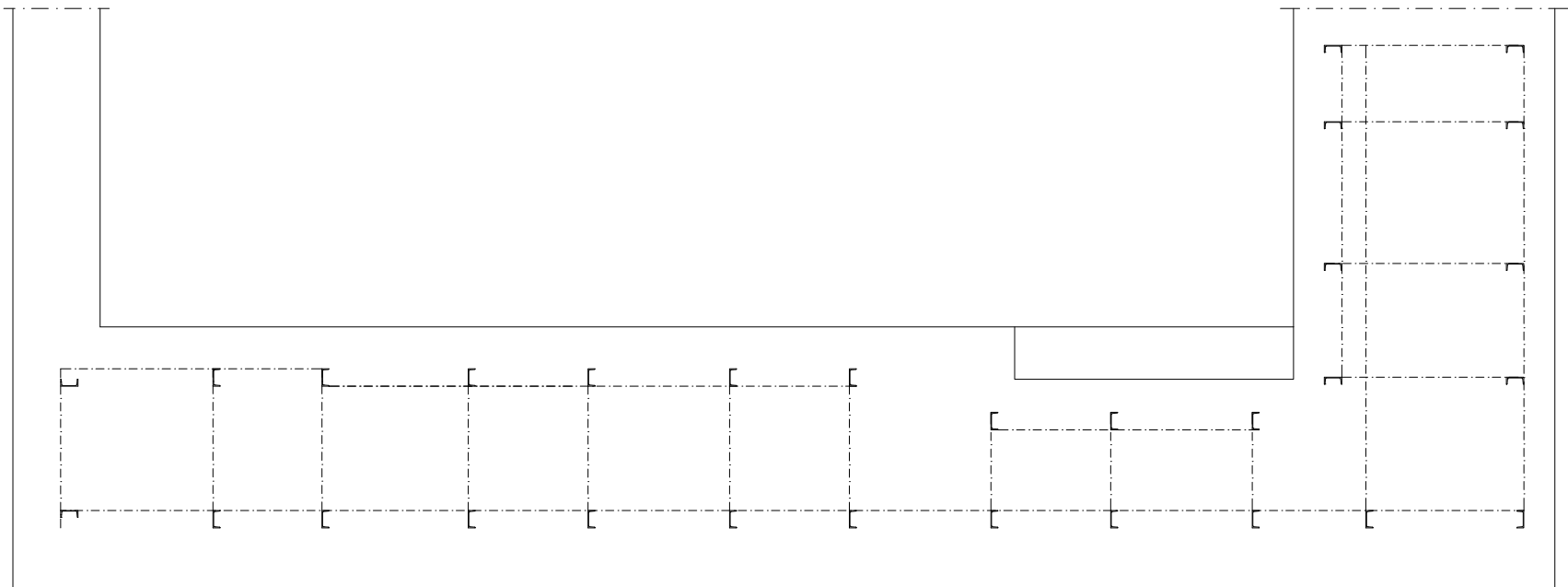
S=1:75

G-G断面



セパレーター架台詳細図(6) (39LF)

柱 伏 図



特記事項
①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。

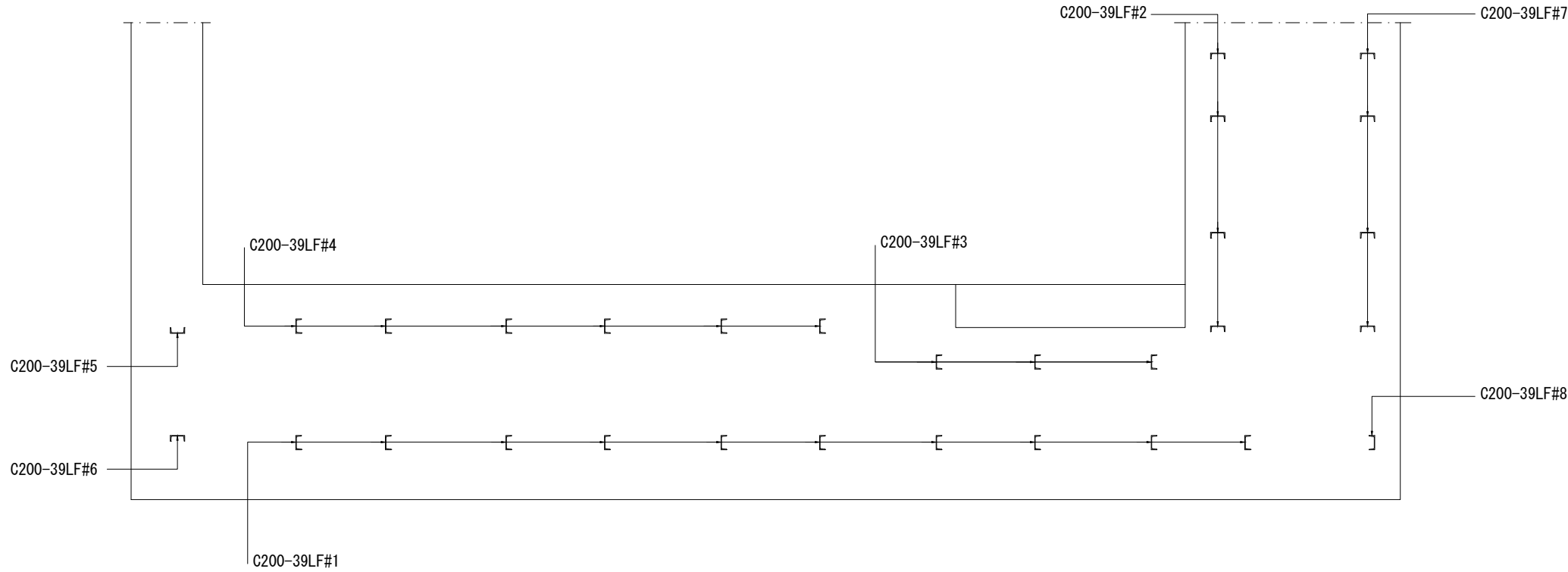
②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合する。方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キャッチラック[®] + 単管を手摺として固定する。次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。

③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め
(フランジ部は1点)
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め

④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上

⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セパ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。

柱 番 号 図

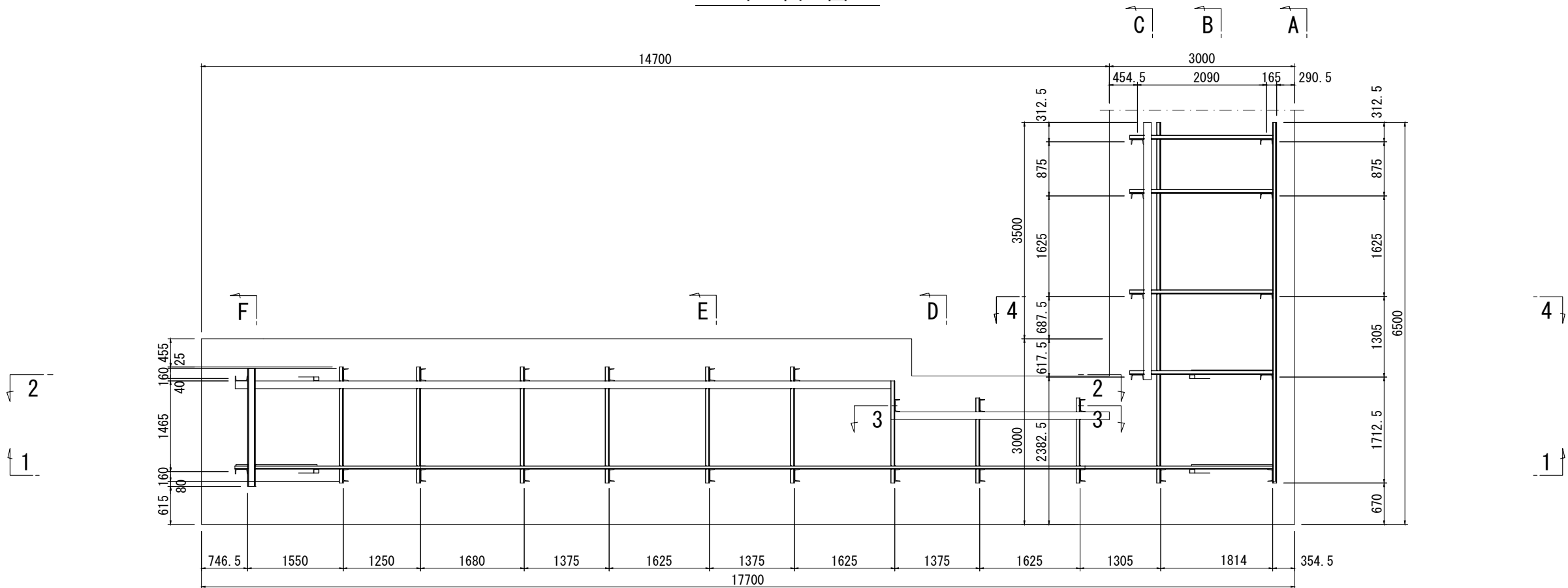


7

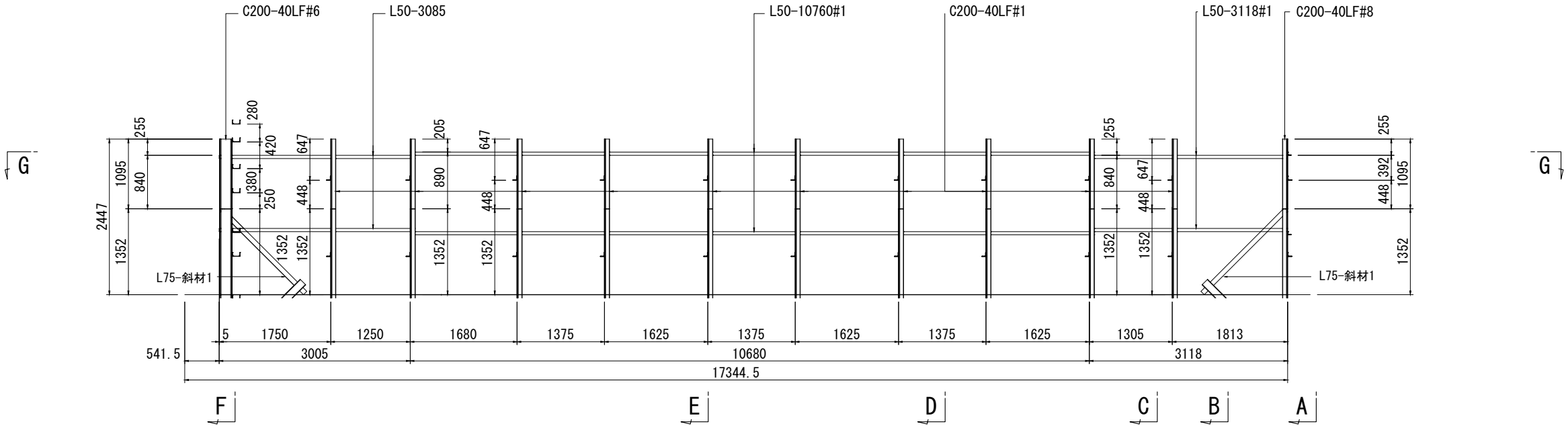
セパレーター架台構造図 (40LF)

S=1:75

平面図



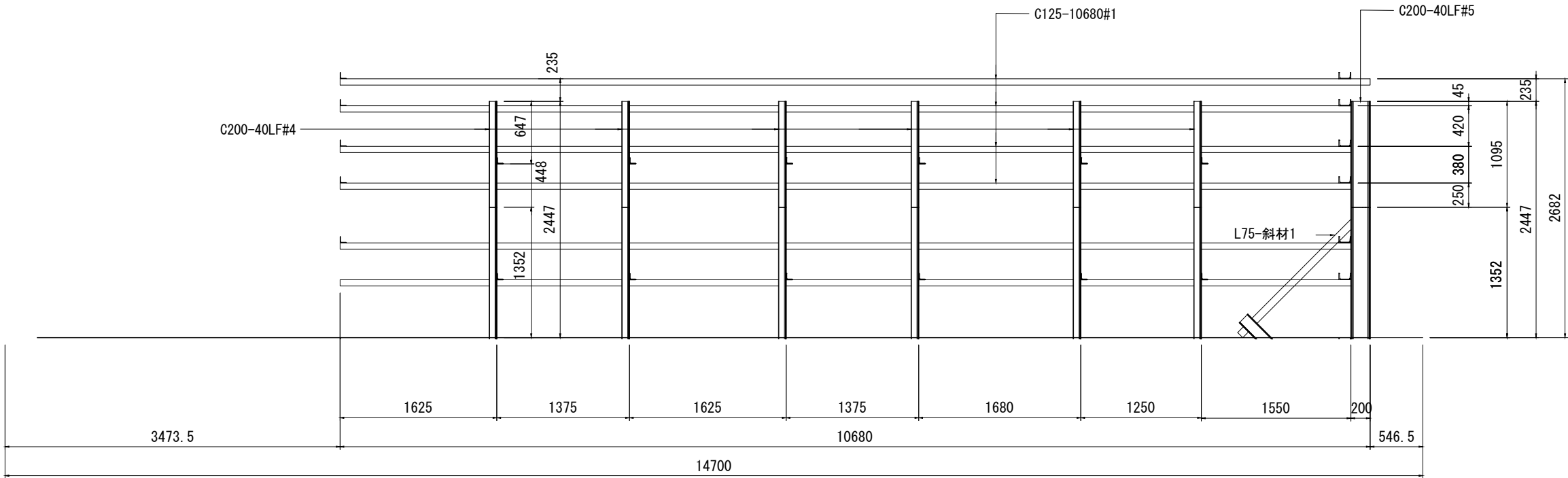
1-1断面



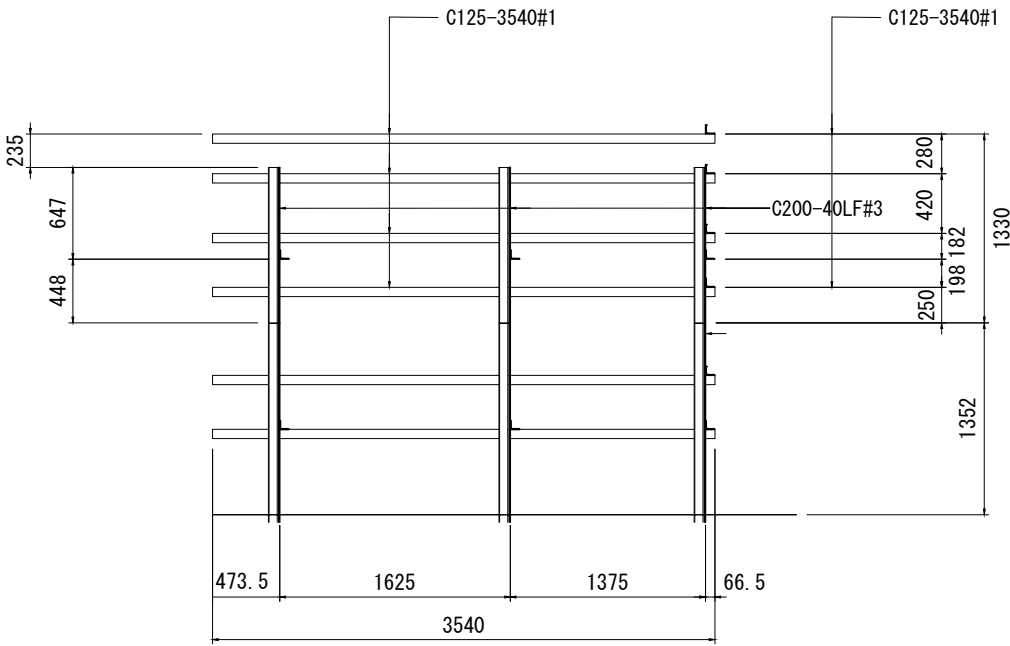
セパレーター架台詳細図(1) (40LF)

S=1:50

2-2断面



3-3断面



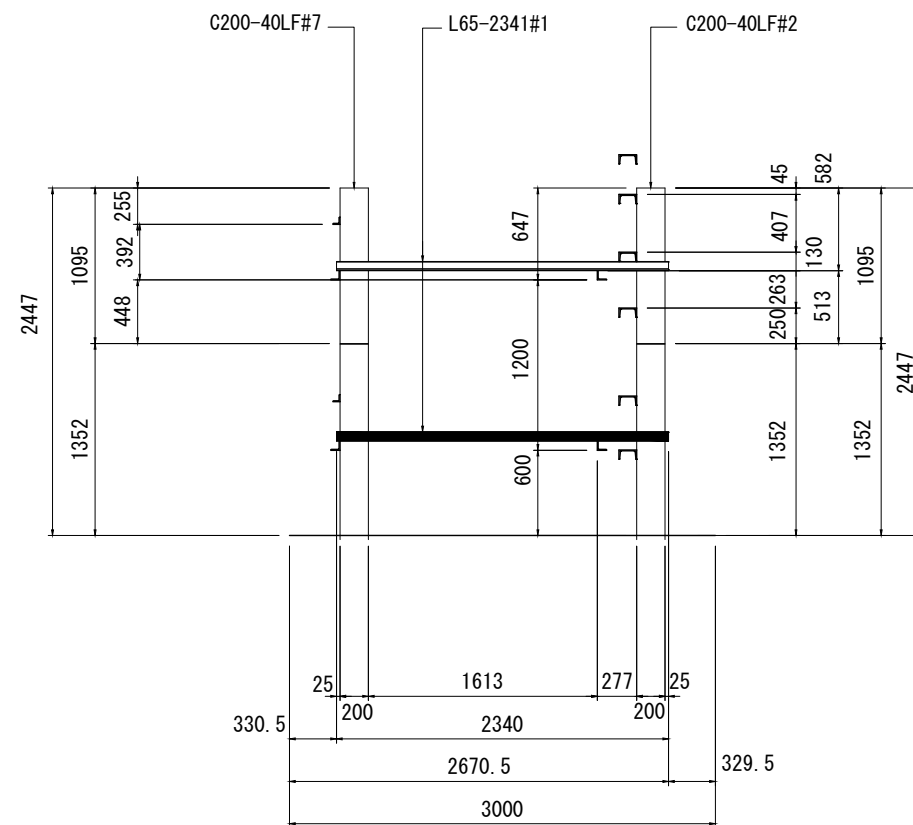
特記事項

- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キャッチラック + 単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、
ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
- ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
- ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、
可能であれば上部で再利用する
- ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと

セパレータ一架台詳細図(2) (40LF)

S=1:50

4-4断面



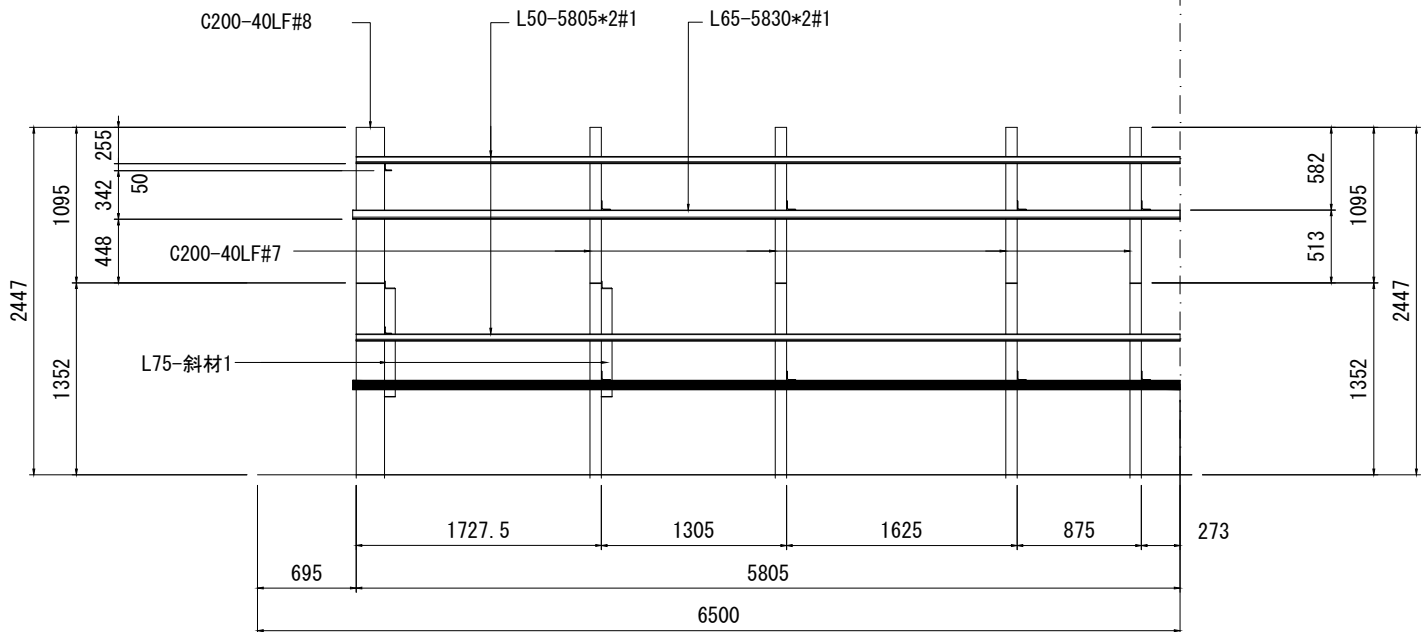
特記事項

- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キックアップ+単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、
ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50、C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
- ⑥C125のチャンネルは背面側にセバレータを溶接するため、向きに注意すること
- ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、
可能であれば上部で再利用する

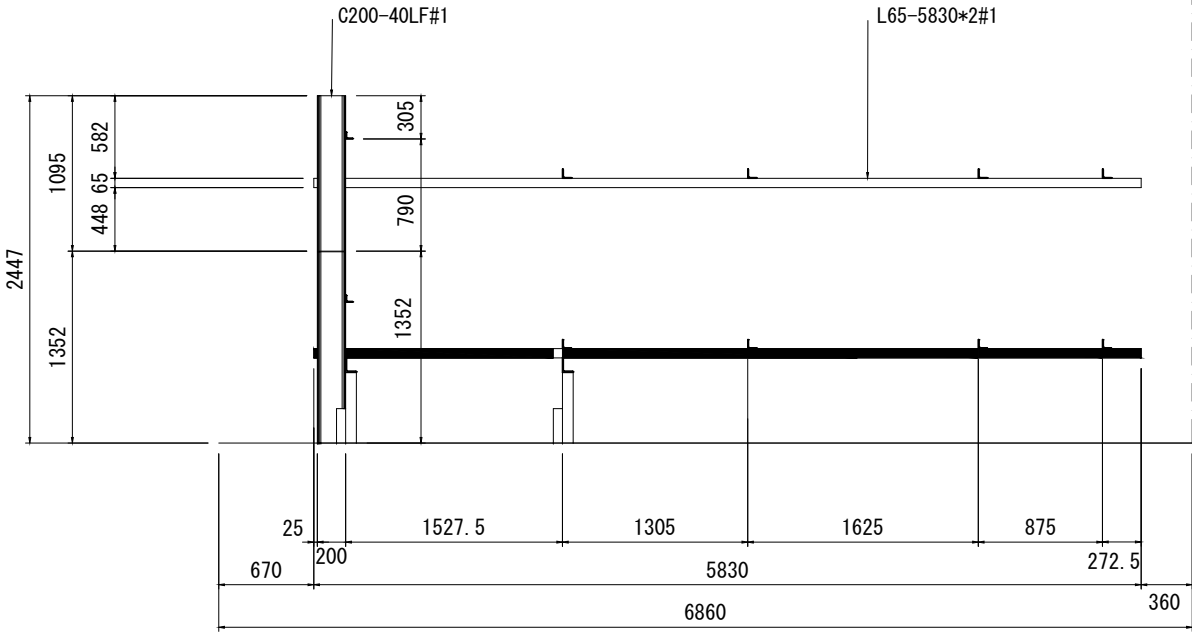
セパレーター架台詳細図(3) (40LF)

S=1:50

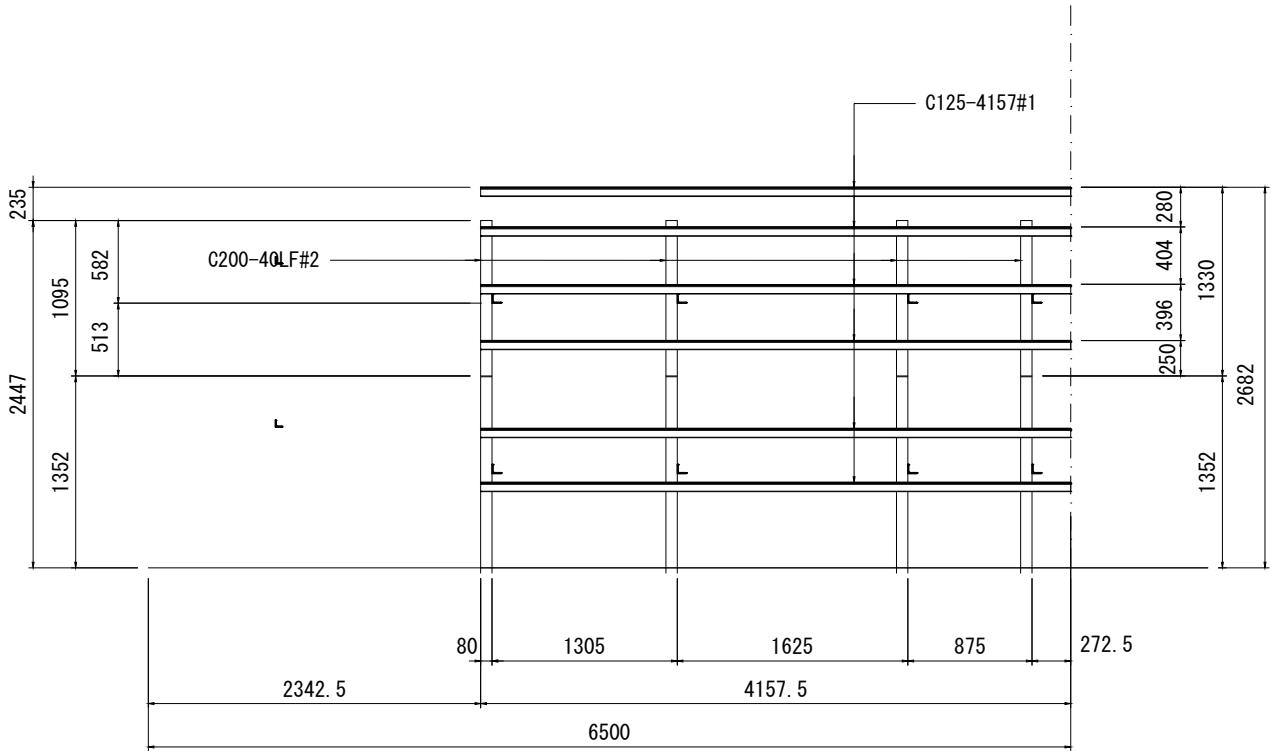
A-A断面



B-B断面



C-C断面



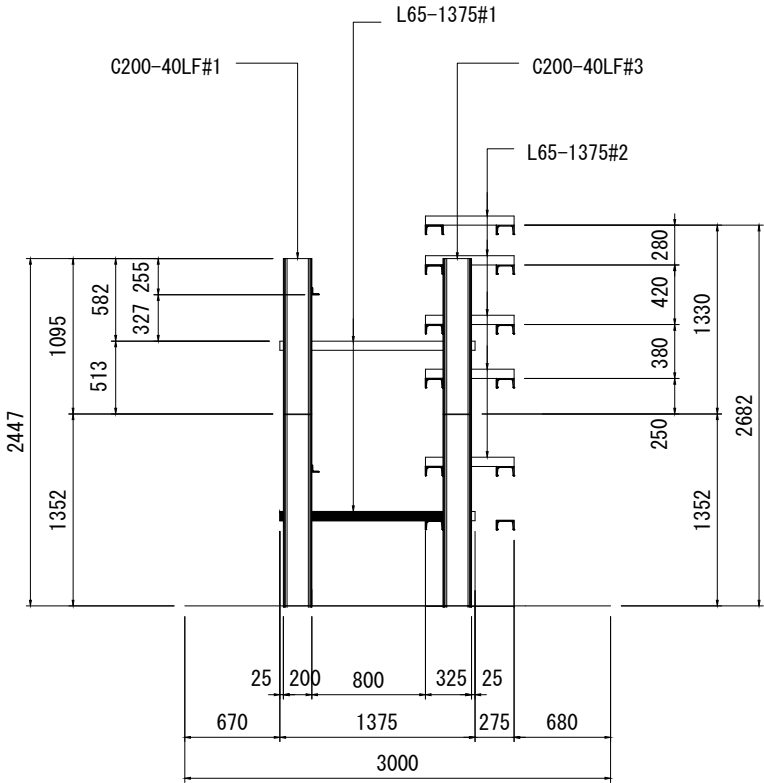
特記事項

- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A: 添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B: 添接板のみ固定し、キックアップ+単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め(フランジ部は1点)
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
- ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
- ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、可能であれば上部で再利用する
- ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと

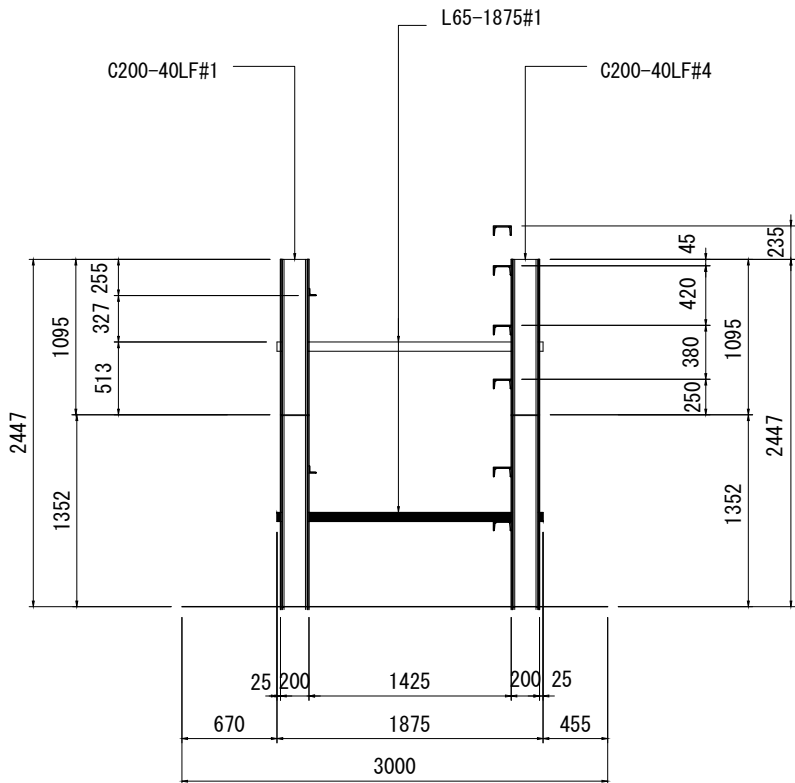
セパレーター架台詳細図(4) (40LF)

S=1:50

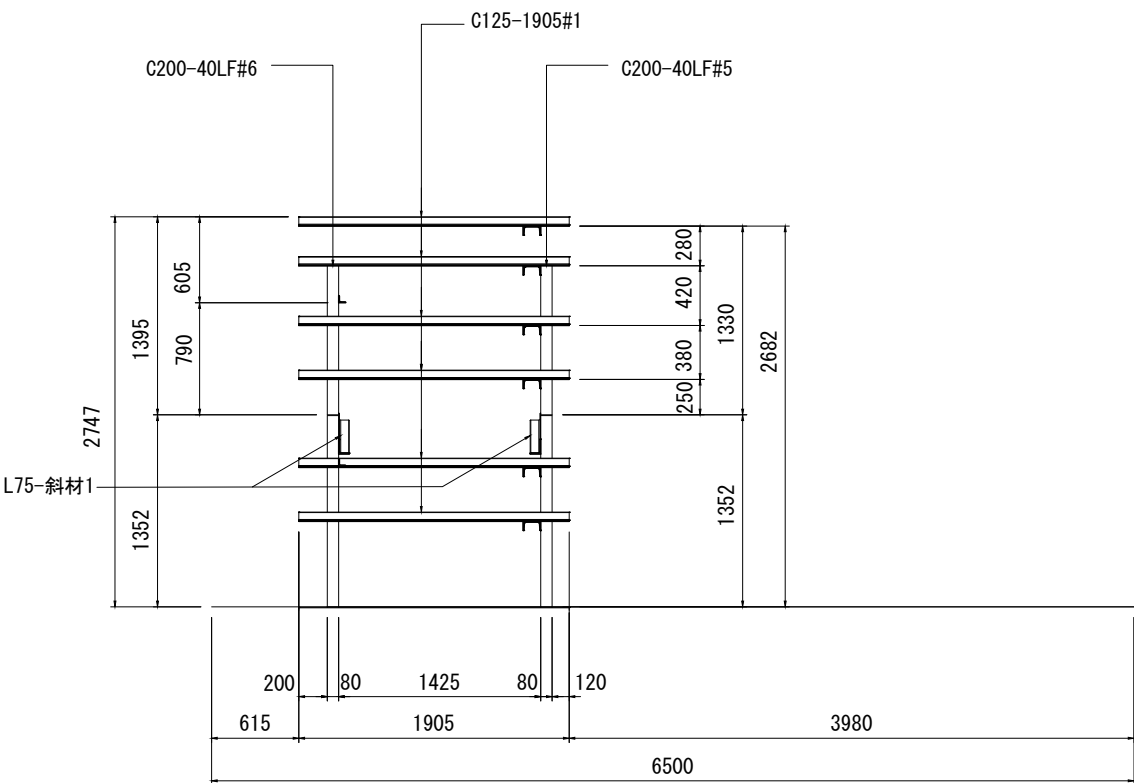
D-D断面



E-E断面



F-F断面

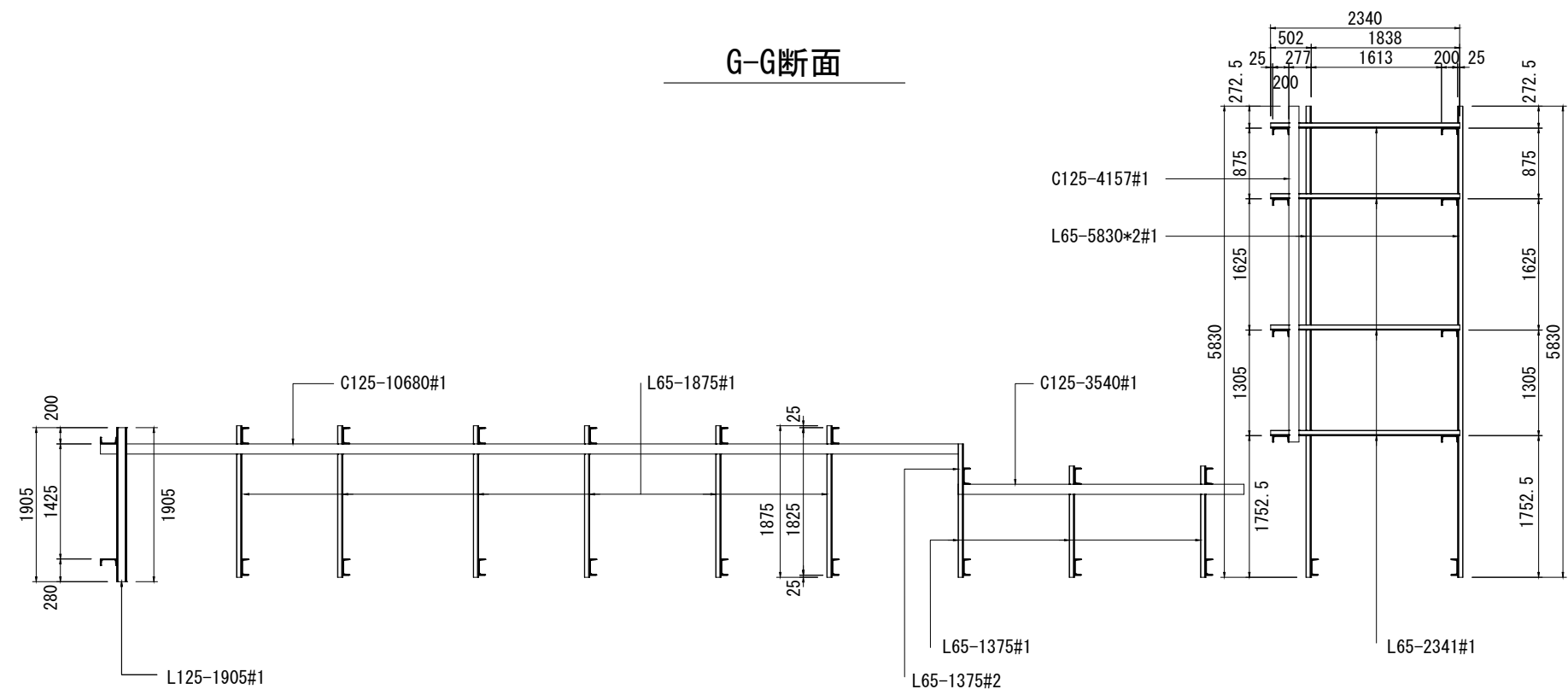


特記事項

- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キャッチラック + 単管を手摺として固定する。リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
- ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
- ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、
可能であれば上部で再利用する
- ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと
- ⑨EL+1.8mのL65-1520とL65-1890は鉄筋組立完了後、打設までに溶接して接合すること

セパレーター架台詳細図(5) (40LF)

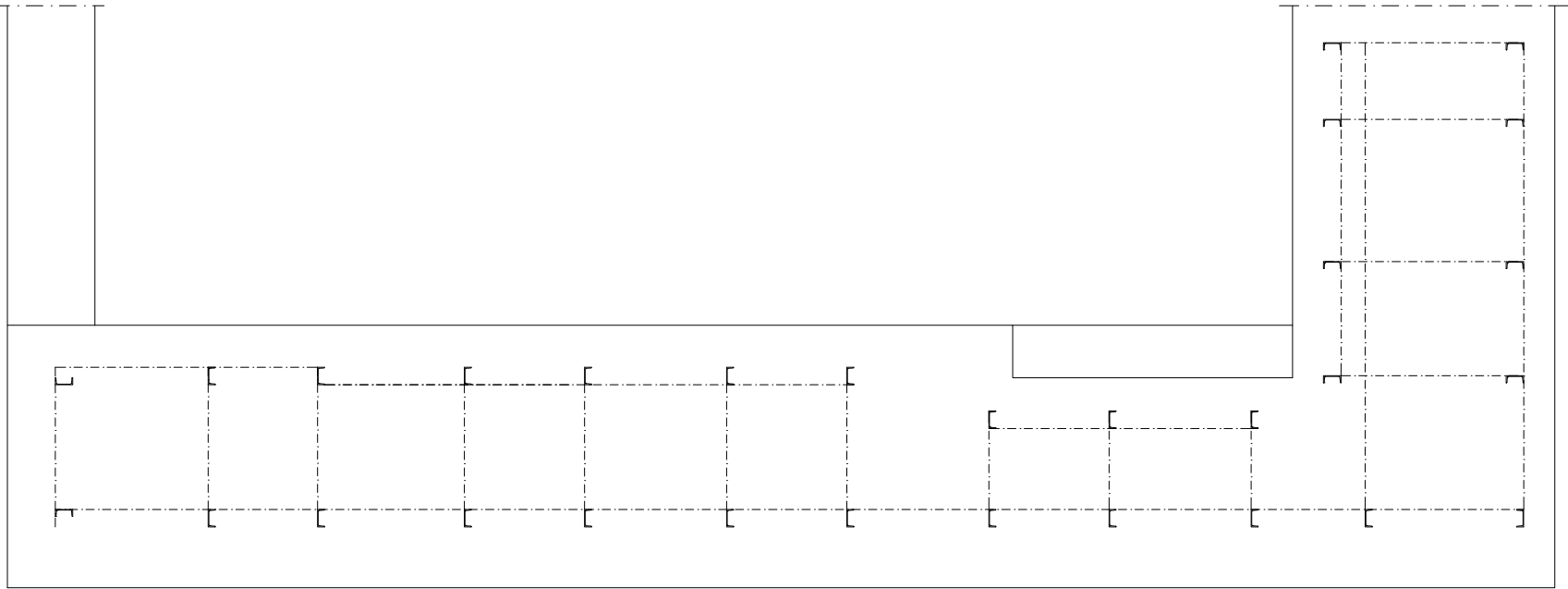
S=1:75



- 特記事項
- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用
したボルトジョイントによって延長する。詳細は別
図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接
板に接合する。方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込
んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キャッチアップ + 単管を手摺
として固定する。次リフト時に単管を撤去し、柱材
を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定
をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め
(フランジ部は1点)
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶
接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで
20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで
142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ
部は溶接固定とする。セパ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施
すること。

セパレーター架台詳細図(6) (40LF)

柱 伏 図



特記事項
①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。

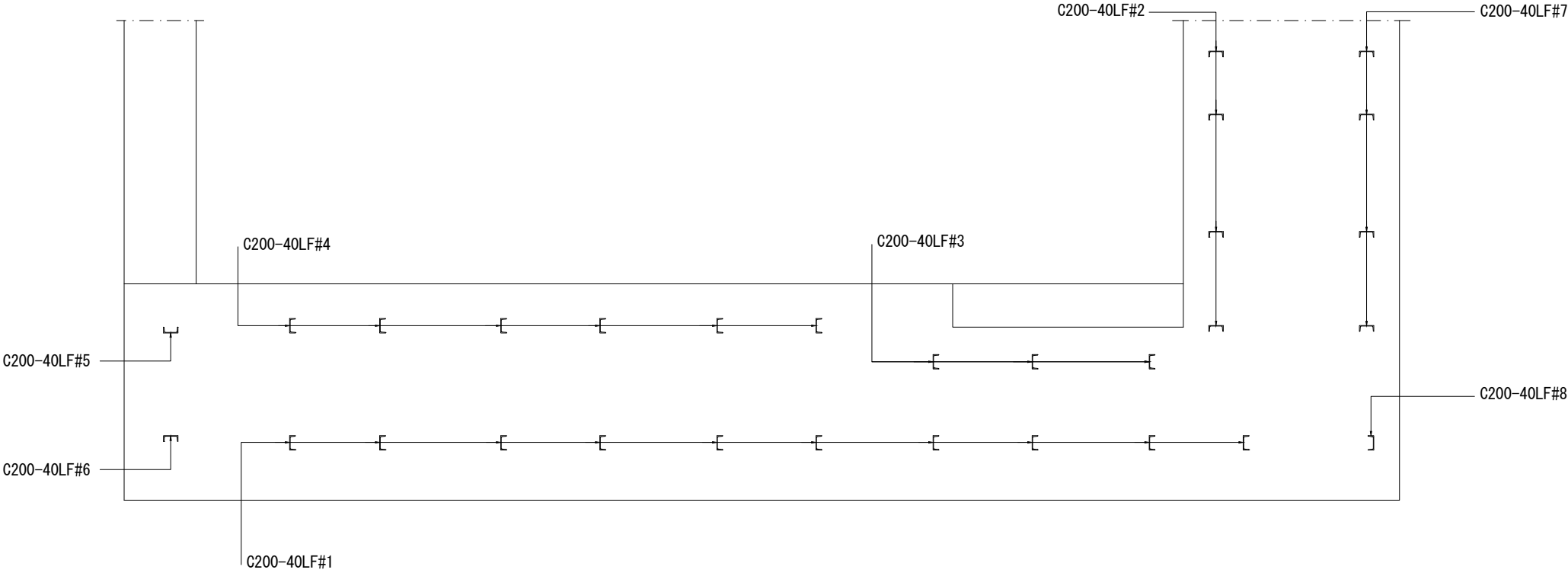
②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合する。方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キャッチラック[®]＋単管を手摺として固定する。次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。

③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め
(フランジ部は1点)
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め

④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上

⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セパ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。

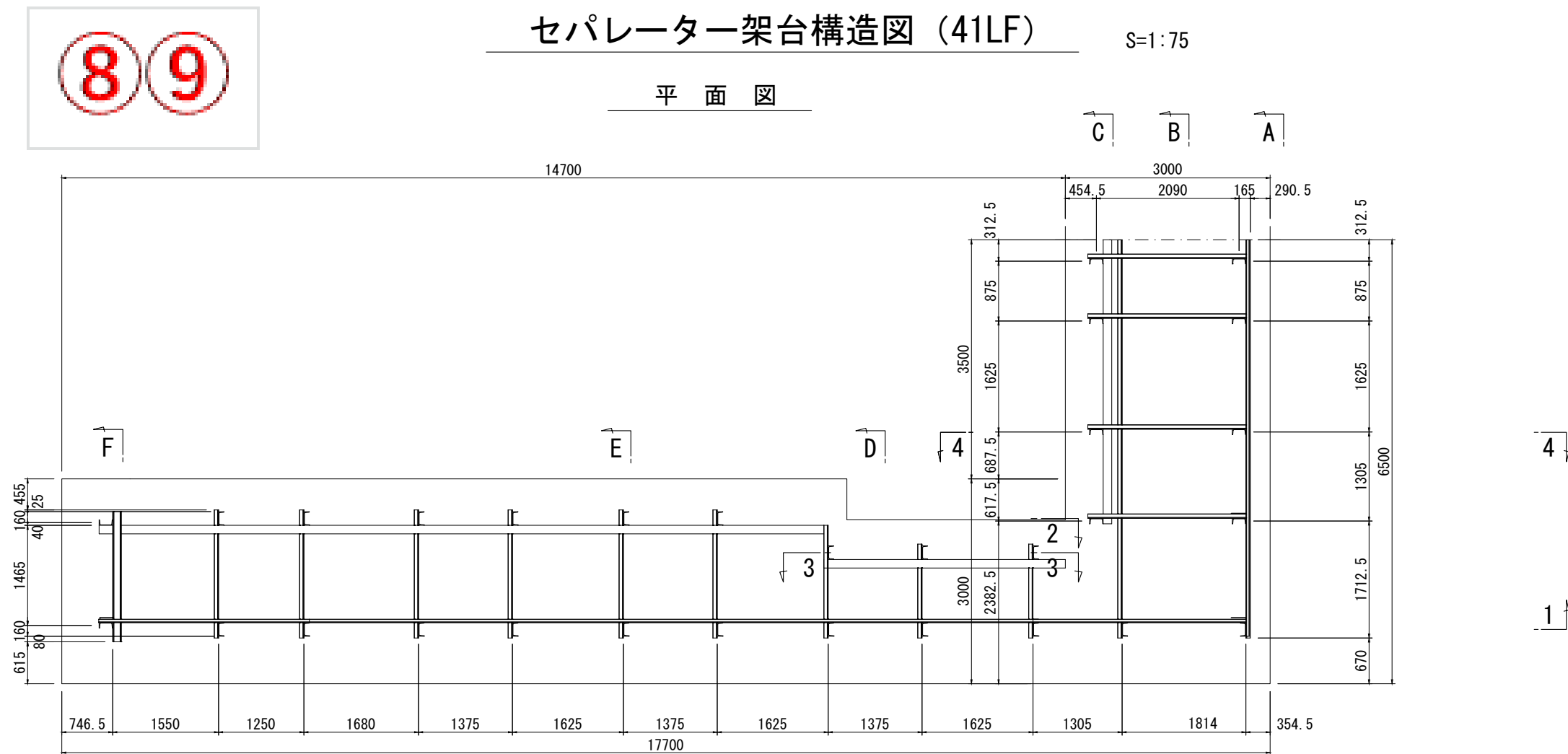
柱 番 号 図



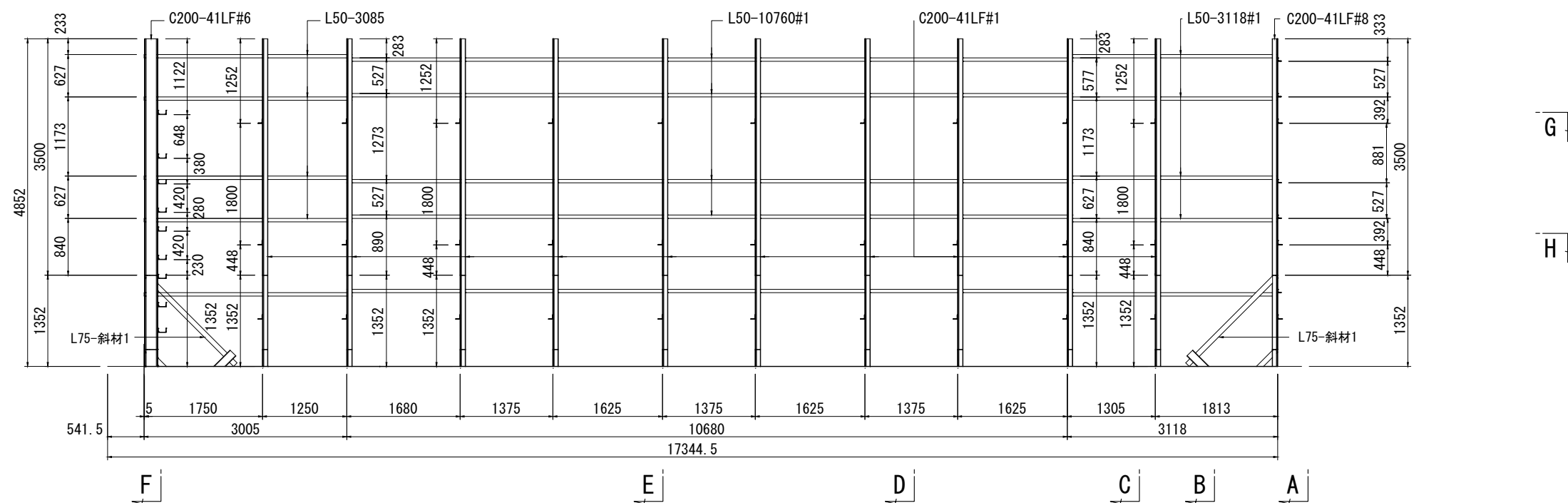
セパレーター一架台構造図 (41LF)

S=1:75

平面图



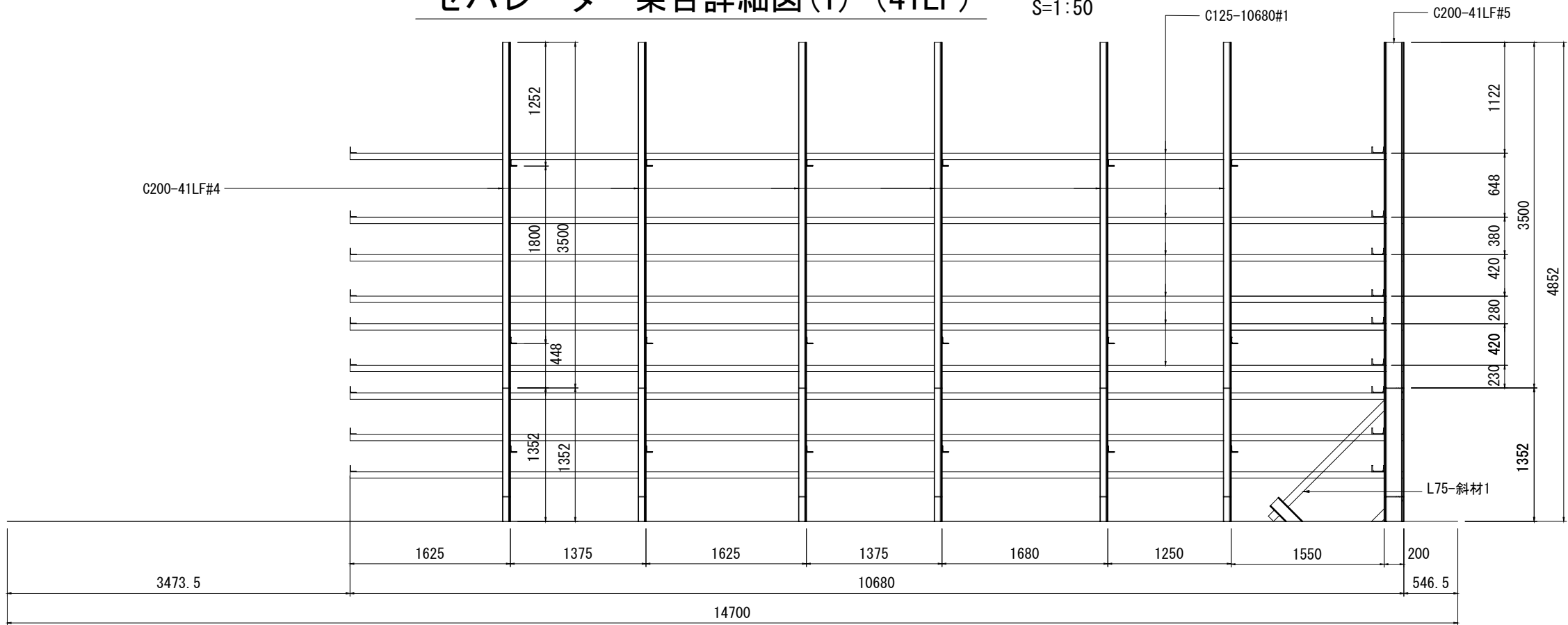
1-1断面



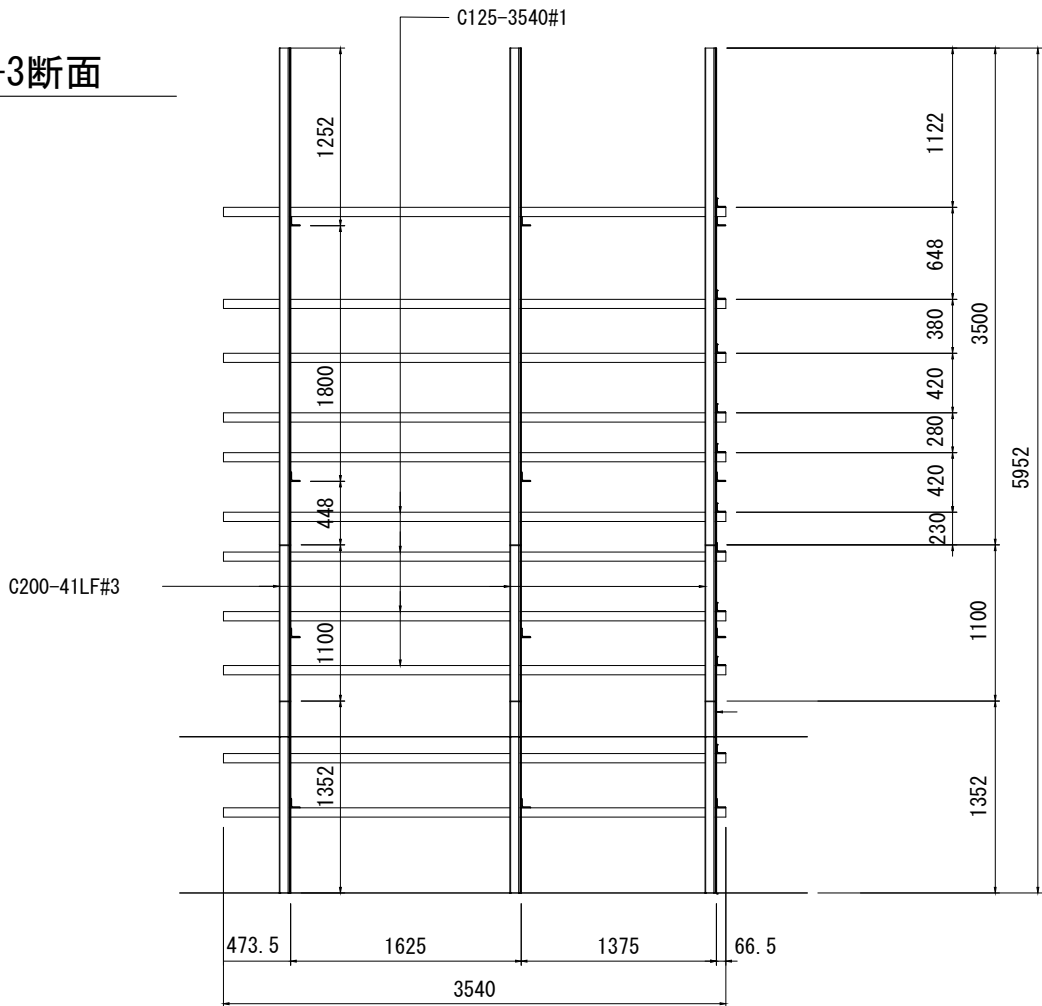
セパレーター架台詳細図(1) (41LF)

S=1:50

2-2断面



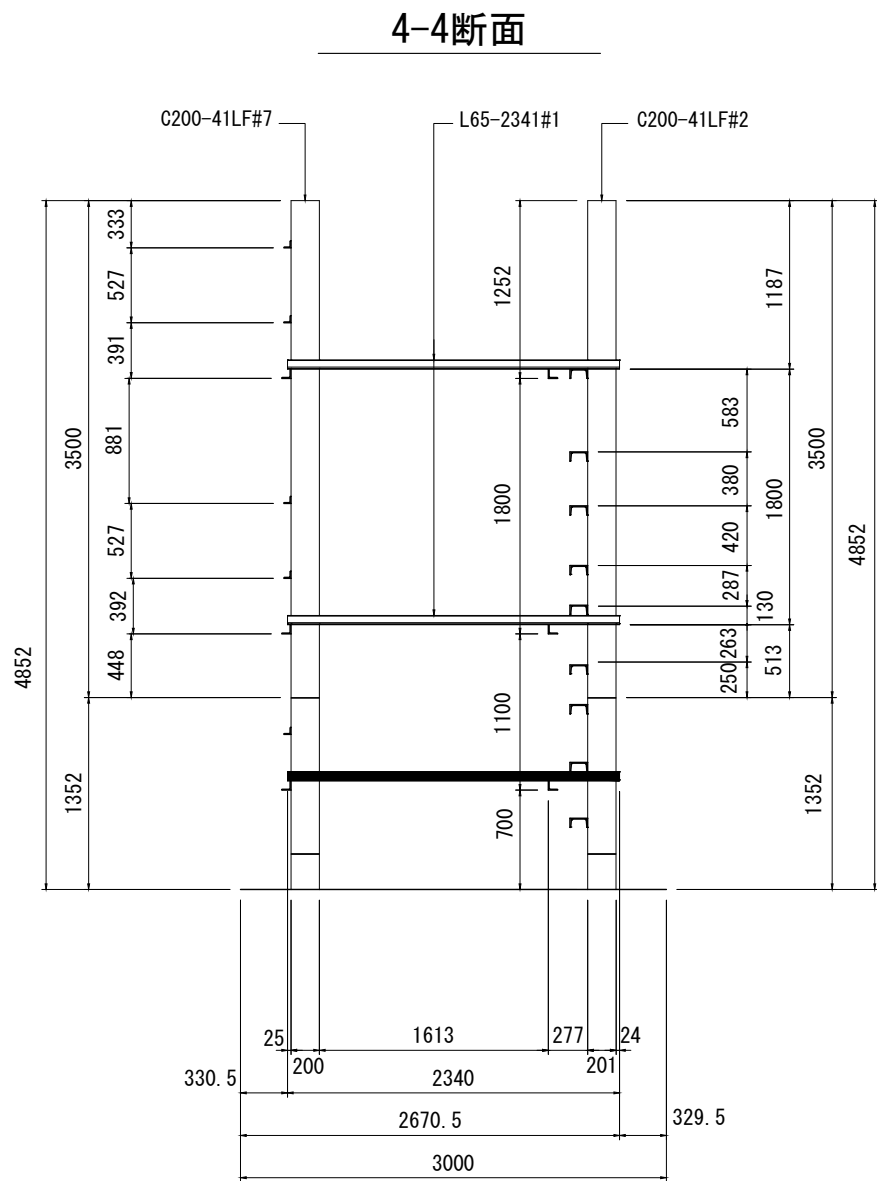
3-3断面



- 特記事項
- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
 - ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A: 添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B: 添接板のみ固定し、キャッチラフ + 単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
 - ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
 - ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
 - ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
 - ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
 - ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、可能であれば上部で再利用する
 - ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと

セパレーター架台詳細図(2) (41LF)

S=1:50



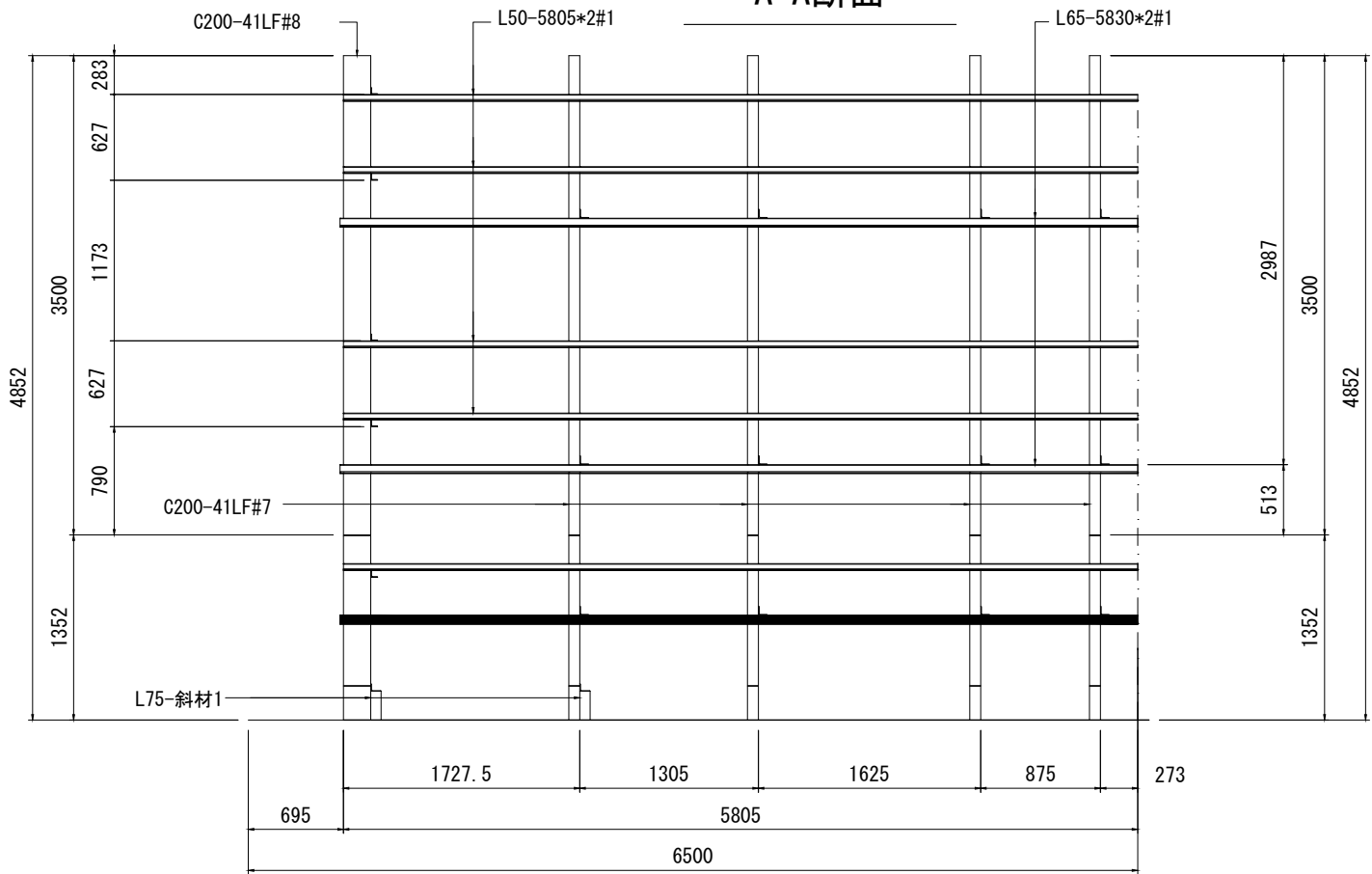
特記事項

- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A: 添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B: 添接板のみ固定し、キャッチアップ+単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め (フランジ部は1点)
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、
ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
- ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
- ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、
可能であれば上部で再利用する

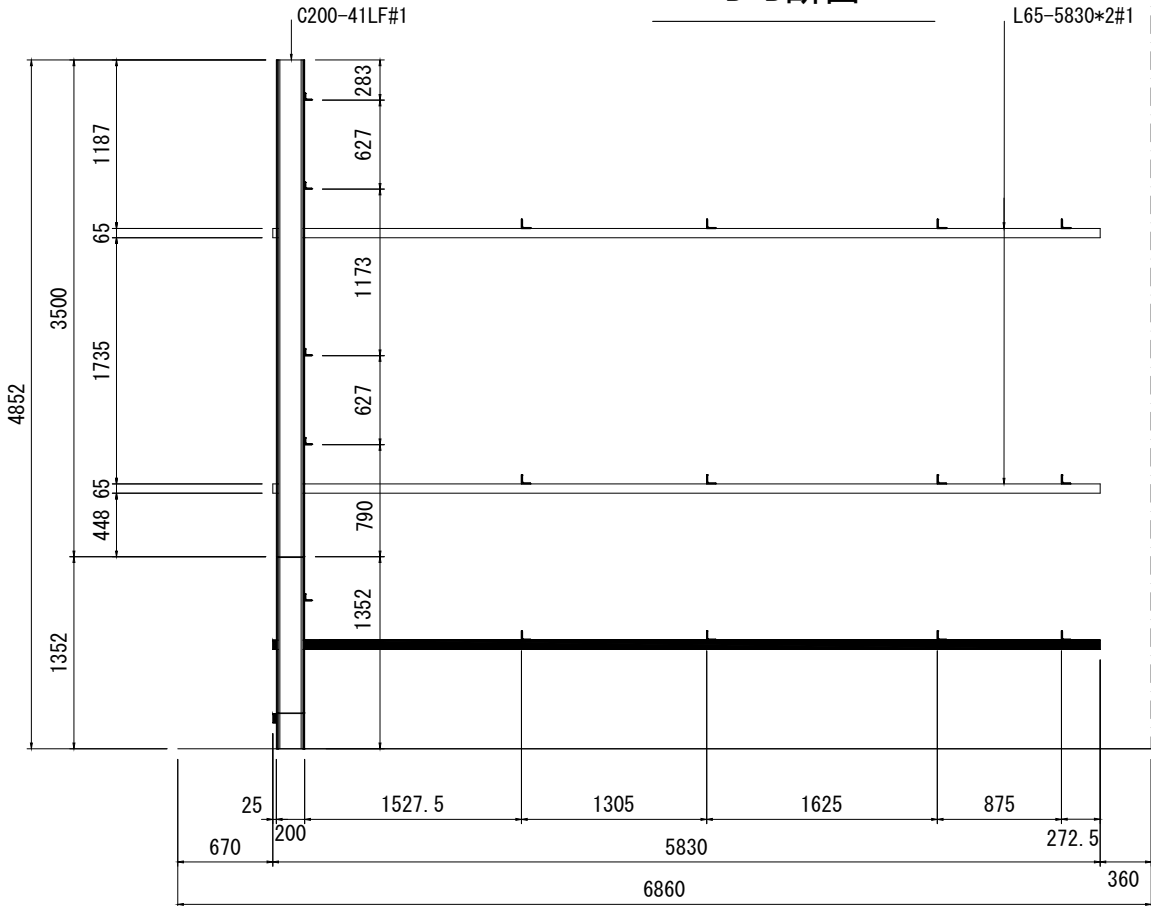
セパレーター架台詳細図(3) (41LF)

S=1:50

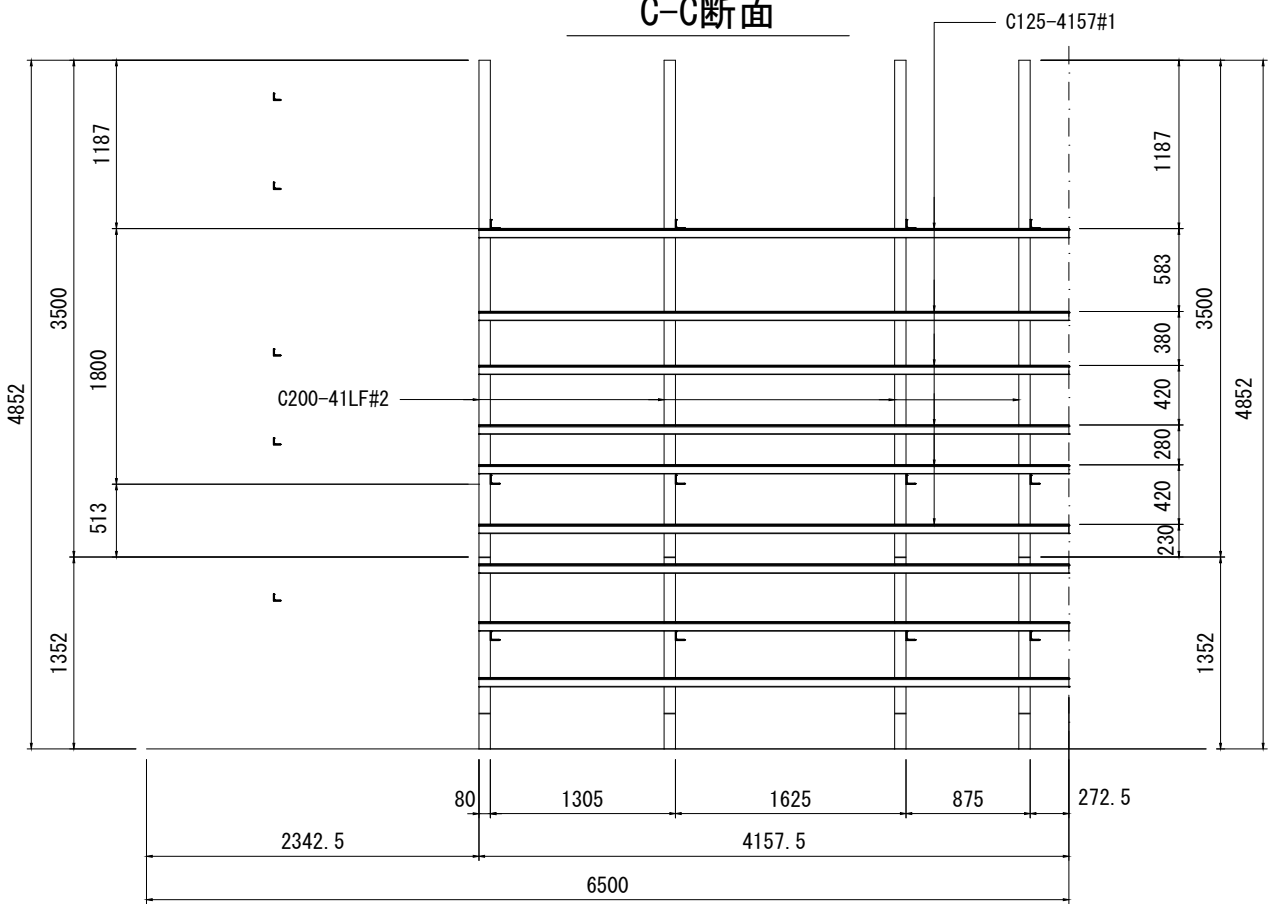
A-A断面



B-B断面



C-C断面

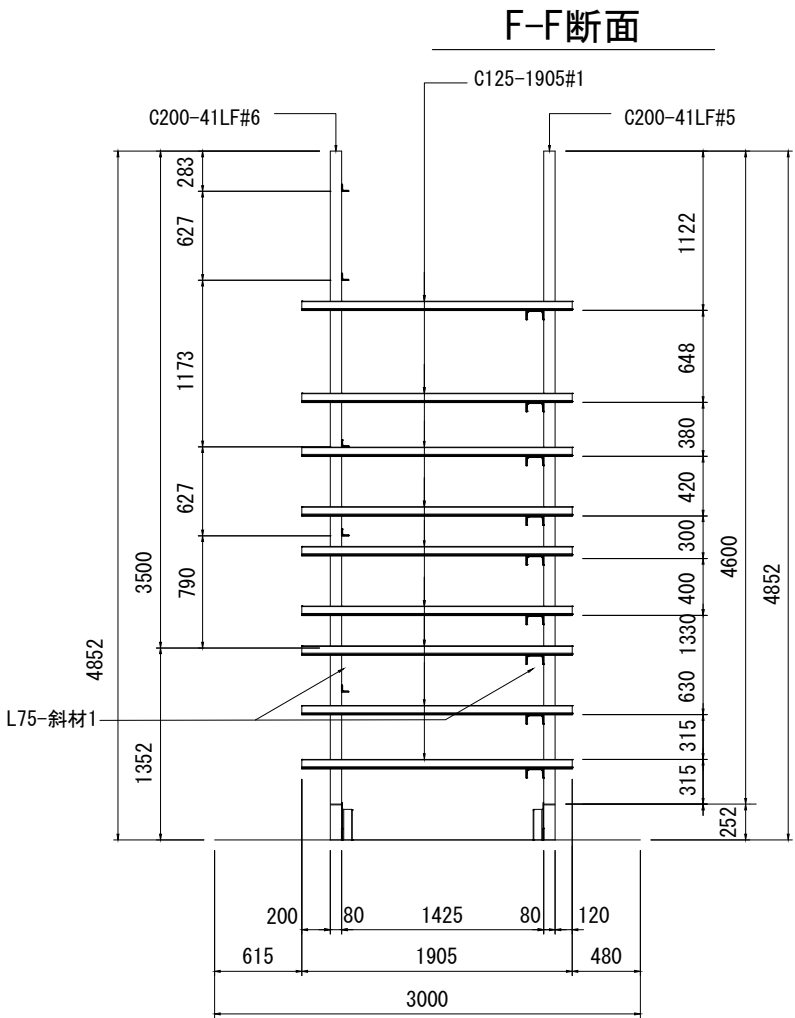
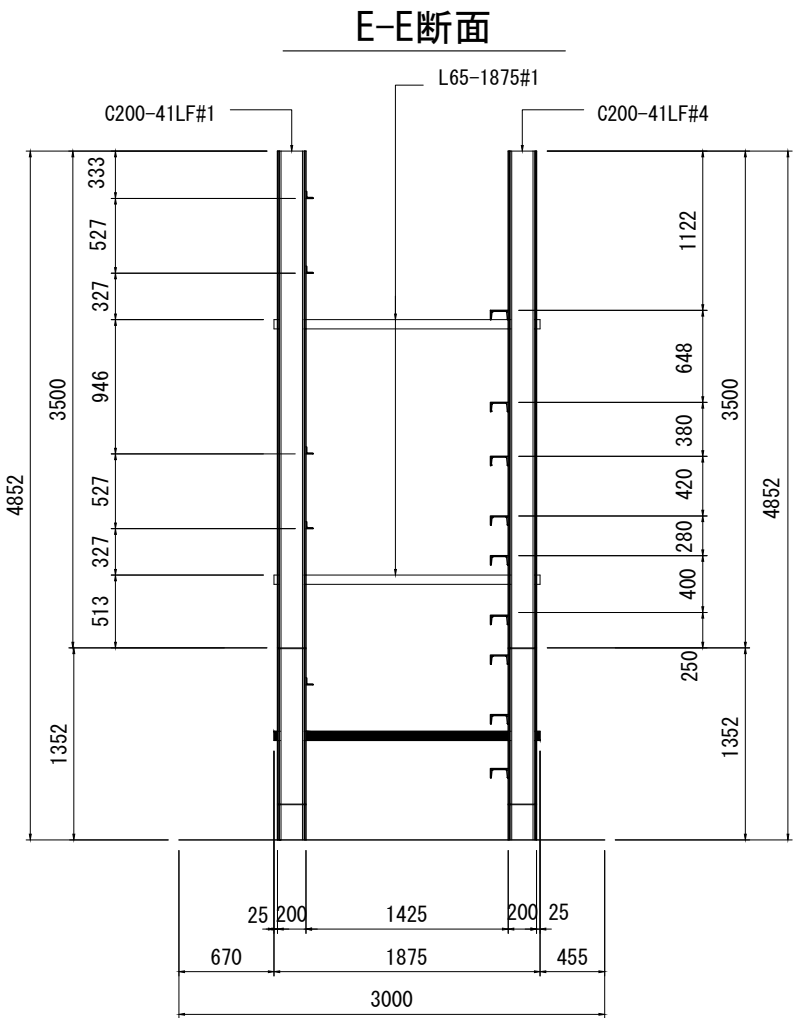
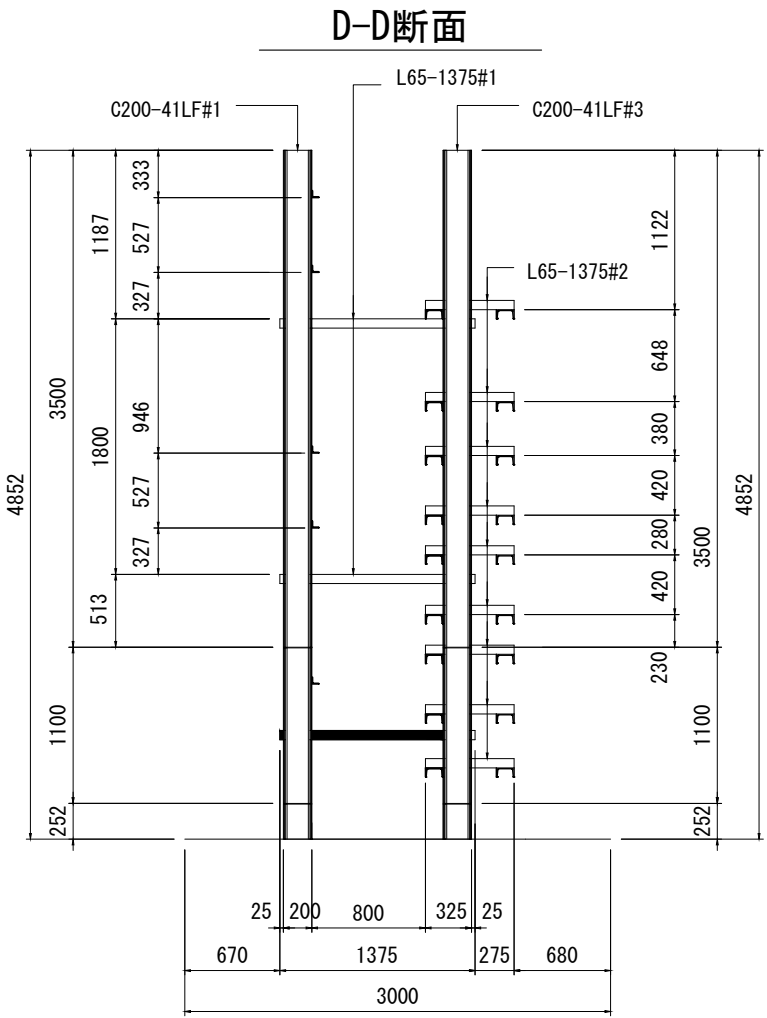


特記事項

- ①C200柱およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キックアップ+単管を手摺として固定する。
次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。
- ⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること
- ⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、可能であれば上部で再利用する
- ⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと

セパレーター架台詳細図(4) (41LF)

S=1:50



特記事項

①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。

②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合することとする。
方法は以下のいずれかとする。

A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。

B：添接板のみ固定し、キャッチアップ + 単管を手摺として固定する。リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。

③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること

C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め（フランジ部は1点）

C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め

L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め

④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること

普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上

HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上

⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。

A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。

B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。

C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。

⑥C125のチャンネルは背面側にセパレータを溶接するため、向きに注意すること

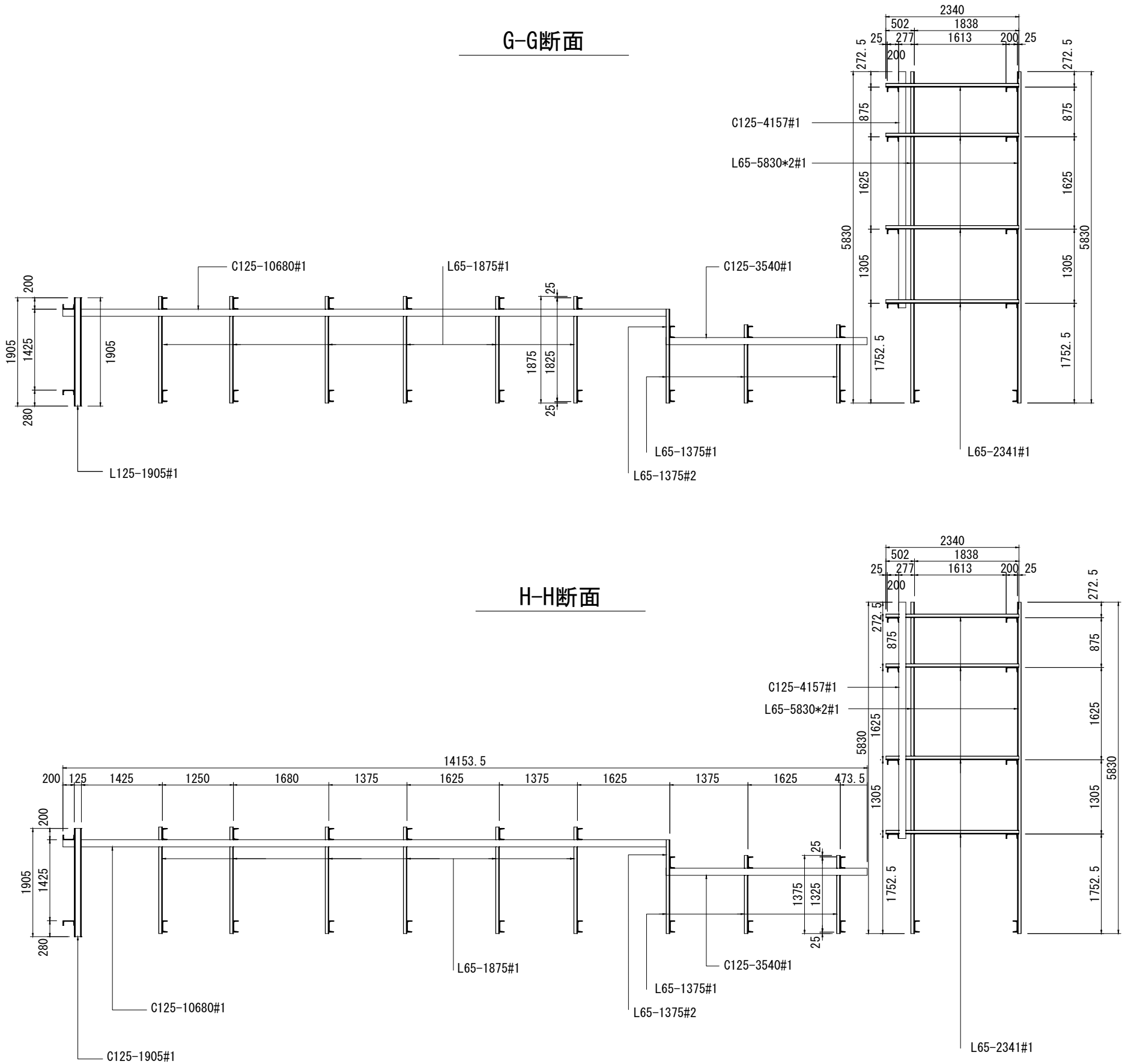
⑦グレーハッチング箇所は前リフトの打設完了後に撤去し、
可能であれば上部で再利用する

⑧L75斜材は現地加工、現場溶接とする。各接合箇所脚長6mmで245mm以上溶接のこと

⑨EL+1.8mのL65-1520とL65-1890は鉄筋組立完了後、打設までに溶接して接合すること

セパレーター架台詳細図(5) (41LF)

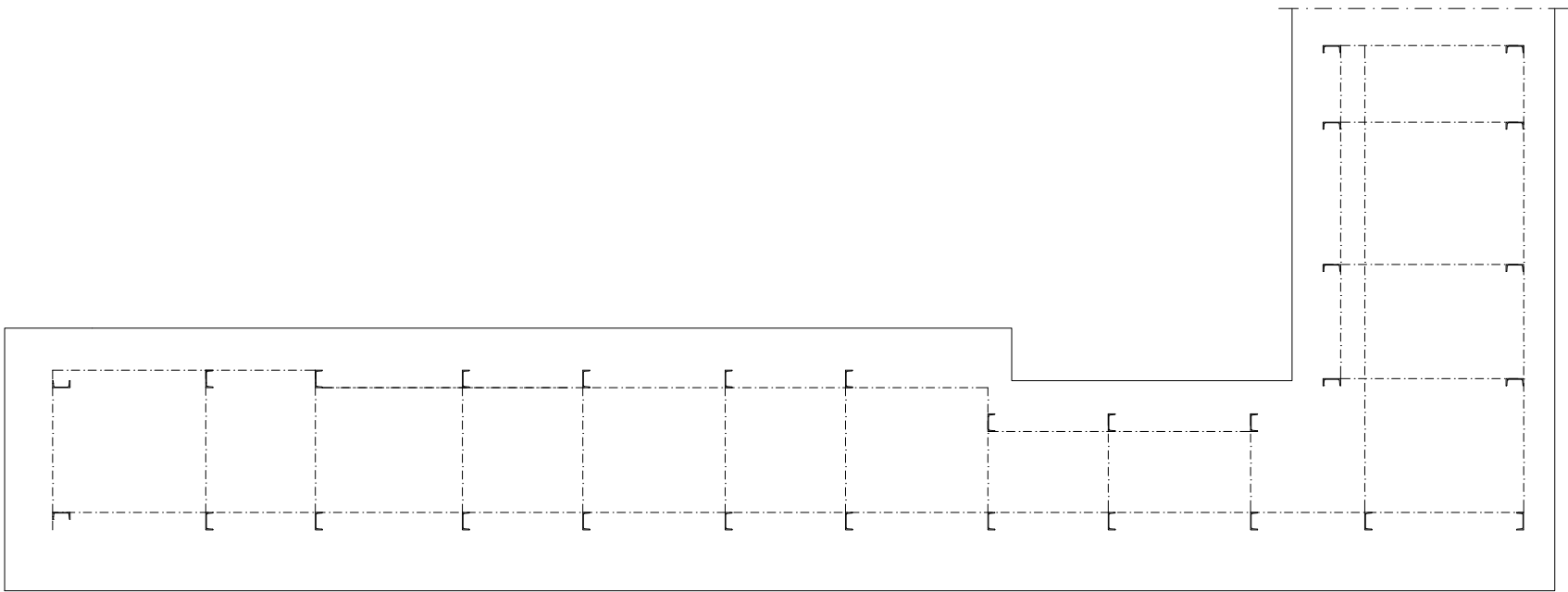
S=1:75



- 特記事項
- ①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。
- ②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合する。方法は以下のいずれかとする。
- A: 添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
- B: 添接板のみ固定し、キャッチアップ+単管を手摺として固定する。次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。
- ③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
- C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め
(フランジ部は1点)
- C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
- L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め
- ④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
- 普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
- HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上
- ⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
- A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
- B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セバ溶接時に実施のこと。
- C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。

セパレーター架台詳細図(6) (41LF)

柱 伏 図



特記事項
①C200柱材およびL50柱材は添接板を使用したボルトジョイントによって延長する。詳細は別図参照。

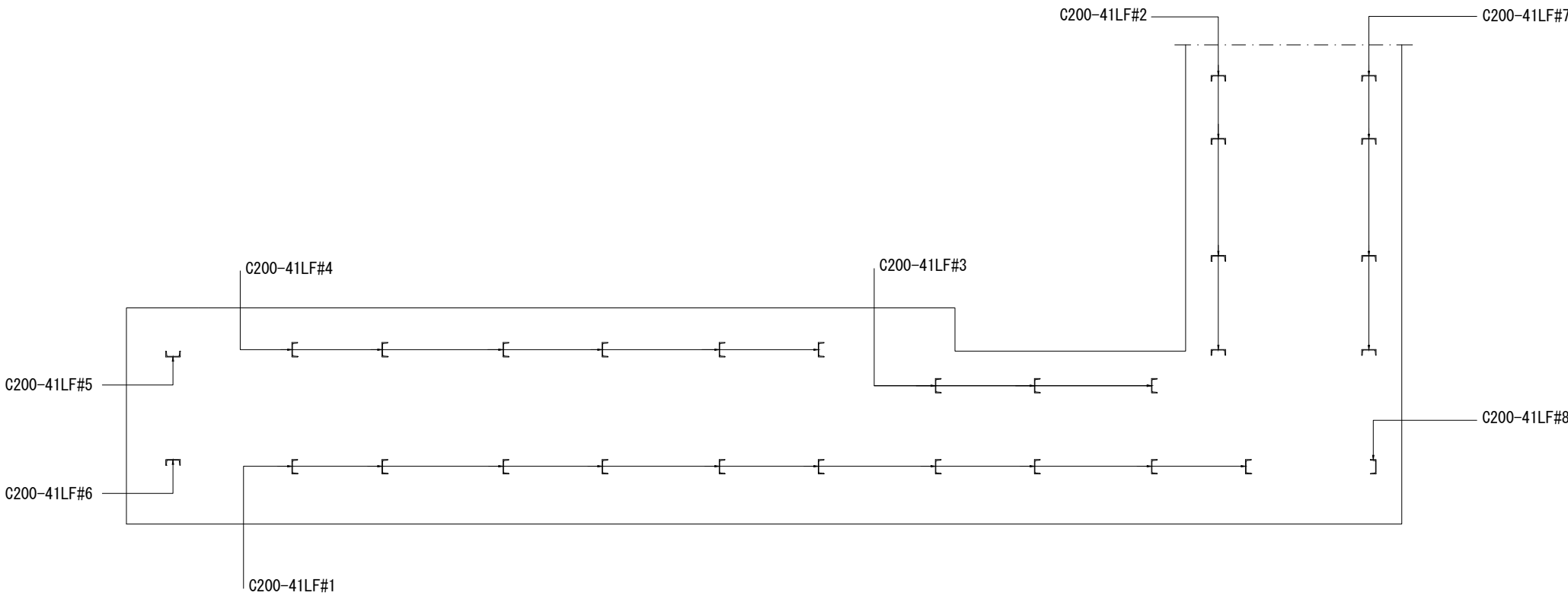
②C200の柱材より鉛直上の水平材に関しては、添接板に接合する。方法は以下のいずれかとする。
A：添接板に仮固定し、次リフトの柱材を建て込んだ後に固定する。
B：添接板のみ固定し、キャッチラック[®]＋単管を手摺として固定する。次リフト時に単管を撤去し、柱材を建て込んだ後に水平材を固定する。

③各部材の交点は特記なき場合を除き、以下の固定をすること
C200柱+L65 ⇒HTBM16にて2点止め
(フランジ部は1点)
C200柱+C125 ⇒HTBM16にて1点止め
L50+各種部材 ⇒普通ボルトM10にて1点止め

④各種理由によりボルト接合が出来ない場合は、溶接にて対応すること
普通ボルトM10箇所 ⇒1本につき脚長6mmで20mm以上
HTBM16箇所 ⇒1本につき脚長6mmで142mm以上

⑤水平材のジョイント部は以下の仕様とする。
A. L65はHTBM16を用いてボルトジョイントとする。
B. C125のフランジはボルト固定とするが、ウェブ部は溶接固定とする。セパ溶接時に実施のこと。
C. L50, C100に関しては溶接にてずれ止めを実施すること。

柱 番 号 図

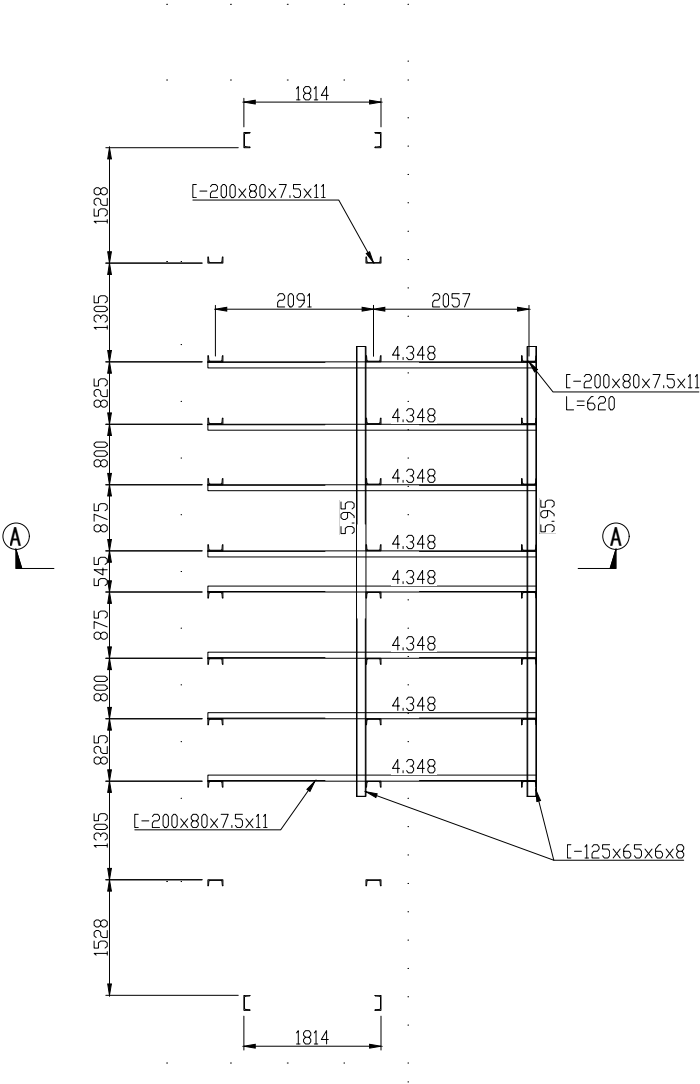


10_受台

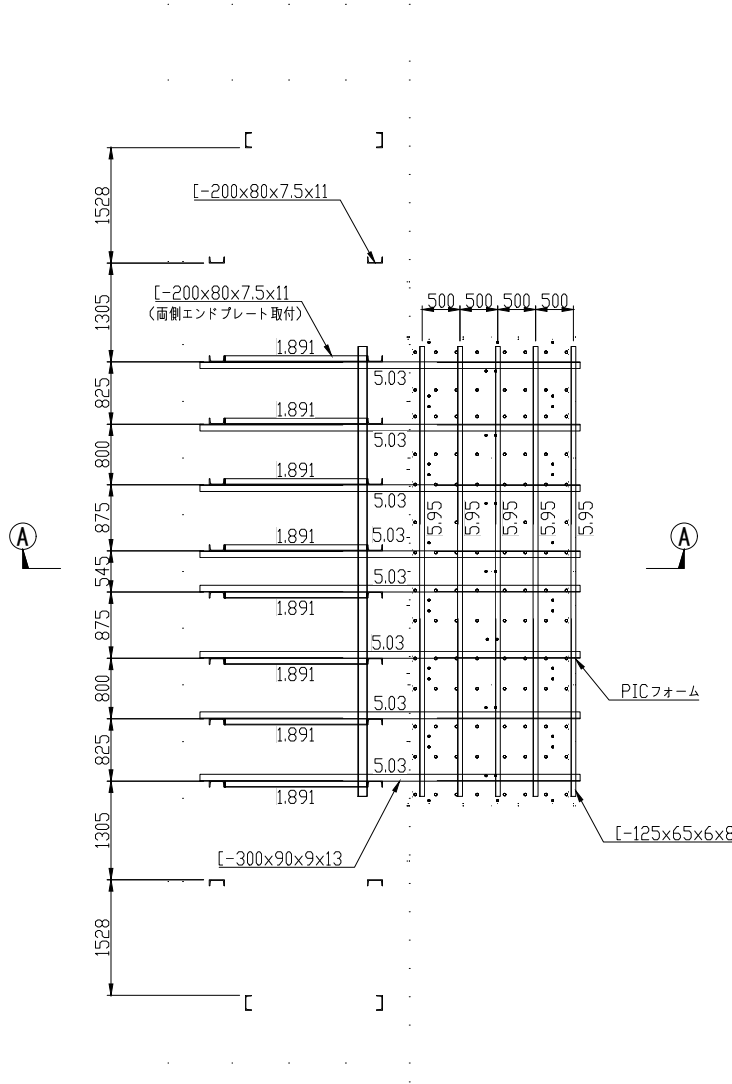
選択取水塔工
取水設備受台PCI補助架台詳細図

S=1:50

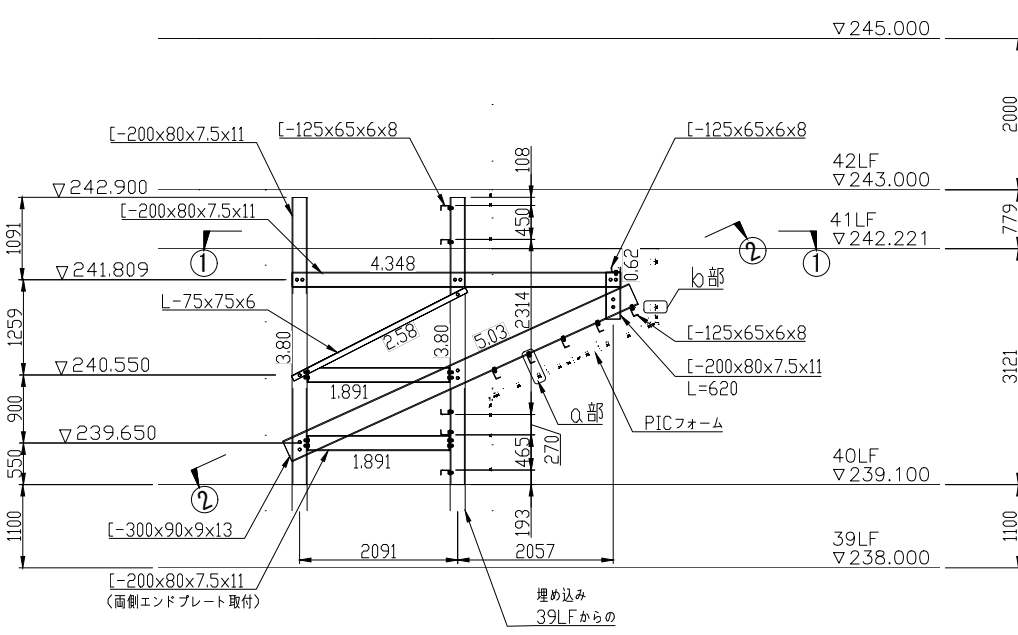
①-① 平面図



②-② 平面図



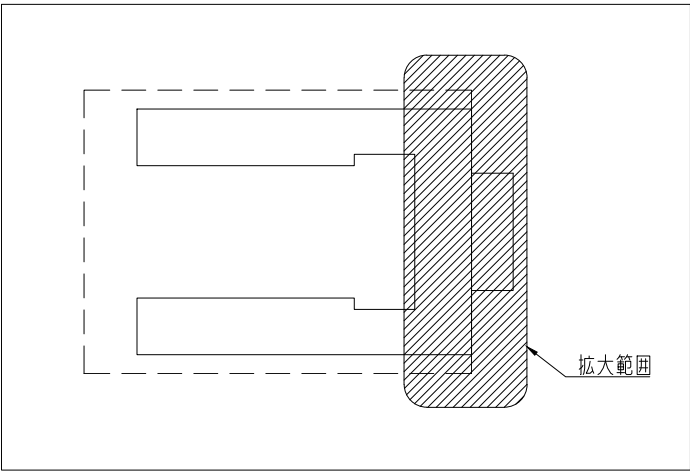
A-A 断面図



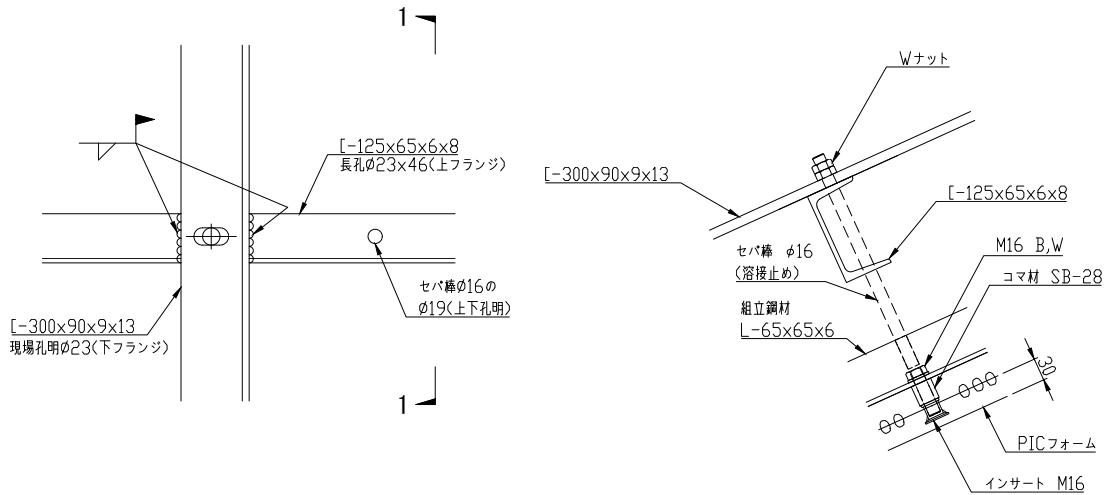
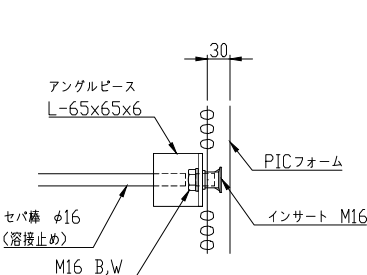
a部詳細図 S=1/5

1-1

KEYPLAN

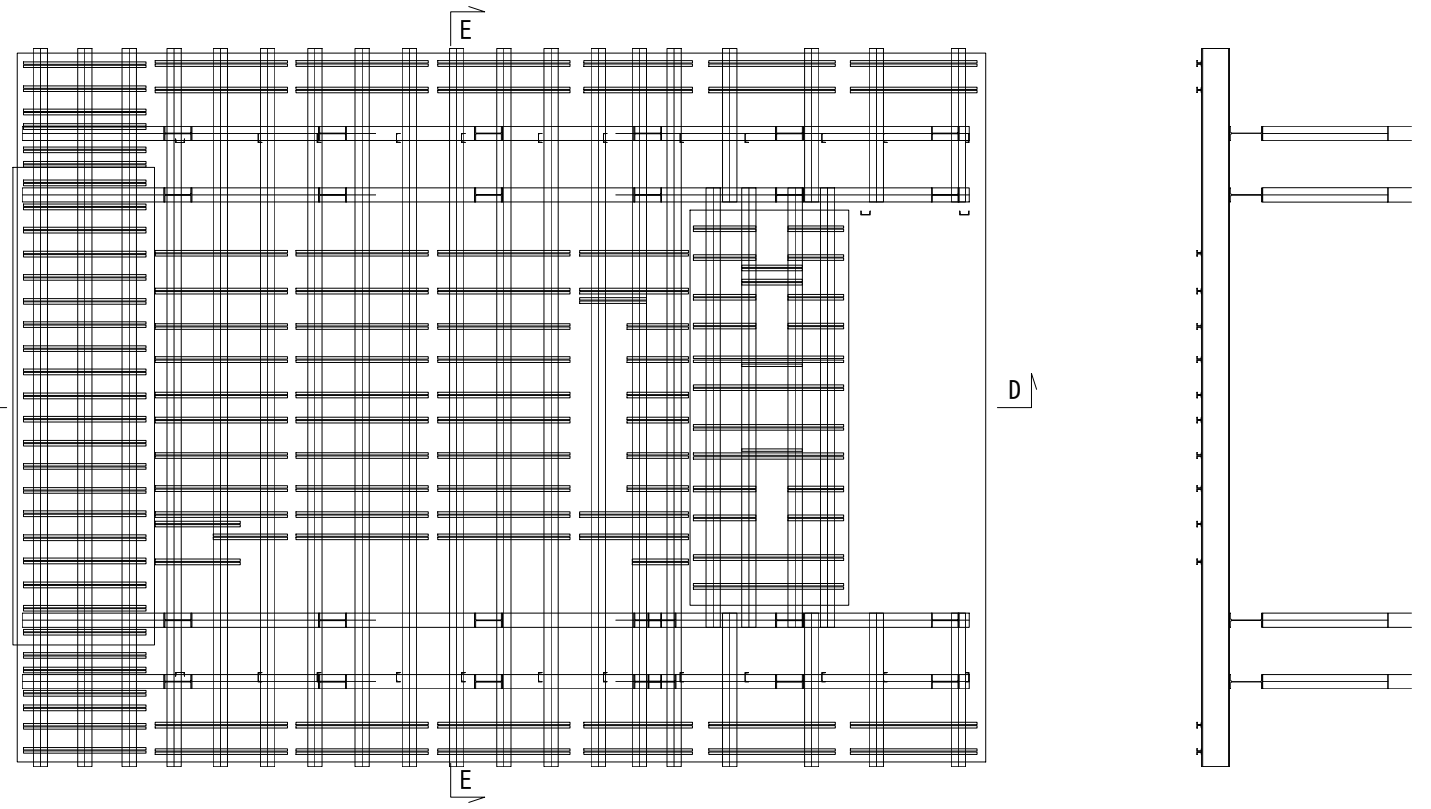


b部詳細図 S=1/5

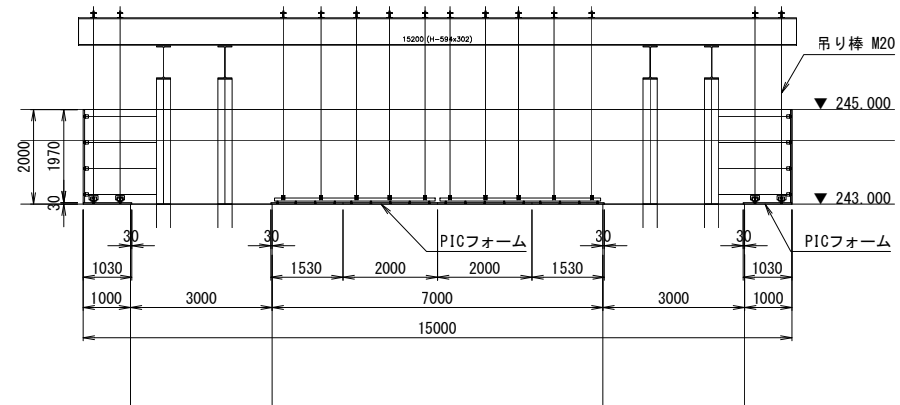
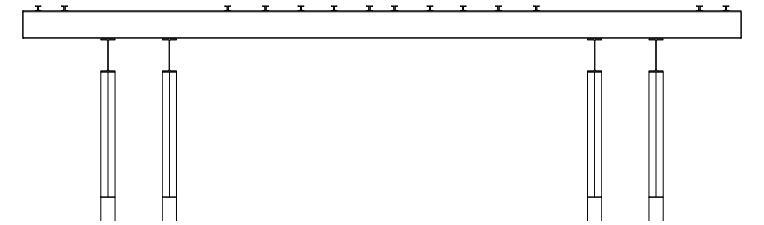


5	新規追加
回	変更内容
工事名	南摩ダム本体建設工事
名称	選択取水塔工 取水設備受台PCI補助架台詳細図 S=図示
登録番号	19-16-05
整理番号	05-15-005
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所	

⑪_床板

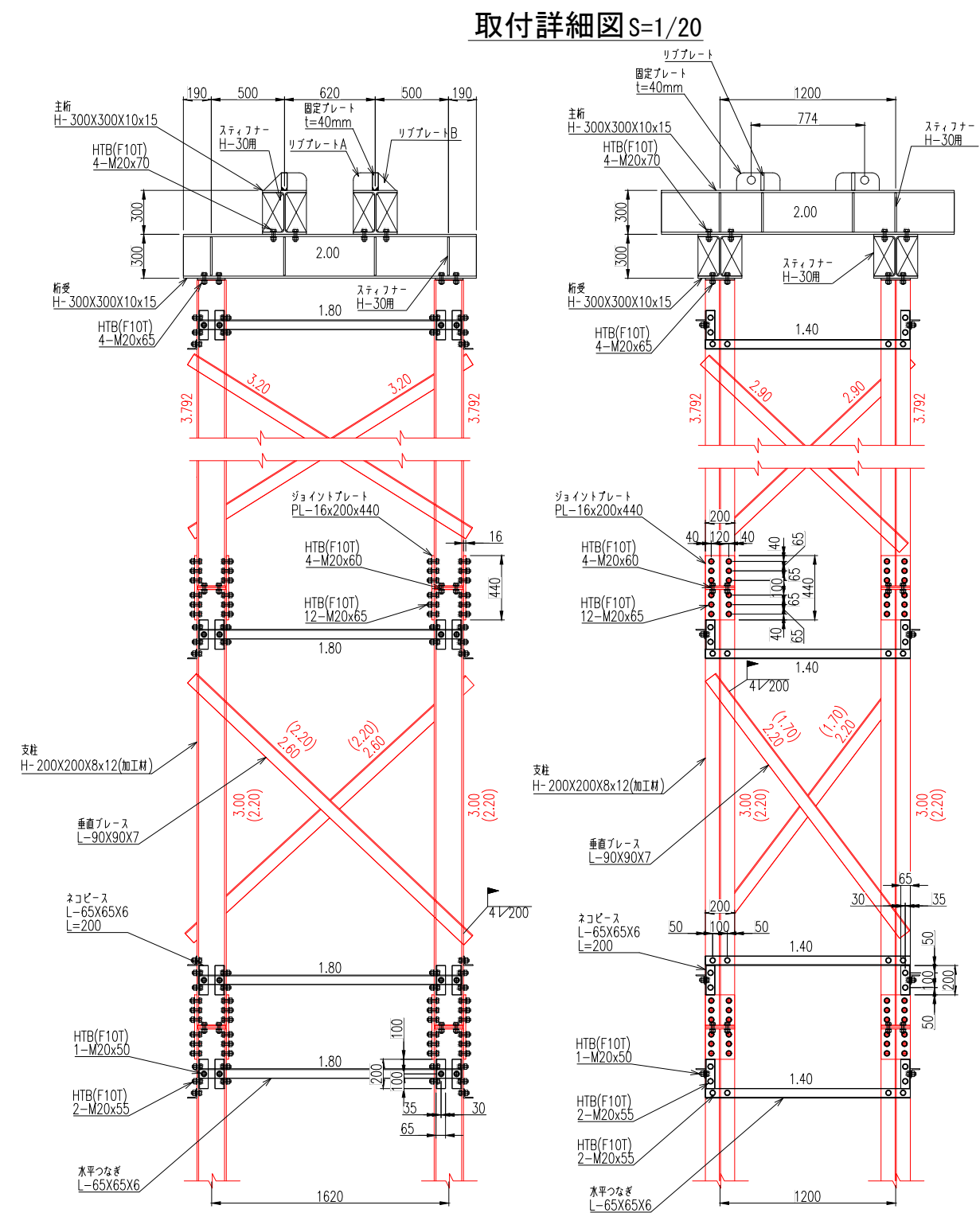
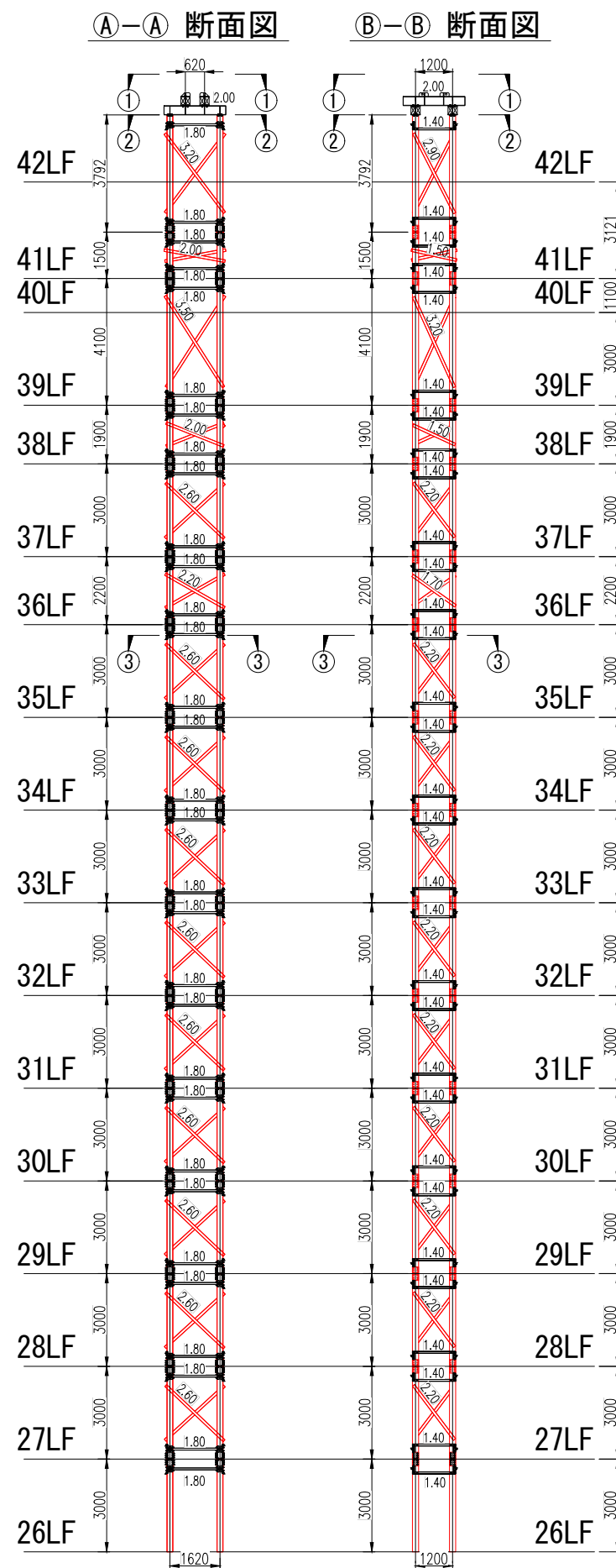
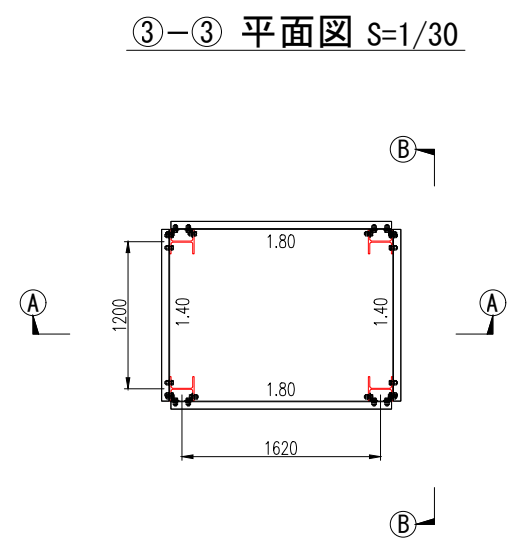
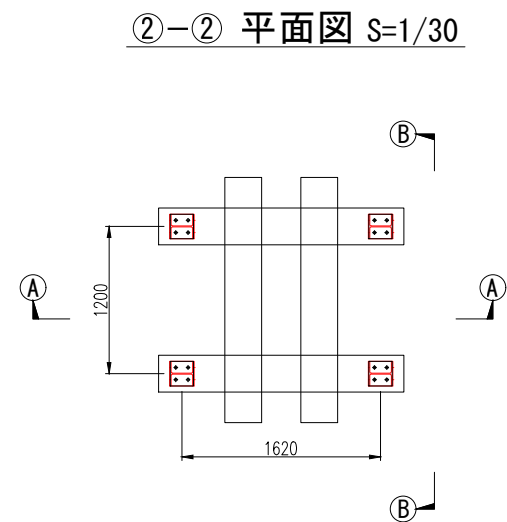
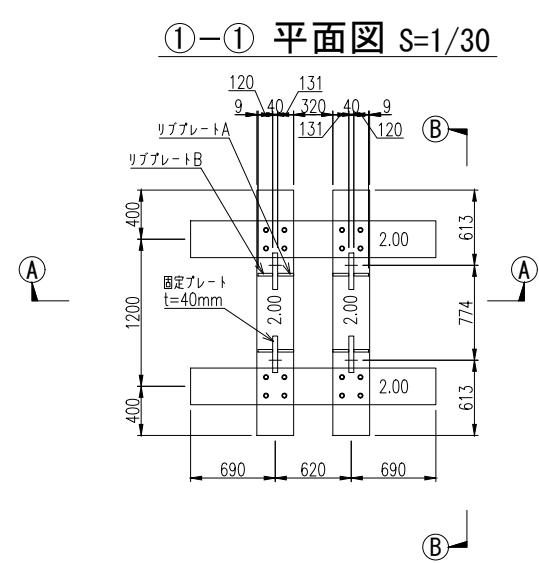


The diagram shows a horizontal beam with a continuous top flange and a braced bottom flange. The top flange is supported by a series of vertical posts. The bottom flange is supported by a series of vertical posts, with the first two posts connected by a horizontal brace. The beam is divided into segments by the vertical posts.

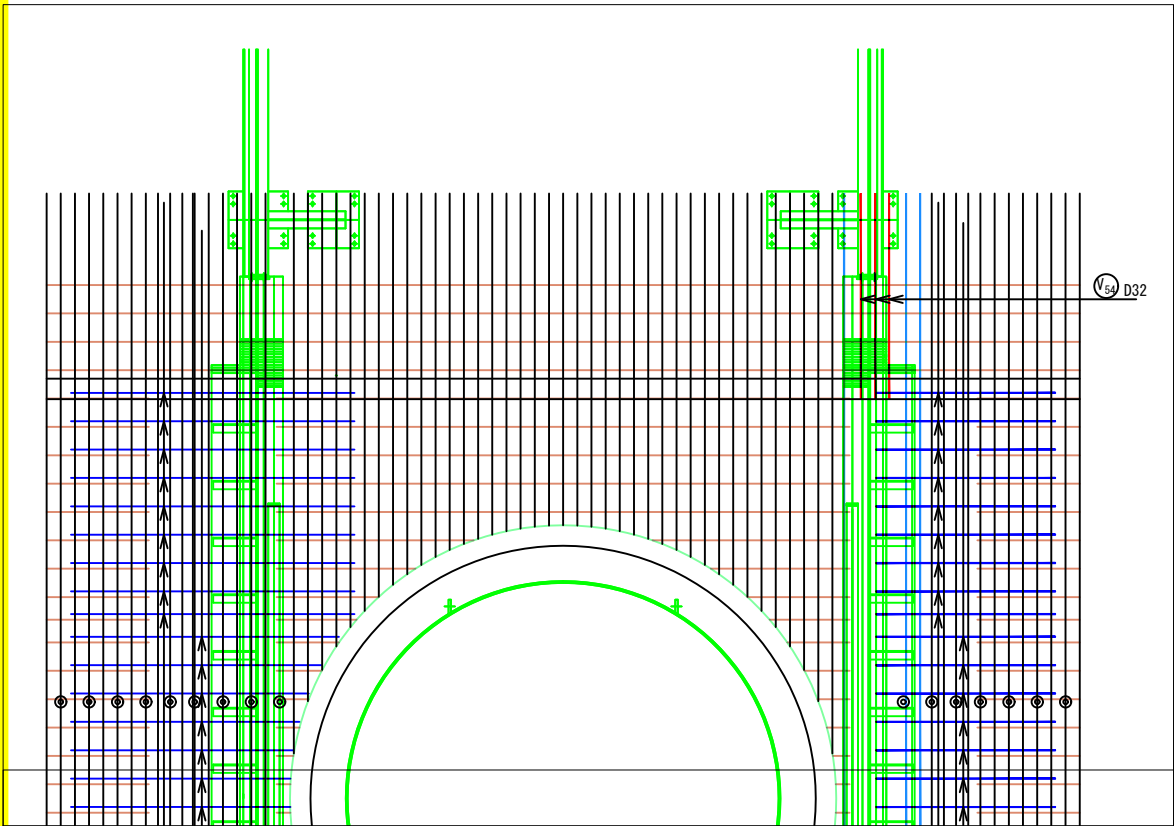


	新規追加	
	變更內容	
工事名	南摩夕ム本体建設工事	
名称	選択取水塔工	
	取水設備床版P10補助架台詳細図	
		S=図示
登録番号	19-16-05	整理番号 05-15-006
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所		

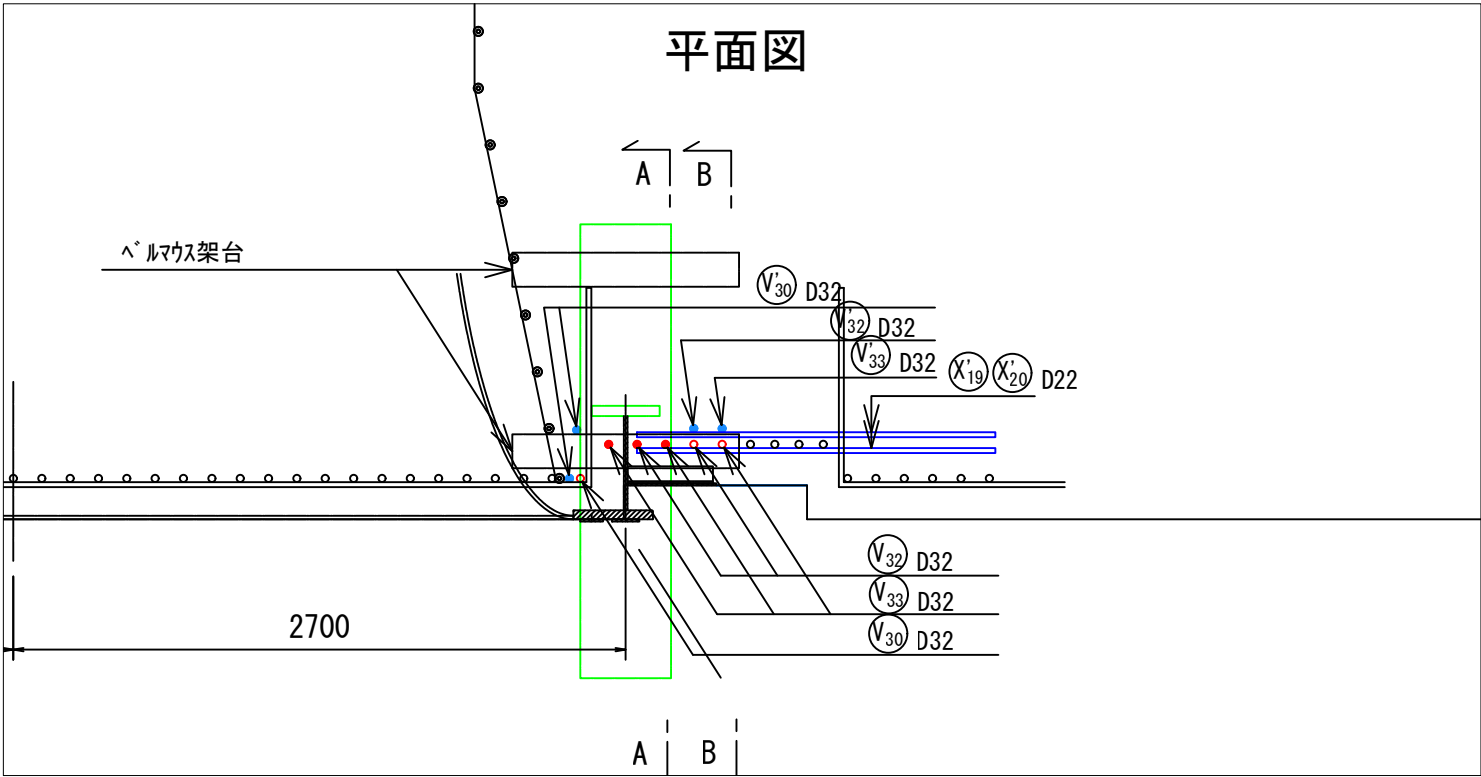
ディストリビュータ架台詳細図 S=1/100



正面図



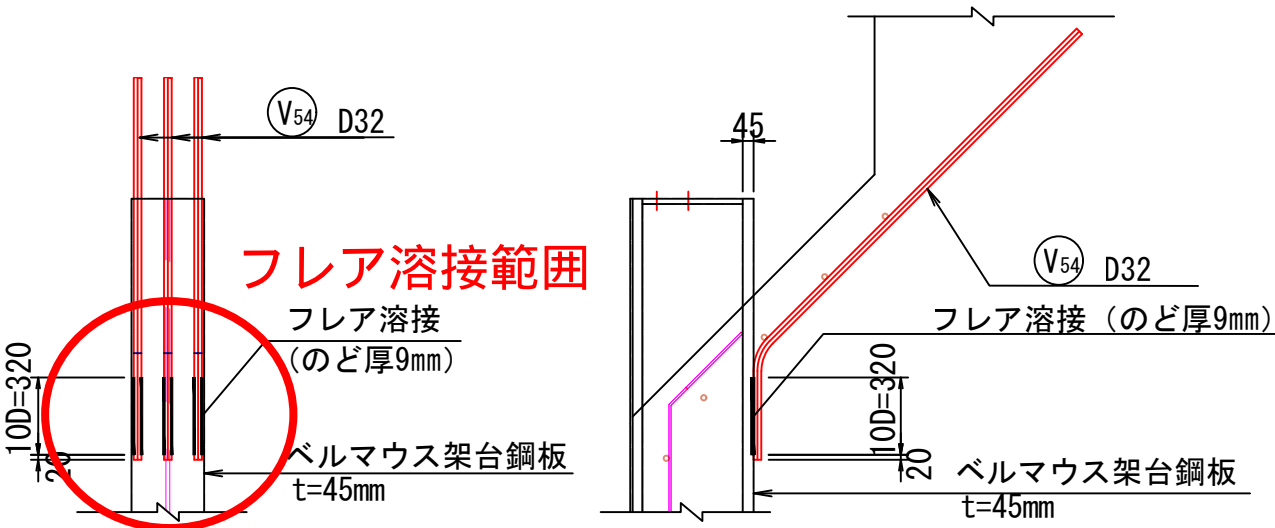
平面図



“C”部詳細図

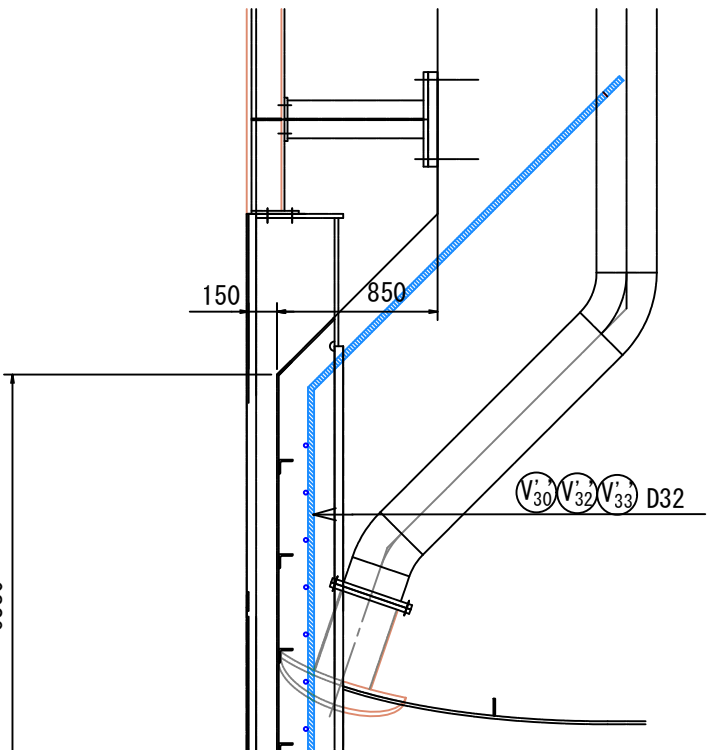
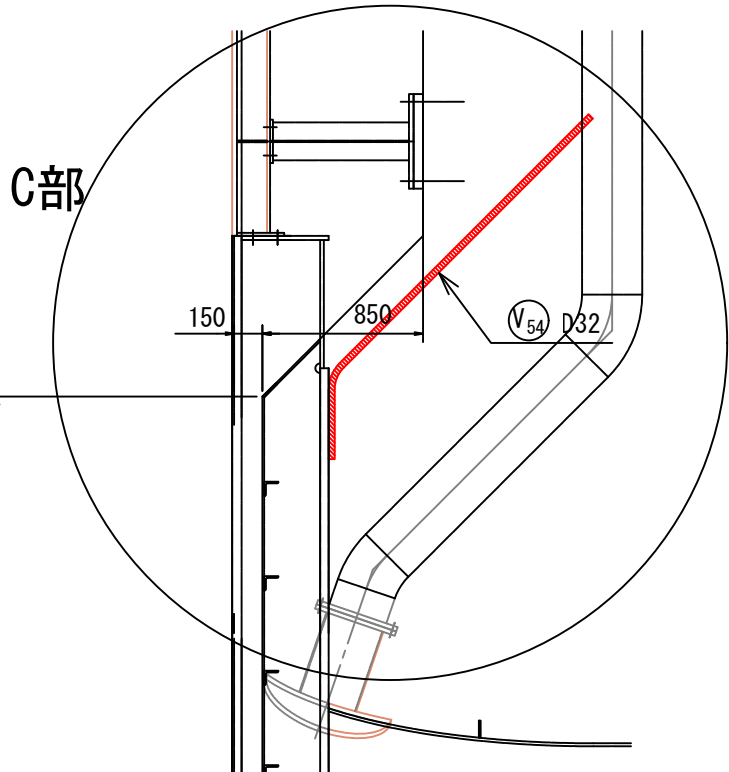
“C”部正面図

A-A 断面図



A - A

B - B



フレア溶接
L=320×6×2(箇所)=3840(4000)

工事名	南摩ダム本体建設工事		
名称	選択取水塔工 取水設備配筋図		
登録番号		整理番号	S=図示
独立行政法人水資源機構 思川開発建設所			